

IBM

@server

iSeries

OS/400 コマンド

ENDMSF (メール・サーバー・フレームワークの終了) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド

ENDMSF (メール・サーバー・フレームワークの終了) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、543 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with ENDMSF (End Mail Server Framework)
Version 5 Release 3

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

メール・サーバー・フレームワークの終了

(ENDMSF)	1
パラメーター	1
終了方法 (OPTION)	1
制御された終了遅延時間 (DELAY)	2
ENDMSFの例	2
エラー・メッセージ: ENDMSF	2

NFSサーバーの終了 (ENDNFSSVR) 3

パラメーター	4
サーバー・デーモン (SERVER)	4
デーモン終了のタイムアウト (ENDJOBTIMO)	4
ENDNFSSVRの例	5
エラー・メッセージ: ENDNFSSVR	5

NETWARE接続の終了 (ENDNTWCNN) 7

パラメーター	7
サーバー (SERVER)	7
接続番号 (C>NNNBR).	7
例	7
エラー・メッセージ: ENDNTWCNN	8

ネットワーク・インターフェース回復の終了 (ENDNWIRCY) 9

パラメーター	9
ネットワーク・インターフェース記述 (NWI)	9
ENDNWIRCYの例	9
エラー・メッセージ: ENDNWIRCY	9

パススルー終了 (ENDPASTHR) 11

パラメーター	11
ジョブ・ログ (LOG)	11
ENDPASTHRの例	12
エラー・メッセージ: ENDPASTHR	12

PERFORMANCE EXPLORERの終了 (ENDPEX) 13

パラメーター	14
セッションID (SSNID)	14
オプション (OPTION)	14
データ・オプション (DTAOPT)	15
データ・ライブラリー (DTALIB)	15
データ・メンバー (DTAMBR)	16
管理コレクション (MGTCOL)	16
データの置き換え (RPLDTA)	17
スレッドの数 (NBRTHD)	17
テキスト・記述 (TEXT)	17
ENDPEXの例	18
エラー・メッセージ: ENDPEX	18

パフォーマンス収集の終了

(ENDPFRCOL)	19
パラメーター	19
強制終了 (FRCCOLEND)	19
ENDPFRCOLの例	19
エラー・メッセージ: ENDPFRCOL	20

パフォーマンス追跡の終了

(ENDPFRTRC)	21
パラメーター	21
追跡ダンプ (DMPTRC)	21
メンバー (MBR)	22
ライブラリー (LIB)	22
テキスト・記述 (TEXT)	22
ENDPFRTRCの例	22
エラー・メッセージ: STRPFRTRC	22

プログラム終了 (ENDPGM) 25

パラメーター	25
ENDPGMの例	25
エラー・メッセージ: ENDPGM	25

プログラム・エクスポート・リストの終了 (ENDPGMEXP) 27

パラメーター	27
ENDPGMEXPの例	27
エラー・メッセージ: ENDPGMEXP	27

プログラム・プロファイリングの終了 (ENDPGMPRF) 29

パラメーター	29
ENDPGMPRFの例	29
エラー・メッセージ: ENDPGMPRF	29

事前開始ジョブの終了 (ENDPJ) 31

パラメーター	31
サブシステム (SBS)	31
プログラム (PGM)	32
終了方法 (OPTION)	32
制御された終了遅延時間 (DELAY)	32
スプール・ファイル削除 (SPLFILE)	33
ログ項目の最大数 (LOGLMT)	33
ENDPJの例	33
エラー・メッセージ: ENDPJ	34

印刷装置エミュレーション終了 (ENDPRTEML) 35

パラメーター	35
エミュレーション装置 (EMLDEV)	35
エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)	36

印刷装置 (PRTDEV)	36
ENDPRTEMLの例	36
エラー・メッセージ: ENDPRTEML	36
受信終了 (ENDRCV)	37
パラメーター	37
表示装置 (DEV)	37
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	38
ENDRCVの例	38
エラー・メッセージ: ENDRCV	38
(ENDRDBRQS)	39
パラメーター	39
例	39
エラー・メッセージ	39
読み取りプログラム終了 (ENDRDR)	41
パラメーター	41
読み取りプログラム (RDR)	41
読み取りプログラム終了時点 (OPTION)	41
ENDRDRの例	42
エラー・メッセージ: ENDRDR	42
リモート・サポートの終了 (ENDRMTSPT)	43
パラメーター	43
ライブラリー削除 (DLTLIB)	43
終了方法 (OPTION)	43
ENDRMTSPTの例	44
エラー・メッセージ: ENDRMTSPT	44
RPC BIND プログラム・デーモンの終了 (ENDRPCBIND)	45
パラメーター	45
ENDRPCBINDの例	45
エラー・メッセージ: ENDRPCBIND	45
要求終了 (ENDRQS)	47
パラメーター	47
要求レベル (RQSLVL)	47
ENDRQSの例	48
エラー・メッセージ: ENDRQS	48
S/36セッションの終了 (ENDS36)	49
パラメーター	49
ENDS36の例	49
エラー・メッセージ: ENDS36	49
サブシステム終了 (ENDSBS)	51
パラメーター	52
サブシステム (SBS)	52
終了方法 (OPTION)	52
制御された終了遅延時間 (DELAY)	53
サブシステム終了オプション (ENDSBSOFT)	53
バッチ時間制限 (BCHTIMLMT)	54
ENDSBSの例	54

エラー・メッセージ: ENDSBS	54
選択の終了 (ENDSELECT)	57
パラメーター	57
ENDSELECTの例	57
エラー・メッセージ: ENDSELECT	58
サービス・エージェントの終了 (ENDSRVAGT)	59
パラメーター	59
タイプ(TYPE)	59
ENDSRVAGTの例	59
エラー・メッセージ: ENDSRVAGT	59
サービス・ジョブ終了 (ENDSRVJOB)	61
パラメーター	61
ENDSRVJOBの例	61
エラー・メッセージ: ENDSRVJOB	61
システム終了 (ENDSYS)	63
パラメーター	63
終了方法 (OPTION)	64
制御された終了遅延時間 (DELAY)	64
サブシステム終了オプション (ENDSBSOFT)	64
確認 (CONFIRM)	65
ENDSYSの例	65
エラー・メッセージ: ENDSYS	66
TCP/IPの終了 (ENDTCP)	67
パラメーター	67
終了方法 (OPTION)	68
制御された終了遅延時間 (DELAY)	68
適用業務サーバーの終了 (ENDSVR)	69
ENDTCPの例	69
エラー・メッセージ: ENDTCP	70
TCP/IPの異常終了 (ENDTCPABN)	71
パラメーター	71
ENDTCPABNの例	71
エラー・メッセージ: ENDTCPABN	71
TCP/IP接続の終了 (ENDTCPCNN)	73
パラメーター	73
プロトコル (PROTOCOL)	73
ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)	73
ローカル・ポート (LCLPORT)	74
リモート・インターネット・アドレス (RMTINTNETA)	74
リモート・ポート (RMTPORT)	74
ENDTCPCNNの例	75
エラー・メッセージ: ENDTCPCNN	75
TCP/IPインターフェースの終了 (ENDTCPIFC)	77
Warning: Temporary Level 2 Header	77

パラメーター	77
IPアドレス (INTNETADR)	78
例	78
エラー・メッセージ	78

POINT-TO-POINT TCP/IPの終了 (ENDTCPPTP) 81

パラメーター	81
プロファイルの構成 (CFGPRF)	81
操作モード (OPRMODE)	82
ENDTCPPTPの例	82
エラー・メッセージ: ENDTCPPTP	83

TCP/IPサーバーの終了 (ENDTCPSVR) 85

パラメーター	85
サーバー適用業務 (SERVER)	86
HTTPサーバー (HTTPSVR)	88
DNSサーバー (DNSSVR)	88
TCMサーバー (TCMSVR)	89
ASFTOMCATサーバー (TOMCATSVR)	89
ENDTCPSVRの例	89
エラー・メッセージ: ENDTCPSSVR	90

TIEセッション終了 (ENDTISSN). 91

パラメーター	91
ENDTISSNの例	91
エラー・メッセージ: ENDTISSN	91

追跡の終了 (ENDTRC) 93

パラメーター	93
セッションID (SSNID)	93
データ・オプション (DTAOPT)	94
データ・ライブラリー (DTALIB)	94
データの置き換え (RPLDTA)	94
追跡データの印刷 (PRTRC)	95
ENDTRCの例	95
エラー・メッセージ: ENDTRC	95

トランプ管理機能の終了 (ENDTRPMGR) 97

パラメーター	97
ENDTRPMGRの例	97
エラー・メッセージ: ENDTRPMGR	97

書き出しプログラム終了 (ENDWTR). 99

パラメーター	99
書き出しプログラム (WTR)	99
書き出しプログラムの終了時点 (OPTION)	100
ENDWTRの例	100
エラー・メッセージ: ENDWTR	100

リンクの除去 (ERASE) 103

パラメーター	104
オブジェクト・リンク (OBJLNK)	104
ERASEの例	105
エラー・メッセージ: ERASE	105

プログラム記号のエクスポート (EXPORT) 107

パラメーター	107
エクスポートされた記号名 (SYMBOL)	107
EXPORTの例	107
エラー・メッセージ: EXPORT	107

NFSエクスポートの変更 (EXPORTFS) 109

パラメーター	110
NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)	110
ディレクトリー (DIR)	114
ホスト名 (HOSTOPT)	114
EXPORTFSの例	115
エラー・メッセージ: EXPORTFS	116

プログラム情報抜き出し (EXTPGMINF) 117

エラー・メッセージ: EXTPGMINF	117
パラメーター	117
プログラム (PGM)	118
情報を受け取るファイル (FILE)	118
レコード抜き出しオプション (OPTION)	118
ファイルの作成 (CRTFILE)	119
記録するライブラリー名 (RECLIB)	119
一貫性検査 (CHECK)	119
例	120
エラー・メッセージ: EXTPGMINF	120

文書ファイル (FILDOC) 121

パラメーター	121
ファイルされる情報 (TYPE)	123
受け取り文書 (TODOC)	123
受け取りフォルダー (TOFLR)	123
機密性 (SENSITIV)	124
ユーザー権限 (USRAUT)	124
権限リスト (AUTL)	125
アクセス・コード (ACC)	125
置き換え可能 (ALWRPL)	126
プロファイル・ファイル (IDPFILE)	126
プロファイル・メンバー (IDPMBR)	127
ユーザー識別コード (USRID)	127
文書ファイル (DOCFILE)	127
文書メンバー (DOCMBR)	128
配布識別コード (DSTID)	128
配布IDエクステンション (DSTIDEXN)	129
メール・ログに保管 (KEEP)	129
文書タイプ (DOCTYPE)	129
システム・コード (SYSCOD)	130
文書記述 (DOCD)	130
作成者 (AUTHOR)	131
文書クラス (DOCCLS)	131
キーワード (KWD)	131
主題 (SUBJECT)	132
文書日付 (DOCDATE)	132
ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)	133
リスト・コピー (CPYLST)	133
満了日 (EXPDATE)	133

参照 (REFERENCE)	134
処置期日 (ACTDATE)	134
文書状況 (STATUS)	134
完了日 (CMPDATE)	135
プロジェクト (PROJECT)	135
文書文字識別コード (DOCCHRID)	135
言語識別コード (DOCLANGID)	136
国別または地域ID (DOCCNTRYID)	136
個人 (PERSONAL)	136
配布満了標識 (DSTEXPDATE)	137
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	137
FILDOCの例	138
エラー・メッセージ: FILDOC	139

データの様式設定 (FMTDTA) 141

パラメーター	141
入力ファイル (INFILE)	141
出力ファイル (OUTFILE)	142
ソース・ファイル (SRCFILE)	143
ソース・メンバー (SRCMBR)	143
印刷ファイル (PRTFILE)	143
オプション: (OPTION)	144
プログラム日付: (PGMDATE)	144
例	144
エラー・メッセージ	145

メッセージ・カタログの生成 (GENCAT) 147

パラメーター	147
メッセージ・カタログ名 (CLGFILE)	148
ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)	148
テキスト'記述' (TEXT)	148
メッセージ・カタログのCCSID (CLGCCSID)	148
ソース・ファイルのCCSID (SRCCCSID)	149
データの共通認可 (DTAAUT)	149
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	150
GENCATの例	151
MRGMSGCLGの例	151
エラー・メッセージ: GENCAT	151

コマンド文書の生成 (GENCMDDOC) 153

パラメーター	153
コマンド (CMD)	154
TOディレクトリー (TODIR)	154
TOストリーム・ファイル (TOSTMF)	155
ファイルの置き換え (REPLACE)	155
生成オプション (GENOPT)	155
GENCMDDOCの例	156
エラー・メッセージ: GENCMDDOC	157

メニュー表示へ (GO) 159

パラメーター	159
メニュー (MENU)	160
戻り点 (RTNPNT)	161
GOの例	161
エラー・メッセージ: GO	161

GO TO (GOTO) 163

パラメーター	163
コマンド・ラベル (CMDLBL)	163
GOTOの例	163
エラー・メッセージ: GOTO	164

アクセス・コード権限認可 (GRTACCAUT) 165

パラメーター	165
文書アクセス・コード (ACC)	165
ユーザー・プロファイル (USER)	166
参照ユーザー・プロファイル (REFUSER)	166
GRTACCAUTの例	166
エラー・メッセージ: GRTACCAUT	167

オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT) 169

パラメーター	170
オブジェクト (OBJ)	171
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	171
ASP装置 (ASPDEV)	172
ユーザー (USER)	172
権限(AUT)	173
権限リスト (AUTL)	174
参照オブジェクト (REFOBJ)	174
参照オブジェクト・タイプ (REFOBJTYPE)	175
参照ASP装置 (REFASPDEV)	175
置き換え権限 (REPLACE)	176
GRTOBJAUTの例	176
エラー・メッセージ: GRTOBJAUT	176

ユーザー権限認可 (GRTUSRAUT) 179

パラメーター	179
ユーザー (USER)	180
参照されたユーザー (REFUSER)	180
GRTUSRAUTの例	180
エラー・メッセージ: GRTUSRAUT	180

ユーザー認可 (GRTUSRPMN) 183

パラメーター	183
TOユーザー・プロファイル (TOUSER)	183
ユーザー・プロファイル (FORUSER)	183
GRTUSRPMNの例	184
エラー・メッセージ: GRTUSRPMN	184

ワークステーション・オブジェクト権限認可 (GRTWSOAUT) 185

パラメーター	186
ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)	186
ユーザー (USER)	188
権限(AUT)	188
権限リスト (AUTL)	190
ワークステーション・オブジェクト参照 (REFWSO)	190
GRTWSOAUTの例	190
エラー・メッセージ	190

通信装置保留 (HLDCMNDEV)	191
パラメーター	191
装置 (DEV)	191
オプション (OPTION)	192
HLDCMNDEVの例	192
エラー・メッセージ: HLDCMNDEV	192
配布待ち行列の保留 (HLDDSTQ)	195
パラメーター	195
配布待ち行列 (DSTQ)	195
優先順位 (PTY)	196
HLDDSTQの例	196
エラー・メッセージ: HLDDSTQ	196
ジョブ保留 (HLDJOB)	199
パラメーター	199
ジョブ名 (JOB)	200
スプール・ファイルの保留 (SPLFILE)	200
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT)	200
HLDJOBの例	201
エラー・メッセージ: HLDJOB	201
ジョブ待ち行列保留 (HLDJOBQ)	203
パラメーター	203
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	203
HLDJOBQの例	204
エラー・メッセージ: HLDJOBQ	204
ジョブ・スケジュール項目保留 (HLDJOBSCDE)	205
パラメーター	205
ジョブ名 (JOB)	205
項目番号 (ENTRYNBR)	206
HLDJOBSCDEの例	206
エラー・メッセージ: HLDJOBSCDE	206
出力待ち行列保留 (HLDOUTQ)	209
パラメーター	209
出力待ち行列 (OUTQ)	209
HLDOUTQの例	210
エラー・メッセージ: HLDOUTQ	210
読み取りプログラム保留 (HLDRDR)	211
パラメーター	211
読み取りプログラム (RDR)	211
HLDRDRの例	211
エラー・メッセージ: HLDRDR	212
スプール・ファイルの保留 (HLDSPLF)	213
パラメーター	213
スプール・ファイル (FILE)	214
ジョブ名 (JOB)	214
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	214
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	215
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	215
ファイル選択 (SELECT)	216

ASP装置 (ASPDEV)	217
ファイルの保留時期 (OPTION)	217
HLDSPLFの例	218
エラー・メッセージ: HLDSPLF	218
書き出しプログラム保留 (HLDWTR)	221
パラメーター	221
書き出しプログラム (WTR)	221
書き出しプログラムの保留時点 (OPTION)	221
HLDWTRの例	222
エラー・メッセージ: HLDWTR	222
IF (IF)	225
パラメーター	226
条件 (COND)	226
コマンド (THEN)	226
IFの例	227
エラー・メッセージ: IF	228
プログラム一時修正の導入 (INSPTF)	229
パラメーター	229
プロダクトの説明 (LICPGM)	230
装置 (DEV)	230
PTF適用タイプ (INSTYP)	231
PTF省略リスト (OMIT)	231
HIPER PTFのみ (HIPER)	232
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	232
再始動タイプ (RESTART)	232
媒体のプロンプト (PMTMED)	233
INSPTFの例	233
エラー・メッセージ: INSPTF	234
ディスク初期設定 (INZDKT)	235
パラメーター	235
ディスク装置 (DEV)	236
新しいボリューム識別コード (NEWVOL)	236
新しい所有者識別コード (NEWOWNID)	236
ディスクの形式 (FMT)	237
セクター・サイズ (SCTSIZ)	237
活動ファイルの検査 (CHECK)	238
コード (CODE)	238
INZDKTの例	239
エラー・メッセージ: INZDKT	239
DLFMの初期化 (INZDLFM)	241
パラメーター	241
既存のデータベースの消去 (CLEARDB)	241
INZDLFMの例	241
エラー・メッセージ: INZDLFM	242
配布待ち行列の初期設定 (INZDSTQ)	243
パラメーター	244
配布待ち行列 (DSTQ)	244
待ち行列項目の消去 (CLEAR)	244
INZDSTQの例	244
エラー・メッセージ: INZDSTQ	245

光ディスク初期設定 (INZOPT)	247
パラメーター	247
ボリューム識別コード (VOL)	247
新しいボリューム識別コード (NEWVOL)	248
装置 (DEV)	248
ボリューム満杯しきい値 (THRESHOLD)	248
活動ボリューム検査 (CHECK)	248
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	249
消去 (CLEAR)	249
ボリューム・タイプ (TEXT)	249
ボリューム・タイプ (TYPE)	250
コード化文字セットID (CCSID)	250
媒体の形式 (MEDFMT)	250
INZOPTの例	251
エラー・メッセージ: INZOPT	251

CLIENT ACCESS/400の初期設定 (INZPCS)	255
エラー・メッセージ: INZPCS	255
パラメーター	256
キーボード・タイプ (KBDTYPE)	256
ASCIIコード・ページ番号 (ASCII)	259
EBCDICコード・ページ番号 (EBCDIC)	259
言語機能コード (LANGUAGE)	259
例	261
エラー・メッセージ: INZPCS	261

物理ファイル・メンバー初期設定 (INZPFM)	263
パラメーター	263
物理ファイル (FILE)	263
メンバー (MBR)	264
レコードの初期設定 (RECORDS)	264
レコードの合計数 (TOTRCD)	264
INZPFMの例	265
エラー・メッセージ: INZPFM	265

システムの初期設定 (INZSYS)	267
パラメーター	267
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	267
INZSYSの例	268
エラー・メッセージ: INZSYS	268

テープ初期設定 (INZTAP)	269
パラメーター	269
装置 (DEV)	269
新しいボリューム識別コード (NEWVOL)	270
新しい所有者識別コード (NEWOWNID)	270
ボリューム識別コード (VOL)	270
活動ファイルの検査 (CHECK)	271
テープ密度 (DENSITY)	271
コード (CODE)	275
テープ終了オプション (ENDOPT)	276
消去 (CLEAR)	276
INZTAPの例	276

エラー・メッセージ: INZTAP	276
-------------------	-----

繰り返し (ITERATE)	279
パラメーター	279
コマンド・ラベル (CMDLBL)	279
ITERATEの例	280
エラー・メッセージ: ITERATE	280

そのまま (LEAVE)	281
パラメーター	281
コマンド・ラベル (CMDLBL)	282
LEAVEの例	282
エラー・メッセージ: LEAVE	283

データ定義リンク/リンク解除 (LNKDTADFN)	285
パラメーター	285
オプション (OPTION)	285
データベース・ファイル (FILE)	286
データ・ディクショナリー (DTADCT)	286
ファイル定義 (DFN)	286
作成日 (CRTDATE)	286
LNKDTADFNの例	287
エラー・メッセージ: LNKDTADFN	287

イメージ・カタログのロード/アンロード (LODIMGCLG)	289
パラメーター	289
イメージ・カタログ (IMGCLG)	289
仮想光ディスク装置 (DEV)	290
オプション (OPTION)	290
LODIMGCLGの例	290
エラー・メッセージ: LODIMGCLG	290

IMGCLG項目のロード/アンロード/マウント (LODIMGCLGE)	293
パラメーター	293
イメージ・カタログ (IMGCLG)	293
イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)	294
オプション (OPTION)	294
LODIMGCLGEの例	294
エラー・メッセージ: LODIMGCLGE	294

プログラム一時修正ロード (LODPTF)	297
パラメーター	297
プロダクト (LICPGM)	297
装置 (DEV)	298
選択するPTF番号 (SELECT)	298
除外するPTF番号 (OMIT)	298
取り替えられたPTF (SPRPTF)	299
リリース (RLS)	299
順序番号 (SEQNBR)	299
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	300
経路識別コード (PATHID)	300
保管ファイル (SAVF)	301

PTFカバー・レター・コピー (COVER)	301
LODPTFの例	301
エラー・メッセージ: LODPTF	302

Q/A データベース・ロード (LODQSTDB) 305

パラメーター	305
Q/Aデータベース (QSTDB)	305
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	306
LODQSTDBの例	306
エラー・メッセージ: LODQSTDB	306

ロードおよび実行 (LODRUN) 307

パラメーター	309
装置 (DEV)	309
順序番号 (SEQNBR)	310
ボリューム識別コード (VOL)	310
ディレクトリー (DIR)	310
LODRUNの例	311
エラー・メッセージ: LODRUN	311

ディレクトリーの作成 (MD) 313

パラメーター	314
ディレクトリー (DIR)	314
データの共通認可 (DTAAUT)	314
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	315
オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)	316
オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)	317
制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)	318
MDの例	318
エラー・メッセージ: MD	318

ディレクトリーの作成 (MKDIR) 321

パラメーター	322
ディレクトリー (DIR)	322
データの共通認可 (DTAAUT)	322
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	323
オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)	324
オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)	325
制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)	326
MKDIRの例	326
エラー・メッセージ: MKDIR	326

メッセージ・モニター (MONMSG) 329

パラメーター	330
メッセージ識別コード (MSGID)	330
比較データ (CMPDTA)	331
実行するコマンド (EXEC)	331
MONMSGの例	332
エラー・メッセージ: MONMSG	332

マウントFSの追加 (MOUNT) 333

パラメーター	333
ファイル・システムのタイプ (TYPE)	334

マウントするファイル・システム (MFS)	335
マウントするディレクトリー (MNTOVRDIR)	335
マウント・オプション (OPTIONS)	335
コード化文字セットID (CCSID)	337
コード・ページ (CODEPAGE)	338
MOUNTの例	339
エラー・メッセージ: MOUNT	340

オブジェクトの移動 (MOV) 341

パラメーター	342
オブジェクト (OBJ)	342
TOディレクトリー (TODIR)	342
TOオブジェクト (TOOBJ)	343
変換元CCSID (FROMCCSID)	343
変換先CCSID (TOCCSID)	344
データ形式 (DTAFMT)	344
FROMコード・ページ (FROMCODPAG)	345
TOコード・ページ (TOCODEPAGE)	345
MOVの例	346
エラー・メッセージ: MOV	347

文書の移動 (MOVDOC) 349

パラメーター	349
取り出し文書 (FROMDOC)	349
取り出しフォルダー (FROMFLR)	350
受け取りフォルダー (TOFLR)	350
名前付け直し (RENAME)	350
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	351
MOVDOCの例	351
エラー・メッセージ: MOVDOC	352

オブジェクトの移動 (MOVE) 353

パラメーター	354
オブジェクト (OBJ)	354
TOディレクトリー (TODIR)	355
TOオブジェクト (TOOBJ)	355
変換元CCSID (FROMCCSID)	355
変換先CCSID (TOCCSID)	356
データ形式 (DTAFMT)	356
FROMコード・ページ (FROMCODPAG)	357
TOコード・ページ (TOCODEPAGE)	357
MOVEの例	358
エラー・メッセージ: MOVE	359

オブジェクト移動 (MOV OBJ) 361

パラメーター	362
オブジェクト (OBJ)	362
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	363
TOライブラリー (TOLIB)	363
複写元ASP装置 (ASPDEV)	363
宛先ASP装置 (TOASPDEV)	364
MOV OBJの例	365
エラー・メッセージ: MOV OBJ	365

メッセージ・カタログの組合せ (MRGMSGCLG) 371

パラメーター	371
メッセージ・カタログ名 (CLGFILE)	372
ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)	372
メッセージ・カタログのCCSID (CLGCCSID)	372
テキスト'記述' (TEXT)	372
ソース・ファイルのCCSID (SRCCCSID)	373
データの共通認可 (DTAAUT)	373
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	374
MRGMSGCLGの例	375
エラー・メッセージ: MRGMSGCLG	375

メッセージ・ファイル組み合わせ (MRGMSGF) 377

パラメーター	377
取り出しメッセージ・ファイル (FROMMSGF)	378
受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)	378
置き換えられたメッセージ・ファイル (RPLMSGF)	379
選択するメッセージID (SELECT)	379
除外するメッセージID (OMIT)	379
MRGMSGFの例	380
エラー・メッセージ: MRGMSGF	381

TCP/IP ホスト・テーブルの組み合わせ (MRGTCPTH) 383

パラメーター	383
FROMファイル (FROMFILE)	384
FROMメンバー (FROMMBR)	384
ファイル形式 (FILEFMT)	384
ホスト・テーブルの置き換え (REPLACE)	384
MRGTCPTHの例	385
エラー・メッセージ: MRGTCPTH	385

TCP/IPネットワーク状況の処理 (NETSTAT) 387

パラメーター	387
オプション (OPTION)	387
WRKTCPTHの例	388
エラー・メッセージ: WRKTCPTH	388

DNS QUERYプログラムの開始 (NSLOOKUP) 389

パラメーター	393
ホスト (HOSTNAME)	393
ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNAMSVR)	393
エラー・メッセージ	394

データベース・ファイルのオープン (OPNDBF) 395

パラメーター	395
ファイル (FILE)	396
オープン・オプション (OPTION)	396
オープンするメンバー (MBR)	396
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	397
使用するアクセス・パス (ACCPH)	397
順次のみへの制限 (SEQONLY)	397

コミットメント制御活動中 (COMMIT)	398
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	398
重複キー検査 (DUPKEYCHK)	398
オープンのタイプ (TYPE)	398
OPNDBFの例	399
エラー・メッセージ: OPNDBF	399

QUERYファイル・オープン (OPNQRYF) 401

パラメーター	402
ファイル仕様 (FILE)	404
オープン・オプション (OPTION)	405
様式仕様 (FORMAT)	406
QUERY選択式 (QRYSLT)	407
キー・フィールド仕様 (KEYFLD)	407
固有キー・フィールド (UNIQUEKEY)	409
結合フィールド仕様 (JFLD)	409
省略時の値による結合 (JDFTVAL)	412
ファイル結合順序 (JORDER)	413
フィールド名のグループ化 (GRPFLD)	413
グループ選択式 (GRPSLT)	414
マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)	415
10進データ・エラーの無視 (IGNDECERR)	418
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	418
順次のみへの制限 (SEQONLY)	419
コミットメント制御活動中 (COMMIT)	419
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	419
重複キー検査 (DUPKEYCHK)	420
データのコピー可能 (ALWCOPYDATA)	420
パフォーマンスの最適化 (OPTIMIZE)	421
すべてのアクセス・パスの最適化 (OPTALLAP)	422
分類順序 (SRTSEQ)	422
言語識別コード (LANGID)	423
最終出力CCSID (CCSID)	423
オープンのタイプ (TYPE)	423
例	424
エラー・メッセージ	428

そうでない場合 (OTHERWISE) 431

パラメーター	431
コマンド (CMD)	431
OTHERWISEの例	432
エラー・メッセージ: OTHERWISE	432

データベース・ファイル一時変更 (OVRDBF) 433

パラメーター	433
一時変更中のファイル (FILE)	435
データベース・ファイルの一時変更 (TOFILE)	435
一時変更しているメンバー (MBR)	435
ファイルの開始桁 (POSITION)	436
レコード様式のロック (RCDFMTLCK)	438
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	438
レコード様式選択プログラム (FMTSLR)	439
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	439
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	440

一度に検索するレコード (NBRRCD)	440
EOF再試行遅延(秒数) (EOFDL)	440
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	441
満日日の検査 (EXPCHK)	441
書き込み禁止 (INHWR)	442
他の一時変更からの保護 (SECURE)	442
有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)	442
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	443
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	443
順次のみへの制限 (SEQONLY)	443
分散データ (DSTDTA)	445
OVRDBFの例	445
エラー・メッセージ: OVRDBF	446

ディस्कット・ファイル一時変更 (OVRDKTF) 447

パラメーター	447
一時変更中のファイル (FILE)	448
ディस्कット・ファイルの一時変更 (TOFILE)	448
装置 (DEV)	449
ボリューム識別コード (VOL)	449
ファイル・ラベル (LABEL)	450
ディस्कット・ファイル交換タイプ (EXCHTYPE)	450
コード (CODE)	450
作成日 (CRTDATE)	451
ファイル満日 (EXPDATE)	451
データのスプール (SPOOL)	451
出力待ち行列 (OUTQ)	452
スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)	452
スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)	453
スプール・ファイルの保留 (HOLD)	453
スプール・ファイルの保管 (SAVE)	453
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	454
ユーザー・データ (USRDTA)	454
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	454
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	454
他の一時変更からの保護 (SECURE)	455
有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)	455
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	455
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	456
OVRDKTFの例	456
エラー・メッセージ: OVRDKTF	456

表示装置ファイル一時変更 (OVRDSPF) 457

パラメーター	457
一時変更中のファイル (FILE)	458
表示装置ファイルの一時変更 (TOFILE)	458
装置 (DEV)	459
文字識別コード (CHRID)	459
10進数形式 (DECfmt)	460
SFLENDテキスト (SFLENDTXT)	460
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	461
外字 (IGCEXNCHR)	461
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	461
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	462
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	462

他の一時変更からの保護 (SECURE)	463
有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)	463
データ待ち行列名 (DTAQ)	463
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	464
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	464
OVRDSPFの例	464
エラー・メッセージ: OVRDSPF	465

ICFプログラム装置項目一時変更 (OVRICFDEVE) 467

パラメーター	467
プログラム装置 (PGMDEV)	468
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	468
通信タイプ (CMNTYPE)	469
装置 (DEV)	470
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	470
モード (MODE)	471
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	471
様式選択 (FMTSLT)	471
適用業務識別コード (APPID)	472
バッチ活動 (BATCH)	472
ホスト・タイプ (HOST)	473
ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)	473
特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)	473
実行初期設定 (INZSELF)	473
ヘッダー処理 (HDRPROC)	474
メッセージ保護 (MSGPTC)	474
エミュレーション装置 (EMLDEV)	474
会話タイプ (CNVTYPE)	475
ブロック化のタイプ (BLOCK)	476
レコード長 (RCDLEN)	477
ブロックの長さ (BLKLEN)	477
透過モード伝送 (TRNSPY)	477
データ圧縮 (DTACPR)	478
後書きブランクの切り捨て (TRUNC)	478
オーバーフロー・データ (OVRFLWDTA)	478
グループ区切りのタイプ (GRPSEP)	479
リモートBSCSEL (RMTBSCSEL)	479
初期接続 (INLCNN)	480
他の一時変更からの保護 (SECURE)	480
有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)	480
OVRICFDEVEの例	481
エラー・メッセージ: OVRICFDEVE	481

ICFファイル一時変更 (OVRICFF) 483

パラメーター	483
一時変更中のファイル (FILE)	484
ICFファイルの一時変更 (TOFILE)	484
プログラム装置獲得 (ACQPGMDEV)	485
最大レコード長 (MAXRCDLEN)	485
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	485
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	486
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	486
他の一時変更からの保護 (SECURE)	486
有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)	486
データ待ち行列名 (DTAQ)	487

オープン・データ・パス共用 (SHARE)	487
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	488
OVRICFFの例	488
エラー・メッセージ: OVRICFF	488

メッセージ・ファイル一時変更 (OVRMSGF) 489

パラメーター	489
一時変更されるメッセージ・ファイル (MSGF)	490
メッセージ・ファイルへの一時変更 (TOMSGF)	490
他の一時変更からの保護 (SECURE)	490
OVRMSGFの例	490
エラー・メッセージ: OVRMSGF	491

印刷装置ファイル一時変更 (OVRPRTF) 493

パラメーター	493
一時変更中のファイル (FILE)	498
印刷装置ファイルへの一時変更 (TOFILE)	499
装置 (DEV)	499
印刷装置タイプ (DEVTYPE)	500
ページ・サイズ (PAGESIZE)	500
行/インチ (LPI)	501
1インチ当たりの文字数 (CPI)	502
フロント・マージン (FRONTMGN)	503
バック・マージン (BACKMGN)	503
オーバーフロー行番号 (OVRFLW)	504
レコードの折り返し (FOLD)	504
印刷不能文字の処置 (RPLUNPRT)	505
ページの位置合わせ (ALIGN)	505
ソース用紙入れ (DRAWER)	506
出力ビン (OUTBIN)	506
フォント仕様 (FONT)	506
用紙送り (FORMFEED)	507
印刷品質 (PRTQLTY)	507
制御文字 (CTLCHAR)	508
チャンネル値 (CHLVAL)	509
精度 (FIDELITY)	509
文字識別コード (CHRID)	510
10進数形式 (DECfmt)	510
フォント文字セット (FNTCHRSET)	510
コード化フォント (CDEFNT)	511
ページ定義 (PAGDFN)	512
用紙定義 (FORMDF)	513
AFP文字 (AFPCHARS)	514
テーブル参照文字 (TBLREFCHR)	514
ページ回転度数 (PAGRIT)	514
面当たりページ数 (MULTIUP)	515
出力の減少 (REDUCE)	515
印刷テキスト (PRTTXT)	516
ハードウェア位置調整 (JUSTIFY)	516
両面印刷 (DUPLEX)	516
単位 (UOM)	516
前面オーバーレイ (FRONTOVL)	517
背面オーバーレイ (BACKOVL)	517
行データ変換 (CVTLINDTA)	519
IPDSパススルー (IPDSPASTHR)	519

USER資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)	520
コーナー・ステープルとじ (CORNERSTPL)	520
平とじ (EDGESTITCH)	521
中とじ (SADLSTITCH)	522
形式設定用フォント解像度 (RNTRSL)	523
書き出し据え置き (DFRWRT)	524
データのプール (SPOOL)	524
出力待ち行列 (OUTQ)	524
用紙タイプ (FORMTYPE)	525
コピー枚数 (COPIES)	525
印刷ページ範囲 (PAGERANGE)	525
プール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)	526
ファイル区切り (FILESEP)	526
プール出力のスケジュール (SCHEDULE)	526
プール・ファイルの保留 (HOLD)	527
プール・ファイルの保管 (SAVE)	527
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	527
ユーザー・データ (USRDTA)	527
プール・ファイル所有者 (SPLFOWN)	528
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	529
ユーザー定義データ (USRDFNDTA)	529
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	529
プール・ファイル名 (SPLFNAME)	530
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	531
外字 (IGCEXNCHR)	531
DBCSの回転 (IGCCHRRTT)	531
インチ当たりのDBCS数 (IGCCPI)	531
DBCSのSO/SIのスペース (IGCSOSI)	532
DBCSコード化フォント (IGCCDEFNT)	532
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	533
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	533
他の一時変更からの保護 (SECURE)	533
有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)	534
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	534
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	534
OVRPRTFの例	535
エラー・メッセージ: OVRPRTF	535

保管ファイル一時変更 (OVRSAVF) . . . 537

パラメーター	537
一時変更中のファイル (FILE)	538
保管ファイル (TOFILE)	538
ファイル拡張 (EXTEND)	538
ファイルの開始桁 (POSITION)	539
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	539
他の一時変更からの保護 (SECURE)	539
有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)	540
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	540
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	540
OVRSAVFの例	541
エラー・メッセージ: OVRSAVF	541

付録. 特記事項 543

商標	544
資料に関するご使用条件	545
コードに関する特記事項	546

メール・サーバー・フレームワークの終了 (ENDMSF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メール・サーバー・フレームワーク終了(ENDMSF)コマンドは、システム作業サブシステム(QSYSWRK)中のメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	<u>*CNTRLD</u> , *IMMED	オプション、位置 1
DELAY	制御された終了遅延時間	1-999999, <u>30</u>	オプション、位置 2

[トップ](#)

終了方法 (OPTION)

システム作業サブシステム(QSYSWRK)中のメール・サーバー・フレームワーク・ジョブが即時に終了するか、あるいは制御つきで終了するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*CNTRLD

すべてのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブは制御つきで終了します。これによりフレームワーク・ジョブは現在のメール・サーバー・フレームワーク・メッセージの処理を完了してから終了することができます。

*IMMED

すべてのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブが即時に終了します。ジョブが終了した時に処理中であつたどのメール・サーバー・フレームワーク・メッセージも、メール・サーバー・フレームワークが再始動される時に処理されます。

[トップ](#)

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御つき終了の時にメール・サーバー・フレームワーク・ジョブがその処理を完了するのに可能な時間（秒数）を指定します。OPTION(*IMMED)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。遅延時間が終わるまでにジョブが終了しなかった場合には、ジョブは即時に終了します。

考えられる値は、次の通りです。

30 メール・サーバー・フレームワーク・ジョブが終了するまでに30秒の最大遅延時間が使用可能です。

遅延時間

ジョブが終了するまでの最大遅延時間を秒数で指定してください。有効な値の範囲は1-999999です。

[トップ](#)

ENDMSFの例

例1: 制御された方法でのメール・サーバー・フレームワークの終了

```
ENDMSF OPTION(*CNTRLD) DELAY(60)
```

このコマンドは、システム作業サブシステムのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを制御された方法で終了して、現在処理中のメール・サーバー・フレームワーク・メッセージの処理が完了するのを60秒間待機します。

例2: メール・サーバー・フレームワークの即時終了

```
ENDMSF OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、システム作業サブシステムのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを即時終了します。メール・サーバー・フレームワーク・ジョブは、現在処理中のメール・サーバー・フレームワーク・メッセージの処理を完了しません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDMSF

*ESCAPE メッセージ

CPFABAB

ENDMSFが正常に完了しない。

CPFABAC

ENDMSFが正常に完了した。しかし、エラーが起きました。

CPFABFF

プログラム&1でシステムの内部エラー。

[トップ](#)

NFSサーバーの終了 (ENDNFSSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル・システム・サーバー終了(ENDNFSSVR)コマンドは、NFS サーバー・デーモンの1つまたはすべてを終了させます。これらのデーモン・ジョブの詳細については、OS/400 NFSサポート(SC88-4019)を参照してください。

SERVER(*ALL)を指定する必要があります。これは、次の順序でデーモンを終了させます。(この順序は、ネットワーク・ファイル・システム・デーモンを終了させる場合に望ましい順序です。)

- ネットワーク・ロック・マネージャー(NLM)デーモン
- ネットワーク状況モニター(NSM)デーモン
- マウント(MNT)デーモン
- サーバー(SVR)デーモン
- ブロック入出力(I/O) (BIO)デーモン
- リモート・プロシージャ呼び出し(RPC) RPCBINDデーモン

1つのデーモンだけを終了させる場合には、NFSデーモンを終了させる適切な順序と、上記以外の順序でデーモンを終了させた場合に考えられる結果について理解するようにしてください。NFSデーモン終了の詳細については、OS/400 NFSサポート(SC88-4019)を参照してください。

実行中でない1つまたは複数のデーモンを終了させようとした場合に、そのことがコマンドの失敗原因になることはなく、終了を要求しているその他のデーモンの終了が続行されます。

NFSデーモンが実行中かどうかを判別するためには、活動ジョブ処理(WRKACTJOB)コマンドを使用して、サブシステムQSYSWRK内に、次のジョブが存在しているか調べてください。

QNFSRPCD RPCBINDデーモン
QNFSBIOD ブロックI/O (BIO)デーモン
QNFSNFSD サーバー(SVR)デーモン
QNFSMNTD マウント(MNT)デーモン
QNFSNSMD ネットワーク状況モニター(NSM)デーモン
QNFSNLMD ネットワーク・ロック・マネージャー(NLM)デーモン

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。
2. 他の担当者によって開始されたデーモン・ジョブを終了させるには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー・デーモン	*ALL, *RPC, *BIO, *SVR, *MNT, *NSM, *NLM	必須, 定位置 1
ENDJOBTIMO	デーモン終了のタイムアウト	1-3600, <u>30</u> , *NOMAX	オプション, 定位置 2

トップ

サーバー・デーモン (SERVER)

終了させるネットワーク・ファイル・システム(NFS)デーモンを指定します。

- *ALL** すべてのNFSデーモンを終了します。
- *RPC** NFSリモート・プロシーチャー呼び出し(RPC) RPCBINDデーモンを終了します。
- *BIO** 実行中のすべてのNFSブロック入出力(I/O)デーモンが終了されます。
- *SVR** 実行中のすべてのNFSサーバー・デーモンを終了します。
- *MNT** NFSマウント・デーモンを終了します。
- *NSM** NFSネットワーク状況モニター・デーモンを終了します。
- *NLM** NFSネットワーク・ロック・マネージャー・デーモンを終了します。

これは必須パラメーターです。

トップ

デーモン終了のタイムアウト (ENDJOBTIMO)

それぞれのデーモンが正常に終了されるのを待機する秒数を指定します。デーモンがタイムアウト値以内に終了しなかった場合には、コマンドが正常に実行されません。

30 デーモン・ジョブが終了するまで30秒間待機します。

***NOMAX**

デーモンが終了するまで永久に待機します。タイムアウトは起こりません。

1-3600

コマンドがタイムアウトになって失敗するまでにデーモンが終了するのを待機する秒数を指定してください。30秒に満たないタイムアウト値は30秒に切り上げられます。

トップ

ENDNFSSVRの例

例1: すべてのデーモンの終了

```
ENDNFSSVR SERVER(*ALL)
```

このコマンドは、実行中のすべてのNFSデーモンを終了します。

例2: 単一デーモンの終了

```
ENDNFSSVR SERVER(*MNT) ENDJOBTIMO(*NOMAX)
```

このコマンドは、NFSマウント・デーモンを終了して、それが終了するまで永遠に待機します。マウント・デーモンはすでに実行されていて、その他のデーモンは適切な順序で終了されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDNFSSVR

なし

[トップ](#)

NETWARE接続の終了 (ENDNTWCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE接続終了(ENDNTWCNN)コマンドによってユーザーは、活動状態のNETWARE接続を終了することができます。このコマンドは、特定のNETWAREサーバー上の特定のNETWARE接続を終了するために使用することができます。この接続は、ISERIESを起点としていることも、また、起点としていないこともあります。

制約事項: ユーザー独自のもの以外の接続を終了するためには、*JOBCTL特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 1
CNNNBR	接続番号	1-65534	必須, 定位置 2

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

1つまたは複数の接続が終了されるNETWAREサーバーを指定します。

名前 ネットワークに対して定義されている活動サーバーの名前を指定します。

[トップ](#)

接続番号 (CNNNBR)

終了する活動状態のNETWARE接続の接続番号を指定します。

1-65534

終了するNETWARE接続の接続番号を指定します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDNTWCNN

*ESCAPE メッセージ

FPE0103

NETWARE接続&1が終了しなかった。

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース回復の終了 (ENDNWIRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース回復終了(ENDNWIRCY)コマンドは、ネットワーク・インターフェース記述の自動エラー回復手順を終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWI	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述 (NWI)

回復が終了されるネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ENDNWIRCYの例

ENDNWIRCY NWID(ISDNNET)

このコマンドは、ISDNNETという名前のネットワーク・インターフェースに対しての自動エラー・リカバリ手順を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDNWIRCY

***ESCAPE** メッセージ

CPF591A

ネットワーク・インターフェース記述&1は認可されていない。

CPF593A

ネットワーク・インターフェース&1はオンに構成変更されていない。

CPF593B

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF593C

ネットワーク・インターフェース&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

パススルー終了 (ENDPASTHR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パススルー終了(ENDPASTHR)コマンドは、パススルー・セッションを終了させます。このENDPASTHRコマンドは、ユーザーをターゲット・システムからサインオフし、拡張プログラム間通信機能(APPC)セッションを終了します。これによって仮想表示装置はサブシステムから解放され、オンへの構成変更保留状態に戻ります。パススルー・セッションの各中間ノードにあるジョブも終了します。制御権は、ソース・システムのパススルー開始(STRPASTHR)コマンドの次のコマンドに戻されます。

注: ENDPASTHRコマンドでは、その処理の一部としてSIGNOFFコマンドが使用されます。SIGNOFFコマンドがライブラリー・リストのQSYS/SIGNOFFの前にあるシステムの場合には、ENDPASTHRによってSIGNOFFコマンドが使用されます。SIGNOFFコマンドでENDPASTHRコマンドを使用してはなりません。これを使用すると、パススルー・セッションを終了させた時にシステムがループ状態になります。

ターゲット・システムに2次対話式ジョブがある場合には、ENDPASTHRコマンドによってパススルー・セッションは終了されません。ENDPASTHRコマンドを入力する前に(SIGNOFFまたはENDJOBを使用して)ジョブの1つを終了しなければなりません。

ENDPASTHRコマンドが入力され、パススルー・セッションがない場合には、エラー・メッセージが送られます。

パススルーの詳細については、REMOTE WORK STATION SUPPORT (SC41-5402)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LOG	ジョブ・ログ	<u>*NOLIST</u> , *LIST	オプション、位置 1

トップ

ジョブ・ログ (LOG)

ターゲット・システムでジョブ・ログを保管するかどうかを指定します。

*NOLIST

ジョブ・ログの情報はジョブの終了時に削除されます。

***LIST** ターゲット・システムでジョブ・ログが保管されます。

トップ

ENDPASTHRの例

ENDPASTHR LOG(*LIST)

このコマンドは、パススルー・セッションを終了して、ジョブ・ログを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDPASTHR

*ESCAPEメッセージ

CPF8914

ENDPASTHRコマンドを使用することはできない。

CPF8915

ENDPASTHRを使用することはできない。システム要求ジョブが活動中です。

[トップ](#)

PERFORMANCE EXPLORERの終了 (ENDPEX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PERFORMANCE EXPLORER終了(ENDPEX)コマンドは、PERFORMANCE EXPLORERツールにデータ収集の停止を指示します。このコマンドでは、終了するPERFORMANCE EXPLORERセッションのインスタンスを識別する要求に伴うセッション名が必要です。

ユーザーは、データ収集セッションを終了するか、あるいはデータ収集セッションを中断することができます。ユーザーがセッションの終了を選択した場合には、収集されたデータは、DTAOPTパラメーターに指定された値に基づいて、タイプ*MGTCOL のオブジェクトに入れられるか、あるいはデータベース・ファイルのセットに入れられるか、あるいは削除されます。

ユーザーがパフォーマンス・データの収集の中断を選択した場合には、セッションは活動状態のままです。中断されたセッションでデータの収集を再開するためには、ユーザーはSTRPEX (PERFORMANCE EXPLORER開始) コマンドの後続の呼び出しでOPTION(*RESUME)を指定することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. 指定されたDTALIBおよびMGTCOLライブラリーに対する*ADDおよび*EXECUTE権限が必要です。
3. 既存の管理収集オブジェクトを置き換える場合には、管理収集オブジェクトに対する*OBJMGMT, *OBJEXIST,および使用権限が必要です。
4. このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システム/400のサービス追跡機能に許可されていないとなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法情報の変更(QSYCHFUI) APIも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
5. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
6. 2次スレッドからENDPEXを実行する場合には、QAYPE*ファイルがDTALIBライブラリーにすでに存在していなければなりません。これらのファイルは、ENDPEX DTAOPT(*LIB)を実行して、1次スレッドで作成されなければなりません。
7. 2次スレッドからENDPEXを実行する場合には、DTAOPT(*MGTCOL)オブジェクトを指定することはできません。
8. ENDPEXを同時に実行するために、同じジョブ内で2つのスレッドを使用することはできません。最初にENDPEXを出したスレッドがコマンドの実行を完了するのを、2番目のENDPEXが待機します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SSNID	セッションID	名前, <u>*SELECT</u>	オプション, 位置 1
OPTION	オプション	<u>*END</u> , *SUSPEND, *STOP	オプション
DTAOPT	データ・オプション	<u>*LIB</u> , *MGTCOL, *DLT	オプション
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, <u>QPEXDATA</u>	オプション
DTAMBR	データ・メンバー	名前, <u>*SSNID</u>	オプション
MGTCOL	管理コレクション	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 管理コレクション	名前, <u>*SSNID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPEXDATA</u>	
RPLDTA	データの置き換え	<u>*NO</u> , *YES	オプション
NBRTHD	スレッドの数	1-256, <u>*CALC</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション

[トップ](#)

セッションID (SSNID)

終了するPERFORMANCE EXPLORERセッションを指定します。これは、STRPEX (PERFORMANCE EXPLORER開始) コマンドに指定されたセッションID です。

*SELECT

活動状態のすべてのPERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションのリスト・パネルが、終了するセッションを選択するオブジェクトを示して表示されます。*SELECTが有効なのは、ENDPEX コマンドが対話式に実行中の場合だけです。コマンドがバッチで実行中の場合には、セッションIDを指定しなければなりません。

セッション識別コード

終了するPERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションを指定してください。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

データ収集セッションを終了するか、あるいはセッションでのパフォーマンス・データの収集を中断するだけなのかを指定します。

*END PERFORMANCE EXPLORERセッションが終了されます。ユーザーには、収集されたデータを処理する3つの方法から選択するためのプロンプトが出されます。

1. 収集されたデータのデータベース・ファイルのセットへの保管。
2. 単一ファイルへのデータの保管 (分析のためにデータを弊社に送るために使用)。
3. データの破棄。

*SUSPEND

PERFORMANCE EXPLORERセッションが中断されて、セッションは活動状態のままですが、このセッションの追加のデータは収集されません。セッションが中断されると、OPTION(*RESUME)を

指定したSTRPEXを使用してデータ収集を再開するか、あるいはOPTION(*END)を指定したENDPEXを指定して中断されたセッションを終了することができます。

***STOP**

PERFORMANCE EXPLORERセッションが終了されて、ジョブは収集から除去されます。このセッションは再び開始できません。アドレスがオブジェクト名に解決されないし、データベース・ファイルは作成されません。アドレス・データおよびデータベース・ファイルは、ENDPEXのOPTION(*END) およびDTAOPT(*LIBまたは*MGTCOL)オプションを指定して後から作成することができます。ただし、オブジェクトを削除した場合には、PERFORMANCE EXPLORERは一部のアドレスを解決できない場合があります。*STOPと*ENDの間が長くなればなるほど、解決されるアドレス・データが不完全なものになる傾向にあります。

トップ

データ・オプション (DTAOPT)

収集されたデータの処理方法を指定します。収集されたデータはデータベース・ファイルのセットに、または管理収集オブジェクト(*MGTCOL),あるいはこの両方に保管することができます。収集されたデータの保持に使用される一時管理収集オブジェクトは削除されます。収集されたデータを保管しないで一時管理収集オブジェクトを削除するには、*DLTを指定してください。

注: このパラメーターが有効なのはOPTION(*END)を指定した場合だけです。

***LIB** セッションで収集されたすべてのパフォーマンス・データがDTALIBパラメーターに指定したライブラリーにあるデータベース・ファイルのセットに記憶されることを示します。PERFORMANCE EXPLORERツールは、ライブラリーが初めてパフォーマンス・データの保管に使用される場合に、必要なすべてのファイルを作成します。セッション・データが記憶される各ファイルのメンバー名はDTAMBRパラメーターによって制御することができますが、省略時の値はセッションIDと同じ名前です。

***MGTCOL**

収集されたすべてのデータを管理収集オブジェクト (タイプ*MGTCOL)に保管することを指示します。データベース・ファイルは作成されません。データを別のシステムに配送するか、あるいは分析のためにサービス・プロバイダーに配送する場合には、このオプションを使用することができます。

***DLT** セッションで収集されたパフォーマンス・データは、システムから削除されます。

トップ

データ・ライブラリー (DTALIB)

収集されたパフォーマンス・データが記憶されるデータベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、ユーザーがDTAOPT(*LIB)を指定した場合だけです。

QPEXDATA

QPEXDATAライブラリーは、PERFORMANCE EXPLORERツールで収集されたデータを保管するために推奨されるライブラリーです。初めてPERFORMANCE EXPLORERツールを使用するとき、このライブラリーがユーザー用に作成され、情報を保管するデータベース・ファイルのセットがこのライブラリーに作成されます。

ライブラリー名

収集されたデータを記憶するためのライブラリーの名前を指定します。ライブラリーが存在しない場合は、このコマンドはエラー状態で終了します。ライブラリーを作成した後で、コマンドをやり直してください。指定したライブラリーにまだパフォーマンス・データベース・ファイルがない場合には、ファイルが作成され、データが記憶されます。

[トップ](#)

データ・メンバー (DTAMBR)

収集されたパフォーマンス・データが記憶されるデータベース・メンバーに使用される名前を指定します。指定した名前のメンバーが存在していない場合には、作成されます。

注: このパラメーターが有効なのは、ユーザーがDTAOPT(*LIB)を指定した場合だけです。

*SSNID

メンバー名は、SSNIDパラメーターに指定した値と同じです。

メンバー名

収集されたデータをPERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルに保管するとき使用するメンバー名を指定してください。

[トップ](#)

管理コレクション (MGTCOL)

収集されたパフォーマンス・データを保管する管理収集オブジェクトの名前を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、DTAOPT(*MGTCOL)を指定した場合だけです。

*MGTCOLオブジェクト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

•

QPEXDATA

QPEXDATAライブラリーは、PERFORMANCE EXPLORERツールで収集されたデータを保管するために推奨されるライブラリーです。初めてPERFORMANCE EXPLORERツールを使用するときに、このライブラリーがユーザー用に作成されます。

データ・ライブラリー名

収集されたデータを記憶するためのライブラリーの名前を指定します。ライブラリーが存在しない場合は、このコマンドはエラー状態で終了します。ライブラリーを作成した後で、コマンドをやり直してください。

*SSNID

収集されたパフォーマンス・データを収めるための管理収集オブジェクトを作成する時に、SSNIDパラメーターに指定した名前が使用されます。

管理収集名

収集されたパフォーマンス・データを収めるための管理収集オブジェクトを作成する時に使用する名前を指定します。

[トップ](#)

データの置き換え (RPLDTA)

既存のファイル・メンバーまたは管理収集オブジェクトを新しいパフォーマンス・データで置き換えるかどうかを指定します。DTAMBRが指定されて、指定されたライブラリー(DTALIBパラメーター)に入っているPERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルに同じ名前のメンバーがすでに存在する場合には、このパラメーターはメンバーのデータを置き換えるかどうかを制御します。MGTCOLが指定されて、同じ名前のオブジェクトがすでに存在する場合には、そのオブジェクトのデータを置き換えるかどうかを、このパラメーターが制御します。

- *NO** 同じ名前のメンバーがすでに存在している場合には、エラー・メッセージがユーザーに送られません。これにより、ユーザーが不用意に既存のデータを上書きすることがなくなります。
- *YES** 同じ名前のメンバーがすでに存在している場合には、古いデータは失われ、新しいデータで置き換えられます。

トップ

スレッドの数 (NBRTHD)

終了するセッション中のデータを処理するためにENDPEXコマンドで使用する同時スレッド数を指定します。1以上の数値を指定することによって、マルチプロセッサ・システムでは特に、ENDPEXコマンドで使用可能なCPUサイクルを利用することができます。また、これによってコマンドの処理速度は高くなりますが、システム上の他のジョブのパフォーマンスを低下させることもあります。ENDPEXコマンドを実行するジョブの優先順位を高いものに変更することによって、この影響を最小限にすることができます。また、ディスク・サブシステムが追加スレッドを処理できることを検査する必要もあります。

- *CALC** システムは、CPUまたはディスク資源を過剰に使用しないコマンド処理を行なうためにスレッドの適切な数を計算します。
- *MAX** システムは、コマンド処理を行なうためにスレッドの最大数を計算します。処理時間を最小のものにするために、すべての資源で使用効率を最大化しようとします。これによって、システム上の他のすべてのジョブでかなりの性能低下が起こることがあります。

スレッド数

収集されたデータの処理に使用するために、ENDPEXコマンドのスレッド数を指定します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

収集されるデータのタイプを簡単に記述するテキストを指定します。

- *BLANK** テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ENDPEXの例

例1: セッションを終了してデータベース・ファイルを保管

```
ENDPEX  SSNID(TEST3)  OPTION(*END)  DTAOPT(*LIB)
        DTAMBR(SYS1DATA)
```

このコマンドは、TEST3という名前のPERFORMANCE EXPLORERセッションを終了して、ライブラリーQPEXDATAにデータベース・ファイルのセット内のデータを保管します。各ファイルに使用するメンバー名はSYS1DATAです。

例2: セッションを終了してデータを削除

```
ENDPEX  SSNID(TESTRUN)  OPTION(*END)  DTAOPT(*DLT)
```

このコマンドは、TESTRUNという名前のPERFORMANCE EXPLORER セッションを終了して、収集されたパフォーマンス・データを削除します。

例3: セッションを終了して*MGTCOLを保管

```
ENDPEX  SSNID(TEST3)  OPTION(*END)  DTAOPT(*MGTCOL)
        MGTCOL(MYLIB/SYS1DATA)  NBRTHD(*CALC)
```

このコマンドは、TEST3という名前のPERFORMANCE EXPLORER セッションを終了して、SYS1DATAという名前の管理収集オブジェクトのライブラリーMYLIBの管理収集オブジェクトにデータを保管します。ENDPEX は、スレッドの数を計算して、この要求を処理します。このスレッドの数は、残りのシステムを中断することなく、可能な限り迅速にENDPEX処理を実行します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDPEX

*ESCAPE メッセージ

CPF06

ENDPEXコマンドが正常に行なわれませんでした。理由コードは&1です。詳細については、明細を参照してください。

[トップ](#)

パフォーマンス収集の終了 (ENDPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集終了(ENDPFRCOL)コマンドは、システム・レベルの収集を停止します。収集サービスを使用している他のクライアント・アプリケーションがない場合には、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)も終了します。

クライアント・アプリケーションが収集サービスを使用している場合には、強制終了パラメーターも指定しない限り、サーバー・ジョブは引き続き実行します。クライアント・アプリケーション（たとえば、ISERIESナビゲーター・モニターやパフォーマンス・データ収集プログラムAPIなど）が使用されているときにサーバー・ジョブを強制終了すると、それらのクライアントがデータ収集の失敗を経験することになります。

他のシステム機能は、収集サービスを開始可能です。このコマンドがサーバー・ジョブの現行インスタンスを終了しても、サーバー・ジョブの再開が妨げられることはありません。サーバー・ジョブを開始できる機能には、PM/400,管理セントラル・サーバー、およびパフォーマンス・データ収集プログラムAPIが含まれます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FRCCOLEND	強制終了	*NO, *YES	オプション、定位置 1

[トップ](#)

強制終了 (FRCCOLEND)

収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)を強制終了するかどうかを決定します。

***NO** QYPSPFRCOLジョブは、クライアント・アプリケーションが使用していない場合に終了されるだけです。

***YES** QYPSPFRCOLジョブは、即時に強制終了されます。

[トップ](#)

ENDPFRCOLの例

例1: パフォーマンス収集の終了

ENDPFRCOL

このコマンドは、システム・レベルのパフォーマンス・データの収集を終了します。収集サービスを使用しているクライアント・アプリケーションがない場合には、このコマンドは、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)も終了します。クライアント・アプリケーションが収集サービスを使用している場合には、QYPSPFRCOLジョブは引き続き実行します。

例2: パフォーマンス収集の強制終了

```
ENDPFRCOL FRCCOLEND(*YES)
```

このコマンドは、クライアント・アプリケーションが使用している場合でも、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)を強制終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDPFRCOL

*ESCAPE メッセージ

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPFB94A

収集プログラムの通信エラー。理由コードは&1です。

[トップ](#)

パフォーマンス追跡の終了 (ENDPFRTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス追跡終了(ENDPFRTRC)コマンドは、QPM_STRPFRTRC追跡テーブル中のパフォーマンス追跡データの収集を停止し、任意指定でパフォーマンス追跡データをデータベース・ファイルに書き込みます。QPM_STRPFRTRC追跡テーブルは、データがデータベース・ファイルに書き込まれるかどうかにかかわらず、削除されます。

このコマンドは、パフォーマンス追跡開始(STRPFRTRC)コマンドで開始されたパフォーマンス追跡を終了するために使用します。ただし、これはQPM_STRPFRTRC追跡テーブルで活動状態の追跡を終了しその処理を試みます。

制約事項:

- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための私用認可を受けています。
 - QSRV

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DMPTRC	追跡ダンプ	*NO, *YES	オプションル、位置 1
MBR	メンバー	名前	オプションル
LIB	ライブラリー	名前, QPFRDATA	オプションル
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプションル

[トップ](#)

追跡ダンプ (DMPTRC)

追跡データをパフォーマンス・データベース・ファイルQAPMDMPTにダンプされるかどうかを指定します。データをダンプしない場合には、追跡テーブルが削除される時にこれは失われます。

***YES** 追跡データがあればダンプされます。

***NO** 追跡データはダンプされません。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

追跡テーブル・データがダンプされるQAPMDMPTデータベース・ファイル内のメンバーを指定します。追跡ダンプ (DMPTRC)パラメーターに*YESが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

名前 使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

追跡データ用のデータベース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。指定したライブラリーの中にこのファイルが見つからない場合には、システムは自動的にそのライブラリーの中にファイルを作成します。

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、追跡データのデータベース・ファイルを入れるのに使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

データベース・メンバーを簡単に記述するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ENDPFRTRCの例

例1:パフォーマンス追跡の終了

```
ENDPFRTRC DMPTRC(*YES) MBR(MYDATA)
```

この例では、現行追跡が終了され、データがライブラリーQPFRDATA中のファイルQAPMDMPTのメンバーMYDATAに書き込まれます。そして追跡テーブルが削除されて、この追跡に使用される記憶域を解放します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRPFRTRC

*ESCAPEメッセージ

メッセージについては、TRCINTおよびDMPTRCコマンドを参照してください。

[トップ](#)

プログラム終了 (ENDPGM)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム終了(ENDPGM)コマンドは、CLプロシージャの終わりを指定します。このコマンドが処理されると、RETURNコマンドの場合と同じ結果が生じます。すなわち、呼び出し側プログラムの中のCALLコマンドの次のコマンドに制御権が返されます。

CLプロシージャの終わりには、ENDPGMコマンドは不要です。CLプロシージャ・ソース・ファイルの最後のステートメントに達して、ENDPGMコマンドが見つからない場合には、コンパイラーによってENDPGMコマンドと見なされます。

制約事項:このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDPGMの例

```
PGM  
:  
ENDPGM
```

このCLプロシージャは、パラメーターを含まないPGMコマンドによって識別され、ENDPGMコマンドによって終了されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDPGM

なし

[トップ](#)

プログラム・エクスポート・リストの終了 (ENDPGMEXP)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム・エクスポート・リストの終了(ENDPGMEXP)バインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム・エクスポート・ブロック中のエクスポートのリストを終了します。

このステートメントにパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDPGMEXPの例

ENDPGMEXP

このバインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム用にエクスポートされる変数またはプロシージャのリストの終わりをマークします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDPGMEXP

なし

[トップ](#)

プログラム・プロファイリングの終了 (ENDPGMPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム・プロファイル作成終了(ENDPGMPRF)コマンドは、CHGPGM (プログラム変更)、CHGSRVPGM (サービス・プログラム変更) CLコマンドで、あるいはCHGMOD (モジュール変更) CLコマンドを使用してモジュールを作成する場合に、PRFDTA(*COL)オプションを使用して、プロファイル・データを収集できるようになっているプログラムまたはサービス・プログラムに関するプログラム・プロファイル・データの収集を終了します。

制約事項:

- このコマンドは、共通(*EXCLUDE)権限なし、およびコマンドに対する使用(*USE)権限をもつQPGMRユーザー・プロファイル付きで出荷されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDPGMPRFの例

ENDPGMPRF

このコマンドは、プログラム・プロファイル・データ収集を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDPGMPRF

*ESCAPEメッセージ

CPF5CAA

プログラムのプロファイル作成中に予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

事前開始ジョブの終了 (ENDPJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

事前開始ジョブの終了 (ENDPJ)コマンドは、すべてのジョブを終了し、活動サブシステム中の事前開始ジョブ項目に関連したインライン・データ・ファイルがある場合にそれも終了します。

ジョブは要求を待機することもできるし、あらかじめ要求と関連づけることもできます。また、終了するジョブに関連したスプール出力ファイルは終了することもできるし、出力待ち行列上にそのまま残すこともできます。各ジョブ・ログに書き込まれるメッセージの数の限界も変更できます。**制約事項:**

1. このコマンドは、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザーに制限されます。
2. 独立補助記憶域プール(ASP 33-255)内の出力待ち行列に入っているスプール出力ファイルは削除されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBS	サブシステム	名前	必須, 定位置 1
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション, 定位置 3
DELAY	制御された終了遅延時間	1-999999, <u>30</u>	オプション, 定位置 4
SPLFILE	スプール・ファイル削除	*NO, *YES	オプション, 定位置 5
LOGLMT	ログ項目の最大数	整数, *SAME, *NOMAX	オプション

トップ

サブシステム (SBS)

事前開始ジョブ項目が入っている活動サブシステムの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 事前開始ジョブ項目が入っている活動サブシステムの名前を指定してください。

トップ

プログラム (PGM)

事前開始ジョブ項目を識別するプログラムの修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 事前開始ジョブ項目を識別するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

終了方法 (OPTION)

アプリケーション・プログラムがジョブの終わり処理を実行できる制御された方式によってジョブが終了されるか、あるいはジョブが即時に終了されるかを指定します。

*CNTRLD

ジョブは制御された方式で終了します。これによって、実行中のプログラムはジョブの終わり処理を実行することができます。終了するジョブに非同期シグナルSIGTERMのシグナル処理プロシージャがあると、そのジョブに対してSIGTERMシグナルが生成されます。アプリケーションは、ジョブを終了する前にクリーンアップを完了するために、DELAYパラメーターに指定された時間があります。

*IMMED

ジョブは即時に終了します。終了するジョブに非同期シグナルSIGTERMのシグナル処理プロシージャがあると、そのジョブに対してSIGTERMシグナルが生成され、QENDJOBLMTシステム値が時間制限を指定します。実行中のプログラムは、SIGTERMシグナルの処理による以外、ジョブ終了処理を実行できません。

注: *IMMED値は、データが完全に更新されていないと、望ましくない結果をもたらすことがあります。制御付き終了を試みてそれが失敗に終わった場合にだけ、この値を使用するようにしてください。

[トップ](#)

制御された終了遅延時間 (DELAY)

プログラムが制御された方式による終了の時に、ジョブの終わり処理を完了できる時間（秒数）を指定します。遅延時間の終わりまでにジョブの終わり処理が完了しなかった場合には、ジョブが即時に終了します。システムのクリーンアップだけが実行されます。このパラメーターは、終了方法 (OPTION)パラメーターに*IMMEDが指定された場合には無効です。

30 各事前開始ジョブが終了するまでにジョブの終わり処理に30秒の最大遅延時間が与えられます。

1-999999

各事前開始ジョブが終了するまでの最大遅延時間（秒数）を指定してください。

トップ

スプール・ファイル削除 (SPLFILE)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルが書き出しプログラムによる通常処理のために保持されるか、あるいは削除されるかを指定します。

***NO** 終了するジョブによって作成されたスプール出力ファイルは、書き出しプログラムによる通常処理のために保持されます。ジョブが終了すると、スプール・ファイルを切り離すのか、あるいはジョブとともに保管するのかは、スプール・ファイル処置(SPLFACN)ジョブ属性によって判別されます。

***YES** 終了しようとしているジョブが作成したスプール出力ファイルのうち、システム補助記憶域プール(ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2-32)の出力待ち行列にあるものが削除されます。独立ASP (ASP 33-255)内の出力待ち行列に入っているスプール出力ファイルは削除されません。ジョブ・ログは削除されません。

トップ

ログ項目の最大数 (LOGLMT)

終了するジョブのメッセージ待ち行列の中の、ジョブ・ログに書き込まれる項目の最大数を指定します。このパラメーターを使用して、終了する各ジョブごとに、ジョブ・ログの印刷出力ファイルQPJOBLOGに書き込まれるメッセージの数を制限することができます。

***SAME**

メッセージのロギング限界は変更されません。前のコマンドでこの事前開始ジョブのロギング限界が変更されなかった場合には、システムによって使用される値は*NOMAXになります。

***NOMAX**

記録されるメッセージの数に制限はありません。各ジョブ・メッセージ待ち行列にあるすべてのメッセージが各ジョブのジョブ・ログに書き込まれます。

整数 各ジョブごとに、ジョブ・ログに書き込まれるメッセージの最大数を指定してください。この値は、ジョブ・ログ中のメッセージが最大数に達していない時に入力する場合にのみ、最大とします。そうでなければ、ジョブ・ログへのこれ以上のメッセージの書き込みは、制限によって停止されます。ログにメッセージが何も書き込まれていない時に0を指定した場合には、ジョブ・ログは作成されません。

トップ

ENDPJの例

例1:ジョブを即時に終了する

```
ENDPJ  SBS(SBS1)  PGM(PJLIB/PJPGM)  OPTION(*IMMED)
        SPLFILE(*YES)
```

このコマンドは、サブシステムSBS1内の事前開始ジョブ項目PJPGMと関連したすべてのジョブを即時に終了します。これらの事前開始ジョブが生成したスプール出力は削除されますが、ジョブ・ログは保管されません。

例2:ジョブ終了を表示する

```
ENDPJ  SBS(SBS2)  PGM(PJPGM2)  OPTION(*CNTRLD)
        DELAY(50)  SPLFILE(NO)
```

このコマンドは、サブシステムSBS2内の事前開始ジョブ項目PJPGM2と関連したすべてのジョブを終了します。これらの事前開始ジョブのスプール出力は、通常処理のためにスプール書き出しプログラムによって保管されます。これらのジョブはクリーンアップ・ルーチンの実行に50秒を要し、その後、即時に終了されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDPJ

*ESCAPE メッセージ

CPF0922

事前開始ジョブ終了コマンドは現在許可されない。

CPF1083

事前開始ジョブはすでに制御付きで終了中である。

CPF1084

事前開始ジョブはすでに即時終了中である。

CPF1227

コマンドの使用権限が認可されていない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1834

プログラム&1の事前開始ジョブ項目が&2に存在していない。

[トップ](#)

印刷装置エミュレーション終了 (ENDPRTEML)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置エミュレーション終了(ENDPRTEML)コマンドは、ジョブを終了しないで印刷装置エミュレーションを終了します。ジョブに別の要求がある場合には、次にその要求が処理されます。

このコマンドは、ホスト・システムに対してファイルをクローズしてから、印刷装置ファイルをクローズすることによって、ホスト・システムから受け取った最後のデータをスプール・ファイルまたは印刷装置に書き出します。

場合によっては、要求は即時に実行されません。印刷装置エミュレーション要求に次の条件が存在している間は、要求が据え置かれます。

- ホスト・システムから送られたブロックを印刷中である。
- 印刷装置エラー（用紙ジャムなど）が解消されるのを待機中である。
- PA1またはPA2照会メッセージに対する応答を待機中である。
- ホスト・システムまたは印刷装置に対してエラー回復が行なわれるのを待機中である。
- ジョブがHLDJOBコマンドによって保留されている。この条件が解消されたら、印刷装置エミュレーション終了要求が効力をもち、印刷装置エミュレーション要求が終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EMLDEV	エミュレーション装置または	名前	オプション、位置 1
EMLLOC	エミュレーション・ロケーション	通信名	オプション、位置 2
PRTDEV	印刷装置	名前	オプション、位置 3

[トップ](#)

エミュレーション装置 (EMLDEV)

ホスト・システムからデータを受け取る印刷装置エミュレーション装置の名前を指定します。この装置は3287印刷装置(EMLDEV(3287))または3289印刷装置(EMLDEV(3289))でなければならず、さらにLU1装置として現在作動中ではなければなりません。この装置を使用しようとする印刷装置エミュレーション・ジョブまたはセッションは要求を通知されます。LU1セッションがブラケット間である場合には、印刷装置エミュレーションはブラケットを開始して、方向転換(CD)要求でPAキー信号をホスト・システムに送信します。LUセッションが受信状態になっている場合には、信号(CD のための要求) がホスト・システムに送信されて、

印刷装置エミュレーションはCD を待ちます。CDを受信すると、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。LUセッションが送信状態になっている場合には、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。

このパラメーター、あるいは **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーターおよび**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーターが必要です。

[トップ](#)

エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)

このセッションと関連したリモート・ロケーション名を指定します。ロケーション名は装置記述の構成時に定義され、通信が行なわれるリモート・ロケーションを示します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRTEML)コマンドのエミュレーション・ロケーション(EMLLOC)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

このパラメーターと**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーター、または**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターのいずれかが必要です。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

スプール出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRTEML)コマンドの印刷装置(PRTDEV)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。EMLLOCパラメーターが指定されているときには、このパラメーターを指定しなければなりません。

このパラメーターと **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーター、あるいは**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターが必要です。

[トップ](#)

ENDPRTEMLの例

```
ENDPRTEML  EMLDEV(HOSTPRT3)
```

このコマンドは、装置HOSTPRT3を使用している印刷装置エミュレーション要求を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDPRTEML

*ESCAPEメッセージ

CPF8599

印刷装置エミュレーション終了機能は実行されない。

[トップ](#)

受信終了 (ENDRCV)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

受け取り終了(ENDRCV)コマンドは、前に出されたRCVFまたはSNDRCVFコマンド(WAIT(*NO)の指定されているもの)からの入力要求を終了(取り消し)します。ENDRCV コマンドが処理されるのと同時にユーザーが要求されたデータを表示装置から入力したとしても、入力要求は終了します。受け取り終了操作が行なわれたときに、要求されたデータがすでに入力済みであり、プログラムに対して送られている途中であった場合には、入力されたデータは失われます。未処理の入力要求がない場合には、コマンドは無視されません。

制約事項:

- このコマンドは、CLプロシージャー内の表示装置ファイルに対してのみ有効です。データベース・ファイルでは、これを使用することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	表示装置	名前, <u>*FILE</u>	オプション、位置 1
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, <u>*NONE</u>	オプション

[トップ](#)

表示装置 (DEV)

入力要求を終了する表示装置の名前を指定します。

FILE** 応答を終了する装置の名前。この装置は、ファイル宣言(DCLF)コマンドの**ファイル (FILE)**パラメーターで宣言される装置ファイルに入っています。装置ファイルに指定された装置名が複数ある場合には、FILE** を指定することはできません。

名前 応答を終了する表示装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

同じCLプロシージャー内の先行するファイル宣言(DCLF)コマンドで宣言したオープン・ファイル識別コードを指定します。このパラメーター値にCL変数を指定することはできません。

*NONE

オープン・ファイル識別コードは指定されていません。このコマンドは、OPNIDパラメーターに*NONEを指定したDCLFコマンドと関連したファイルを使用します。オープン・ファイル識別コードとして*NONEを持つファイルはCLプロシージャーの中で1つしか宣言できません。

単純名 同じCLプロシージャー内の先行するDCLFコマンドのOPNIDパラメーター値と一致する名前を指定してください。

[トップ](#)

ENDRCVの例

例1:前の受け取りの終了

```
ENDRCV  DEV(MYDISPLAY)
```

DCLFコマンドで前に宣言された装置ファイルからの入力と表示装置MYDISPLAYからの入力を要求するために、WAIT(*NO)を含むRCVFコマンドがCLプロシージャー内で前に出されたとします。そうすると、このENDRCVコマンドが処理されると、MYDISPLAYからの入力に対する要求は終了されます。

例2:オープン・ファイル識別コードの使用

```
DCLF  FILE(MYLIB/MYDSPFILE)  RCFMT(FMT1)  OPNID(DSPFILE1)
:
SNDRCVF  DEV(DSP02)  RCFMT(FMT1)  OPNID(DSPFILE1)  WAIT(*YES)
:
ENDRCV  DEV(DSP02)  OPNID(DSPFILE1)
```

このコマンドは、ワークステーション表示装置DSP02からの入力に対する前のSNDRCVF（ファイル送出し／受け取り）コマンドの要求を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDRCV

*ESCAPEメッセージ

CPF0883

ファイル&1のDEVパラメーターの*FILEが正しくない。

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

[トップ](#)

(ENDRDBRQS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

読み取りプログラム終了 (ENDRDR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

読み取りプログラム終了(ENDRDR)コマンドは、指定されたディスクまたはデータベース読み取りプログラムを終了し、その関連の入力装置をシステムに使用できるようにします。読み取りプログラムは、現在読み取り中のジョブを完了することなく即時に停止することも、あるいは現行ジョブの終わりで停止することもあります。このコマンドが出された時に読み取りプログラムが保留状態の場合には、読み取りプログラムは即時に停止されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDR	読み取りプログラム	名前	必須, 定位置 1
OPTION	読み取りプログラム終了時点	*CNTRLD, *IMMED	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

読み取りプログラム (RDR)

これは必須パラメーターです。

終了するディスクまたはデータベース読み取りプログラムの名前を指定します。読み取りプログラムと関連した入力装置はシステムに対して使用可能な状態になります。

読み取りプログラム名

終了する読み取りプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

読み取りプログラム終了時点 (OPTION)

終了する読み取りプログラムの処理をいつ停止させるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*CNTRLD

読み取りプログラムは、現行ジョブの読み取りが完了し、ジョブの項目がジョブ待ち行列に置かれた後で、処理を停止します。

***IMMED**

読み取りプログラムは即時に処理を停止します。読み取り中のジョブはジョブ待ち行列に置かれません。

[トップ](#)

ENDRDRの例

ENDRDR RDR(DISKETTE)

このコマンドは、現行ジョブが読み込みを完了すると同時に読み取りプログラムDISKETTEを停止し、その装置をシステムに解放します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDRDR

***ESCAPE** メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF3312

読み取りプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3490

指定した読み取りプログラムに対して権限がない。

[トップ](#)

リモート・サポートの終了 (ENDRMTSPT)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・サポート終了(ENDRMTSPT)コマンドは、リモート・サポート開始(STRRMTSPT)コマンドによって作成された回線記述、制御装置記述、および装置記述をオフに構成変更し、削除します。このコマンドは、リモート・サポート開始(STRRMTSPT)コマンドによって作成されたQTILIBライブラリーを任意に削除します。

制約事項: このコマンドは、リモート・サポート・ワークステーションにサインオンしている時には使用できません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLTLIB	ライブラリー削除	*YES, *NO	オプションル、定位置 1
OPTION	終了方法	*CNTRLD , *IMMED	オプションル、定位置 2

[トップ](#)

ライブラリー削除 (DLTLIB)

リモート・サポート終了(ENDRMTSPT)コマンドの実行時にリモート保守ライブラリー(QTILIB)を削除するかどうかを指定します。

***NO** リモート・サービス・ライブラリー(QTILIB)は削除されません。

***YES** リモート保守ライブラリー(QTILIB)は削除されません。

[トップ](#)

終了方法 (OPTION)

リモート・サポート接続の終了方法を指定します。

***CNTRLD**

リモート・サポート接続は、接続タイムアウトになった時に終了します。

***IMMED**

リモート・サポート接続は直ちに終了します。

[トップ](#)

ENDRMTSPTの例

ENDRMTSPT DLTLIB(*NO) OPTION(*IMMED)

このコマンドは、リモート・サポート接続を即時に終了して、作成された構成オブジェクトを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDRMTSPT

なし

[トップ](#)

RPC BIND プログラム・デーモンの終了 (ENDRPCBIND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPC BIND プログラム・デーモンの終了 (ENDRPCBIND)コマンドは、リモート・プロシージャ呼び出し (RPC) RPCBINDデーモンを終了します。ネットワーク・ファイル・システム(NFS)のデーモンとコマンド、および一部のTI-RPC APIを使用して実行するためには、RPC バインド・プログラム・デーモン・ジョブが実行中でなければなりません。

このコマンドは、次の代替コマンドを使用して出すこともできます。

- ENDNFSSVR SERVER(*RPC)

このデーモンを終了させようとして、デーモンが実行中でない場合に、そのことがデーモンの失敗原因にはなりません。

RPCBINDデーモンが実行中かどうかを判別するには、活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)コマンドを使用して、サブシステムQSYSWRKに次のジョブが存在するかどうかを調べてください。

QNFSRPCD RPCBINDデーモン

制約事項

- このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDRPCBINDの例

例1: RPCバインダー・デーモンの終了

ENDRPCBIND

このコマンドは、RPCバインダー・デーモン・ジョブが実行中であれば、それを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDRPCBIND

なし

[トップ](#)

要求終了 (ENDRQS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

要求終了(ENDRQS)コマンドは、前に要求された操作（コマンド）を終了（取り消し）します。要求終了 (ENDRQS)コマンドの一般的な使用法の1つは、現在停止点で停止している要求を取り消すことです。このコマンド機能は、システム要求メニューのオプションとしても使用することができます。

中断することのできないシステム機能が現在実行中であるために、要求終了(ENDRQS)コマンドの処理を即時に行うことができない場合には、中断が可能になるまでコマンドの実行は延期されます。

要求が終了すると、取り消そうとしている要求レベルで現在呼び出されている要求処理プログラムに、エスケープ・メッセージが送られます。要求処理プログラムを取り消すことができます。要求処理プログラムでは、エスケープ・メッセージを監視して、要求が取り消された時にクリーンアップを行うことができます。静的記憶域およびオープン・ファイルは、その要求処理プログラムによって呼び出されたプログラムのために再利用されます。その要求処理プログラムによって呼び出されたどのプログラムに対しても取り消しの通知は行われないので、それらのプログラムにとっては処理を停止する機会がなくなります。

要求処理プログラムとなるためには、プログラムは要求メッセージを受け取らなければなりません。

プログラム中にENDRQSコマンドがある場合には、そのプログラムは、このコマンドを出す前に要求処理プログラムになっていなければなりません。

プログラムが要求処理プログラムとなるようにセットアップする方法の詳細は、CLプログラミング (SD88-5038)にあります。

注: オブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドによってロックされた外部オブジェクトは、取り消された要求によってアンロック（割り振り解除）されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RQSLVL	要求レベル	整数, *PRV	オプションル、定位置 1

トップ

要求レベル (RQSLVL)

取り消そうとしているコマンドがどのコマンド要求レベルで入力されたかを指定します。

***PRV** 直前のレベルで入力されたコマンドが取り消されます。

要求レベル

取り消そうとしているコマンドが入力された要求レベルを指定してください。指定したレベルから現行レベルまでのすべての要求レベルが取り消されます。

[トップ](#)

ENDRQSの例

例1:コマンドの終了

```
CALL PROGA      (これはレベル1です)
:
停止点の発生
CALL PROGB      (これはレベル2です)
:
停止点の発生
ENDRQS          (これはレベル3です)
```

この例では、RQSLVL(*PRV)が省略時の値であるので、レベル2で行われた要求は取り消されます。ユーザーは、別のコマンドをレベル2で入力するか、あるいはF3キーを押してPROGAの停止点画面を再度表示することができます。

例2:コマンドの終了

```
CALL PROGA      (これはレベル1です)
:
停止点の発生
CALL PROGB      (これはレベル2です)
:
停止点の発生
ENDRQS RQSLVL(1) (これはレベル3です)
```

この例では、最高レベルで行われた要求(CALL PROGA)が取り消されます。結果として、レベル1とレベル3の間で行われたすべての要求も取り消されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDRQS

なし

[トップ](#)

S/36セッションの終了 (ENDS36)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36終了(ENDS36)コマンドによって、システム/36開始(STRS36) コマンドで開始されたシステム/36環境セッションを終了することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDS36の例

ENDS36

このコマンドはシステム/36環境セッション、およびシステム/36環境で実行しているプログラムまたはプロシージャーを即時終了します。ENDS36コマンドがプロシージャーまたはプログラム中にある場合には、そのコマンドの後にあるステートメントは無視されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDS36

なし

[トップ](#)

サブシステム終了 (ENDSBS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム終了 (ENDSBS)コマンドは、指定されたサブシステム（またはすべての活動サブシステム）を終了し、処理中の活動作業に対して起こることを指定します。このコマンドが実行された後では、サブシステムで新しいジョブまたは経路指定ステップは開始されません。

ジョブ転送 (TFRJOB)コマンドによってジョブ待ち行列に転送された対話式ジョブは、サブシステムの終了の一部として終了されます。バッチか対話式のいずれかのジョブがジョブ待ち行列上にある間に(TFRJOBコマンドのために)初期プログラム・ロード(IPL)が行われた場合には、ジョブはIPL時にジョブ待ち行列から除去され、そのジョブ・ログが作成されます。

サブシステムで実行中のアプリケーション・プログラムがジョブの終わり処理を制御するための時間を与えられるように指定することができます。時間が与えられていない場合、あるいは与えられた時間内にクリーンアップを実行できない場合には、システムは最小限のジョブの終わり処理を実行します。これには次のものが含まれます。

- データベース・ファイルのクローズ。
- ジョブ・ログの出力待ち行列へのスプーリング。
- オペレーティング・システムの内部オブジェクトのクリーンアップ。
- ジョブ終了画面の表示（対話式ジョブの場合）。
- コミットメント制御処理の完了。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限。
 - 指定されたサブシステムと関連したサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限。
2. 制御サブシステムが終了している場合には、その名前か*ALLのいずれかが**サブシステム (SBS)**パラメーターに指定されているので、このコマンドは以下でのみ実行することができます。
 - 制御サブシステムにある対話式ジョブで、および制御サブシステム記述のワークステーション項目で**割り振り (AT)**パラメーターに*SIGNONが指定されているワークステーション（この対話式ジョブに関連するもの）からのみ。詳細については、ワークステーション項目追加 (ADDWSE)コマンドを参照してください。
 - あるいは、ジョブ待ち行列から開始され、BCHTMLMTパラメーターおよびSBS(*ALL)が指定されて、制御サブシステムで実行中のバッチ・ジョブ。

ENDSBS SBS(*ALL)は、TELNETジョブ、パススルー・ジョブ、またはワークステーション機能ジョブでは使用することができません。

3. ENDSBS SBS(*ALL)は、複数のスレッドが可能なバッチ・ジョブでは使用することができません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBS	サブシステム	名前, *ALL	必須, 定位置 1
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション, 定位置 2
DELAY	制御された終了遅延時間	0-99999, *NOLIMIT	オプション
ENDSBSOPT	サブシステム終了オプション	単一値: *DFT その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *NOJOBLOG, *CHGPTY, *CHGTSL	オプション
BCHTIMLMT	バッチ時間制限	5-9999, *NOMAX	オプション

トップ

サブシステム (SBS)

終了するサブシステムの名前を指定するか、またはすべての活動サブシステムを終了することを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 現在活動状態であるすべてのサブシステムが終了されます。このコマンドが入力されたジョブを除くすべてのジョブが終了します。この値を指定した時には、QSYSOPR メッセージ待ち行列がサブシステム終了コマンドを出したジョブで中断転送モードになります。

名前 終了するサブシステムの単純名を指定します。指定したサブシステムが制御サブシステムである場合には、このコマンドを出した対話式ジョブは活動状態のままで残ります。また、指定したサブシステムが制御サブシステムで、かつ、このコマンドを出したジョブがワークステーションで活動状態にある2つの2次ジョブの1つである場合には、2つの2次ジョブはどちらも強制終了されません。制御サブシステムは、(1つのジョブでサインオフすることによって、あるいは別のジョブからジョブを終了することによって) ジョブの1つを終了するまで終了しません。

トップ

終了方法 (OPTION)

サブシステム中のジョブを制御された方式で終了するか (制御された方式でジョブを終了すると、アプリケーション・プログラムはジョブ終了処理を実行することができます)、あるいは即時に終了するかを指定します。

*CNTRLD

ジョブは制御された方式で終了します。これにより、実行中のプログラムはクリーンアップ (ジョブ終了処理) を行うことができます。終了中のジョブに非同期信号SIGTERMのための信号処理プロシージャがあった場合には、そのジョブについて、SIGTERM信号が生成されます。アプリケーションには、ジョブが終了する前にクリーンアップするための、DELAYパラメーターに指定されただけの時間の長さがあります。

*IMMED

ジョブは即時に終了します。終了中のジョブに非同期信号SIGTERMのための信号処理プロシージャ

一があった場合には、そのジョブについて、SIGTERM信号が生成され、時間制限はQENDJOBLMTによって指定されます。SIGTERM信号を処理する以外に、実行中のプログラムはいかなるクリーンアップも実行できません。

注: *IMMED値は、データが部分的に更新されている場合に好ましくない結果をもたらす可能性があります。この値は、制御された終了が正常に試みられなかった後に限り使用してください。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御方式によるサブシステム終了操作を完了するのに許される時間（秒数）を指定します。この時間が過ぎても終了操作が完了しない場合には、サブシステムでまだ処理中のジョブはすべて即時に終了します。

***NOLIMIT**

制御方式による終了を完了する時間に制限を設けません。

0-99999

終了操作が完了可能である秒数を指定してください。

トップ

サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)

活動サブシステムの終了時に取られるオプションを指定します。一般に、これらのオプションを指定すると、ENDSBSコマンドのパフォーマンスが改善されます。各オプションには特定の副次作用があるので、これらのオプションの使用の前にそれを分析する必要があります。

このパラメーターは、すでに終了状況にあるジョブには影響しません。

***DFT** サブシステムは特殊な終了オプションなしで終了されます。

- ジョブ・ログが生成されます。
- 実行優先順位は変わりません。
- タイム・スライス値は変わりません。

***NOJOBLOG**

このコマンドの呼び出しによって、終了されるジョブのジョブ・ログは作成されません。これには、サブシステム・モニター・ジョブおよびサブシステムのすべてのユーザー・ジョブが含まれます。このオプションでは、ENDSBSコマンドの完了までに要する時間を大幅に短縮することができますが、ジョブ中で問題が起こった場合には、その問題を記録するジョブ・ログがないので、問題の診断が困難になるかまたは不可能になる可能性があります。

***CHGPTY**

終了しているジョブのCPU優先順位が高い値（より劣る優先順位）に変わります。*CHGPTYを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完了に長くかかる場合があります。サブシステムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

***CHGTSL**

終了しているジョブのタイム・スライスは下限値に変わります。*CHGTSLを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完

了に長くかかる場合があります。サブシステムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

注: *CHGPTYおよび*CHGTSLを指定すると、システム上の他の活動ジョブに対する影響は軽減されますが、終了中のサブシステムに割り当てられている活動ワークステーションが複数ある場合には、望ましくない遅延の原因になることがあります。終了中のサブシステムに割り当てられている活動ワークステーションを他のサブシステムに対して割り当て可能とする前に、その表示を使用しているジョブを終了しなければならないので、それらのワークステーションでそのサインオン画面を再表示するまでに長くかかる場合があります。

[トップ](#)

バッチ時間制限 (BCHTMLMT)

システムがバッチ制限状態で実行される時間の長さ（分数）を指定します。このパラメーターは、制御サブシステムで実行中のバッチ・ジョブからすべてのサブシステムを終了している場合にのみ有効です。この状態では、パラメーター値を指定する必要があります。このパラメーターが指定された場合には、システムは終了して制限状態になり、ENDSBSコマンドを実行中のバッチ・ジョブだけが活動状態のままとなります。システムがこの制限状態にある間は、システム参照コードA900 3C70が表示されます。指定された時間制限に達すると、バッチ・ジョブは終了され、制御サブシステムが再始動されます。

注: このパラメーターは、操作員の対話を必要としないアプリケーションにのみお勧めします。

*NOMAX

バッチ制限機能には時間制限はありません。システムは、ジョブが終了するか、サブシステム開始 (STRSBS) コマンドが使用されるか、あるいはバッチ制限状態を終了するための専用保守ツール (DST) オプションが使用されるまで、制限状態のままとなります。

5-9999

バッチ制限機能の実行を許可する時間制限（分数）を指定します。

[トップ](#)

ENDSBSの例

```
ENDSBS SBS(QBATCH) OPTION(*CNTRLD) DELAY(60)
```

このコマンドは、QBATCHサブシステム内のすべての活動ジョブ終了し、そのサブシステムを終了します。活動ジョブには、アプリケーション提供のジョブ終了処理を実行するために60秒が許可されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDSBS

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1032

*CNTRLDオプションでシステムが終了中である。

CPF1033

*IMMEDオプションでシステムが終了中である。

CPF1034

*CNTRLDオプションですべてのサブシステムが終了中である。

CPF1035

*IMMEDオプションでサブシステムが終了中である。

CPF1036

*CNTRLDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1037

*IMMEDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1038

コマンドを使用する権限がない。

CPF1052

現在の環境では、ENDSBS *ALLを使用することはできない。

CPF1053

制御サブシステム&1の終了は認められない。

CPF1054

サブシステム&1は活動状態ではない。

CPF1055

サブシステム&1が*CNTRLDオプションで終了中である。

CPF1056

サブシステム&1が*IMMEDオプションですでに終了中である。

CPF1081

制御サブシステムがすでに単一ジョブに終了中である。

CPF1091

システム・アービターで機能チェックが起こった。

CPF18C3

出口点プログラム&1は制限状態に入ることができません。

[トップ](#)

選択の終了 (ENDSELECT)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

選択終了(ENDSELECT)コマンドは、処理するコマンドのグループを選択するSELECTコマンドと一緒に使用されます。ENDSELECTコマンドは、関連したSELECTコマンドで開始される選択グループの終了を指定します。ENDSELECTコマンドは、選択グループ内の最後のWHENまたはOTHERWISEコマンドの後に指定しなければなりません。

選択グループがネストされる場合には、各グループの終わりにそれ自体のENDSELECTコマンドがなければなりません。各ENDSELECTコマンドはSELECTコマンドと対応していなければなりません。CLプロシージャ・ソース中のENDSELECTコマンドが多過ぎる場合には、メッセージが出されて、プログラムは作成されません。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDSELECTの例

```
DCL  VAR(&NAME)  TYPE(*CHAR)  LEN(10)
:
SELECT
  WHEN  COND(&NAME *EQ *CMD)  THEN(DO)
    :   (CLコマンドのグループ)
ENDDO
  :   (他のWHENまたはOTHERWISEコマンド)
ENDSELECT
```

ENDSELECTコマンドは、活動中のSELECTコマンド・グループを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDSELECT

なし

[トップ](#)

サービス・エージェントの終了 (ENDSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの終了(ENDSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントの特徴の適用を終了できます。終了される特徴は、**タイプ(TYPE)**パラメーターで指定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*SBSJOB	オプション、位置 1

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

適用を終了されるサービス・エージェントの特徴を指定します。

***SBSJOB**

QSYSWRKサブシステムで実行中のすべてのサービス・エージェント・モニター・ジョブが即時に終了されます。QSYSWRKサブシステムが開始していないか、サービス・エージェント・モニター・ジョブがQSYSWRKサブシステムで開始していない場合には、このオプションは何の効果もありません。

[トップ](#)

ENDSRVAGTの例

ENDSRVAGT TYPE(*SBSJOB)

このコマンドは、QSYSWRKサブシステムで実行中のすべてのサービス・エージェント・モニター・ジョブを即時に終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDSRVAGT

***ESCAPE** メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・ジョブ終了 (ENDSRVJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・ジョブ終了(ENDSRVJOB)コマンドは、リモート・ジョブのサービス操作を終了させます。このコマンドは、サービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドが入力された時点で開始されたサービス操作を終了させます。

制約事項:

- このコマンドを入力する時点で、サービスを受けるジョブで追跡またはデバッグが活動状態である場合には、リモート・サービス操作は終了しません。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための私用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSYSOPR
 - QSRV
 - QSRVBAS

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDSRVJOBの例

ENDSRVJOB

このコマンドは、現在サービスされているジョブのサービス操作を停止します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDSRVJOB

なし

[トップ](#)

システム終了 (ENDSYS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム終了 (ENDSYS)コマンドは、システムのほとんどの活動を終了し、システムを制御サブシステムでコンソールだけが活動状態であるような状態にしておきます。これは、操作員がシステムのバックアップ、新しいプログラムのロードなどの作業を行うことができるようにするために行われます。この状態は制限状態と呼ばれ、システムの保管や記憶域の再利用などの操作を行うために必要です。コンソールで制御サブシステム中に2つのジョブが活動状態である場合には、いずれのジョブも強制的には終了されません。ENDSYSコマンドは、(1つのジョブでサインオフすることによって、あるいは他のジョブからジョブを終了することによって) ジョブの1つを終了するまでは実行を完了することができません。

すべての活動サブシステムは、システム終了操作が実行中であることを通知されます。これらのサブシステムで新しいジョブまたは経路指定ステップを受け入れることはできません。このコマンドは、活動状態のすべての作業に対して何が起るかも指定します。

ジョブ転送 (TFRJOB)コマンドによってジョブ待ち行列に転送されている対話式ジョブは、サブシステム終了の一部として終了されます。バッチか対話式のいずれかのジョブがジョブ待ち行列上にある間に(TFRJOBコマンドのために) 初期プログラム・ロード(IPL)が行われた場合には、ジョブはIPL時にジョブ待ち行列から除去され、そのジョブ・ログが作成されます。

制約事項: このコマンドは、制御サブシステム中の対話式ジョブにだけ入れることができます。このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)権限がユーザーに必要です。このコマンドをパスルー・ジョブまたはワークステーション機能ジョブの中で使用することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	* <u>CNTRLD</u> , *IMMED	オプション、位置 1
DELAY	制御された終了遅延時間	0-99999, * <u>NOLIMIT</u>	オプション
ENDSBSOPT	サブシステム終了オプション	単一値: * <u>DFT</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *NOJOBLOG, *CHGPTY, *CHGTSL	オプション
CONFIRM	確認	* <u>ENVVAR</u> , *YES, *NO	オプション

トップ

終了方法 (OPTION)

すべての活動ジョブが制御方式で終了するか（アプリケーション・プログラムは処理終結を実行することができます）、あるいは即時に終了するかを指定します。いずれの場合にも、システムはある種のジョブ終結機能を実行します。

***CNTRLD**

ジョブは制御された方式で終了します。これにより、実行中のプログラムはクリーンアップ（ジョブ終了処理）を行うことができます。終了中のジョブに非同期信号SIGTERMのための信号処理プロシージャがあった場合には、そのジョブについて、SIGTERM信号が生成されます。アプリケーションには、ジョブが終了する前にクリーンアップするための、DELAYパラメーターに指定されただけの時間の長さがあります。

***IMMED**

ジョブは即時に終了します。終了中のジョブに非同期信号SIGTERMのための信号処理プロシージャがあった場合には、そのジョブについて、SIGTERM信号が生成され、時間制限はQENDJOBLMTによって指定されます。SIGTERM信号を処理する以外に、実行中のプログラムはいかなるクリーンアップも実行できません。

注: *IMMED値は、データが部分的に更新されている場合に好ましくない結果をもたらす可能性があります。この値は、制御された終了が正常に試みられなかった後に限り使用してください。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御された終了操作の実行が可能な時間の量（秒数）を指定します。この時間が経過しても、終了操作が完了しない場合には、長時間実行命令を実行するジョブを除いて、まだ処理中のジョブはすべて即時に終了します。

***NOLIMIT**

制御方式による終了を完了する時間に制限を設けません。

0-99999

終了操作が完了可能である秒数を指定してください。

トップ

サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)

活動サブシステムの終了時に取られるオプションを指定します。一般に、これらのオプションを指定すると、ENDSYSコマンドのパフォーマンスが改善されます。各オプションには特定の副次作用があるので、これらのオプションの使用の前にそれを分析する必要があります。

このパラメーターは、すでに終了状況にあるジョブには影響しません。

***DFT** サブシステムは特殊な終了オプションなしで終了されます。

- ジョブ・ログが生成されます。
- 実行優先順位は変わりません。
- タイム・スライス値は変わりません。

*NOJOBLOG

このコマンドの呼び出しによって、終了されるジョブのジョブ・ログは作成されません。これには、サブシステム・モニター・ジョブおよびサブシステムのすべてのユーザー・ジョブが含まれます。このオプションでは、ENDSYSコマンドの完了までに要する時間を大幅に短縮することができますが、ジョブ中で問題が起こった場合には、その問題を記録するジョブ・ログがないので、問題の診断が困難になるかまたは不可能になる可能性があります。

*CHGPTY

終了しているジョブのCPU優先順位が高い値（より劣る優先順位）に変わります。*CHGPTYを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完了に長くかかる場合があります。サブシステムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

*CHGTSL

終了しているジョブのタイム・スライスは下限値に変わります。*CHGTSLを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完了に長くかかる場合があります。サブシステムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

[トップ](#)

確認 (CONFIRM)

システムを終了する前に、その要求を確認する必要があるかどうかを指定します。

*ENVVAR

環境変数QIBM_ENDSYS_CONFIRMの値は、その要求を確認する必要があるかどうかの判別に使用されます。この値が*YESまたは*NOに設定された場合には、その値について下記で説明される処置が取られます。環境変数が定義されないか、あるいはこれらの値の1つに設定されない場合には、確認は行われません。

***YES** ENDSYSコマンドが出されると、確認パネルが表示されます。

***NO** ENDSYSコマンドが出されると、確認は行われません。

[トップ](#)

ENDSYSの例

例1:システム活動の終了

```
ENDSYS
```

このコマンドは、システム内のすべての活動ジョブにその固有の処理の終了の実行が許可された後に、システム活動を終了します。終了に要する時間の長さは制限されません。

例2:ジョブが終了した後のシステム活動の終了

```
ENDSYS OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、すべての活動ジョブが即時に終了された後に、システム活動を終了します。

エラー・メッセージ： ENDSYS

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1017

コンソールの電源がオフになったか、あるいはオフに構成変更された時に、ENDSYSを使用することはできない。

CPF1032

*CNTRL Dオプションでシステムが終了中である。

CPF1033

*IMMEDオプションでシステムが終了中である。

CPF1034

*CNTRL Dオプションですべてのサブシステムが終了中である。

CPF1035

*IMMEDオプションでサブシステムが終了中である。

CPF1036

*CNTRL Dオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1037

*IMMEDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1038

コマンドを使用する権限がない。

CPF1051

コマンドは制御サブシステムでしか実行することができない。

CPF1082

制御サブシステムがすでに単一ジョブに終了中である。

CPF1091

システム・アービターで機能チェックが起こった。

CPF18C3

出口点プログラム&1は制限状態に入ることができません。

TCP/IPの終了 (ENDTCP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP終了(ENDTCP)コマンドはTCP/IP処理を終了します。

注意:

ENDTCPを入力しても確認画面は表示されません。ENDTCPコマンドは注意して使用する必要があります。これを使用すると、作業しているISERIESで処理中のすべてのTCP/IPが終了します。

ENDTCPコマンドにOPTION(*IMMED)が指定されている場合には、次のことが起こります。

- すべてのTCP/IP接続が終了します。これは、ソケットまたはPASCAL APIを使用している現在活動状態のすべてのアプリケーションに影響します。
- ENDSVR(*NO)が指定されていない限り、TELNET, FTP, TFTP, SMTP, LPD, HTTP, POP, ROUTED, DHCP, DNS, DDM, BOOTP, REXEC, SNMP, DIRSRV, NSLD, INETD, MGTC, ONDMD, NETSVR, DLFM, VP, EDSQL, HOD, ODP, NTP, QOS, TCM, DOMINO, WEBFACING,およびCIMOMのTCP/IPサーバー・ジョブが終了します。
- QSYSWRKサブシステムで現在活動状態のエージェントが終了します。詳細については、**適用業務サーバーの終了 (ENDSVR)**パラメーターの記述を参照してください。
- 活動状態のすべてのTCP/IPインターフェースが終了します。

ENDTCPコマンドにOPTION(*CNTRLD)が指定されている場合には、次のことが起こります。

- TCP, UDP,または行ソケットに対して新しいオープン操作を使用できません。
- DELAYパラメーター値に指定されている時間が満了した後で、ENDTCP *IMMED操作を実行するQSYSWRKサブシステムにジョブが投入されます。
- ENDTCP OPTION(*CNTRLD)を出した後では、いつでもENDTCP OPTION(*IMMED)を投入することができます。これは制御された終了を取り消します。ENDTCP OPTION(*IMMED)が出されると、TCP/IP処理が終了します。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。このコマンドは、TCP/IPサーバーの各タイプを処理するために別のプログラムを呼び出します。呼び出されるこのプログラムがスレッド・セーフの場合には、このコマンドはスレッド・セーフです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	*IMMED, *CNTRLD	オプション、位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
DELAY	制御された終了遅延時間	1-86400, <u>30</u>	オプションル、定位置 2
ENDSVR	適用業務サーバーの終了	<u>*YES</u> , *NO	オプションル

トップ

終了方法 (OPTION)

TCP/IP処理が直ちに終了するか、あるいは制御された方式で終了するかを指定します。

*IMMED

TCP/IP処理が即時に終了されます。

注意：

ENDTCP OPTION(*IMMED)コマンドは注意して使用してください。ENDTCP *IMMEDコマンドを出したときに、アプリケーションがデータを処理中で操作が完了していない場合には、データは一部だけ更新されてしまう場合があります。次の通り実行するようお奨めします。

- ENDTCPコマンドを出す前に、他のすべてのユーザーが自分たちのアプリケーションを終了できるように、ユーザーに通知してください。
- ISERIES上でTCP/IPの作業が行なわれていないことが判った時に、ENDTCPコマンドを出してください。ISERIES上の現行のTCP/IP作業を表示するためには、TCP/IP状況の処理(WRKTCPSTSまたはNETSTAT)コマンドでオプション3を使用してください。

*CNTRL

TCP/IP処理は制御された方式で終了します。TCP/IPを使用中のアプリケーションはその処理を完了するための時間が与えられます。新しいアプリケーションの処理はできません。指定した時間が経過した後で、ENDTCP OPTION(*IMMED)の処理が実行されます。

制御された終了処理は次のいずれも実行 しません。

- 指定された時間が経過する前にすべてのTCP/IP処理が完了したかどうかを監視しません。
- TCP/IP接続を現在使用しているアプリケーションに、TCP/IP処理が終了することを通知しません。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

TCP/IP処理の制御された終了操作を完了するために許される時間（秒数）を指定します。この時間が経過すると、すべてのTCP/IP処理が即時に終了します。

1-86400

終了操作が完了する秒数を指定してください。

トップ

適用業務サーバーの終了 (ENDSVR)

TCP/IP終了(ENDTCP)コマンドでTCP/IP処理が終了された時に、すべてのTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを終了するかどうかを指定します。

注意：

このパラメーターに*NOを指定する前に、以下を考慮してください。

- TCP/IPを使用しているアプリケーションに影響を与えることなく、システム上のすべてのTCP/IP処理を終了することはできません。
- TCP/IP処理が終了し、活動状態のTCP/IPエミュレーション形式(ANYNETなど)がない場合には、再始動されないTCP/IPアプリケーションは正しく機能しません。
- PASCAL APIを使用しているアプリケーションは、TCP/IP処理が終了し再始動される時には、常に終了し再始動されます。

***YES** ENDTCPコマンドは、TCP/IP処理を終了する前にすべてのTCP/IPアプリケーション・サーバーを終了します。

***NO** ENDTCPコマンドは、TCP/IP処理を終了する時にどのTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブも終了しません。

注: ENDTCP ENDSVR(*NO)を使用して、ANYNETを使用しているジョブの操作を妨げることなく、TCP/IP処理を終了することができます。TCP/IP処理は終了しますが、ANYNETを使用しているTCP/IPアプリケーション・サーバーは機能を続行します。

TCP/IPとANYNETの両方が非活動状態の場合には、TCP/IPサーバー終了(ENDTCP SVR) コマンドを使用して、TCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを終了します。

[トップ](#)

ENDTCPの例

例1: TCP/IPの即時終了

```
ENDTCP OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、ISERIESシステム上のすべてのTCP/IP処理を即時に終了します。

例2: TCP/IPの制御された時間以内の終了

```
ENDTCP OPTION(*CNTRL) DELAY(120)
```

このコマンドは、120秒が経過した後ですべてのTCP/IP処理を終了します。この時間中には、新しいTCP/IP処理はできません。

例3: アプリケーション・サーバーを終了しないTCP/IPの即時終了

```
ENDTCP OPTION(*IMMED) ENDSVR(*NO)
```

このコマンドは、ISERIES 400上のすべてのTCP/IP処理を即時に終了します。しかし、TCP/IP処理が終了すると、アクティブであるTCP/IPアプリケーション・サーバー (FTP, SMTPなど) が、すべて終了するわけではありません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDTCP

*ESCAPE メッセージ

TCP1A13

別のジョブがTCP/IPまたはSNA経由IPを開始または終了中である。

TCP1A70

&1が活動状態になっていない。

TCP1A72

*CNTRL DオプションでTCP/IPはすでに終了している。

TCP1A73

内部オブジェクトに損傷がある。

TCP1A74

ジョブの投入中にエラーが起こった。

TCP1A77

&1は正常に完了したが、エラーが起こった。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPの異常終了 (ENDTCPABN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP異常終了(ENDTCPABN)コマンドは、TCP/IP処理の終了を強制するために使用されます。これは、OPTION(*IMMED)を指定したTCP/IP終了(ENDTCP)コマンドの使用を試みた後にのみ使用することができます。

ENDTCPABNコマンドは、ENDTCPコマンドが完了するか、あるいはTCP/IPの即時終了の要求の後に10分経過するまでは、出すことができません。これにより、通常のTCP/IP終了機能を行う十分な時間ができます。

ENDTCPABN処理の正常な完了であれば、システムのIPLなしにTCP/IPの再始動が許可されるはずですが、ENDTCPABNコマンドを出すことは、システム終了には直接影響しません。次のシステム終了には、ENDTCPABN処理の結果としてABNORMALはマークされません。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- OPTION(*IMMED)を指定してENDTCPコマンドを実行した10分後になるまで、ENDTCPABNコマンドは実行できません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDTCPABNの例

ENDTCPABN

このコマンドは、TCP/IP処理を強制的に終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDTCPABN

***ESCAPE** メッセージ

TCP1A66

ENDTCPABNはこの時点では使用できません。理由は&1です。

[トップ](#)

TCP/IP接続の終了 (ENDTCPCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP接続終了(ENDTCPCNN)コマンドは伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)の接続を終了するために使用します。このコマンドは接続を即時に終了するので、通常の終了ができない時のみ使用すべきです。

注: ENDTCPCNNコマンドは通常、WRKTCPSTS (NETSTAT)画面のTCP/IP接続状況の処理リストのオプション4を指定することによって使用します。ENDTCPCNNコマンドは、システム管理者にこの機能の制御権を与えるための独立したコマンドとして提供されています。ENDTCPCNNコマンドに対する権限を制限することによって、システム管理者は、NETSTATユーティリティに対するアクセスを制限することなく、TCP/IP接続を終了できるユーザーを限定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PROTOCOL	プロトコル	*UDP, *TCP	必須, 定位置 1
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値, *	必須, 定位置 2
LCLPORT	ローカル・ポート	1-65535	必須, 定位置 3
RMTINTNETA	リモート・インターネット・アドレス	文字値, *	オプション, 定位置 4
RMTPORT	リモート・ポート	1-65535, *	オプション, 定位置 5

[トップ](#)

プロトコル (PROTOCOL)

終了される接続によって使用されるプロトコルを指定します。プロトコルの値は*TCPまたは*UDPのいずれかでなければなりません。

***UDP** この接続はユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)と一緒に使用するために作成されました。

***TCP** この接続は伝送制御プロトコル(TCP)と一緒に使用するために作成されました。

[トップ](#)

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

終了する接続のローカルIPアドレスを指定します。このパラメーターはUDPおよびTCPの両方に必要です。

* この接続がオープンされた時には、リモート・ポート番号はまだ指定されていませんでした。

文字値 ローカルIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定されます。ここで`NNN`は0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(**ID**)部分またはホスト**ID**部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

ローカル・ポート (LCLPORT)

終了する接続のローカル・ポート番号を指定します。このパラメーターはUDPおよびTCPの両方に必要です。このコマンドには、ローカル・ポートを識別する10進数を常に指定しなければなりません。

1-65535

終了する接続のローカル・ポート番号を指定してください。

注意：

ポート1から1024は、システム提供のTCP/IPアプリケーションによる使用のために予約されています。ポート1から1024を指定した場合には、これらのアプリケーションの操作に影響することがあります。

[トップ](#)

リモート・インターネット・アドレス (RMTINTNETA)

終了する接続のリモートIPアドレスを指定します。このパラメーターはTCPに必要です。

* この接続がオープンされた時には、リモート・ポート番号はまだ指定されていませんでした。

文字値 リモートIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定されます。ここで`NNN`は0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(**ID**)部分またはホスト**ID**部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

リモート・ポート (RMTPORT)

終了する接続のリモート・ポート番号を指定します。

このパラメーターはTCPに必要です。

* この接続がオープンされた時には、リモート・ポート番号はまだ指定されていませんでした。

1-65535

終了する接続のリモート・ポート番号を指定してください。

[トップ](#)

ENDTCPCNNの例

例1: TCP接続の終了

```
ENDTCPCNN  PROTOCOL(*TCP)  LCLINTNETA('9.5.1.109')
            LCLPORT(13054)
            RMTINTNETA('9.130.28.144')  RMTPORT(23)
```

このコマンドは、ローカルIPアドレス9.5.1.109のローカル・ポート13054とリモートIPアドレス9.130.28.144のリモート・ポート23の間のTCP接続を終了します。TCP/IPプロトコル・スタックは、その接続での活動をすべて終了し、資源をフリー記憶域プールに戻します。

例2: UDPソケットのクローズ

```
ENDTCPCNN  PROTOCOL(*UDP)  LCLINTNETA('9.130.28.144')
            LCLPORT(596)
```

このコマンドは、ローカル・ポート596およびローカルIPアドレス9.130.28.144を使用しているUDPソケットをクローズします。TCP/IPプロトコル・スタックは、その接続での活動をすべて終了し、資源をフリー記憶域プールに戻します。

例3: TCPソケット状態のLISTENの終了

```
ENDTCPCNN  PROTOCOL(*TCP)  LCLINTNETA(*)  LCLPORT(5023)
            RMTINTNETA(*)  RMTPORT(*)
```

このコマンドは、ローカル・ポート5023でLISTEN中のTCPソケットを終了します。このソケットを作成したアプリケーションがローカルIPアドレスを指定していませんでした。このソケットはクローズされ、ローカル・ポートは別のアプリケーションが使用するために使用可能にされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDTCPCNN

*ESCAPE メッセージ

TCP2670

要求を完了することができない。TCP/IPサービスは使用できません。

TCP3B01

TCP接続&3 &4、&5 &6を終了できない。

TCP3B02

UDPソケット&3 &4をクローズできない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPインターフェースの終了 (ENDTCPIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPインターフェース終了(ENDTCPIFC)コマンドは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)インターフェースを終了するために使用します。このコマンドを使用してインターフェースを終了した場合には、このインターフェースと関連するIPアドレスにアドレッシングされているデータグラムは受け入れられなくなります。しかし、終了されるインターフェースと同じ回線記述を使用しているSNAインターフェースを介した他のTCP/IPまたはIPの操作は影響を受けません。

このコマンドは、前にTCP/IPインターフェース開始(STRTCPIFC)コマンドまたはTCP開始(STRTCP)コマンドを使用して開始したインターフェースを終了するために使用することができます。

TCP/IPを終了する前にすべてのTCP/IPインターフェースを終了するためには、このコマンドを使用してください。また、TCP/IPと関連した装置、制御装置、または回線をオフに構成変更する前にすべてのTCP/IPインターフェースを終了する場合にも、このコマンドを使用してください。これを正常に実行できないと、予測できない結果となることがあります。

Warning: Temporary Level 2 Header

Warning: Temporary Level 3 Header

インターフェース・バインドへの経路に関する注意事項

インターフェースは、このISERIESが直接接続されるネットワークまたはサブネットワークへの直接の経路を定義します。経路は間接的な経路を定義します。間接的な経路は、このISERIESが直接には接続されないネットワークまたはサブネットワークへのパス上の次のホップを定義します。

間接的な経路は、最も良く合致した最初のアルゴリズムを使用してインターフェースに結合されます。このアルゴリズムは、インターフェースの状況、および経路やインターフェースに指定されたTYPE OF SERVICE (TOS)に基づいています。インターフェースを終了する時には、そのインターフェースに関連した経路を既存の別の活動インターフェースに移動することができます。これによって、最も広範囲に使用可能なレベルの結合性がもたらされます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンドによってすでにTCP/IP構成に追加されていて、STRTCPIFCまたはSTRTCPコマンドによってすでに開始されているインターフェースのIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

例

例1: X.25インターフェースの終了

```
ENDTCPIFC INTNETADR('9.5.11.125')
```

このコマンドによって、TCP/IPプロトコル・スタックは、IPアドレス9.5.11.125と関連付けられたインターフェースが非活動化されます（終了します）。

例2: トークンリング・インターフェースの終了

```
ENDTCPIFC INTNETADR('156.93.81.7')
```

このコマンドによって、TCP/IPプロトコル・スタックは、IPアドレス156.93.81.7と関連付けられたインターフェースが非活動化されます（終了します）。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1B15

回線記述&2は使用できない。内部エラーが見つかりました。

TCP1B61

&1インターフェースが終了したかどうかを判別できない。

TCP1B62

&1インターフェースが終了したかどうかを判別できない。

TCP1B65

&2インターフェースは終了されなかった。理由は&1です。

TCP1B72

&1インターフェースは終了されません。&1インターフェースが活動状態になっていません。

TCP1B73

&1インターフェースは終了されません。&1のインターフェースはTCP/IP構成の中で定義されていません。

TCP1B74

&1インターフェースは終了されません。回線記述&2が見つかりません。

TCP1B85

インターフェース&1の終了要求を投入できない。

TCP265F

INTNETADRパラメーターの値&2が正しくない。

TCP265F

INTNETADRパラメーターの値&2が正しくない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

POINT-TO-POINT TCP/IPの終了 (ENDTCPPTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT TCP/IPの終了(ENDTCPPTP)コマンドは、POINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブの終了に使用されます。セッション・ジョブは可能な2つのモードの1つで操作されます。

1. 応答モード・セッション(*ANS)によって、リモート・システムはこのISERIESと連絡して、POINT-TO-POINT TCP/IPセッションを確立することができます。
2. ダイヤル呼び出しモード(*DIAL)によって、このISERIESはPOINT-TO-POINT TCP/IPをサポートするリモート・システムと連絡することができます。

注: 回線タイプ*PPPのプロファイルは、このコマンドで終了できますが、ISERIESナビゲーターのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用していない *PPPプロファイルの構成を行なっていなければなりません。

TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブはQSYSWRKサブシステムで実行されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGPRF	プロファイルの構成	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
OPRMODE	操作モード	*ANY, *ANS, *DIAL	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

プロファイルの構成 (CFGPRF)

終了する必要がある1つまたは複数のPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** OPRMODEパラメーターで指定されたモードで現在操作中の活動状態のすべてのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

総称名 終了することになるPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前をもつすべてのプロファイルが終了されます。アスタリスクが含まれていない場合には、その名前は完全なPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイル名と見なされます。指示されたプロファイルを使用して、OPRMODEパラメーターで指定されたモードで現在操作中の活動状態のすべてのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

名前 TCP/IPのPOINT-TO-POINT構成プロファイルの名前を指定します。このプロファイルを使用するPOINT-TO-POINT活動セッション・ジョブが終了されます。

トップ

操作モード (OPRMODE)

終了したいTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの操作モードを指定します。

***ANY** 操作モードに関係なく、CFGPRFパラメーターに指定された構成プロファイル名と一致するすべてのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

***ANS** 終了するセッションの操作モードは*ANSです。現在活動中で指定されたCFGPRF パラメーターと一致するすべての*ANSのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

***DIAL** 終了するセッションの操作モードは*DIALです。現在活動中で指定されたCFGPRF パラメーターと一致するすべての*DIALのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

トップ

ENDTCPPTPの例

例1: TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(DIALPRF)
```

このコマンドは、構成プロファイルDIALPRFを使用中のPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを終了します。操作モード(OPRMODE)値の省略時の値として*ANYが使用されるので、この操作モードはセッション・ジョブを終了するかどうかの判断では使用されません。

例2:全応答(*ANS)モードTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(*ALL)  OPRMODE(*ANS)
```

このコマンドは、アクティブまたは活動化中のPOINT-TO-POINT応答モード(*ANS)TCP/IPセッション・ジョブをすべて終了します。

例3:全TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(*ALL)
```

このコマンドは、アクティブまたは活動化中のPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブをすべて終了します。

例4: XYZで始まっている全TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(XYZ*)
```

このコマンドは、XYZで始まっているプロファイルをもつ活動状態または活動化中のPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブをすべて終了します。

例5:特定プロファイル名を使用した応答モードTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(DIALPRF)  OPRMODE(*ANS)
```

このコマンドは、プロファイルDIALPRFが応答モードで実行されるように定義されていると、このプロファイルを使用してPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを終了します。このプロファイルがダイヤル・モードで実行されるように定義されている場合は、処置は行なわれません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDTCPPTP

*ESCAPE メッセージ

TCP1A1F

&3/&2/&1が&6を使用中に、要求を処理することはできない。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8209

&6/&5/&4に対するENDTCPPTP &1 &3は完了した。&11個のセッションのうち&10個が終了しました。

[トップ](#)

TCP/IPサーバーの終了 (ENDTCPSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ENDTCPSVRコマンドは、SERVERパラメーターに指定されているTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを終了するために使用されます。これらのジョブの中に現在活動状態の接続がある場合には、それらの接続は直ちに終了されます。活動状態でないサーバーを終了するためにENDTCPSVRコマンドを使用した場合には、診断メッセージが戻されることがあります。

TCP/IPサーバー終了コマンドは、TCP/IPが完全に作動可能状態である場合にのみ使用することができます。インターフェース・サーバー・ジョブQTCPIPが使用可能でなければなりません。ISERIESが制限状態である時には、このコマンドは使用できません。

ADDTCPSSVR (TCP/IPサーバー追加) CLコマンドを使用すれば、ENDTCPSVRがサポートするサーバーのリストに追加のサーバーを自動的に追加することができます。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。このコマンドは、TCP/IPサーバーの各タイプを処理するために別のプログラムを呼び出します。呼び出されるこのプログラムがスレッド・セーフの場合には、このコマンドはスレッド・セーフです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー適用業務	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション、位置 1
HTTPSVR	HTTPサーバー	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー・インスタンス	名前, *ADMIN	
DNSSVR	DNSサーバー	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー・インスタンス	名前	
TCMSVR	TCMサーバー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: インスタンス名	文字値, *ALL	
TOMCATSVR	ASFTOMCATサーバー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー・インスタンス名	文字値, *ALL	

サーバー適用業務 (SERVER)

このコマンドで終了するTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを指定します。

TCP/IPサーバー追加(ADDTCPSVR)コマンドを実行することによって追加のTCP/IPサーバーが追加されている場合には、それらも使用可能になります。

このパラメーターでサポートされるすべての値のリストについては、このコマンドのプロンプト時にこのパラメーターでF4 (プロンプト) を押すことができます。

単一値

***ALL** すべてのTCP/IPサーバー・ジョブが終了されます。

その他の値 (最大300回の反復)

*ASFTOMCAT

APACHE SOFTWARE FOUNDATION (ASF) TOMCATサーバーが終了されます。

*BOOTP

ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)サーバーが終了されます。

*CIMOM

COMMON INFORMATION MODELオブジェクト・マネージャー(CIMOM)サーバーが終了されます。

***DBG** デバッグ・サーバーが終了されます。

***DDM** 分散データ管理(DDM)サーバー・ジョブが終了されます。

*DHCP

動的ホスト構成プロトコル(DHCP)サーバー・ジョブが終了されます。

*DIRSRV

LDAPディレクトリー・サービス(DIRSVR)サーバー・ジョブが終了されます。

*DLFM

データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)サーバー・ジョブが終了されます。

***DNS** ドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバー・ジョブは、次の場合以外は終了されます。

- 特定のサーバー・インスタンス名がDNSSVRパラメーターに指定されている。特定のサーバー・インスタンスを指定した場合には、そのインスタンスだけが終了されます。

DNSサーバーのすべてのインスタンスを終了するためには、次の1つを指定してください。

ENDTCPSVR SERVER(*DNS)

ENDTCPSVR SERVER(*DNS) DNSSVR(*ALL)

*DOMINO

LOTUS DOMINO (DOMINO)サーバーが終了されます。

*EDRSQL

拡張動的リモートSQL (EDRSQL)サーバーが終了されます。

***FTP** すべてのファイル転送プロトコル(FTP)サーバー・ジョブが終了されます。

***HOD** ホスト・オンデマンド(HOD)サーバーが終了されます。

***HTTP** 次の場合を除いて、HTTPサーバー・ジョブのすべてのインスタンスが終了されます。

- 特定のサーバー・インスタンス名がHTTPSVRパラメーターに指定されている。特定のサーバー・インスタンスを指定した場合には、そのインスタンスだけが終了されます。
- *ADMIN値がHTTPSVRパラメーターに指定されている。HTTPSVR(*ADMIN)を指定した場合には、管理サーバーだけが終了されます。

HTTPサーバーのすべてのインスタンスを終了するためには、次の1つを指定してください。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP)
```

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ALL)
```

このHTTPサーバーはIBM HTTP SERVERとしても知られています。

***INETD**

インターネット・デーモン(INETD)サーバーが終了されます。

***LPD** すべてのライン・プリンター・デーモン(LPD)サーバーが終了されます。

***MGTC**

マネージメント・セントラル(MGTC)サーバーが終了されます。

***NETSVR**

NETSERVER (NETSVR)サーバーが終了されます。

***NSLD**

ネットワーク・ステーション・ログイン・デーモン(NSLD)サーバーが終了されます。

***NTP** すべてのSIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (SNTP)サービス・サーバーが終了されます。

注:クライアントとサーバーSNTPサービスの両方が開始されている場合には、SERVER(*NTP)を指定してENDTCPSVRコマンドを実行することによって、クライアントとサーバー・サービスの両方が終了されます。クライアントだけ、あるいはサーバーSNTPサービスだけを終了したい場合には、SERVER(*NTP)およびNTPSRV(*CLIENT)またはNTPSRV(SERVER)を指定して、TCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドを再度実行する必要があります。

***ODPA**

オンデマンド・プラットフォーム認証(ODPA)サーバーが終了されます。

***ONDMD**

オンデマンド(ONDMD)サーバー・ジョブが終了されます。

***POP** すべてのPOST OFFICE PROTOCOL (POP3)メール・サーバー・ジョブが終了されます。

***QOS** QUALITY OF SERVICE(QOS)サーバーが終了されます。

***REXEC**

すべてのリモート実行(REXEC)サーバーが終了されます。

***ROUTED**

ルーター・デーモン(ROUTED)サーバーが終了されます。

***SMTP**

QSYSWRKサブシステム中のSIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)と関連のあるすべてのジョブが終了されます。QSNADSサブシステム中のブリッジ・ジョブは終了されません。

*SNMP

QSYSWRKサブシステム中のSIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP)エージェントと関連のあるすべてのジョブが終了されます。

***TCM** TRIGGERED CACHE MANAGER (TCM)サーバーは、次の場合以外は終了されます。

- 特定のサーバー・インスタンス名がTCMSVRパラメーターに指定されている。特定のサーバー・インスタンスを指定した場合には、そのインスタンスだけが終了されます。

TCMサーバーのすべてのインスタンスを終了するためには、次を指定してください。

ENDTCPSVR SERVER(*TCM) TCMSVR(*ALL)

*TELNET

すべてのTELNETサーバー・ジョブが終了します。

***TFTP** すべての簡易ファイル転送プロトコル(TFTP)サーバー・ジョブが終了されます。

***VPN** 仮想プライベート・ネットワーク(VPN)サーバーが終了されます。

*WEBFACING

WEBFACINGサーバーが終了されます。

[トップ](#)

HTTPサーバー (HTTPSVR)

終了するHTTPサーバー・インスタンスの名前を指定します。指定されているSERVERパラメーターは*HTTPでなければなりません。さもないと、このパラメーターは無視されます。

複数のHTTPサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを終了するか、あるいは終了するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを終了するよう選択することができます。

***ALL** 現在実行中のHTTPサーバーのすべてのインスタンスが終了されます。

*ADMIN

管理サーバーが終了されます。管理サーバーは、WEBブラウザを使用して特定のISERIES機能を管理できるようにするHTTPサーバーのインスタンスです。

名前 終了するHTTPサーバー・インスタンスの名前を指定します。

[トップ](#)

DNSサーバー (DNSSVR)

終了するDNSサーバー・インスタンスの名前を指定します。指定されているSERVERパラメーターは*DNSでなければなりません。さもないと、このパラメーターは無視されます。

複数のDNSサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを終了するか、あるいは終了するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを終了するよう選択することができます。

***ALL** 現在実行中のDNSサーバーのすべてのインスタンスが終了されます。

名前 終了するDNSサーバー・インスタンスの名前を指定します。

TCMサーバー (TCMSVR)

終了するTCMサーバー・インスタンスの名前を指定します。指定されているSERVERパラメーターは*TCMでなければなりません。さもないと、このパラメーターは無視されます。

複数のTCMサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを終了するか、あるいは終了するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを終了するよう選択することができます。

*NONE

現在実行中のTCMサーバーのどのインスタンスも終了されません。

***ALL** 現在実行中のTCMサーバーのすべてのインスタンスが終了されます。

名前 終了するTCMサーバー・インスタンスの名前を指定します。

トップ

ASFTOMCATサーバー (TOMCATSVR)

終了するTOMCATサーバー・インスタンスの名前を指定します。指定するSERVERパラメーターは*ASFTOMCATでなければなりません。さもないとこのパラメーターは無視されます。

複数のTOMCATサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを終了するか、あるいは終了するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを終了するよう選択することができます。

*NONE

現在実行中のTOMCATサーバーのどのインスタンスも終了されません。

***ALL** 現在実行中のTOMCATサーバーのすべてのインスタンスが終了されます。

名前 終了するTOMCATサーバー・インスタンスの名前を指定します。

トップ

ENDTCPSVRの例

例1:全TCP/IPサーバーの終了

```
ENDTCPSVR SERVER(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのアクティブTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを終了します。

例2: LPDサーバーの終了

```
ENDTCPSVR SERVER(*LPD)
```

このコマンドは、TCP/IP LPDアプリケーション・サーバー・ジョブを終了します。

例3:特定HTTPサーバー・インスタンスの終了

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(HTTP1)
```

このコマンドは、'HTTP1'という名前のTCP/IP HTTPアプリケーション・サーバー・インスタンスを終了します。

例4:特定DNSサーバー・インスタンスの終了

```
ENDTCPSVR SERVER(*DNS) DNSSVR('DNS1')
```

このコマンドは、'DNS1'という名前のTCP/IP DNSアプリケーション・サーバー・インスタンスを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDTCPSPVR

*ESCAPE メッセージ

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

TCP1A0A

&1が異常終了しました。理由コードは&2です。

TCP1A11

&1が正常に実行されなかった。

TCP1A77

&1は正常に完了したが、エラーが起こった。

[トップ](#)

TIEセッション終了 (ENDTIESSN)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

技術情報交換セッション終了(ENDTIESSN)コマンドを使用すればTIEバッチ・コマンドに使用されている通信回線を切断することができます。このコマンドは、他のTIEバッチ・コマンドの後になければなりません。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDTIESSNの例

ENDTIESSN

このコマンドは、TIEバッチ・コマンドに使用されている通信回線を切断することによって、TIE機能を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDTIESSN

なし

[トップ](#)

追跡の終了 (ENDTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

追跡終了(ENDTRC)コマンドは、STRTRC (追跡開始)コマンドによって開始された追跡セッションを終了します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- DTAOPT(*LIB)が指定された場合には、追跡データが保管されるそのライブラリー内のライブラリーおよびデータベース・ファイルに対する権限が必要です。
- PRTRC(*YES)が指定された場合には、PRTRC (追跡印刷)コマンドに対する権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SSNID	セッションID	名前, *PRV	必須, 定位置 1
DTAOPT	データ・オプション	*LIB, *DLT	オプション
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *CURLIB	オプション
RPLDTA	データの置き換え	*YES, *NO	オプション
PRTRC	追跡データの印刷	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

セッションID (SSNID)

追跡を終了するセッション識別コードを指定します。この名前は、前に開始され、まだ活動状態の追跡のセッション識別コードと一致していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

***PRV** このENDTRCコマンドを実行している、その同じユーザーによって最後に開始された追跡セッションが終了されます。たとえば、ENDTRCコマンドを実行中のジョブがユーザー・プロファイルBOBのもとで実行している場合には、ユーザー・プロファイルBOBのもとで開始された最後の追跡セッションが終了されます。

名前 終了させる追跡のセッション識別コードを指定します。

[トップ](#)

データ・オプション (DTAOPT)

収集した追跡データをデータベース・ファイルに保管するか、あるいは追跡データを削除するかを指定します。

***LIB** 追跡データはデータベース・ファイルにコピーされます。このコマンドまたは追跡印刷(PRTTRC)コマンドのPRTTRCパラメーターは、データの形式設定および印刷に使用することができます。

***DLT** 追跡データは、それを収集した内部バッファから削除されます。

[トップ](#)

データ・ライブラリー (DTALIB)

追跡データが入っているライブラリーの名前を指定します。1セットのデータベース・ファイルが追跡データを入れるためにこのライブラリー中に作成されます。このファイルがまだ存在しない場合には、それが作成されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、**データ・オプション (DTAOPT)**パラメーターに***LIB**が指定された場合だけです。

***CURLIB**

追跡データは、ジョブの現行ライブラリー中のファイルに保管されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 追跡データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。ENDTRCコマンドを実行する場合には、このライブラリーが事前に存在しなければなりません。

[トップ](#)

データの置き換え (RPLDTA)

同じセッション識別コードの前の追跡セッションで収集した追跡データは、新規の追跡データと置き換えられます。これは、追跡データを保管する1セットのデータベース・ファイルが、指定された追跡セッション識別コード(SSNIDパラメーター)と同じファイル・メンバーをすでにもっているかどうかをチェックして判別されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、**データ・オプション (DTAOPT)**パラメーターに***LIB**が指定された場合だけです。

***YES** 追跡データが指定された追跡セッション識別コードですでに存在する場合には、古い追跡データは失われて、新規の追跡データと置き換えられます。

***NO** 指定されたセッションに追跡データがすでに存在している場合には、エラー・メッセージがユーザーに送られます。

[トップ](#)

追跡データの印刷 (PRTTRC)

追跡データを追跡データベース・ファイルに保管した後でそれを形式設定して印刷するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**データ・オプション (DTAOPT)**パラメーターに*LIBが指定された場合だけです。

***NO** このPRTTRC (追跡印刷) コマンドは、このコマンドの一部としては実行されません。

***YES** このPRTTRC (追跡印刷) コマンドは、追跡データを追跡データベース・ファイルに保管した後で実行されます。

トップ

ENDTRCの例

例1:最新の開始済み追跡を終了する

```
ENDTRC  SSNID(*PRV)
```

このコマンドは、ENDTRCコマンドを実行しているのと同じユーザーによって最近開始された追跡セッションを終了します。追跡データは、ジョブの現行ライブラリーまたはQGPL (ジョブの現行ライブラリーがない場合) 中にあるファイルのセットに保管されます。

例2:追跡を終了して追跡データを削除する

```
ENDTRC  SSNID(DCG1)  DTAOPT(*DLT)
```

このコマンドは、追跡セッションDCG1を終了して、追跡データを削除します。

トップ

エラー・メッセージ: ENDTRC

*ESCAPE メッセージ

CPC3923

ENDTRCセッションID &1は正常にライブラリー&2に保管された。

CPC3924

ENDTRCセッションID &1が正常に削除された。

CPF39CA

追跡セッションID &1が見つかりません。

CPF39CB

ライブラリー&2の追跡セッションID &1にデータが存在する。RPLDTA(*YES)を指定してください。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

CPF39D3

追跡を開始/終了できません。

[トップ](#)

トラップ管理機能の終了 (ENDTRPMGR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トラップ管理機能終了(ENDTRPMGR)コマンドを使用して、OS/400 SIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL(SNMP)トラップ管理機能のジョブを終了してください。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDTRPMGRの例

ENDTRPMGR

このコマンドは、OS/400 SNMP管理機能フレームワーク・トラップ管理機能ジョブを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDTRPMGR

*ESCAPE メッセージ

CPFA805

トラップ管理プログラム・ジョブは活動状態でないか、終了中である。

[トップ](#)

書き出しプログラム終了 (ENDWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書き出しプログラム終了(ENDWTR)コマンドは、指定されたスプール書き出しプログラムを終了し、関連の出力装置をシステムに使用できるようにします。書き出しプログラムは、即時に終了することも、あるいは制御された方式で終了することもできます。即時に終了した場合には、書き出しプログラムはファイルの書き出しを停止し、ファイルがもう一度出力待ち行列上で使用できるようになります。制御された方式で終了する場合には、書き出しプログラムは現行ファイル（またはファイルのコピー）の書き出しを完了するか、ファイルのページの印刷を完了してから、終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WTR	書き出しプログラム	名前, *SYSVAL, *ALL	必須, 定位置 1
OPTION	書き出しプログラムの終了時点	*CNTRLD, *IMMED, *PAGEEND	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

書き出しプログラム (WTR)

これは必須パラメーターです。

停止させるスプーリング書き出しプログラムの名前を指定します。これで書き出しプログラムの出力装置は、システム上で使用可能な状態になります。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 開始されているすべての書き出しプログラムを停止させます。

***SYSVAL**

システムの省略時の印刷装置に開始されている書き出しプログラムを停止させます。

書き出しプログラム名

停止させる書き出しプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

書き出しプログラムの終了時点 (OPTION)

書き出しプログラムがいつ処理を停止するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***CNTRLD**

スプール書き出しプログラムは、制御された方法で処理を停止します。出力は、出力装置に対して現在書き出し中のスプール・ファイル（またはファイルのコピー）の終わりで停止します。

***IMMED**

書き出しプログラムは即時に処理を停止します。現在印刷中のスプール・ファイルは出力待ち行列上に残ります。

***PAGEEND**

書き出しプログラムは現行バッファの処理後に停止されます。この値は、スプール書き出しプログラムが印刷装置書き出しプログラムの場合にのみ有効です。

トップ

ENDWTRの例

ENDWTR WTR(PRINTER)

このコマンドは、出力が印刷されているスプール・ファイルの終わりでPRINTERという名前の書き出しプログラムを停止し、次に、その装置をシステムに解放します。

トップ

エラー・メッセージ： ENDWTR

***ESCAPE** メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF3313

書き出しプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3331

書き出しプログラム&3/&2/&1の制御は認可されていない。

CPF3339

書き出しプログラム&3/&2/&1に対する前の終了要求は保留されている。

CPF3438

*PAGEENDは書き出しプログラム&3/&2/&1の場合には正しくない。

[トップ](#)

リンクの除去 (ERASE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リンクの除去 (ERASE)コマンドは、指定されたオブジェクトへのリンクを除去します。これがオブジェクトへの唯一のハード・リンクであった場合には、それが使用されなくなった時にオブジェクトが除去されます。オブジェクトへのシンボリック・リンクが存在していた場合であっても、オブジェクトは除去することができます。シンボリック・リンクは、それが除去されるまで残されます。

このコマンドはリンクの除去 (RMVLNK)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- DEL
- RMVLNK

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. "ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、オブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX) 権限が必要です。ハード・リンクをリンク解除する場合には、オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限も必要です。
2. QDLSファイル・システムでは、オブジェクトに対する全(*ALL) 権限と親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
4. その他のファイル・システムの権限要件については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
5. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトをリンク解除することはできません。
 - a. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - b. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
6. ディレクトリーをリンク解除することはできません。
7. ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルへのリンクを除去することはできません。
8. 上にリストされた制約事項は、タイプが*DDIR, *DSTMF, *SOCKET, *STMF,および*SYMLNKのOS/400オブジェクトに対するものです。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

1. このコマンドをこれらのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。それらの制約事項を識別するには、除去する

オブジェクトの削除コマンドを参照してください。一般に、このコマンドの名前はOS/400オブジェクト・タイプの値を使用し、そこから文字*を除去して、先頭に動詞DLTを追加して形成されます。たとえば、オブジェクト・タイプの値が*LRTBLのアラート・テーブルを削除するには、警報テーブルの削除(DLTALRTBL)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

ただし、この規則には例外があります。たとえば、オブジェクト・タイプの値が*MODULEのコンパイラ単位を削除するには、モジュールの削除(DLTMOD)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

オブジェクト・タイプについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックを参照してください。

- これらのファイル・システムでは、リンクの除去(RMVLNKまたは別名DELあるいはERASE)コマンドを使用して、ライブラリーおよびデータベース・ファイルを削除することはできません。しかし、これらのオブジェクトは、ディレクトリーの除去(RMVDIRまたは別名RMDIRあるいはRD)コマンドを使用して削除することができます。
- 次のオブジェクト・タイプは、別のコマンドを使用して削除することはできません。*EXITRG, *IGCSRT, *JOBSCD, *PRDAVL, *QRYDFN, *RCT。

QDLSファイル・システムの相違点

- このコマンドをこのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。これらの制約事項を識別するには、文書ライブラリー・オブジェクトの削除(DLTDLO)コマンドの説明を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJLNK	オブジェクト・リンク	パス名	必須, 定位置 1

トップ

オブジェクト・リンク (OBJLNK)

リンク解除するオブジェクトのパス名を指定します。名前パターンによって、複数のリンクを除去することができます。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

ERASEの例

ERASEの代替コマンド名はRMVLNKです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、ERASEはそれらのすべてで直接RMVLNKに置き換えることができます。

例1: オブジェクト・リンクの除去

```
RMVLNK OBJLNK('PAY')
```

このコマンドは、PAYという名前のリンクを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ERASE

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BD

&1リンクは除去された。&2リンクは正常に実行されなかった。

[トップ](#)

プログラム記号のエクスポート (EXPORT)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム記号のエクスポート(EXPORT)バインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム・エクスポート・ブロック中のエクスポートを定義します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYMBOL	エクスポートされた記号名	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

エクスポートされた記号名 (SYMBOL)

エクスポートする記号を指定します。記号は、アポストロフィ(')または引用符で囲むか、あるいは区切りのマークなしで表すことができます。

これは必須パラメーターです。

文字値 エクスポートするプログラム外部変数またはプロシージャの名前を指定してください。

[トップ](#)

EXPORTの例

```
EXPORT SYMBOL('EXTVAR2')
```

このバインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム・エクスポート・ブロックにエクスポートする記号として**EXTVAR2**を定義します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: EXPORT

なし

[トップ](#)

NFSエクスポートの変更 (EXPORTFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル・システム・エクスポート変更(EXPORTFS)コマンドは、(エクスポートする)ディレクトリー名、または現在ネットワーク・ファイル・システム(NFS)クライアントにエクスポートされているディレクトリー・ツリーの(アンエクスポートの)リストから除去するディレクトリー名を追加します。OPTIONSリストのフラグは、EXPORTFSコマンドで実行される処置を指示します。

ディレクトリーおよびディレクトリーとその内容をエクスポートするためのオプションのリストは、*/ETC/EXPORTS*ファイルに保管されます。EXPORTFSコマンドでは、-Aフラグを使用して*/ETC/EXPORTS*ファイルに指定されているすべてのディレクトリー・ツリーをエクスポートするか、またはディレクトリー名を指定して単一のディレクトリー・ツリーをエクスポートすることができます。エクスポートするディレクトリー・ツリーが*/ETC/EXPORTS*ファイルに存在する場合には、そこで指定されたオプションでエクスポートするか、またはEXPORTFSコマンドで新規オプションを指定し、-Iフラグを使用してオプションを指定変更することができます。

また、EXPORTFSコマンドでそのオプションを指定して、前に*/ETC/EXPORTS*ファイルで定義されていないディレクトリー・ツリーをエクスポートすることもできます。EXPORTFSコマンドで-Uフラグを使用して、ディレクトリー・ツリーをアンエクスポートすることができます。

また、-Fフラグを使用して、*/ETC/EXPORTS*ファイルのエクスポート項目を追加、変更、または除去することもできます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CHGNFSEXP

ネットワーク・ファイル・システム・コマンドに関する詳細については、OS/400 NFSサポート(SC88-4019)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。
2. パス名接頭部の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
3. -Fフラグが指定されていて、*/ETC/EXPORTS*ファイルが存在しない場合には、*/ETC*ディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
4. -Fフラグが指定されていて、*/ETC/EXPORTS*ファイルが存在する場合には、*/ETC/EXPORTS*ファイルに対する読み取り、書き込み(*RW)権限と*/ETC*ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
5. 混合CCSIDエンコード・スキームはサポートされていません。指定されるCCSIDは、1バイト文字セット(SBCS)または全くの2バイト文字セット(DBCS)でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTIONS	NFSエクスポート・オプション	文字値, *DFT	オプション, 位置 1
DIR	ディレクトリー	パス名	オプション, 位置 2
HSTOPT	ホスト・オプション	単一値: *DFT その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ホスト名	文字値	
	要素 2: データ・ファイル CCSID	0-65535, *BINARY , *ASCII, *JOBCCSID	
	要素 3: パス名CCSID	0-65535, *ASCII , *JOBCCSID	
要素 4: 強制同期書き出し	*SYNC , *ASYNC		

トップ

NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)

エクスポート・オプション・リストには、エクスポートするディレクトリーの特性の文字ストリングが入っているリストが任意選択で後に続くフラグが入っています。

各フラグはマイナス“-”に文字を続けた形式です。フラグはスペースで区切ります。特定の組み合わせのフラグだけを使用できます。無効な組み合わせが検出されると、エラーが戻されます。

注: OPTIONSまたはディレクトリー (**DIR**)パラメーターのいずれかに指定する必要がある(*NONE以外の)値。OPTIONSとDIRは、-AがOPTIONSパラメーターに指定されたオプション・リストの一部でない場合に指定することができます。

***DFT** オプション・ストリングの省略時の値は、次の通りです。

'-A'

オプション・フラグ

-A これは「全」フラグで、*/ETC/EXPORTS*ファイルのすべての項目が処理されることを示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Aであり**-U**でない

これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルのすべての項目をエクスポートします(NFSクライアントが使用できるようにします)。

-Aおよび**-U**

これは現在エクスポートされているすべての項目をアンエクスポートします(NFSクライアントに対して使用できなくする)。これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルの内容に対する参照にはなりません。

-Aおよび**DIR**パラメーター

この組み合わせは使用できません。

-Aおよび**(-Iまたは-Fまたは-O)**

これらの組み合わせは使用できません。

- I** これは「無視」フラグであり、DIRパラメーターに指定されたディレクトリー・ツリーについてのエクスポート特性の判別方法を指示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Iおよび-O

-Oフラグで指定されたエクスポート特性が使用され、*/ETC/EXPORTS*にリストされた定義は（もしあれば）無視されます。

-Iでも-Oでもない

*/ETC/EXPORTS*ファイルにリストされたエクスポート特性が使用されるか、またはそのファイルにオプションがなければ省略時のオプションとみなされるかのいずれかです。省略時のオプションのリストについては、-Oフラグ記述を参照してください。

-Iおよび(-Aまたは-U)

これらの組み合わせは使用できません。

- U** これは「アンエクスポート」フラグであり、DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがアンエクスポートされる(NFSクライアントに対して使用できなくなる)ことを指示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Uおよび-A

これは現在エクスポートされているすべての項目をアンエクスポートします(NFSクライアントに対して使用できなくする)。これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルの内容に対する参照にはなりません。

-Uおよび-F

DIRパラメーターで参照された項目がアンエクスポートされ(NFSクライアントが使用できないようにし)さらに*/ETC/EXPORTS*ファイルから（もしあれば）除去されます。

-Uおよび(-Iまたは-O)

これらの組み合わせは使用できません。

- F** これは「ファイル」フラグであり、DIRパラメーターを必要とします。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Fおよび-U

DIRパラメーターで参照された項目がアンエクスポートされ(NFSクライアントが使用できないようにし)さらに*/ETC/EXPORTS*ファイルから（もしあれば）除去されます。

-Fであり-Uでも-Oでもない

DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがエクスポートされます(NFSクライアントに対して使用可能にする)。さらに、DIRパラメーターに入力されたこのディレクトリー・ツリーの項目が*/ETC/EXPORTS*ファイルに追加されます。ファイルにすでに項目が存在する場合には、この新しいエクスポート項目と置き換えられます。このファイルが存在しない場合には、ファイルが作成されて、エクスポート項目が追加されます。「ファイル」フラグ-Fが「アンエクスポート」フラグ-Uなしで指定されると、「無視」フラグ-Iが暗黙指定となることに注意して

ください。「オプション」フラグ-Oが指定されていないので、省略時のオプションが想定されます。省略時のオプションのリストについては、-Oフラグ記述を参照してください。

-Fであり-Uでなく-Oである

DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがエクスポートされます(NFSクライアントに対して使用可能にする)。さらに、DIRパラメーターに入力されたこのディレクトリー・ツリーの項目が/ETC/EXPORTSファイルに追加されます。ファイルにすでに項目が存在する場合には、この新しいエクスポート項目と置き換えられます。このファイルが存在しない場合には、ファイルが作成されて、エクスポート項目が追加されます。「ファイル」フラグ-Fが「アンエクスポート」フラグ-Uなしで指定されると、「無視」フラグ-Iが暗黙指定となることに注意してください。「オプション」フラグ-Oで指定されたすべてのエクスポート特性オプションは、子Mで指定された/ETC/EXPORTSファイルに保管されます。

-Fおよび-A

この組み合わせは使用できません。

注: -Fフラグを正常に使用すると、/ETC/EXPORTSファイルの内容が完全に置き換えられて、-Fフラグによって行われた変更、追加、または削除が反映されるようになります。関連のない既存の項目はコピーされますが、-Fフラグを使用した結果として/ETC/EXPORTSファイルのすべてのコメントは失われます。

- E これは「エスケープ・メッセージ」フラグであり、試みたエクスポートのいずれかについてコマンドが正常に実行されない場合にエスケープ・メッセージが出されることを指示します。
- O このフラグは、エクスポートする(NFSクライアントに対して使用可能にする)ディレクトリー・ツリーのエクスポート特性を指定します。-Oフラグ・リストの後のオプション・リストは、コンマで区切られたオプションから構成されています。一部のオプションの後には、等号 '=' および値 (またはコロン ':' で区切られた値のリスト) が続いています。オプション・リストには、スペースが含まれる場合があります。オプションを指定しないと、そのオプションの省略時の値が使用されます。-Oフラグが有効であるのは、「無視」フラグ-I または「ファイル」フラグ-Fが指定されている場合だけです。

オプションが必要で、-Oフラグが指定されていない場合には、以下が省略時のオプションです。

- 'RW=' すべてのホスト名はディレクトリー・ツリーへの読み取り/書き出しアクセス権をもちます。
- プロファイル *QNFSANON* と関連づけられた *ANON=UID*。
- 許可ビット以外のモードになっているビットに対する要求が許されます。
- 'ROOT=' すべてのホストでルート・アクセスは使用できません。
- 'ACCESS=' すべてのクライアントがディレクトリーをマウントすることが許されます。

以下に、使用できるオプションとその説明を示します。

- RO** エクスポート済みディレクトリー・ツリーの保護を指定します。ROを指定した場合には、ディレクトリーとその内容への読み取り専用アクセスのみが認められるディレクトリー・ツリーがエクスポートされます。これを指定しない場合には、ディレクトリーとその内容への読み取り/書き出しアクセスが認められます。

RW=[HOSTNAME[:HOSTNAME]](...)

エクスポート済みのディレクトリーおよびその内容への読み取り／書き出しアクセスが認められる1つまたは複数のホスト名を指定します。ホスト名が指定されていない場合には、読み取り専用アクセスのみが認められているディレクトリーとその内容がエクスポートされます。

ROおよびRWのいずれも指定されていない場合には、'RW='が前提とされ、すべてのホスト名がエクスポート済みのディレクトリーへの読み取り／書き出しアクセス権をもちます。

ANON=UID

不明ユーザーからの要求を行う場合には、このUIDを有効なユーザーIDとして使用してください。下のROOTオプションで指定されていない限り、ルート・ユーザーは不明とみなされることに注意してください。このオプションの省略時の値は、ユーザー・プロファイル*QNFSANON*に関連づけられたUIDです。

不明のユーザーからの要求を許可したくない場合には、'ANON=-1'を使用してください。

NOSUID

クライアントによる、許可ビット以外のビットを使用可能にするいかなる試みも無視されます。このオプションが指定されていない場合には、許可ビット以外のビットをセットする試みが行われます。

ROOT=[HOSTNAME[:HOSTNAME]](...)

エクスポートされたディレクトリー・ツリーへのルート・アクセスが認められる1つまたは複数のホスト名を指定します。ホストに対するルート・アクセスが許可されると、0の着信UIDがユーザー・プロファイル*QSECOFR*にマップされて、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持つユーザーからの着信要求が許可されます。ホストに対するルート・アクセスが許可されない場合には、0の着信UIDおよび*ALLOBJ特殊権限を持つユーザーからの着信要求がANONオプションで指定されたUIDにマップされます。ROOTオプションが指定されないと、どのホストもルート・アクセスを認可されません。

ACCESS=[CLIENT[:CLIENT]](...)

エクスポート済みディレクトリー・ツリーをマウントすることを認める1つまたは複数のクライアントを指定します。クライアントはホスト名またはネットグループとすることができます。クライアントを指定しない場合には、すべてのクライアントがディレクトリー・ツリーをマウントすることを認められます。

トップ

ディレクトリー (DIR)

エクスポートする(NFSに対して使用可能にする) またはアンエクスポートする(NFSに対して使用できなくする) 既存ディレクトリーの絶対パス名を指定します。このディレクトリーを (別のファイル・システムに入っていない限り) すでにエクスポートされたディレクトリーのサブディレクトリーまたは親にすることはできません。NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)パラメーターで-Aフラグが指定されている場合には、このパラメーターは許可されません。OPTIONSパラメーターで-Fフラグを指定すると、このパラメーターが必要です。

注: OPTIONSまたはDIRパラメーターのいずれかに指定する必要がある(*NONE以外の) 値。
OPTIONSとDIRは、-AがOPTIONSパラメーターに指定されたオプション・リストの一部でない場合に指定することができます。

トップ

ホスト名 (HOSTOPT)

HOSTOPTパラメーターには、ディレクトリー・ツリーのエクスポート先のNFSクライアントに関する追加の情報を指定する4つの要素があります。ディレクトリー・ツリーのエクスポート先のホスト名にHOSTOPTパラメーターが指定されていない場合には、HOSTOPTパラメーターのそれぞれの要素の省略時の値がそのホストに使用されます。

***DFT** *DFTは、1つ以上のディレクトリー・ツリーがエクスポートされるすべてのクライアントに、HOSTOPTパラメーターの要素の省略時の値が使用されることを示します。ネットワーク・データ・ファイルのコード化文字セット識別コード(CCSID)は*BINARY,ネットワーク・パス名のコード化文字セット識別コード(CCSID)は*ASCII, 強制同期書き出しは*SYNCです。

要素1: ホスト名

追加のオプションを指定するホストの名前。このホストは、エクスポートされたディレクトリー・ツリーに対するアクセス権をもつホストとして、OPTIONS -Oリスト中で上の方に指定する必要があります。単一ホストのアドレスの別名である単一ホスト名か、あるいはこれらのオプションと関連付けられるネットグループ名のいずれかを指定してください。

名前は、TCP/IP構成メニュー(CFGTCP)コマンドのTCP/IPホスト・テーブル項目の処理オプションによるか、あるいはOS/400 ISERIESナビゲーターのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを介してインターネット・アドレスに割り当てることができます。また、リモート・ネーム・サーバーは、リモート・システム名をIPアドレスにマップするために使用することもできます。

要素2: ネットワーク・データ・ファイルのコード化文字セット識別コード(CCSID)

ネットワーク・データ・ファイルのCCSIDは、指定のホスト名 (またはネットグループ名) から送受信されるファイルのデータに使用されます。HOSTOPTパラメーターで指定されていないホストの場合には、省略時のネットワーク・データ・ファイルCCSID (*BINARY)が使用されます。CCSIDは、以下の1つとすることができます。

*BINARY

省略時のネットワーク・データ・ファイルのCCSID (2進, 変換なし) が使用されます。

*ASCII

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからの取得されたCCSIDが使用されます。

1-65533

データ・ファイルのCCSIDを指定してください。

要素3:ネットワーク・パス名のコード化文字セット識別コード(CCSID)

ネットワーク・パス名CCSIDは、指定のホスト名（またはネットグループ名）から送受信されるファイルのパス名構成要素に使用されます。HOSTOPTパラメーターで指定されていないホストの場合には、省略時のネットワーク・パス名CCSID (*ASCII)が使用されます。CCSIDは、以下の1つとすることができます。

*ASCII

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからの取得されたCCSIDが使用されます。

1-65533

ファイルのパス名構成要素のCCSIDを指定してください。CCSIDをUCS-2レベル1 (1200)に変換できるコード・ページのみがサポートされます。サポートされる変換のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」情報を参照してください。

要素4:書き出しモード

このホスト名（またはネットグループ名）の書き出し要求を同期処理するか、または非同期処理するかを指定します。*SYNC（省略時の値）では、即時にデータがディスクに書き出されます。

*ASYNCでは、即時にデータがディスクに書き出されることは保証されず、サーバーのパフォーマンスを向上するために使用できます。

注: ネットワーク・ファイル・システム(NFS)プロトコルは従来から同期書き出しを使用しています。

*SYNC

書き出し要求は同期実行されます。

*ASYNC

書き出し要求は非同期実行されます。

トップ

EXPORTFSの例

EXPORTFSの代替コマンド名はCHGNFSEXPです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、EXPORTFSはそれらのすべてで直接CHGNFSEXPに置き換えることができます。

例1: /ETC/EXPORTSからのすべての項目のエクスポート

```
CHGNFSEXP  OPTIONS('-A')
```

-または-

```
CHGNFSEXP  '-A'
```

この両方のコマンドは、/ETC/EXPORTSファイルに存在するすべての項目をエクスポートします。

例2: オプションによる1つのディレクトリーのエクスポート

```
CHGNFSEXP  '-I -O RO,ANON=GUEST1,ACCESS=ROCH1:9.7.431.2'
```

```
'/PROGRAMS/PUBLIC' HOSTOPT((MIAMI1 850 850))
```

このコマンドは、パス名/*PROGRAMS/PUBLIC*の下のディレクトリー・ツリーを読み取り専用としてエクスポートします。これは、2つのクライアントにこのディレクトリー・ツリーのマウントを許可するだけです。これは、定位置パラメーター*OPTIONS*および*DIR*を活用します。これは、*HOSTOPT* パラメーターを使用して、ホスト*MIAMI1*のコード化文字セット識別コード(*CCSID*)を指定します。

例3: オプションによる1つのディレクトリーのエクスポートおよび/*ETC/EXPORTS*ファイルの更新。

```
CHGNFSEXP '-I -F -O RO,ANON=GUEST1,ACCESS=ROCH1:9.7.431.2'  
'/PROGRAMS/PUBLIC' HOSTOPT((MIAMI1 850 850))
```

このコマンドは、パス名/*PROGRAMS/PUBLIC*の下のディレクトリー・ツリーを読み取り専用としてエクスポートします。これは、2つのクライアントにこのディレクトリー・ツリーのマウントを許可するだけです。*OPTIONS*パラメーターの値は定位置に指定されます。これは、*HOSTOPT*パラメーターを使用して、ホスト名*MIAMI1*のデータおよびパス名のコード化文字セット識別コード(*CCSID*)として850を指定します。

さらに、これは/*PROGRAMS/PUBLIC*のエクスポート項目も、*OPTIONS*および*HOSTOPT*パラメーターの値と一緒に/*ETC/EXPORTS*ファイルに追加します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: EXPORTFS

なし

[トップ](#)

プログラム情報抜き出し (EXTPGMINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム情報検索(EXTPGMINF)コマンドは、拡張プログラム・モデル(EPM)プログラム・オブジェクトから外部関係情報を抜き出し、この情報をライブラリー情報ファイルに記憶します。外部変数および入口点を含む外部関係情報は、EPMプログラム・オブジェクトからしか抜き出すことができません。C/400*, FORTRAN/400*,およびAS/400* PASCALのコンパイラーは、EPMプログラム・オブジェクトを作成しません。

ライブラリー情報ファイルは、1組の関連プログラムの関係情報の集まりです。このライブラリー情報ファイル名は、SETPGMINFコマンドのLIBFILEパラメーターに使用されます。たとえば、C/400実行時ライブラリーを構成する1組のプログラムのライブラリー情報ファイル名が提供されます。

EXTPGMINFコマンドにより、各プログラム・オブジェクト名をSETPGMINFコマンドのSUBPGMパラメーターに指定しなくても、適用業務で影響を受けるすべての入口点の名前を記憶するファイルを作成することができます。

エラー・メッセージ: EXTPGMINF

なし

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB	
FILE	情報を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 情報を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTION	レコード抜き出しオプション	*REPLACE, *DELETE, *UPDATE	オプション, 定位置 3
CRTFILE	ファイルの作成	*NO, *YES	オプション
RECLIB	記録するライブラリー名	名前, *LIBL, *FOUND	オプション
CHECK	一貫性検査	*ALL, *ENTRY, *DATA, *NONE	オプション

トップ

プログラム (PGM)

PGMパラメーターは、抜き出したい関係情報が入っているプログラムおよびライブラリーの名前を指定します。これは必須パラメーターです。

プログラム名

抜き出したい関係情報が入っているプログラムの名前を入力してください。

総称* 抜き出したい関係情報が入っているプログラムの総称名を入力してください。

***ALL** 関係情報はライブラリーに入っているすべてのプログラムから抜き出されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索します。CRTFILE(*YES)を指定した場合には、*LIBLを指定することはできません。

*USRLIBL

システムはライブラリー・リストのユーザー部分を検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーの名前が使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

[トップ](#)

情報を受け取るファイル (FILE)

ライブラリー情報ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在しない場合には、CRTFILE(*YES)を指定して作成してください。指定しない場合には、メッセージが出されます。

ファイル名

関係情報を保管するファイルの名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーの名前が使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

関係情報ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

レコード抜き出しオプション (OPTION)

ライブラリー情報ファイルのデータの置換え、削除、または更新のオプションを指定します。

*REPLACE

ライブラリー情報ファイルのすべてのデータを消去して、PGMパラメーターに指定したプログラムから抜き出した情報と置き換えてください。

***DELETE**

PGMパラメーターに指定したプログラムのライブラリー情報ファイルのデータを削除します。このライブラリー情報ファイルからデータを削除した結果として、ファイルが圧縮されます。PGMパラメーターに指定したプログラムと関連していないデータは、ライブラリー情報ファイルにそのままとなります。ライブラリー情報ファイルには、新しい情報は追加されません。

***UPDATE**

指定されたプログラムの既存の情報を削除し、新しい情報でそれを置き換えます。このライブラリー情報ファイルからデータを削除した結果として、ファイルが圧縮されます。指定したライブラリー情報ファイルが空の場合には、このオプションは*REPLACEと同じです。

トップ

ファイルの作成 (CRTFILE)

抜き出された情報を記憶するためのライブラリー情報ファイルを作成します。

***NO** ライブラリー情報ファイルを作成しません。

***YES** ライブラリー情報ファイルを作成して、検索した情報を記憶します。指定したライブラリー情報ファイルが存在しない場合には、*YESを選択してください。ファイルが存在している場合には、メッセージが表示されます。

トップ

記録するライブラリー名 (RECLIB)

プログラムが記憶されているライブラリーの名前を指定します。実行時にSETPGMINFコマンドを入力すると、システムはここで指定したライブラリーを検索してプログラムを見つけます。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索します。

***FOUND**

EXTPGMINFコマンドを処理中に、システムは指定されたプログラムが見つかったライブラリーの名前を記録します。システムは、EXTPGMINFコマンドを処理した時にそのプログラムが入っていたライブラリーを検索します。

ライブラリー名

ライブラリーの名前を入力してください。

トップ

一貫性検査 (CHECK)

ライブラリー情報ファイル中のデータおよび入口点の一貫性を検査するように指定します。*NONEを指定した場合には、警告メッセージは出されません。*NONEを指定しなかった場合には、PSE警告メッセージが出されます。

***ALL** データと入口点の両方の一貫性を検査します。

***ENTRY**

入口点の一貫性を検査します。

***DATA**

データの一貫性を検査します。

***NONE**

一貫性検査は実行されません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： EXTPGMINF

なし

[トップ](#)

文書ファイル (FILDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ファイル(FILDOC)コマンドによって、文書ライブラリー中の文書をファイルすることができます。

制約事項: (1) 他のユーザーに代わって作業を行なう権限が与えられている場合には、そのユーザーに代わって文書をファイルすることができます。ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによって、他のユーザーに代わって作業を行う権限を与えてもらわなければなりません。(2) ユーザーIDおよびアドレスをシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。(3) 新しい文書に対する機密保護はFILDOCコマンドのパラメーターから取られ、フォルダーからは継承されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	ファイルされる情報	*FILE, *IDP, *DSTID	必須, 定位置 1
TODOC	受け取り文書	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
SENSITIV	機密性	<u>*NONE</u> , *PERSONAL, *PRIVATE, *CONFIDENTIAL	オプション
USRAUT	ユーザー権限	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・プロフィール	名前, *PUBLIC	
	要素 2: 権限レベル	<u>*EXCLUDE</u> , *USE, *CHANGE, *ALL, *AUTL	
AUTL	権限リスト	名前, <u>*NONE</u>	オプション
ACC	アクセス・コード	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 0-2047	オプション
ALWRPL	置き換え可能	<u>*NO</u> , *YES	オプション
IDPFILE	プロフィール・ファイル	単一値: <u>*NONE</u> , *DOCFILE, *DSTIDIDP その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロファイル・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
IDPMBR	プロフィール・メンバー	名前, <u>*FIRST</u>	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DOCFILE	文書ファイル	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 文書ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
DOCMBR	文書メンバー	名前, <u>*FIRST</u>	オプション
DSTID	配布識別コード	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
DSTIDEXN	配布IDエクステンション	1-99, <u>*NONE</u>	オプション
KEEP	メール・ログに保管	<u>*NO</u> , *YES, *REF	オプション
DOCTYPE	文書タイプ	2-65535, <u>*DFT</u> , *FFT, *RFT	オプション
SYSCOD	文書システム・コード	文字値, <u>*DFT</u>	オプション
DOCD	文書記述	文字値, <u>*DFT</u>	オプション
AUTHOR	作成者	単一値: <u>*NONE</u> , *USRID その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
DOCCLS	文書クラス	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
KWD	キーワード	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SUBJECT	主題	単一値: <u>*NONE</u> , *DOCD その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
DOCDATE	文書日付	日付, <u>*NONE</u> , *CURRENT	オプション
FILCAB	ファイル・キャビネット位置	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CPYLST	リスト・コピー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
EXPDATE	満了日	日付, <u>*NONE</u>	オプション
REFERENCE	参照	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
ACTDATE	処置期日	日付, <u>*NONE</u> , *CURRENT	オプション
STATUS	文書状況	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CMPDATE	完了日	日付, <u>*NONE</u> , *CURRENT	オプション
PROJECT	プロジェクト	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
DOCCHRID	文書文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DOCLANGID	言語識別コード	文字値, <u>*JOB</u>	オプション
DOCCNTRYID	国別または地域ID	文字値, <u>*JOB</u>	オプション
PERSONAL	個人	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DSTEXPDATE	配布満了標識	要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付, <u>*NONE</u> , *CURRENT	
	要素 2: 時刻	時刻, <u>*ENDOFDAY</u>	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

ファイルされる情報 (TYPE)

ファイルされた情報のタイプおよびこのコマンドで有効なパラメーターを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***FILE** 文書ファイルプロンプト (DOCFILEパラメーター) および文書メンバープロンプト (DOCMBRパラメーター) で指定するデータベース・ファイルがファイルされます。

注: この値が指定された場合には、FILCAB, DSTID, DSTIDEXN, およびKEEPパラメーターに省略時の値を指定しなければならず、DOCFILE(*NONE)を指定することはできません。

***IDP** プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) およびプロファイル・メンバープロンプト (IDPMBRパラメーター) で指定する交換文書プロファイル(IDP), またはこのコマンドで作成される文書プロファイルがファイルされます。

注: この値が指定された場合には、DOCFILE, DOCMBR, DOCTYPE, SYSCODE, DOCCHRID, DSTID, DSTIDEXT, およびKEEPパラメーターに省略時の値を指定しなければなりません。この値が指定された場合には、IDPFILEとFILCABの両方に*NONEを指定することはできません。

***DSTID**

配布識別コードプロンプト (DSTIDパラメーター) で指定する配布識別コードによって識別される配布文書がメール・ログから文書ライブラリーにファイルされます。

注: この値が指定された場合には、DSTID(*NONE)を指定することはできません。

[トップ](#)

受け取り文書 (TODOC)

新たにファイルされる文書の名前を指定します。

文書名 新しくファイルされた文書のユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。この文書名は、文書をファイルするフォルダー中に存在してはなりません。

[トップ](#)

受け取りフォルダー (TOFLR)

新たにファイルされる文書が入っているフォルダーの名前を指定します。このパラメーターは、受け取り文書プロンプト (TODOCパラメーター) にも値を指定する時にだけ、指定することができます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

新しくファイルされた文書にはユーザー割り当て名がなく、フォルダーにはファイルされません。

フォルダー名

新たにファイルされる文書を入れるフォルダーの名前を指定してください。文書をファイルするフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名 (FLR1/FLR2/その他) から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

文書名を受け取り文書プロンプト (TODOCパラメーター) に指定する時には、フォルダー名を指定しなければなりません。

トップ

機密性 (SENSITIV)

X.400標準によって定義された機密性のレベルを指定します。4つのレベルとは、機密性なし、個人用、私用、および会社機密です。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

この文書には、機密上の制限はありません。

*PERSONAL

この文書はユーザーの個人用です。

*PRIVATE

この文書には所有者しかアクセスできない情報が入っています。

*CONFIDENTIAL

この文書には会社の処理手順に従って処理しなければならない情報が入っています。

トップ

ユーザー権限 (USRAUT)

既存のユーザーの名前およびユーザー権限レベルを指定します。この文書に対して認可されたユーザーを変更するためには、このパラメーターを使用し、その文書に対する権限以上のユーザー権限を与えるか、その文書に対するユーザー権限を除去するか、あるいはその文書に対するユーザー権限を変更してください。

可能なユーザー・プロファイルの値は次の通りです。

*NONE

ユーザーは文書にアクセスする特定権限をもちません。

*PUBLIC

文書に対して特定権限をもちず、権限リスト上になく、またそのユーザー・グループが文書に対して特定権限をもっていないユーザーに権限が与えられます。

ユーザー・プロファイル名

文書に対する権限を与える1人または複数のユーザーのユーザー・プロファイル名を指定してください。

可能な権限レベルの値は次の通りです。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***AUTL**

権限リストプロンプト (AUTLパラメーター) に指定された権限リストの権限は文書に対して使用されます。*AUTL値が有効なのは、*PUBLICも指定された場合だけです。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

受け取り文書プロンプト (TODOCパラメーター) に指定された文書の保護に使用される権限リストの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

権限リストは指定されません。

権限リスト名

文書に対して使用する権限をもつ権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

アクセス・コード (ACC)

この文書で使用するアクセス・コードを指定します。アクセス・コードはシステムにすでに存在していなければなりません。アクセス・コードがすでに存在しているのでなければ、アクセス・コード追加(ADDACC)コマンドを使用してシステムに追加しなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この文書にはアクセス・コードは割り当てられません。この文書に対する権限は、**ユーザー権限**プロンプト (USRAUTパラメーター) および**権限リスト**プロンプト (AUTLパラメーター) で指定された値によって制御されます。

アクセス・コード

誰がこの文書を使用できるかを制御するアクセス・コード (範囲は0-2047)を指定してください。最

大50個のアクセス・コードを指定することができます。0のアクセス・コードを指定した場合には、すべてのユーザーに*USE権限が与えられます。

トップ

置き換え可能 (ALWRPL)

ファイル中の文書の文書内容を置き換え可能にする設定値を指定します。置き換え可能でない文書をファイルしている時にこのパラメーターを指定した場合には、そのパラメーターは無視されます。置き換え可能でない文書を置き換え可能の文書に変更することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***NO** ファイルしている文書の文書内容を置き換えることはできません。

***YES** ファイルしている文書の文書内容を置き換えることができます。

トップ

プロファイル・ファイル (IDPFILE)

文書プロファイル情報がどこにあるかを指定します。このパラメーターを指定した場合には、**プロファイル・メンバープロンプト** (IDPMBRパラメーター) より後の残りのパラメーター (**コマンド文字識別コードプロンプト**(CMDCHRID)パラメーターおよび**文書文字識別コードプロンプト**(DOCCHRID)パラメーターを除く)は無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

交換文書プロファイル(IDP)がこのコマンドの他のパラメーターによって指定されます。IDP情報が入っているデータベース・ファイルはありません。***NONE**を指定する場合には、**プロファイル・メンバープロンプト** (IDPMBRパラメーター)は無視されます。

***DSTIDIP**

配布文書と関連したIDP情報が使用されます。**プロファイル・メンバープロンプト** (IDPMBRパラメーター)は無視されます。これは、**TYPE(*DSTID)**を指定した時にだけ有効です。

***DOCFILE**

プロファイル情報は、文書に対して指定されたデータベース・ファイルにも入っています。***DOCFILE**を指定した場合には、文書プロファイル情報として**文書ファイルプロンプト** (DOCFILEパラメーター) および**文書メンバープロンプト** (DOCMBRパラメーター)が使用されます。

データベース・ファイル名

IDPが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。文書プロファイル・データベース・ファイルは、ユーザー定義ファイルとするか、あるいは配布受信(RCVDST)コマンドまたは文書検索(RTVDOC)コマンドに指定された出力ファイルとすることができます。ユーザー定義のファイルを指定する場合には、そのファイルの形式は、RCVDSTまたはRTVDOCで作成される出力ファイルと同じでなければなりません。出力ファイルを指定した場合には、文書プロファイル・レコードのデータ部分だけが出力ファイルから読み取られます。文書プロファイル・レコードから接頭部が取り除かれます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブのライブラリーとして現行ライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

プロファイル・メンバー (IDPMBR)

使用する交換文書ファイル・メンバー名を指定します。このパラメーターは、**プロファイル・ファイル**プロンプト (IDPFILEパラメーター) にもデータベース・ファイル名を指定した時にだけ使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

データベース・ファイルに作成された最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザー ID およびユーザー ID アドレスを要求と関連づけるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

自分自身で要求を実行します。

ユーザーID

別のユーザーのユーザー ID または自身のユーザー ID を指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

ユーザーIDアドレス

別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

文書ファイル (DOCFILE)

データベース・ファイルの名前および文書データが入っているライブラリーの名前を指定します。データベース・ファイルは、ユーザー定義ファイルであるか、あるいは配布受信(RCVDST)コマンドまたは文書検索(RTVDOC)コマンドのいずれかに指定されている出力ファイルです。出力ファイルが指定されている場合には、文書データ・レコードのデータ部分だけが出力ファイルから読み取られます。文書データ・レコードから接頭部が除去されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブのライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

データベース・ファイル名

文書データが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書メンバー (DOCMBR)

使用する文書データベース・ファイル・メンバーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

データベース・ファイルに作成された最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

配布識別コード (DSTID)

配布の固有の配布識別コードを指定します。配布識別コードは、配布の生成時にシステムによって割り当てられます。配布識別コードは配布QUERY(QRYDST) コマンドを使用して見つけることができます。識別コードは配布送信(SNDDST)コマンドからも戻されます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

配布識別コードは使用されません。

配布ID 送信元ユーザーIDの後半部分(右側に埋め込みをした8桁)、送信元ユーザーIDの前半部分(右側に埋め込みをした8桁)、および先行ゼロを含めて4桁のゾーン順序番号の3つの部分から構成される配布識別コードを指定してください。たとえば、'NEWYORK SMITH 0204'などです。**送信する情報**プロンプト(TYPE パラメーター)に*DSTIDを指定した場合には、このパラメーターが必須です。

[トップ](#)

配布IDエクステンション (DSTIDEXN)

配布識別コードプロンプト (DSTIDパラメーター) で指定された配布識別コードのエクステンション (ある場合) を指定します。この2桁のエクステンションは、重複した配布を固有に識別する01-99の範囲の値です。省略時の値は01です。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

重複した配布はありません。*NONEは01のエクステンションと同等です。

配布IDエクステンション

配布と関連したエクステンションを指定してください。これは重複した配布を固有に識別するために使用されます。

トップ

メール・ログに保管 (KEEP)

メール・ログにファイルされている配布文書のコピーを保存するか、メール・ログから配布を削除するか、あるいはメール・ログ中のファイル済み配布文書に対する参照を保存するか、そのいずれかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** ファイルが完了した後にメール・ログから配布文書を削除します。

***YES** メール・ログ中のファイル済み配布文書のコピーを保存します。

***REF** 配布文書は削除されますが、ファイル済み配布文書に対する参照はメール・ログに保存されます。

トップ

文書タイプ (DOCTYPE)

使用する文書のタイプを指定します。この識別コードは、データ・ストリームを正しく処理できるかどうかを調べるためにシステムによって使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***DFT** システムが、データのソース仕様に基づいて適切な文書タイプ識別コードを作成します。

***FFT** 文書は最終形式テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討され、印刷することを目的としたものですが、編集は行なわれません。

***RFT** 文書は変更可能テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討、印刷、および編集することができます。

文書タイプ番号

2-65,535の範囲の文書タイプ識別コードの値を指定してください。2-32,767の番号は、IBM文書交換アーキテクチャーでこれらを登録することによって制御され、IBM定義の文書タイプとして使用されます。32,768-65,535の範囲の番号は、IBMとしては登録されず、IBM定義以外の文書タイプとして使用することができます。これらの文書タイプの意味は、システム・コードプロンプト (SYSCODパラメーター) でシステム・コードの値を定義することによって決定しなければなりません。

システム・コード (SYSCOD)

使用される文書タイプを固有に識別することを容易にするために、**文書タイププロンプト** (DOCTYPEパラメーター) に指定される値とともに使用されるテキストを指定します。文書を編集、表示、印刷、または変更する文書データ・ストリームおよび処理要件は、データ・ストリームの受信者が決定します。

考えられる値は次の通りです。

***DFT** システムが省略時のシステム・コードを提供します。**文書タイププロンプト** (DOCTYPEパラメーター) に指定した値が2 - 32,767の範囲の数値である場合には、省略時の値は'IBM AS/400 CL'で、メッセージCPX9026から検索されます。**文書タイププロンプト** (DOCTYPEパラメーター) に指定した値が32,768 - 65,535の範囲の数値である場合には、システム・コードを指定しなければなりません。

システム・コード

送信する文書のタイプを固有に識別するテキストを指定してください。最大13文字を指定することができます。

文書記述 (DOCD)

ファイルする文書の記述を指定します。この記述は文書交換アーキテクチャー文書名フィールドにあるものです。

注: **プロファイル・ファイルプロンプト** (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***DFT** システムがデータベース・ファイルから文書記述を作成します。省略時の値は、データベース・ファイルの (ライブラリー名/ファイル名/メンバー名) です。印刷文書に対する参照だけをファイルするために**ファイルされる情報**プロンプト (TYPEパラメーター) に*IDPを指した場合には、省略時の文書名はハード・コピー文書参照で、メッセージCPX9025から取られます。導入先でこのメッセージを変更できますが、文書名に使用されるのは、最初の44桁だけです。**ファイルされる情報**プロンプト (TYPEパラメーター) に*DSTIDを指定した場合には、配布の送信時に指定された文書名が省略時の文書名になります。

文書記述

文書の記述を指定してください。最大44文字を指定することができます。

作成者 (AUTHOR)

文書の作成者（複数の場合もある）を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文書の作成者は識別されません。

***USRID**

ユーザー識別コードプロンプト（USRIDパラメーター）で指定されたユーザーIDおよびアドレスが作成者の名前として使用されます。

文書作成者名

作成者（複数の場合もある）の名前を指定してください。最大50人の作成者を指定することができます。

注: プロファイル・ファイルプロンプト（IDPFILEパラメーター）が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

文書クラス (DOCCLS)

MEMO, FORM,またはSHEETなど、この文書と関連したクラスを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文書にクラスは割り当てられません。

文書クラス

文書クラスを指定してください。最大16文字を指定することができます。

注: プロファイル・ファイルプロンプト（IDPFILEパラメーター）が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

キーワード (KWD)

文書を記述するキーワードを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この文書にキーワードは定義されません。

文書キーワード

文書を記述するキーワードを指定してください。最大50個のキーワードを指定することができます。各キーワードは、最大60桁とすることができます。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

主題 (SUBJECT)

文書の件名 (複数の場合もある) を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文書の件名は定義されません。

***DOCD**

文書記述が文書の件名として使用されます。

文書件名

文書の件名 (複数の場合もある) を指定してください。最大50個の件名を指定することができます。各件名は最大60文字のテキストとすることができます。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

文書日付 (DOCDATE)

ユーザーが文書に割り当てる必要のある日付を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文書に日付は割り当てられません。

***CURRENT**

システムが文書に現在のシステム日付を割り当てます。

文書日付

文書日付を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)

文書の位置を指定します。このパラメーターは印刷文書の位置を記述するためのものです。印刷文書を参照する交換文書プロファイル(IDP)が配布されます。**送信する情報**プロンプト (TYPEパラメーター) に*IDPを指定して、**プロファイル・ファイル**プロンプト (IDPFILEパラメーター) に*NONEを指定した場合には、このパラメーターは必須です。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この文書のファイリング・キャビネット参照は定義されません。

ファイリング・キャビネット参照

印刷文書がどこにあるかを記述するテキストを指定してください。最大60文字を指定することができます。

注: **プロファイル・ファイル**プロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

リスト・コピー (CPYLST)

この文書を受け取るユーザーの名前を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この文書のコピー・リストは組み込まれません。

宛先リスト

文書を受け取るユーザーの名前を指定してください。最大50個の名前を指定することができます。各名前は最大60文字とすることができます。

注: **プロファイル・ファイル**プロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

満了日 (EXPDATE)

文書が不要となる日付を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文書の満了日は指定されません。

満了日 文書満了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

注: **プロファイル・ファイル**プロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

参照 (REFERENCE)

文書と関連した参照を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この文書配布の参照フィールドは組み込まれません。

参照 文書と関連した参照を記述するテキストを指定してください。最大60文字を使用することができます。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

トップ

処置期日 (ACTDATE)

要求された処置の期日となる日付を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

処置期日要求は指定されません。

***CURRENT**

現行のシステム処置期日を使用されます。

処置期日

処置期日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

トップ

文書状況 (STATUS)

文書のユーザー定義状況を指定します。状況の例は、処理中、承認保留、または廃棄などです。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

この文書には状況は組み込まれません。

文書の状況

文書の状況を記述するテキストを指定してください。最大20文字を指定することができます。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

完了日 (CMPDATE)

要求された処置が完了する日付を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

完了日は組み込まれません。

***CURRENT**

現在のシステム日付が完了日として使用されます。

完了日 処置完了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

トップ

プロジェクト (PROJECT)

文書と関連したプロジェクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

プロジェクト・フィールド情報はこの文書に組み込まれません。

プロジェクト

文書のプロジェクトを記述するテキストを指定します。最大10文字を指定することができます。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

トップ

文書文字識別コード (DOCCHRID)

使用中の文書データの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字識別コードは、文書データの作成で使用した表示装置と関連しています。

注: プロファイル・ファイルプロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ

値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

図形文字セットコード・ページ

配布するデータの作成に使用する図形文字セットおよびコード・ページ値を指定してください。

注: 両部分ともその長さは最大5桁とすることができます。

[トップ](#)

言語識別コード (DOCLANGID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる言語識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された言語識別コードが使用されます。

言語識別コード

言語識別コードを指定してください。有効な識別コードのリストを表示するためには、**言語識別コード**プロンプト (DOCLANGIDパラメーター) からPF4キーを押してください。

注: **プロファイル・ファイル**プロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

国別または地域ID (DOCCNTRYID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる国別または地域の識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された国別または地域の識別コードが使用されます。

国別または地域ID

国別または地域識別コードを指定します。有効な識別コードのリストを表示するためには、**国別または地域ID**プロンプト (DOCCNTRYIDパラメーター) からPF4キーを押してください。

注: **プロファイル・ファイル**プロンプト (IDPFILEパラメーター) が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

個人 (PERSONAL)

文書配布が私用であるかどうかを指定します。このパラメーターはSENSITIVで置き換えられますが、今まで通りPERSONALパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、でき得る限りSENSITIVパラメーターを使用してください。

PERSONAL(*YES)を使用する場合には、SENSITIVパラメーターを省略するか、あるいはこれを値SENSITIV(*NONE)と一緒に使用しなければなりません。このパラメーターを指定しないでコマンドのプロンプトが出された場合には、このパラメーターは表示されません。

考えられる値は次の通りです。

- *NO** 機密でない文書にアクセスできるのは、所有者およびその文書に対して認可されているユーザーだけです。この文書にアクセスできる他のユーザーに代行して処理が許可されたユーザーは、機密でない文書にアクセスすることができます。この値はSENSITIV(*NONE)にマップされます。
- *YES** 私用文書にアクセスできるのはその所有者だけです。この文書にアクセスできる他のユーザーに代行して処理が許可されたユーザーは、この文書へのアクセスは得られません。この値はSENSITIV(*PRIVATE)にマップされます。

トップ

配布満了標識 (DSTEXPDATE)

メール・ログ内に配布が必要でなくなる日付および時刻を指定します。

指定できる配布満了日の値は次の通りです。

***NONE**

満了日なし

***CURRENT**

現在の日付が使用されます。

'満了日'

満了日として使用する値を指定してください。日付は、システム値QDATFMT によって指定された形式で指定しなければなりません。

指定できる配布満了時刻の値は次の通りです。

***ENDOFDAY**

満了時刻は指定された日付の終わりまでに要求されます。時刻は23:59:59に設定されます。

'満了時刻'

満了時刻として使用する値を指定してください。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字識別コードはコマンドの入力に使用される表示装置に関連づけられています。

CMDCHRIDパラメーターは次のパラメーターに適用され、文書にアクセスする表示装置がフィールドを正しく印刷または表示できるように文字セットおよびコード・ページがフィールドと一緒に記憶されることを意味します。フィールドは、検索データベースに書き出される時に、共通文字セットおよびコード・ページに変換されます。交換可能文字セットおよびコード・ページは'697 500'です。

次のフィールドが変換されます。

- ユーザー識別コード (USRID)
- 配布識別コード (DSTID)
- 文書システム・コード (SYSCOD)
- 文書記述 (DOCD)

- 作成者 (AUTHOR)
- 文書クラス (DOCCLS)
- キーワード (KWD)
- 主題 (SUBJECT)
- ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)
- リスト・コピー (CPYLST)
- 参照 (REFERENCE)
- 文書状況 (STATUS)
- プロジェクト (PROJECT)

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVD

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

FILDOCの例

例1:個人用文書のファイリング

```
FILDOC TYPE(*FILE) DOCFILE(MARYLIB/MARYFILE)
      SENSITIV(*PRIVATE) IDPFILE(*DOCFILE)
```

このコマンドは、文書内容および文書概要情報が入っているデータベース・ファイルを使用して私用文書をファイルします。配布ID拡張の省略時の値は01 (DSTID(01))です。

例2:配布文書のファイリング

```
FILDOC TYPE(*DSTID) DSTID('NEWYORK SMITH 0201') DSTID(02)
      DOCCLS('NEW CLASS') TODOC(DST0201) TOFLR(FLRDST)
```

このコマンドは、文書ライブラリーQDOC内の配布文書を文書DST0201およびフォルダーFLRDST内にファイルします。文書クラスは配布文書内で変更されていて、ユーザーに配布済みの2番目の配布がファイルされます。

エラー・メッセージ： FILDOC

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF901B

文書ファイル要求が正常に実行されなかった。

CPF902B

*AUTLの権限はUSRAUT(*PUBLIC)でしか使用することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD), DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

データの様式設定 (FMTDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ形式設定(FMTDTA)コマンドは、ソース・ファイル・メンバーに記憶されている一連の分類仕様を処理します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INFILE	入力ファイル	値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST	
OUTFILE	出力ファイル	要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QFMTSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 4
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 5
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSVRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTION	オプション:	値 (最大 8 回の繰り返し): *CHK, *NOCHK, *PRT, *NOPRT, *DUMP, *NODUMP, *NOSECLVL, *SECLVL	オプション, 定位置 6
PGMDATE	プログラム日付:	日付, *CURRENT	オプション

[トップ](#)

入力ファイル (INFILE)

入力データとして使用するファイルの名前を最高 8 つまで指定します。データベース・ファイルの場合には、各ファイル名ごとに 1 つのメンバー名を指定することができます。ディスク・ファイルの場合には、各装置ファイル名ごとにディスク識別コードを指定することができます。これは必須パラメーターです。

ファイル名

入力に使用するファイルの名前を入力してください。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

ライブラリー名

入力ファイルのライブラリーの名前を入力してください。

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが入力に使用されます。

データ・ファイル識別コード

ディスク・ファイルの場合には、指定した各装置ファイル名ごとに1つのデータ・ファイル識別コードを入力してください。1つの装置ファイル名に対して複数のディスク・データ・ファイル処理する場合には、装置ファイル名は必要な回数だけ指定してください。

メンバー名

データベース・ファイルの場合には、指定した各データベース・ファイル名ごとに1つのメンバー名を入力してください。同じデータベース・ファイルの複数のメンバーを処理する場合には、データベース・ファイル名は必要な回数だけ指定してください。

[トップ](#)

出力ファイル (OUTFILE)

出力に使用するファイル名およびメンバー名を指定します。このパラメーターで指定する前に、ファイルとメンバーの両方が存在していなければなりません。これは必須パラメーターです。

ファイル名

使用する出力ファイルの名前を入力してください。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

ライブラリー名

出力ファイルのライブラリー名を入力してください。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力に使用されます。

メンバー名

出力に使用する出力ファイルのメンバー名を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

実行する分類仕様が入っているソース・ファイルの名前を指定します。ソース・ファイルは装置ファイルまたはデータベース・ファイルのいずれでも構いませんが、ソース・ファイルの属性をもっていなければなりません。

QFMTSRC

弊社提供ソース・ファイル(QFMTSRC)には分類仕様が入っています。

ソース・ファイル名

分類仕様が入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

実行する分類仕様が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイルは装置ファイルまたはデータベース・ファイルのいずれでも構いませんが、ソース・ファイルの属性をもっていなければなりません。

***FIRST**

分類仕様が入っているソース・ファイルの最初のメンバーが実行されます。

データ・ファイル識別コード

データ・ファイルがディスクットにある場合には、分類仕様ステートメントが入っているディスクット・データ・ファイル識別コードの名前を入力してください。

メンバー名

実行する分類仕様が入っているソース・ファイルのメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

印刷ファイル (PRTFILE)

印刷データが送られる印刷装置ファイルの名前を指定します。

QSYSPRT

データはシステム印刷装置で印刷されます。

印刷ファイル名

データを印刷する印刷装置ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

オプション: (OPTION)

分類ユーティリティーの実行中に使用する順序検査および印刷オプションを指定します。

***CHK** 分類仕様は順序検査されます。

***NOCHK**

分類仕様は順序検査されません。

***PRT** 分類仕様とエラー・メッセージまたは通知メッセージが印刷されます。

***NOPRT**

分類仕様とエラー・メッセージまたは通知メッセージは印刷されません。

***NODUMP**

問題分析に使用される内部テーブルは印刷されません。

***DUMP**

問題分析に使用される内部テーブルが印刷されます。

***NOSECLVL**

コンパイル中に検出されたエラーに対して第2レベル・テキストの印刷は行なわれません。

***SECLVL**

コンパイル中に検出されたエラーに対して第2レベル・テキストが印刷されます。

[トップ](#)

プログラム日付: (PGMDATE)

レコード仕様のキーワードとして項目2で使用される日付を指定します。

***CURRENT**

コマンド処理時点の現行システム日付を使用します。

***DATE**

システム値QDHTFMTによって指定されるか、あるいは区切り記号を使用する場合には、QDATSEPによって指定される形式で、日付を入力します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

メッセージ・カタログの生成 (GENCAT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

このコマンドはメッセージ・カタログ組合わせ(MRGMSGCLG)コマンドの別名であり、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

• MRGMSGCLG

メッセージ・カタログ生成(GENCAT)コマンドは、1つまたは複数のソース・ファイル (SRCFILEパラメーター) からのメッセージ・テキストを、指定されたメッセージ・カタログ (CLGFILEパラメーター) 内のメッセージ・テキストと組み合わせます。指定されたカタログが存在していない場合には、CLGCCSID, DTAAUT,およびOBJAUTパラメーターに指定された値を使用してそのカタログが作成されます。指定されたカタログがすでに存在している場合には、既存のメッセージ・カタログのCCSID, DTAAUT,およびOBJAUT属性が使用されます。

最大300のメッセージ・テキスト・ソース・ファイルを指定することができます。メッセージ・テキスト・ソース・ファイルは指定された順に処理されます。各ソース・ファイルが次から次へと連続的にカタログを変更します。メッセージ・カタログにすでに存在しているメッセージ番号がソース・ファイルにある場合には、メッセージ・カタログ・ファイル内の古いメッセージ・テキストは、ソース・ファイルに定義されている新しいメッセージ・テキストに置き換わります。メッセージ・カタログに存在していないメッセージ番号がソース・ファイルにある場合には、そのメッセージ情報がメッセージ・カタログに追加されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLGFILE	メッセージ・カタログ名	パス名	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル・パス名	値 (最大 300 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 2
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
CLGCCSID	メッセージ・カタログの CCSID	1-65533, *SRCCSID , *JOB	オプション
SRCCSID	ソース・ファイルのCCSID	1-65533, *SRCFILE , *JOB	オプション
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR , *NONE, *RWX, *RX, *RW, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR , *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション

トップ

メッセージ・カタログ名 (CLGFILE)

変更または作成するメッセージ・カタログのパス名を指定します。ストリーム・ファイル・パス名内のすべてのディレクトリが存在していなければなりません。指定されたパス名をもつストリーム・ファイルが存在していない場合には、指定されたファイル名をもつメッセージ・カタログが作成されます。そのパス名が QSYSファイル・システムにある場合には、そのファイルが存在していなければなりません。QSYSファイル・システムにファイル・メンバーが存在していない場合には、それが作成されます。複数のデータ・フィールドをもつソース物理ファイルはサポートされていません。

[トップ](#)

ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)

メッセージ・カタログと組み合わせるメッセージ・テキストが入っているソース・ファイルのパス名を指定します。ファイルがQSYSファイル・システムからのものである場合には、それはデータベース・ソース物理ファイルでなければなりません。

注: ソース・ファイルがレコード・ファイルでない場合には、ソース・ファイル中の各行は、ソース・ファイルの作成時には改行または行送り文字で終了していなければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

メッセージ・カタログを簡単に記述したテキストを指定します。

注: オブジェクトへのテキストの割り当ては、メッセージ・カタログに使用されているファイル・システムまたはオブジェクト・タイプによって提供されるサポートにより異なります。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

8 桁のブランク文字からなるモード名が使用されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

メッセージ・カタログのCCSID (CLGCCSID)

メッセージ・テキストをメッセージ・カタログに入れる際のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。メッセージ・カタログがストリーム・ファイルの場合には、入力されたCCSID値がストリーム・ファイルの属性を設定するために使用されます。メッセージ・カタログのCCSIDを表示するには、オブジェクト・リンク処理(WRKLNK) コマンドを使用します。QSYSファイル・システム内のメッセージ・カタログのCCSID を調べるには、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを使用します。

考えられる値は次の通りです。

***SRCCSID**

ソース・ファイルのCCSID (SRCCSIDパラメーター) に指定された値からCCSID が決定されることを示す特殊値。

***JOB** カタログ情報の代わりにジョブのCCSIDが使用されることを示す特殊値。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

コード化文字セットID

カタログ情報の代わりに使用されるCCSIDを指定してください。値0, 65534,および65535は無効です。

トップ

ソース・ファイルのCCSID (SRCCSID)

ソース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SRCFILE**

CCSIDが最初のソース・ファイル (SRCFILEパラメーター) のCCSIDから決定されることを示す特殊値。

***JOB** ソース・ファイルのCCSIDにジョブのCCSIDが使用されることを示す特殊値。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

コード化文字セットID

ソース・ファイルのCCSIDを指定してください。値0, 65534,および65535は無効です。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

作成されるオブジェクトの中のデータに対してユーザーに与えられる共通権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

作成されるオブジェクトに対する権限は、それが作成されるディレクトリーによって決まります。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***RWX** ユーザーには、オブジェクトに対する*RWX権限が与えられます。*RWX権限により、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在、オブジェクト管理、オブジェクト変更、およびオブジェクト参照権限によって制御される操作を除いて、オブジェクトについてのすべての操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できます。*RWX権限は、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を提供します。

***RX** *RX権限により、ユーザーはプログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトにおける基本操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。*RX権限は、オブジェクト操作権と読み取りおよび実行の権限を提供します。

***RW** *RW権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示および変更できます。*RW権限は、オブジェクト操作権およびデータの読み取り、追加、更新、および削除権限を提供します。

***WX** *WX権限により、ユーザーはオブジェクトの内容の変更、プログラムの実行、およびライブラリーまたはディレクトリーの検索ができます。*WX権限は、オブジェクト操作権と、データの追加、更新、削除、および実行権限を提供します。

***R** *R権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示できます。*R権限は、オブジェクト操作権およびデータ読み取り権を提供します。

***W** *W権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を変更できます。*W権限は、オブジェクト操作権、およびデータの追加、更新、削除権限を提供します。

***X** *X権限により、ユーザーはプログラムを実行したり、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索できます。*X権限は、オブジェクト操作権およびデータ実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

除外権限は、ユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値が*NONEでなければなりません。

***NONE**

ユーザーはオブジェクトに対するデータ権限を何も認可されません。この値をOBJAUT値*NONEと一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ユーザーに与えられるオブジェクトに対する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このオブジェクトが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***NONE**

他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照権限）はユーザーに認可されません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リスト名を指定する場合には、この値を指定しなければなりません。

***ALL** 他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、および参照権限）のすべてがユーザーに認可されます。

あるいは、次の値を最大4つまでを指定します。

***OBJEXIST**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト存在権限を認可されます。

***OBJMGT**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト管理権限を認可されます。

***OBJALTER**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト変更権限を認可されます。

***OBJREF**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト参照権限を認可されます。

[トップ](#)

GENCATの例

MRGMSGCLGの例

```
MRGMSGCLG  CLGFILE('/USDIR/USMSG.CAT')  CLGCCSID(*SRCCSID)
           SRCFILE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MSGSRC.FILE/USMSG.MBR')
           DTAAUT(*R)  TEXT('MESSAGE CATALOG FOR USA')
```

このコマンドは、QSYSファイル・システム中のライブラリーMYLIBにあるソース物理ファイルMSGSRCのメンバーUSMSGのメッセージ・テキストをディレクトリーUSDIR中のメッセージ・カタログUSMSG.CATと組み合わせます。メッセージ・カタログがまだ存在しない場合には、ソース・ファイルのCCSIDおよびデータ権限*Rで作成されます。テキスト・パラメーターは、これをUSAのメッセージ・カタログとして記述します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： GENCAT

*ESCAPEメッセージ

CPF3BE3

メッセージ・カタログ&1が作成または更新されていない。

[トップ](#)

コマンド文書の生成 (GENCMDDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド文書生成(GENCMDDOC)コマンドは、制御言語(CL)コマンドの文書を含む出力ファイルを生成します。生成されるファイルは次のいずれかです。

- **生成オプション (GENOPT)**パラメーターに*HTMLを指定した場合には、ファイルにハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)ソースが入ります。生成されたファイルは、標準のインターネット・ブラウザを使用して表示でき、HTML 4.0の仕様を満たしています。ファイルの生成に使用する情報は、指定されたコマンド(*CMD)オブジェクトおよびコマンドと対応するコマンド・ヘルプ・パネル・グループ(*PNLGRP)オブジェクトから検索されます。
- GENOPTパラメーターに*UIMを指定すると、ファイルにはユーザー・インターフェース管理機能(UIM)ソースが入ります。生成されるソースは、そのコマンドのオンライン・コマンド・ヘルプの概要です。ファイルの生成に使用する情報は、指定されたコマンド(*CMD)オブジェクトだけから検索されます。このオプションは、CLコマンドのオンライン・ヘルプの作成タスクの単純化を目的にしています。

UIMを使用したコマンド文書作成の詳細については、CLプログラミング (SD88-5038)を参照してください。

制約事項:

- 指定するコマンドに対する使用(*USE)権限、およびコマンドが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限をもっていなければなりません。コマンド名に総称名または*ALLを指定した場合には、*USE権限をもっていないコマンドの出力ファイルは生成されません。
- 指定するコマンドのコマンド・ヘルプ情報を含む各関連パネル・グループについて、そのパネル・グループに対する*USE権限、およびパネル・グループが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限をもっていなければなりません。
- 生成されるファイルのパス中のディレクトリーに対する実行(*X)権限、および生成されるファイルの親ディレクトリーに対する書き込みおよび実行(*WX)権限がなければなりません。
- 出力ファイルがすでに存在している場合には、そのファイルに対する書き込み(*W)権限が必要で、**ファイルの置き換え (REPLACE)**パラメーターに*YESを指定する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: コマンド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TODIR	TOディレクトリー	パス名, .	オプション
TOSTMF	TOストリーム・ファイル	文字値, *CMD	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
GENOPT	生成オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *HTML, *UIM, *NOSHOWCHOICEPGMVAL, *SHOWCHOICEPGMVAL, *NOSERVICE, *SERVICE	オプション

トップ

コマンド (CMD)

文書出力ファイルを作成する対象のコマンドを指定します。

注: コマンド名に総称コマンド名または*ALLを指定した場合には、ライブラリー名修飾子として*LIBLを使用することはできず、**TOストリーム・ファイル (TOSTMF)**パラメーターは*CMDでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

***ALL** 指定したライブラリー中のすべてのコマンドの文書ファイルが生成されます。

総称名 文書ファイルが生成されるコマンドの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称コマンド名と同じ接頭部で始まる名前をもつすべてのコマンドの文書ファイルが生成されます。

名前 文書出力ファイルを生成したいコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

TOディレクトリー (TODIR)

生成されたコマンド文書ファイルを保管するディレクトリーを指定します。このディレクトリー内で使用されるファイル名は、**TOストリーム・ファイル (TOSTMF)**パラメーターによって指定されます。

!? 出力ファイルは、現行作業ディレクトリーに保管されます。

パス名 生成された出力ファイルを保管するディレクトリーのパス名を指定します。

トップ

TOストリーム・ファイル (TOSTMF)

生成されたコマンド文書ファイルの保管に使用するターゲット・ストリーム・ファイルを指定します。指定されたファイルは、**TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターに指定されたディレクトリー・パスを使用して見付けられます。

注: コマンド (**CMD**)パラメーターに総称コマンド名または*ALLを指定した場合には、このパラメーターに指定する値または省略時の値として使用する値は、*CMDでなければなりません。

***CMD** TODIRパラメーターで、ターゲットが/QSYS.LIBファイル・システム中にあることが指定されている場合には、生成されるファイル名は、コマンド名と同じになります。

そうでない場合には、生成されるファイル名は、**生成オプション (GENOPT)**パラメーターに*HTMLまたは*UIMのいずれかが指定されたかに依存します。*HTMLを指定した場合に生成されるファイル名は、**LIBNAME_CMDNAME.HTML**になりますが、この**CMDNAME**はコマンド名で、**LIBNAME**はコマンドが入っているライブラリーの名前です。*UIMを指定した場合に生成されるファイル名は、**LIBNAME_CMDNAME.UIM**になります。

文字値 生成されるコマンド文書ファイルに使用する名前を指定します。

[トップ](#)

ファイルの置き換え (REPLACE)

指定されたか生成されたファイル名(TOSTMFパラメーター) によって、ターゲット・ディレクトリー (TODIRパラメーター) 中の既存ファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 指定された名前または暗黙の名前のファイルがすでに存在している場合には、ファイルの内容が、生成されたコマンド文書ファイルによって置き換えられます。

***NO** 指定された名前または暗黙の名前のファイルがすでに存在している場合には、エラー・メッセージが送られて、コマンド文書ファイルは生成されません。ターゲット・ディレクトリー中に同じ名前のファイルが存在しない場合には、そのファイルが作成され、エラー・メッセージは送られません。

[トップ](#)

生成オプション (GENOPT)

生成するコマンド情報を制御するオプションを指定します。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定できます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線で示した値は、省略時の値と類似していますが、実際には省略時の値ではないので、コマンドの省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドでは変更できません。

生成ソース・オプション

***HTML**

生成されるファイルには、ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)ソースが入ります。生成されたファイルは、標準のインターネット・ブラウザを使用して表示でき、HTML 4.0の仕様を

満たしています。ファイルの生成に使用する情報は、指定されたコマンド(*CMD)オブジェクトおよびコマンドと対応するコマンド・ヘルプ・パネル・グループ(*PNLGRP)オブジェクトから検索されます。

- *UIM** 生成されるファイルにはユーザー・インターフェース管理機能(UIM)ソースが入ります。生成されるソースは、そのコマンドのオンライン・コマンド・ヘルプの概要です。ファイルの生成に使用する情報は、指定されたコマンド(*CMD)オブジェクトだけから検索されます。このオプションは、CLコマンドのオンライン・ヘルプの作成タスクの単純化を目的にしています。生成されたファイルを編集してコマンドの記述テキストを追加し、そのソースをソース・ファイル・メンバーに保管すると、このUIMソースをパネル・グループ作成(CRTPNLGRP)コマンドへの入力として使用して、このコマンドのコマンド・ヘルプ・パネル・グループを作成できます。

UIMを使用したコマンド文書作成の詳細については、CLプログラミング (SD88-5038)を参照してください。

選択プログラム値オプション

***NOSHOWCHOICEPGMVAL**

関連した選択プログラムをもつコマンド・パラメーターについて、生成されるパラメーター要約テーブルに選択プログラムから戻される値を表示しません。選択プログラムの値は、システムによって異なります。選択プログラム値を表示しないことによって、コマンド・オブジェクトで定義されたパラメーター値だけが与えられます。

***SHOWCHOICEPGMVAL**

関連した選択プログラムをもつコマンド・パラメーターについて、生成されるパラメーター要約テーブルに選択プログラムの呼び出しから戻される値を表示します。選択プログラム値を表示することによって、このシステム上でコマンドのプロンプトが出された場合に表示されるのと同じパラメーター値が与えられます。

サービス・オプション

***NOSERVICE**

追加の追跡またはダンプ情報は生成されません。

***SERVICE**

このオプションは、コマンドが正常に機能しないで、ソフトウェア・サービス・プロバイダーからこの問題のAPARを作成するように依頼された場合に使用することを目的にしています。このオプションを指定すると、追加の追跡およびダンプ情報が生成されます。生成されたこの追加情報をAPARと一緒に送ってください。

トップ

GENCMDDOCの例

例1: OS/400コマンドのHTML文書を生成

GENCMDDOC CMD(CRTUSRPRF)

このコマンドは、CRTUSRPRFコマンドの文書ファイルを生成します。このコマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストを使用して見付けられます。生成されたストリーム・ファイルは、ジョブの現行作業ディレクトリーに保管されることとなります。このコマンドがライブラリーQSYSで見つかり、ファイル名はQSYS_CRTUSRPRF.HTMLになります。その名前前のファイルがすでにターゲット・ディレクトリーに存在している場合には、生成されたファイルがそのファイルを置き換えます。

例2:ユーザー・コマンドのUIM文書を生成

```
GENCMDDOC  CMD(MYLIB/MYCMD)
            TODIR('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/QPNLSRC.FILE')
            TOSTMF('MYCMD.MBR') REPLACE(*NO) GENOPT(*UIM)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに入っているコマンドMYCMDの文書ファイルを生成します。生成されるファイルは、ライブラリーMYLIBのファイルQPNLSRCにメンバー名MYCMDとして保管されることとなります。ターゲット・ファイル中にこの名前のメンバーがすでに存在している場合には、エラー・メッセージが送られ、文書ファイルは生成されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： GENCMDDOC

*ESCAPE メッセージ

CPF6E74

&1個のコマンド文書が失敗しました。&2個のコマンド文書は正常に作成されました。

CPF6E75

CMDパラメーターでエラーが検出されました。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

メニュー表示へ (GO)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー表示(GO)コマンドは、要求されたメニューを表示します。このコマンドでは特定のメニュー名または総称メニュー名を指定することができます。指定されたメニューが表示された後で、このコマンドを入力したメニューに戻るかどうかを任意に指定することができます。

前画面および終了キーの使用

メニューは、実行される前に内部メニュー・スタックに入れられます。スタックがメニューに使用可能でない場合には、1つのスタックが作成されます。メニューについて取り消しキーが押された場合には、スタック中の前のメニューが表示されます。各メニュー・スタックは、10要素（メニュー）の深さです。11番目のメニューがメニュー・スタックに入れられた場合には、最初の、つまり最も古い、メニューがスタックから除去されます。取り消しキーを使用してこのメニューに戻ることはできません。

終了キーを押すと、RTNPNT(*YES)を指定したGOコマンドを入力した直前の画面またはメニューに戻ります。戻る先の画面は、戻り点が見つかるまでメニュー・スタックのメニューを除去することによって見つけられます。この処理では、また、プログラムが戻り点になっていない場合に、呼び出しスタック中のプログラムがその呼び出し側プログラムに戻る原因となることがあります。

メニューに関するヘルプの表示中に終了キーか取り消しキーを押すと、そのメニューに戻ります。

制約事項:

- メニューおよびその画面とメッセージ・ファイルまたはプログラム（どちらか適用される方）に対する使用(*USE)権限が必要です。
- また、メニューが入っているライブラリーに対する*USE権限も持っていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
RTNPNT	戻り点	*YES, *NO	オプション, 定位置 2

トップ

メニュー (MENU)

表示されるメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

***ALL** 指定したライブラリーの中のすべてのメニューのリストが表示されます。このリストから、実行するメニューを選択することができます。

総称名 実行するメニューの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称メニュー名と同じ文字で始まる名前を持つすべてのメニューのリストが表示され、このリストから、実行するメニューを選択します。

名前 表示するメニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQRDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQRPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

戻り点 (RTNPNT)

終了キーを押した時に、このコマンドを入力した画面に戻るかどうかを指定します。

***YES** 終了キーを押すと、このコマンドを入力した画面に戻ります。

***NO** 終了キーを押しても、このコマンドを入力した画面には戻りません。

トップ

GOの例

GO MENU(PERSMENU)

このコマンドは、ライブラリー・リスト (省略時の値*LIBL)の検索によって見付けられるライブラリーに入っているPERSMENUというメニューを実行します。

PERSMENUが表示されている時に「終了」キーを押すと、GOコマンドを入力した画面(RTNPNTパラメータ一の省略時の値*YES)が表示されます。

トップ

エラー・メッセージ: GO

***ESCAPE** メッセージ

CPF6ACD

&2のメニュー&1がシステムのバージョンと違っている。

CPF6AC7

ライブラリー&2のメニュー&1が表示できない。

トップ

GO TO (GOTO)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

GO TO (GOTO)コマンドは、プログラムのある部分から別の部分に分岐するためにCLプロシージャー中で使用されます。分岐は、GO TO(GOTO)コマンドに指定されている別のコマンドのラベルに対して行なわれます。分岐は正方向または逆方向のいずれかに行なうことができますが、指定されるラベルはプログラム中に入っていないければなりません。

制約事項:このコマンドはCLプロシージャー内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMDLBL	コマンド・ラベル	単純名	必須, 定位置 1

トップ

コマンド・ラベル (CMDLBL)

GO TO(GOTO)が処理される時に制御権が移されるコマンドのラベル名を指定します。次に、ラベルのあるコマンドが処理されます。指定されたコマンドを実行することができない場合（たとえば、これがDCLコマンドである場合）には、指定されたラベルをもつコマンドの後にある次のコマンドに制御が転送されます。このラベルはGOTOコマンドと同じプログラム中になければなりません。ラベル名を指定するために、CL変数名を使用することはできません。

これは必須パラメーターです。

トップ

GOTOの例

```
LOOP: CHGVAR &A (&A + 1)
```

```
IF (&A *LT 30) THEN(GOTO LOOP)
```

変数変更(CHGVAR)コマンドは、&Aが30以上になるまで、&Aの値を1ずつ増やします。IFコマンドが式をテストして、結果が真になるたびに、GOTOコマンドが処理されます。THENパラメーターの次のGOTOコマンドにより、プロシージャーは分岐してCHGVARコマンドのラベルLOOPに戻ります。CHGVARコマンドおよびIFコマンドの機能の詳細については、これらのコマンドの説明を参照してください。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: GOTO

なし

[トップ](#)

アクセス・コード権限認可 (GRTACCAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・コード権限認可(GRTACCAUT)コマンドにより、アクセス・コードと関連した文書およびフォルダーにアクセスする権限を指定されたユーザーに与えることができます。アクセスは読み取り専用(*USE権限)に制限されます。

制約事項:

1. アクセス・コード権限を認可するためには、システムにアクセス・コードを定義しなければなりません。
2. アクセス・コード権限が認可されるユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
3. このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACC	文書アクセス・コード	単一値: *REFUSER その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 1-2047	必須, 定位置 1
USER	ユーザー・プロファイル	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
REFUSER	参照ユーザー・プロファイル	名前, *NONE	オプション

トップ

文書アクセス・コード (ACC)

ユーザー・プロファイルプロンプト (USERパラメーター) で識別されるユーザーが使用することを認可するアクセス・コードを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

*REFUSER

認可しているアクセス・コード権限は2番目の(参照される)ユーザー・プロファイル名に基づいて決められます。その名前は参照ユーザー・プロファイルプロンプト (REFUSERパラメーター) で入力しなければなりません。

アクセス・コード

権限を認可したいアクセス・コードを識別する番号 (範囲は1 - 2047)を指定してください。このア

アクセス・コードは、このパラメーターで指定する前に、アクセス・コード追加(ADDACC)コマンドを使用してシステムに対して定義しなければなりません。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USER)

アクセス・コード権限を認可するユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。識別されたユーザーは、認可されたアクセス・コードの現行リストに追加されるアクセス・コードをもつこととなります。このアクセス・コードは、文書ライブラリーからの追加の文書およびフォルダー・アクセスを検査するために使用されます。アクセス・コードを使用する権限を認可する前に、ユーザーをシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

注: アクセス・コードをグループ・ユーザー・プロファイルに認可することによって、そのアクセス・コードはそのグループのもとにあるすべてのユーザーに（暗黙に）認可されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

参照ユーザー・プロファイル (REFUSER)

アクセス・コード権限の基礎となっている参照されるユーザー・プロファイルを指定します。このパラメーターを使用する場合には、**文書アクセス・コードプロンプト (ACCパラメーター)** で*REFUSERを入力しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

参照されるユーザーはアクセス・コード権限を認可するために使用されません。

基礎になっているユーザー・プロファイル

アクセス・コード権限が基礎になっているユーザー・プロファイル名を指定してください。このユーザーもシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

[トップ](#)

GRTACCAUTの例

例1:複数ユーザーへの権限の認可

```
GRTACCAUT ACC(3 30 60) USER(SAM LARRY)
```

このコマンドは、アクセス・コード3, 30,および60に対する権限をSAMおよびLARRYに付与します。

例2:別のユーザーを基にした権限の認可

```
GRTACCAUT ACC(*REFUSER) USER(JOE) REFUSER(TOM)
```

このコマンドは、アクセス・コード権限をTOMの権限を基にしたJOEに付与します。たとえば、JOEが現在はアクセス・コード1, 12,および50に対する権限をもっていて、TOMが現在はアクセス・コード8および9に対する権限がある場合は、GRTACCAUTコマンドはJOEにアクセス・コード1, 8, 9, 12,および50に対する権限を認可します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： GRTACCAUT

*ESCAPEメッセージ

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9013

アクセス・コード権限が&1ユーザーに与えられたが、&2ユーザーには認可されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9065

アクセス・コード権限を与えることはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドは、このコマンドに指定されたオブジェクトについて、特定の権限を別のユーザーまたはユーザーのグループに対して認可します。

次に対して権限を認可することができます。

- 名前の付いているユーザー
- オブジェクトまたは権限リストに対する特定の権限を持っていないユーザー(*PUBLIC)
- 参照オブジェクト (REFOBJ)および参照オブジェクト・タイプ (REFOBJTYPE)パラメーターで参照されたオブジェクトのユーザー
- 権限リスト

AUT(*AUTL)が指定されている場合には、オブジェクトに対するPUBLIC権限はそのオブジェクトを保護している権限リストのPUBLIC権限から取り出されます。

AUTLパラメーターは、権限リストによってオブジェクトを保護したり、あるいはオブジェクトから権限リストを除去するために使用されます。ユーザー・プロファイルを権限リスト(*AUTL)によって保護することはできません。

このコマンドを使用できるのは、オブジェクトの所有者または指定されたオブジェクトに対してオブジェクト管理権限を持つユーザーです。オブジェクト管理権限を持つユーザーは、別のユーザーに、オブジェクト管理権限以外の自分が持っているすべての権限を認可することができます。ユーザーにオブジェクト管理権限を認可できるのは、そのオブジェクトの所有者または全オブジェクト特殊権限 (*ALLOBJ)を持っている担当者だけです。

*ALL権限を持つユーザーは、新しい権限リストを割り当てることができます。

権限をユーザーに認可する場合に、REPLACEパラメーターは、指定する権限でユーザーの既存の権限を置き換えるかどうかを指示します。省略時の値REPLACE(*NO)は指定された権限を付与しますが、*EXCLUDE権限を認可していない限り、指定された権限より大きい権限を除去しません。REPLACE(*YES)はユーザーの現行権限を除去してから、指定された権限を認可します。

権限を参照オブジェクトによって認可すると、このコマンドは指定された権限を付与しますが、*EXCLUDE権限を認可していない限り、指定された権限より大きい権限を除去しません。

このコマンドはユーザーが指定する権限を認可しますが、ユーザーが*EXCLUDE権限を認可されているか、REPLACE(*YES)を指定しない限り、指定したものより大きい権限を除去することはありません。

制約事項:

1. ユーザーに読み取りまたはオブジェクト操作権を与える前に、このコマンドはデータベース・ファイルで排他ロックを行なわなければなりません。
2. 認可された別のユーザーが現在使用中の装置に対して、他に指定されたユーザーの権限をユーザーが要求した場合には、その装置に対する権限は与えられません。

3. オブジェクト・タイプ*AUTLを指定することはできません。
4. AUT(*AUTL)が有効なのはUSER(*PUBLIC)と一緒にする場合だけです。
5. ユーザーはオブジェクトの所有者でなければならないか、AUTLパラメーターを使用する*ALL権限が必要かのいずれかです。
6. ユーザーには、オブジェクトに対するオブジェクト管理権限が必要です。
7. オブジェクトがファイルの場合には、ユーザーにはオブジェクト操作権限およびオブジェクト管理権限が必要です。
8. 表示装置の場合またはその表示装置と関連したワークステーション・メッセージ待ち行列の場合は、権限を認可する装置でこのコマンドが入力されない場合には、このコマンドの前に、オブジェクト割り振り(ALCOBJ) コマンド、後にオブジェクト割り振り解除(DLCOBJ)コマンドを実行しなければなりません。
9. 補助記憶域プール装置を指定する場合は、その補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。

注: IBM提供オブジェクトの共通認可を変更する場合には注意が必要です。たとえば、QSYSOPRメッセージ待ち行列の共通認可を*CHANGEより限定的なものに変更すると、システム・プログラムに障害が起こる原因となります。システム・プログラムがQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッセージを送る十分な権限を持たないこととなります。詳細については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL, *ALLAVL, *ALLUSRAVL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 3
AUT	権限	単一値: *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *AUTL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *OBJALTER, *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *OBJREF, *ADD, *DLT, *READ, *UPD, *EXECUTE	オプション, 定位置 4

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	名前, *NONE	オプション
REFOBJ	参照オブジェクト	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 参照オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REFOBJTYPE	参照オブジェクト・タイプ	* OBJTYPE , *ALRTBL, *BNDDIR, *AUTL, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
REFASPDEV	参照ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
REPLACE	置き換え権限	* NO , *YES	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

特定の権限を1人以上のユーザーに付与するオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 特定の権限を1人以上のユーザーに付与するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

名前 特定の権限を1人以上のユーザーに付与するオブジェクトの名前を指定してください。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプ(OBJTYPEパラメーター) のすべてのオブジェクトに対する特定の権限が付与されます。*ALLを指定する場合は、ライブラリー名修飾子に対して特定のライブラリー名を指定しなければなりません。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

特定の権限を指定したユーザーまたは権限リストに付与するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。*AUTL以外のすべてのオブジェクト・タイプを指定することができます。このコマンドのプロンプトが出されたときに、オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて、F 4 (プロンプト) を押してください。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのオブジェクト・タイプに対する特定権限(*AUTLを除く)が、指定されたユーザーまたは権限リストに付与されます。

オブジェクト・タイプ

特定権限を指定されたユーザーに付与するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター)を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

* 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1)、定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2-32)、さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて (ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

指定されたオブジェクトに対する権限を付与する1人以上のユーザーを指定します。

参照オブジェクト (REFOBJ)パラメーターまたは**権限リスト (AUTL)**パラメーターのいずれかが指定されていない限り、これは必須パラメーターです。

*PUBLIC

ユーザーがオブジェクトに対して特に権限が与えられていないで、権限リストに載っておらず、そのグループの誰もが権限をもっていないか、権限リストに載っていない時には、AUTパラメーターに指定されているように、ユーザーはオブジェクトの使用が認可されます。何も権限をもっていないユーザー、およびグループとして何も権限をもっていないユーザーは、AUTパラメーターに指定されているように、そのオブジェクトの使用が認可されます。

名前 オブジェクトに対して特定権限を付与する1人以上のユーザーの名前を指定してください。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

[トップ](#)

権限(AUT)

ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザーに付与する権限を指定します。

このパラメーターに値を指定する場合は、AUTL、REFOBJ,またはREFOBJTYPEパラメーターには値を指定することができません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはワークステーション・オブジェクトをアクセスすることができません。

*AUTL

オブジェクトに対する共通認可として、AUTLパラメーターで指定された権限リストの共通認可が使用されます。

注: AUT(*AUTL)を指定できるのは、USER(*PUBLIC)も指定されている場合だけです。

次の値の最大10を指定することができます。

*OBJALTER

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

*OBJMGT

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

*OBJEXIST

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。ユーザーに特別なシステム保管権限(*SAVSYS)がある場合には、オブジェクトに対して保管/復元操作を実行するのに、オブジェクト存在権限は必要ありません。

*OBJOPR

オブジェクト操作権は、オブジェクトの記述を見る権限、およびユーザーがオブジェクトに対して持つデータ権限で決められたオブジェクトを使用する権限を提供します。

*OBJREF

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

指定できるデータ権限は次の通りです。

***ADD** 追加権限は、オブジェクトに項目を（たとえば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限は、オブジェクトから項目を除去する権限を提供します。

*EXECUTE

実行権限は、プログラムを実行するか、またはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

*READ

読み取り権限は、オブジェクトの項目の内容を表示し、あるいはプログラムを実行するために必要な権限を提供します。

***UPD** 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

トップ

権限リスト (AUTL)

指定されたオブジェクトに対して権限を認可するために項目を使用する権限リストを指定します。指定された権限リストに対して権限リスト管理(*AUTLMGT)権限が必要です。

このパラメーターに値を指定する場合は、AUT、REFOBJ,またはREFOBJTYPEパラメーターには値を指定することができません。

*NONE

オブジェクトを保護する権限リストが除去されます。オブジェクト内の共通認可が*AUTLである場合には、それは*EXCLUDEに変更されます。

名前 使用する権限リストの名前を指定してください。

トップ

参照オブジェクト (REFOBJ)

権限情報を得るために照会する参照オブジェクトを指定します。これらの権限は、OBJパラメーターで指定されたオブジェクトに付与されます。参照オブジェクトに対して認可されたユーザーは、権限を付与するオブジェクトに対しても同様に権限を認可されます。参照オブジェクトが権限リストで保護されている場合には、その権限リストはOBJパラメーターで指定されたオブジェクトを保護します。

このパラメーターに値を指定する場合は、AUTまたはAUTLパラメーターには値を指定することができません。

名前 参照オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

参照オブジェクト・タイプ (REFOBJTYPE)

参照オブジェクト (REFOBJ)パラメーターに指定された参照オブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

*OBJTYPE

参照オブジェクトのオブジェクト・タイプは、オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターに指定されたオブジェクト・タイプと同じです。

オブジェクト・タイプ

参照オブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。このコマンドのプロンプトが出されたときに、オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて、F 4 (プロンプト) を押してください。

トップ

参照ASP装置 (REFASPDEV)

参照オブジェクト(REFOBJパラメーター)が入っているライブラリーがある補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。参照オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、正しいオブジェクトから権限が照会されるようにしなければなりません。

* 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPが参照オブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1),定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2-32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが参照オブジェクトを見つけるために検索されません。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 参照オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活性化されていて (ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていないければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

トップ

置き換え権限 (REPLACE)

権限でユーザーの現行権限を置き換えるかどうかを指示します。

***NO** 権限はユーザーに付与されますが、*EXCLUDE権限を認可していない限り、権限は除去しません。

***YES** ユーザーの現行権限が除去されてから、権限がそのユーザーに付与されます。

[トップ](#)

GRTOBJAUTの例

例1:すべてのユーザーへの権限の認可

```
GRTOBJAUT OBJ(USERLIB/PROGRAM1) OBJTYPE(*PGM) USER(*PUBLIC)
```

このコマンドは、PROGRAM1という名前のオブジェクトを使用する権限を、権限が特に付与されていないか、権限リスト上にないか、ユーザー・グループにはそのオブジェクトに対する権限がないか、あるいはユーザー・グループが権限リスト上にないすべてのシステムのユーザーに付与します。このオブジェクトは、USERLIBという名前のライブラリー名内にあるプログラム(*PGM)です。AUTパラメーターが指定されていないので、すべてのユーザーに付与される権限は変更権限です。これにより、すべてのユーザーは、プログラムを実行することができ、そのプログラムをデバッグすることができます。

例2:オブジェクト管理権限の認可

```
GRTOBJAUT OBJ(ARLIB/PROGRAM2) OBJTYPE(*PGM) USER(TMSMITH)
AUT(*OBJMGT)
```

このコマンドは、オブジェクト管理権限をTMSMITHという名前のユーザーに付与します。この権限によって、TMSMITHは、ARLIBという名前のライブラリーにあるプログラムである、PROGRAM2という名前のオブジェクトに対して個人的に所有する権限を他のユーザーに認可することができます。

例3:権限リストのユーザーに対する権限の認可

```
GRTOBJAUT OBJ(MYLIB/PRGM3) OBJTYPE(*PGM) AUTL(KLIST)
```

このコマンドは、PRGM3という名前のオブジェクト名に対する権限リストで指定された権限をユーザーに付与します。このオブジェクトは、ライブラリーMYLIB内にあるプログラムです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： GRTOBJAUT

***ESCAPE** メッセージ

CPF22A0

*AUTLの権限は、USER(*PUBLIC)の場合にだけ使用することができる。

CPF22A1

OBJTYPE(*AUTL)は、このコマンドでは正しくない。

CPF22A2

*AUTLの権限をオブジェクト・タイプ*USRPRFに使用することはできない。

CPF22A3

AUTLパラメーターをオブジェクト・タイプ*USRPRFに使用することはできない。

CPF22A9

*AUTLの権限を指定することはできない。

CPF22DA

&2のファイル&1の操作は許可されていない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2210

オブジェクト・タイプ*&1に対する操作は許されていない。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2223

&3のタイプ*&2のオブジェクト&1に権限を与えることは認可されていない。

CPF2227

コマンドの処理中に1つ以上のエラーが起こった。

CPF2236

AUTの入力値はサポートされていない。

CPF2243

ライブラリー名&1にOBJ(総称名)またはOBJ(*ALL)を使用することはできない。

CPF2245

処理プロファイルは&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の所有者でない。

CPF2253

ライブラリー&2に&1のオブジェクトが見つからなかった。

CPF2254

&1要求のライブラリーが見つからなかった。

CPF2273

ユーザー&4の&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の権限は変更されていないと考えられる。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2290

*EXCLUDEを別の権限と一緒に指定することはできない。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

トップ

ユーザー権限認可 (GRTUSRAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー権限認可(GRTUSRAUT)コマンドは、他のユーザー・プロファイルを参照することによって、ユーザーに権限を認可します。

注: 権限および後続のSAVSYSまたはSAVSECDTA機能の権限の授与でより高いパフォーマンスを必要とする場合には、可能な限り、ユーザー権限認可(GRTUSRAUT)コマンドの代わりにグループ・サポートまたは権限リストを使用する必要があります。

機密保護担当者がこのコマンドを出した場合には、オブジェクト管理権限を含めて、ユーザー・プロファイル中の権限が受け取りユーザーに対して認可されます。

このコマンドがユーザー・プロファイルの所有者によって実行された場合には、オブジェクト管理権限を含めて、所有されている各オブジェクトに対するすべての権限が認可されます。

参照されるユーザー・プロファイルが所有しているものでないが、使用を認可されているオブジェクトの場合には、このコマンドのユーザーは、オブジェクト管理権限およびオブジェクトに認可されている権限を持っているか、あるいはオブジェクトの所有者でなければなりません。そうでない場合には、オブジェクトに対する権限が与えられません。

このコマンドによって、オブジェクトの所有権またはユーザー・プロファイルによって保留されている権限を変更することはできません。ユーザー・プロファイルに認可されたオブジェクトに対する権限が、すでにユーザー・プロファイルが持っている権限に追加されます。

制約事項:以下のユーザー・プロファイルは、このコマンドのいずれのパラメーターにも指定できません。

QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QEJBSVR, QGATE, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFSANON, QNTP, QPEX, QPM400, QRJE, QSNADS, QSPL, QSRVAGT, QSYS, QTCM, QTCP, QTMHHTP1, QTMHHTTP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前	必須, 定位置 1
REFUSER	参照されたユーザー	名前	必須, 定位置 2

トップ

ユーザー (USER)

これは必須パラメーターです。

権限が認可されるユーザー・プロファイル名。

[トップ](#)

参照されたユーザー (REFUSER)

これは必須パラメーターです。

権限を得るために参照するユーザー・プロファイル名。

[トップ](#)

GRTUSRAUTの例

例1: QSECOFRユーザー・プロファイルのもとでのGRTUSRAUTの実行

```
GRTUSRAUT USER(USRB) REFUSER(USRA)
```

このコマンドは、USRAが所有している全オブジェクトに対してもっているのと同じ権限（オブジェクト管理権限を含む）または権限を持っている全オブジェクトに対してもっているのと同じ権限を、ユーザー・プロファイルUSRBに認可します。

例2:ユーザー・プロファイルUSRAのもとでのGRTUSRAUTの実行

```
GRTUSRAUT USER(USRB) REFUSER(USRC)
```

このコマンドは、USRCがこのコマンドを入力しているUSRAがオブジェクトに対するオブジェクト管理権をもっているか、参照先のオブジェクトの所有者である場合だけ権限をもっている全オブジェクトに対してもっているのと同じ権限をユーザー・プロファイルUSRBに認可します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： GRTUSRAUT

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2222

記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。

CPF2223

&3のタイプ*&2のオブジェクト&1に権限を与えることは認可されていない。

CPF2252

&2オブジェクトへの権限が認められた。&3オブジェクトへの権限は付与されません。

[トップ](#)

ユーザー認可 (GRTUSRPMN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドにより、あるユーザーが他のユーザーに代わって文書およびフォルダーを処理したり、OFFICEVISION/400関連タスクを実行したりする認可を与えることができます。アクセスは、個人用でない文書、フォルダー、およびメール項目に制限されます。このコマンドを実行する前に、指定されたユーザーをシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

制約事項:あるユーザーが他のユーザーに代わって作業を行なう認可を与えるためには、*ALLOBJ権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TOUSER	TOユーザー・プロファイル	名前	必須, 定位置 1
FORUSER	ユーザー・プロファイル	単一値: *CURRENT その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2

トップ

TOユーザー・プロファイル (TOUSER)

ユーザー・プロファイルプロンプト (FORUSERパラメーター) に指定されたユーザーの代行処理が許可されたユーザー・プロファイルの名前を指定します。アクセスはOFFICEVISION /400の文書、フォルダー、および個人のものでないメール項目に制限されます。このコマンドを実行する前に、ユーザー・プロファイルが存在していて、ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。

トップ

ユーザー・プロファイル (FORUSER)

TOユーザー・プロファイルプロンプト (TOUSERパラメーター) で指定されたユーザーが処理を代行するユーザー・プロファイルの名前を指定します。このコマンドを実行する前に、ユーザーをシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

処理を代行するユーザーに認可を与えます。

ユーザー・プロファイル名

TOユーザー・プロファイルプロンプト (TOUSERパラメーター) に指定されたユーザーが処理を代行するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

GRTUSRPMNの例

GRTUSRPMN TOUSER(JUDY) FORUSER(PEGGY)

JUDYは、遂行上の管理アシスタントです。このコマンドによって、JUDYは、個人用ではないPEGGYの文書またはフォルダーを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： GRTUSRPMN

*ESCAPEメッセージ

CPF9007

ユーザーの代行認可が&1ユーザーに提供されたが、&2ユーザーには提供されなかった。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ワークステーション・オブジェクト権限認可 (GRTWSOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・オブジェクト権限認可(GRTWSOAUT)コマンドは、ユーザーがこのコマンドで指定されたワークステーション・オブジェクトに対する特定の権限を他のユーザーまたはユーザー・グループに認可するために使用します。ワークステーション・オブジェクトは、OS/400グラフィックス操作プログラムによって使用されます。

次に対して権限を認可することができます。

- 指定されたユーザー。
- オブジェクトまたは権限リストで特定の権限が与えられていないユーザー(*PUBLIC)。
- オブジェクトに対する権限を持っていないか、あるいはオブジェクトを保護する権限リストにないユーザー・グループ。
- 参照されたワークステーション・オブジェクト(REFWSOパラメーターで指定された)のユーザー。
- 確立された権限リストにあるユーザー。

AUT(*AUTL)を指定すると、ユーザーは以下に対して権限を指定することができます。

- オブジェクトに対して認可される特定の権限を持っていないすべてのユーザー。
- オブジェクトを保護する権限リストにないユーザー。
- そのユーザー・グループが特定の権限を認可されていないユーザー。
- そのユーザー・グループがオブジェクトを保護する権限リストにないユーザー。

このコマンドを使用できるのは、オブジェクト所有者、機密保護担当者、指定されたオブジェクトに対してオブジェクト管理権限を持っているユーザーだけです。

制約事項:

1. ユーザーはオブジェクトの所有者であるか、またはAUTLパラメーターを使用する*ALL権限を持っていないかなければなりません。
2. オブジェクトに対して権限を認可するために、ユーザーはそのオブジェクトに対するオブジェクト管理権限を持っていないかなければなりません。
3. AUT(*AUTL)を指定できるのはUSER(*PUBLIC)の場合だけです。権限リスト(*AUTL)によってユーザー・プロファイル名を保護することはできません。
4. ユーザーにオブジェクト管理権限を認可できるのは、オブジェクトの所有者または全オブジェクト権限(*ALLOBJ)を持っている担当者だけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WSOTYPE	ワークステーション・オブジェクト・タイプ	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1:	*TPLWRKARA, *WRKARA, *TPLPRTOL, *PRTOL, *TPLPRTL, *PRTL, *TPLOUTQ, *TPLOUTQL, *OUTQL, *TPLJOBQ, *JOBQ, *TPLJOBQ, *TPLJOBLOG, *JOBLOG, *TPLJOBQL, *JOBQL, *TPLMSG, *MSG, *TPLMSGQ, *TPLMSGSD, *MSGSD, *TPLSGNUSL, *SGNUSL, *TPLOBJL, *OBJL, *TPLLIBSL, *LIBSL, *TPLLIB, *LAUNCH, *TPLLAUNCH, *PRSSET	
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾子リスト	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ユーザー	名前	
AUT	権限	単一値: *CHANGE , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *AUTL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *ADD, *DLT, *READ, *UPD	オプション, 定位置 3
AUTL	権限リスト	名前	オプション
REFWSO	ワークステーション・オブジェクト参照	要素リスト	オプション
	要素 1:	*TPLWRKARA, *WRKARA, *TPLPRTOL, *PRTOL, *TPLPRTL, *PRTL, *TPLOUTQ, *TPLOUTQL, *OUTQL, *TPLJOBQ, *JOBQ, *TPLJOBQ, *TPLJOBLOG, *JOBLOG, *TPLJOBQL, *JOBQL, *TPLMSG, *MSG, *TPLMSGQ, *TPLMSGSD, *MSGSD, *TPLSGNUSL, *SGNUSL, *TPLOBJL, *OBJL, *TPLLIBSL, *LIBSL, *TPLLIB, *LAUNCH, *TPLLAUNCH, *PRSSET	

トップ

ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)

権限を編集するワークステーション・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

*TPLWRKARA

作業域テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*WRKARA

作業域オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLPRTOL

印刷装置出力リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*PRTOL

印刷装置出力リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLPRTL

印刷装置リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***PRTL** 印刷装置リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLOUTQ**

出力待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLOUTQL**

出力待ち行列リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***OUTQL**

出力待ち行列リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLJOBL**

ジョブ・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***JOBL**

ジョブ・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLJOBQ**

ジョブ待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLJOBLOG**

ジョブ・ログ・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***JOBLOG**

ジョブ・ログ・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLJOBQL**

ジョブ待ち行列リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***JOBQL**

ジョブ待ち行列リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLMSGL**

メッセージ・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***MSGL**

メッセージ・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLMSGQ**

メッセージ待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLMSGSEND**

メッセージ送信元テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***MSGSEND**

メッセージ送信元オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLSGNUSL**

サインオンしたユーザー・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***SGNUSL**

サインオンしたユーザー・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLOBJL**

オブジェクト・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***OBJL**

オブジェクト・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLIBSL**

ライブラリー・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***LIBSL**

ライブラリー・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLIB**

ライブラリー・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLAUNCH**

ジョブ送信者テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***LAUNCH**

ジョブ送信者オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***PRSET**

個人設定オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

トップ

ユーザー (USER)

指定されたオブジェクトに対する権限を付与する1つ以上のユーザーを指定します。ユーザー名を指定した場合には、権限はそれらのユーザーに個々に与えられます。このコマンドによって与えられた権限は、ワークステーション・オブジェクト取り消し(RVKWSOAUT)コマンドで個々に取り消すことができます。

ワークステーション・オブジェクト参照 (REFWSO)パラメーターまたは権限リスト (AUTL)パラメーターのいずれかが指定されていない限り、これは必須パラメーターです。

***PUBLIC**

オブジェクトに対する権限が個々に与えられていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループが権限を持っていないか、あるいはそのユーザー・グループが権限リストにないすべてのユーザーに、AUTパラメーターで指定されたオブジェクトを使用する権限が認可されます。

名前 1つ以上のユーザー・プロファイルの名前を指定してください。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

トップ

権限(AUT)

ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはワークステーション・オブジェクトをアクセスすることができません。

***AUTL**

オブジェクトに対する共通認可として、AUTLパラメーターで指定された権限リストの共通認可が使用されます。

注: AUT(*AUTL)を指定できるのは、USER(*PUBLIC)も指定されている場合だけです。

次の値の最大10を指定することができます。

***OBJALTER**

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

***OBJMGT**

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

***OBJEXIST**

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。ユーザーに特別なシステム保管権限(*SAVSYS)がある場合には、オブジェクトに対して保管/復元操作を実行するのに、オブジェクト存在権限は必要ありません。

***OBJOPR**

オブジェクト操作権は、オブジェクトの記述を見る権限、およびユーザーがオブジェクトに対して持つデータ権限で決められたオブジェクトを使用する権限を提供します。

***OBJREF**

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

指定できるデータ権限は次の通りです。

***ADD** 追加権限は、オブジェクトに項目を（たとえば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限は、オブジェクトから項目を除去する権限を提供します。

***EXECUTE**

実行権限は、プログラムを実行するか、またはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

***READ**

読み取り権限は、オブジェクトの項目の内容を表示し、あるいはプログラムを実行するために必要な権限を提供します。

***UPD** 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

メンバーに **ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)**パラメーターに指定されたオブジェクトに対する権限を付与する権限リストの名前を指定します。指定された権限リストに対して権限リスト管理(*AUTLMGT)権限が必要です。

ユーザー (USER)パラメーターまたは **ワークステーション・オブジェクト参照 (REFWSO)**パラメーターが指定されていない限り、これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ワークステーション・オブジェクト参照 (REFWSO)

権限について参照されるワークステーション・オブジェクトを指定します。これらの権限は、 **ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)**パラメーターで指定されたオブジェクトに与えられます。参照オブジェクトに対して認可されたユーザーは、権限を付与するオブジェクトに対しても同様に権限を認可されます。参照オブジェクトが権限リストで保護されている場合には、その権限リストはWSOTYPEパラメーターで指定されたオブジェクトを保護します。

ユーザー (USER)パラメーターまたは**権限リスト(AUTL)**パラメーターのいずれかが指定されていない限り、これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

GRTWSOAUTの例

```
GRTWSOAUT  WSOTYPE(*TPLWRKARA)  AUTL(KLIST)
```

このコマンドは、ワークエリア・テンプレートに対する権限を、権限リストKLISTでユーザーに指定された権限をもつユーザーに付与します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

通信装置保留 (HLDCMNDEV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信装置保留(HLDCMNDEV)コマンドで、操作員は指定した装置を介する通信を保留することができます。通信は、通信装置解放(RLSCMNDEV)コマンドによって再開するか、あるいは構成変更(VRYCFG)コマンドで装置をオフに構成変更してから再びオンに構成変更することによって再開します。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*CNTRLD, *IMMED	オプション, 定位置 2

トップ

装置 (DEV)

通信を保留する装置の名前を指定します。通信を保留する装置は次の通りです。

DEV値

装置

- 3180 表示装置
- 3277 表示装置
- 3278 表示装置
- 3279 表示装置
- 3287 印刷装置 (ワークステーション)
- 5219 印刷装置 (ワークステーション)
- 5224 印刷装置 (ワークステーション)
- 5225 印刷装置 (ワークステーション)
- 5251 表示装置
- 5252 表示装置
- 5256 印刷装置 (ワークステーション)

5291 表示装置
5292 表示装置
PLU1 1次論理装置, タイプ1 (SNA用)
BSC 2進データ同期装置 (基本およびRJE)
B SCT BSCマルチポイント従属端末としてのこの&SYS.システム
APPC 拡張プログラム間通信機能(APPC)ネットワーク内の論理装置

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

この装置との通信を保留する方法を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***CNTRLD**

指定した装置は次のOPENまたはACQUIRE操作時に通信が可能ではありません。制御オプションにより、通信装置を使用中のどのプログラムも入出力操作を続行することができますが、装置の新しい使用は開始されません。

***IMMED**

指定した装置は次のREAD, WRITE, OPEN, またはACQUIRE操作時に通信が可能ではありません。即時オプションにより、通信装置は即時に停止し、永続的入出力エラーがプログラムに送られます。

[トップ](#)

HLDCMNDEVの例

HLDCMNDEV DEV(WSPR05)

このコマンドは、次のOPENまたはACQUIRE操作時に装置WSPR05の通信能力を保留します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: HLDCMNDEV

***ESCAPE** メッセージ

CPF5920

装置&1がオフに構成変更されているか、あるいは診断モードになっている。

CPF5921

装置&1は通信装置でない。

CPF5922

装置&1はすでにオプション*IMMEDで保留されている。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF5984

機能の実行が認可されていない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

配布待ち行列の保留 (HLDDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列保留(HLDDSTQ)コマンドは、配布待ち行列が送信されないようにします。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1
PTY	優先順位	*NORMAL, *HIGH	必須, 定位置 2

トップ

配布待ち行列 (DSTQ)

保留される配布待ち行列の名前を指定します。この待ち行列は、前に、配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドまたは配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して構成されているものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トップ

優先順位 (PTY)

指定された待ち行列の通常優先順位部分が保留されるか、高優先順位部分が保留されるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NORMAL

通常優先順位待ち行列は、サービス・レベルがデータ低の配布用です。

***HIGH** 高優先順位待ち行列は、サービス・レベルが高速、状況、またはデータ高の配布用です。

注: この値は、SYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)タイプの配布待ち行列には正しくありません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

HLDDSTQの例

例1: 待ち行列の通常の優先順位部分の保留

```
HLDDSTQ DSTQ(CHICAGO) PTY(*NORMAL)
```

このコマンドは、CHICAGO配布待ち行列の通常の優先順位部分を保留します。

例2: 待ち行列の高優先順位部分の保留

```
HLDDSTQ DSTQ(ATLANTA) PTY(*HIGH)
```

このコマンドは、ATLANTA配布待ち行列の優先順位の高い部分を保留します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: HLDDSTQ

***ESCAPE** メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名/グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF881C

*SVDS配布待ち行列&1に高優先順位待ち行列を使用することはできない。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8816

QSNADS通信サブシステムが活動していない。

CPF8817

配布待ち行列が保留中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ保留 (HLDJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ保留 (HLDJOB)コマンドは、ジョブをシステムによる処理に不適格とします。ジョブは、次のことが行なわれるまで、保留されています。

- ジョブ解放 (RLSJOB)コマンドによって保留解除される
- ジョブ待ち行列消去 (CLRJOBQ)コマンドによって消去される
- ジョブ終了 (ENDJOB)コマンドによって終了される
- サブシステム終了 (ENDSBS)コマンド、システム終了 (ENDSYS)コマンド、またはシステム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドによって (ジョブが活動中に) 終了される

ジョブを保留すると、そのジョブ中のすべてのスレッドが保留されます。

注: このコマンドを使用して、システム上の資源に排他的にアクセスできるジョブを保留すると、それらの資源は他のジョブでは使用できなくなります。それらの資源にアクセスする必要がある他のジョブは、失敗するか、無期限に待機することになります。

制約事項: コマンド発行側は、保留されるジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。あるいは、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLFILE	スプール・ファイルの保留	*NO, *YES	オプション, 定位置 2
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

保留するジョブの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが開始されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しなかった場合には、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数個見つかった場合には、ジョブ修飾子を指定しなければなりません。

[トップ](#)

スプール・ファイルの保留 (SPLFILE)

保留されるジョブによって作成されたスプール出力ファイルも保留するかどうかを指定します。

***NO** このジョブによって作成されるスプール出力ファイルは保留されません。

***YES** このジョブによって作成されるスプール出力ファイルもまた保留されます。このコマンドを出すスレッドのライブラリー名スペース内の出力待ち行列にあるスプール出力ファイルのみが保留されます。**スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)**ジョブ属性が*DETACHで、スプール・ファイルの保留中にジョブが終了された場合は、ジョブ解放 (RLSJOB)コマンドを使用してそのスプール・ファイルを解放することはできません。ジョブをシステムから除去した後にスプール・ファイルを解放するには、スプール・ファイル解放 (RLSSPLF)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

[トップ](#)

HLDJOBの例

例1:ジョブを処理不適格にする

```
HLDJOB JOB(PAYROLL) SPLFILE(*YES)
```

このコマンドは、PAYROLLという名前のジョブを処理に不適格なジョブにします。このジョブのプール・ファイルもすべて保留されます。

例2:重複名をもつジョブを保留する

```
HLDJOB JOB(DEPTXYZ/PAYROLL)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルDEPTXYZのもとで活動しているユーザーによって投入された、PAYROLLという名前のジョブを保留します。システム内に重複名をもつジョブが存在する時は、ジョブ名の修飾形式が使用されます。プール・ファイルは保留されません。

トップ

エラー・メッセージ： HLDJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF1E52

ジョブ&1の保留は認可されていない。

CPF1E53

ジョブ&1は終了しているので保留することはできない。

CPF1E54

ジョブ&1を保留することはできない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1342

このコマンドのジョブ名として現行ジョブを使用することはできない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1345

ジョブ&3/&2/&1を保留することはできない。

CPF1346

ジョブ&3/&2/&1はすでに保留されている。

CPF1347

ジョブ&3/&2/&1を保留することはできない。

CPF1348

ジョブ&3/&2/&1は保留されているが、そのファイルを保留することができない。

CPF1350

SPLFILE(*NO)が指定されたが、ジョブ&3/&2/&1はOUTQ上にある。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF1378

現時点ではジョブ&3/&2/&1は保留されない。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列保留 (HLDJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列保留(HLDJOBQ)コマンドは、ジョブ待ち行列上で現在待機中のすべてのジョブおよびこのコマンドが出された後に待ち行列に追加されたすべてのジョブの処理を妨げます。このコマンドは実行中のジョブには影響を与えません。待ち行列が保留中に追加のジョブをジョブ待ち行列に入れることができますが、それらは処理されません。ジョブはジョブ待ち行列解放(RLSJOBQ)コマンドが出されるまで保留されています。ジョブ待ち行列が保留の時には、ジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドでジョブを消去するか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドによって特定のジョブを取り消すことができます。

制約事項: QLPINSTALLジョブ待ち行列を保留することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

これは必須パラメーターです。

現行の項目およびこれから追加される項目の処理を行わせないようにしたいジョブ待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

ジョブ待ち行列名

保留するジョブ待ち行列の名前を指定します。

HLDJOBQの例

HLDJOBQ JOBQ(QBATCH)

このコマンドは、現在QBATCHジョブ待ち行列上にあるジョブおよびその待ち行列に追加されたすべてのジョブの処理をできなくします。それらは、待ち行列が解放または消去されるまで保留されます。ジョブをジョブ待ち行列から除去するENDJOBコマンドでは、個々のジョブを終了することもできます。

トップ

エラー・メッセージ： HLDJOBQ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2240

ユーザー&7には*&5 &6/&4の使用が認可されていない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3425

&2のジョブ待ち行列&1はすでに保留されている。

トップ

ジョブ・スケジュール項目保留 (HLDJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目保留 (HLDJOBSCDE)コマンドによって、ジョブ・スケジュール内の項目、すべての項目、または項目のセットを保留することができます。各ジョブ・スケジュール項目には、ジョブを一度、または定期的なスケジュール間隔で自動的に投入するために必要な情報が入っています。

ジョブ・スケジュール項目は次の場合に保留されます。

- 項目が ジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE)またはジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドを使用して解放されるまで保留される場合
- 項目が保留されている時に、ジョブの投入がスケジュールされた日付および時刻を過ぎても、ジョブが解放された時に投入されない場合

制約事項:項目を保留するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。そうでない場合には、追加した項目だけしか保留することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
ENTRYNBR	項目番号	000001-999999, <u>*ONLY</u> , *ALL	オプションル

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** ユーザーに権限があるすべてのジョブ・スケジュール項目が保留されます。JOB(*ALL)が指定された場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。

総称名 ジョブ・スケジュール項目を検索するために使用される総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前のすべての項目 (ユーザーに権限がある場合) が保留されます。総称名を指定した場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なジョブ名と見なします。

名前 保留したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

項目番号 (ENTRYNBR)

保留したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。項目が正常に追加された時に送信されるメッセージには、この項目番号が入っています。また、ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドを使用して項目番号を判別することもできます。選択した項目の項目番号を表示するには、WRKJOBSCDE画面でF11キーを押してください。

*ONLY

ジョブ・スケジュールの1つの項目だけがJOBパラメーターに指定されたジョブ名を持ちます。

*ONLYが指定され、複数の項目が指定されたジョブ名を持つ場合には、項目は保留されずに、エラー・メッセージも送信されません。

***ALL** 指定されたジョブ名を持つすべての項目が保留されます。

000001-999999

保留したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。

HLDJOBSCDEの例

例1:ジョブ・スケジュール項目の保留

```
HLDJOBSCDE JOB(CLEANUP)
```

このコマンドは、ジョブ名CLEANUPを持つジョブ・スケジュール項目を保留します。

例2:すべてのジョブ・スケジュール項目の保留

```
HLDJOBSCDE JOB(*ALL) ENTYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内のすべての項目を保留します。

例3:個々のジョブ・スケジュール項目の保留

```
HLDJOBSCDE JOB(PAYROLL) ENTYNBR(*ONLY)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の項目PAYROLLを保留します。

例4:総称ジョブ・スケジュール項目の保留

```
HLDJOBSCDE JOB(PAY*) ENTYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の、名前に接頭部PAYを持つすべての項目を保留します。

エラー・メッセージ: HLDJOBSCDE

*ESCAPE メッセージ

CPF1628

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4が見つからなかった。

CPF1629

ジョブ・スケジュール&1に対して認可されていない。

CPF1630

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に対して認可されていない。

CPF1632

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に損傷がある。

CPF1636

指定されたジョブ名の項目が複数検出された。

CPF1637

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は使用中。

CPF1638

ジョブ・スケジュール項目&3番号&4は使用中。

CPF1640

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は存在していません。

CPF1641

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1に損傷がある。

CPF1645

指定された名前のジョブ・スケジュール項目が見つからない。

CPF1646

総称名が指定された時には項目番号は*ALLでなければならない。

CPF1647

&3個の項目が正常に保留され、&4個の項目が保留されていない。

CPF1649

項目番号は*ALLでなければならない。

[トップ](#)

出力待ち行列保留 (HLDOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列保留(HLDOUTQ)コマンドは、現在待機中のすべてのスプール・ファイルと、このコマンドが出された後に出力待ち行列に追加されたすべてのスプール・ファイルを、スプール書き出しプログラムが処理しないようにします。このコマンドは、現在実行中で出力待ち行列にスプール・ファイルを追加しているジョブには影響しません。また、このコマンドが出された時点でスプール書き出しプログラムによって作成中のスプール出力にも影響しません。スプール書き出しプログラムが現行出力ファイルのすべてのコピーを完了した時には、待ち行列が解放されるまで他のファイルの出力は開始できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

これは必須パラメーターです。

現在およびその後のスプール・ファイルのそれ以上の処理を行えないようにする出力待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

出力待ち行列名

保留する出力待ち行列の名前を指定します。

トップ

HLDOUTQの例

HLDOUTQ OUTQ(QPRINT)

このコマンドは、現在QPRINT待ち行列上にあるスプール・ファイルおよびその待ち行列に追加されたすべてのスプール・ファイルの処理をできなくします。それらは、待ち行列が解放または消去されるまで保留されます。スプール・ファイルを出力待ち行列から除去するENDJOBコマンドでは、特定のジョブ（スプール・ファイル付き）を終了することもできます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： HLDOUTQ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3426

ライブラリー&2の出力待ち行列&1はすでに保留されている。

[トップ](#)

読み取りプログラム保留 (HLDRDR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

読み取りプログラム保留(HLDRDR)コマンドは、指定されたスプール読み取りプログラムの活動を即時に停止します。読み取りプログラム自体は終了せず、その関連の入力装置もシステムに使用可能にはなりません。読み取りプログラムは、読み取りプログラム解放(RLSRDR)または読み取りプログラム終了(ENDRDR)コマンドが出されるまで非活動状態になっています。読み取りプログラムが保留される時には、データは失われません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDR	読み取りプログラム	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

読み取りプログラム (RDR)

これは必須パラメーターです。

保留するスプーリング読み取りプログラムの名前を指定します。

読み取りプログラム名

保留する読み取りプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

HLDRDRの例

HLDRDR RDR(QDKT)

このコマンドは、ディスク読み取りプログラムQDKTにデータの読み取りを即時に停止させます。データの読み取りを続行できるように読み取りプログラムを解放するには、読み取りプログラム解放(RLSRDR)コマンドを入力する必要があります。読み取りプログラム終了(ENDRDR)コマンドが使用されると、読み取りプログラムは停止され、ジョブ待ち行列にジョブ項目が追加されていないために、読み込まれていたジョブは失われます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： HLDRDR

*ESCAPE メッセージ

CPF1E52

ジョブ&1の保留は認可されていない。

CPF1E53

ジョブ&1は終了しているので保留することはできない。

CPF1E54

ジョブ&1を保留することはできない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1345

ジョブ&3/&2/&1を保留することはできない。

CPF1347

ジョブ&3/&2/&1を保留することはできない。

CPF1350

SPLFILE(*NO)が指定されたが、ジョブ&3/&2/&1はOUTQ上にある。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF1378

現時点ではジョブ&3/&2/&1は保留されない。

CPF3312

読み取りプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3333

読み取りプログラム&3/&2/&1はすでに保留されている。

CPF3490

指定した読み取りプログラムに対して権限がない。

[トップ](#)

スプール・ファイルの保留 (HLDSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル保留(HLDSPLF)コマンドは、指定されたスプール・ファイルのスプール書き出しプログラムによる追加の処理を停止します。ファイルが出力装置上で作成中である場合には、書き出しプログラムはそのファイルの処理を停止して、次のファイルの処理を開始します。そのファイルが解放されて出力用に選択されると、再びファイルの先頭から処理が開始されます。保留時にそのファイルで複数のコピーが作成中であった場合には、未完了のコピーが再び始めから作成されて、残りのコピーが続けられます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	スプール・ファイル	名前, *SELECT	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY , *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY , *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY , *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY , *LAST	
SELECT	ファイル選択	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー	名前, *CURRENT , *ALL	
	要素 2: 印刷装置	名前, *ALL , *OUTQ	
	要素 3: 用紙タイプ	文字値, *ALL , *STD	
	要素 4: ユーザー・データ	文字値, *ALL	
要素 5: ASP	1-32, *ALL , *ASPDEV		
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OPTION	ファイルの保留時期	*IMMED , *PAGEEND	オプション

トップ

スプール・ファイル (FILE)

これは必須パラメーターです。

保留するスプール・ファイルの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

ファイル選択プロンプト(SELECTパラメーター)で指定された選択値に合致するすべてのスプール・ファイルが保留されます。この値は、**ジョブ名**プロンプト(JOBパラメーター)、**スプール・ファイル番号**プロンプト(SPLNBRパラメーター)、**ジョブ・システム名**プロンプト(JOBSYSNAMEパラメーター)、および**作成されたスプール・ファイル**プロンプト(CRTDATEパラメーター)で指定された値と一緒に使用することはできません。

スプール・ファイル名

保留するスプール・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

保留するファイルを作成したジョブの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- このスプール・ファイル保留(HLDSPLF)コマンドを出したジョブがこのファイルを作成したジョブです。

ジョブ名

保留するファイルを作成したジョブの名前を指定します。

ユーザー名

そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

指定されたジョブで作成されたスプール・ファイルの番号を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

***LAST** 指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプー

ル・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

保留する指定されたファイル名のスプール・ファイルの番号を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター)が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日の値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

指定できる作成時刻の値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

トップ

ファイル選択 (SELECT)

保留するファイルのグループを指定します。次の定位置値を使用して、ファイルを選択することができます。すなわち、ファイルを作成したユーザー、ファイルが待機している装置、指定された用紙タイプ、ファイルに関連したユーザー・データ・タグ、またはファイルが入っている補助記憶域プールです。各値と一致するファイルだけが選択されます。

ユーザーが使用できる値は次の通りです。

***CURRENT**

このコマンドを実行中のユーザーによって作成されたファイルだけが選択されます。

***ALL** すべてのユーザーによって作成されたファイルが選択されます。

ユーザー名

ユーザー名を指定してください。そのユーザー名によって作成されたファイルだけを選択します。

装置で使用できる値は次の通りです。

***ALL** 装置作成またはユーザー作成の出力待ち行列上にあるファイルが選択されます。

***OUTQ**

ユーザー作成の出力待ち行列のすべてのファイルが選択されます。ユーザー作成の出力待ち行列とは、装置によって自動的に作成されない出力待ち行列です。ユーザー作成の出力待ち行列は通常は装置と同じ名前にはなりません。同じ名前の場合には、それはライブラリーQUSRSYS内にはありません。

装置名 装置名を指定してください。その装置の装置作成の出力待ち行列に入れられたファイルだけが選択されます。装置作成の出力待ち行列は装置と同じ名前を持ち、QUSRSYSライブラリーにあります。この出力待ち行列がすでに存在していなければ、装置の作成時にシステムによって自動的に作成されます。装置作成の出力待ち行列を削除することはできません。

用紙タイプとして使用できる値は次の通りです。

***ALL** すべての用紙タイプのファイルが選択されます。

***STD** 標準用紙タイプを指定するファイルだけが選択されます。

用紙タイプ

ファイルを選択する用紙タイプを指定してください。

ユーザー・データとして使用できる値は次の通りです。

***ALL** ユーザー・データ・タグが指定されているファイルがどれも選択されます。

ユーザー・データ

ファイルを選択するためのユーザー・データ・タグを指定してください。

補助記憶域プール番号(ASP)に考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定された通りにすべてのファイルが選択されません。

***ASPDEV**

補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定されたファイルが選択されます。

ASP番号

選択するファイルの補助記憶域プール(ASP)を指定してください。有効な値は1 - 32です。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

選択されるスプール・ファイルが入っている補助記憶域プール装置名を指定します。このパラメーターが有効なのは、選択パラメーターのASP番号(ASP)要素が*ALLまたは*ASPDEVである場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっているASPで見つかったファイルが選択されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ内の1次および2次ASPが含まれます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済みユーザーASP (ASP 2-32)で見つかったファイルが選択されます。

***CURASPGRP**

スレッドのASPグループの1次および2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

補助記憶域プール装置名

指定された1次または2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドのASPグループ内にある1次または2次ASPのみを指定することができます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

[トップ](#)

ファイルの保留時期 (OPTION)

スプール・ファイルの保留時に使用するオプションを指定します。

注: ファイルが書き出し中でない時にオプションを指定しても意味がありません。

考えられる値は、次の通りです。

***IMMED**

ファイルは可能な限り迅速に保留されます。

*PAGEEND

ファイルはページ境界で保留されます。

[トップ](#)

HLDSPLFの例

例1:別のジョブによって作成されたファイルの保留

```
HLDSPLF FILE(SHIPITEMS) JOB(00009/JONES/ORDER)
```

このコマンドは、ジョブORDERによって作成されたスプール・ファイルSHIPITEMSの追加処理を取り止めます。

例2:ページ境界でのファイルの保留

```
HLDSPLF FILE(QPJOBLOG) OPTION(*PAGEEND)
```

このコマンドは、スプール・ファイルQPJOBLOGをページ境界で保留します。

例3:ファイルの即時保留

```
HLDSPLF FILE(QPJOBLOG) OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、スプール・ファイルQPJOBLOGを即時に保留します。このオプションを指定することによってスプール・ファイルを保留すると、スプール・ファイルが現在スプール書き出しプログラムによって処理されている場合には、CHGSPLFAコマンドのRESTART(*NEXT)は正確でなくなります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： HLDSPLF

*ESCAPE メッセージ

CPF337E

ASP装置&1がスレッドの現行ASPグループにありません。

CPF337F

ASP番号&2にはASP装置&1は使用できません。

CPF33D0

印刷装置&1が存在していない。

CPF33D1

ユーザー&1が存在していない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3337

ファイル&1番号&8はすでに保留または保管されている。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF34A4

ファイル&1番号&8は保留または削除されない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRP PRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

書き出しプログラム保留 (HLDWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書き出しプログラム保留(HLDWTR)コマンドは、指定された書き出しプログラムをレコードの終わり、スプール・ファイルの終わり、または印刷ページの終わりで停止します。ファイルの複数コピーが作成されている場合には、現在作成中のコピーの終わりで書き出しプログラムを保留することができます。書き出しプログラムは停止されず、装置はシステムに使用可能になりません。書き出しプログラムは、書き出しプログラム解放(RLSWTR)コマンドまたは書き出しプログラム終了(ENDWTR)コマンドが出されるまで、非活動状態になっています。書き出しプログラムが保留されている時には、データは失われません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WTR	書き出しプログラム	名前	必須, 定位置 1
OPTION	書き出しプログラムの保留時点	*IMMED, *CNTRLD, *PAGEEND	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

書き出しプログラム (WTR)

これは必須パラメーターです。

保留するスプール書き出しプログラムの名前を指定します。

書き出しプログラム名

保留する書き出しプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

書き出しプログラムの保留時点 (OPTION)

スプーリング書き出しプログラムの出力の生成をいつ停止させるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*IMMED

書き出しプログラムはレコードの現行ブロック中の最後のレコードを出力装置に書き出してしまわずにすぐに停止します。書き出しプログラムは装置に対するレコードのブロックの作成を修了するたびに、別の入出力要求を行って、スプール中のファイルから次のブロックを装置に読み取ります。

*IMMEDを指定した場合には、書き出しプログラムが停止するのは、処理中のブロック（ディスク出力の場合、これはディスクに書き出し中の完全なディスク・レコードです）内の最後のレコードを書き出してしまった後だけです。

印刷出力に*IMMEDを指定した場合には、書き出しプログラムは印刷行のどこかまたは終わり、あるいは完全なブロックの終わり（行の終わりとは限らない）で停止します。これは、一部のデータ・レコード（パフォーマンスを向上させるためにブロック化されている）が2つの部分（レコードの先頭部分はブロックの終わりにあり、レコードの最後の部分は次のブロックの先頭にある）に分割されていることがあるためです。ファイルのコピーが1つしか作成されない場合、あるいは最後のコピーを作成中の場合は、ファイルの項目は出力の完了時に出力待ち行列から除去されます。

*CNTRL D

書き出しプログラムは、ファイルの現行コピーの終わりで停止します。生成するファイルのコピーが1つだけの場合、または最後のコピーを生成中の場合には、出力が完了するとそのファイルの項目は出力待ち行列から除去されます。

*PAGEEND

書き出しプログラムはページの終わりで保留されます。この値は、スプーリング書き出しプログラムが印刷装置書き出しプログラムの場合のみ有効です。

トップ

HLDWTRの例

HLDWTR WTR(PRINTER) OPTION(*CNTRL D)

このコマンドは、現在のファイルの終わりでPRINTERという名前の書き出しプログラムを停止します。書き出しプログラムは、RLSWTR（書き出しプログラム解放）またはENDWTR（書き出しプログラム終了）コマンドが出されるまで保留されます。

トップ

エラー・メッセージ： HLDWTR

*ESCAPE メッセージ

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF3313

書き出しプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3331

書き出しプログラム&3/&2/&1の制御は認可されていない。

CPF3332

書き出しプログラム&3/&2/&1はすでに保留されている。

CPF3334

書き出しプログラム&3/&2/&1に対する前の保留は未処理である。

CPF3438

*PAGEENDは書き出しプログラム&3/&2/&1の場合には正しくない。

[トップ](#)

IF (IF)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IF (IF)コマンドは、論理式を評価し、式の評価にしたがってCLプロシージャのコマンドを条件つきで処理します。論理式が真（論理1）の場合には、THENパラメーターに指定されたコマンド（またはDOグループ中の1グループのコマンド）が処理され、ELSEコマンドと関連したコマンドまたはDOグループは処理されません。論理式の結果が偽（論理2）である場合には、THENパラメーターに指定されたコマンドは処理されず、制御権は次のコマンドに移されます。そのコマンドがELSEコマンドである場合には、そのコマンドに指定されたコマンドまたはDOグループが処理されます。ELSEコマンドが指定されない場合には、制御権は次のコマンドに移されます。

DOコマンドが指定された時には、IFコマンドのTHENパラメーターで、あるいはELSEコマンドのCMDパラメーターでは、その式の結果が処理しているグループで不要なものである場合には、そのDOグループは迂回されます。すなわち、そのDOと関連したENDDOコマンドの後にあるコマンドに制御が移ります。

THENパラメーターによって指定されたコマンドまたはDOグループ、またはELSEコマンドが完了し（さらに、GOTOコマンドが処理されていない）場合には、ELSEコマンドによって指定されたコマンドまたはDOグループの後にある次のコマンドに制御が移ります。GOTOコマンドを処理すると、GOTOコマンドによって指定されたラベルをもつコマンドに制御が移り、そのコマンドから処理が続行されます。

次のコマンド順序はこのフローを示します。この例では、&TESTSWが論理変数です。

```
IF &TESTSW DO
  GROUP A (CLコマンドのグループ)
  .
  .
ENDDO
ELSE DO
  GROUP B (CLコマンドのグループ)
  .
  .
ENDDO
GROUP C (続行されるCLコマンド)
.
.
```

IFコマンドは論理変数&TESTSWをテストします。真の条件が存在する（&TESTSWに'1'の値が入っている）場合には、グループAのコマンドが処理された後に、グループCのコマンドに制御が移ります。偽の条件が存在する（&TESTSWに0の値が入っている）場合には、グループAのコマンドが迂回されて、グループBのコマンドが処理された後に、グループCのコマンドに制御が移ります。

制約事項:

- IFコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- 最大10レベルのネストされたIFおよびELSEコマンドを使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COND	条件	論理値	必須, 定位置 1
THEN	コマンド	コマンド・ストリング	オプション, 定位置 2

トップ

条件 (COND)

プログラム中の条件および次に実行される処置を決定するために評価される論理式を示します。論理式については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「論理式」を参照してください。式の中では変数、固定情報、そして%SUBSTRING, %SWITCH,および %BINARY組み込み関数を使用できることに注意してください。

これは必須パラメーターです。

論理値 CL論理変数または論理式の名前を指定してください。

トップ

コマンド (THEN)

論理式の評価結果が真の場合に処理されるコマンドまたはコマンドのグループ (DO グループで) を指定します。コマンドまたはDOグループが処理されると、このIFコマンドと関連したELSEコマンドの後にある次のコマンドに制御が移ります。結果が真の場合には、IFコマンドと関連したELSEコマンドは処理されません。このパラメーターで指定したコマンドがDOコマンドである場合には、DOグループ内のすべてのコマンドがパラメーターによって指定したコマンドと見なされます。

THENキーワードによって指定されたコマンドが、そのキーワードをコーディングする時の同じ行にコーディングされない場合には、THENキーワードの直後に左括弧、あるいはプラス符号(+)またはマイナス符号(-)を(その同じ行)に続けて、継続を示す必要があります。(キーワードの後に空白を続けることはできません。)次に、そのコマンドと右括弧を次の行にコーディングすることができます。たとえば、次の通りです。

```
IF COND(&A *EQ &B) THEN(      +
    GOTO C)
```

THENパラメーターによって指定されたコマンドの任意の部分を次の行に続ける場合には、継続文字 (+または-) を指定しなければなりません。

DOコマンドが指定された場合には、DOコマンドだけ（DOグループ中に指定されたコマンドではない）が括弧に入れられます。たとえば、次の通りです。

```
IF COND(&A *EQ &B) THEN(DO)
  CMD1
  CMD2
  .
  .
ENDDO
```

THENパラメーターにコマンドが指定されない（ヌルのTHEN）で、その直後にELSEコマンドがある場合には、IF式が偽の場合はELSEが処理され、その式が真の場合はこれがスキップされます。

CLコマンドはTHENパラメーターに指定することができますが、次のコマンドは例外です。

- ELSE
- PGM, ENDPGM
- ENDDO
- MONMSG
- DCL, DCLF
- WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT

ネストされたIFおよびELSEコマンドがまだ10レベルになっていないかぎり、コマンドを別のIFにすることができます。

トップ

IFの例

```
IF COND(&A *EQ &B) THEN(GOTO X)
IF (&A *EQ &B) THEN(GOTO X)
IF (&A *EQ &B) (GOTO X)
IF COND(&A *EQ &B) THEN(GOTO X)
```

上記の例は、IFコマンドを指定して条件をテストし、ラベルに分岐できるさまざまな方法を示しています。これらの例では、&Aが&Bに等しいと、Xという名前のラベルを持つCLコマンドに制御権が移ります。

```
IF COND(&TESTSW) THEN(CHGVAR VAR(&A) VALUE(23))
```

&TESTSWが論理値1（真）であると、CHGVARコマンドが処理され、&Aが10進数23に設定されます。&TESTSWが論理値0（真でない）であると、変数変更(CHGVAR)コマンドは処理されません。

```
IF COND((&ALPHA *EQ &BETA) *AND *NOT &GAMMA)
  THEN(RETURN)
```

&ALPHAの値が&BETAの値に等しく、&GAMMAが論理0の場合は、このCLプロシーチャーを呼び出したプログラムまたはプロシーチャーに戻ります。

```
IF &LOG1 THEN(IF (&A *GT 10) THEN(GOTO X))
  ELSE(GOTO Y)
ELSE DO
```

: (CLコマンドのグループ)

ENDDO

これは、ネストされたIFコマンドの例です。&LOG1が論理値1（真）で、&Aが10より大きいと、ラベルXに分岐します。&LOG1が論理値1で、&Aが10以下であると、ラベルYに分岐します。&LOG1が論理値0（偽）であると、&Aは10と比較されません。代わりに、2番目のELSEコマンドのDOグループが処理されます。

```
IF  &TEST THEN(DO)
  CHGVAR  &A (&A + 1)
  GOTO   X
ENDDO
ELSE DO
  CHGVAR  &B (&B + 1)
  CALL   EXTPGM (&B)
ENDDO
```

この例は、どのようにすればTHENパラメーターを次の行に継続できるかを示しています。&TESTが論理値1の場合は、THENパラメーターに指定されたDOグループが処理されます。そうでない場合は、ELSEコマンドに指定されたDOグループが処理されます。

```
IF  (&A *EQ YES) DO
  CHGVAR  &B 1
  CHGVAR  &C 'Z'
ENDDO
```

この例は、DOグループをTHENパラメーターとして示しています。2つの変数変更(CHGVAR)コマンドが処理されるのは、関係式で&AがYESに等しい場合です。

```
IF  %SWITCH(10XXXX10) THEN(GOTO X)
```

この例は、組み込み関数%SWITCHを使用してジョブの8個のジョブ・スイッチをテストする方法を示しています。%SWITCHの完全な説明については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「CLの組み込み関数」のトピックを参照してください。この例では、ジョブ・スイッチ1, 2, 7,および8が、8文字のマスクに示された値であるかどうかをテストされます。スイッチ1と7が1で、スイッチ2と8が0であれば、ラベルXを持つコマンドに制御権が分岐します。4個のスイッチのうち、どれか1つでも示された値でないものがあると、分岐は行われません。

トップ

エラー・メッセージ： IF

*ESCAPEメッセージ

CPF0816

%SWITCHマスク&1が正しくない。

トップ

プログラム一時修正の導入 (INSPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正導入(INSPTF)コマンドにより、ユーザーはただ1つのコマンドで複数のプロダクトのPTFをロードして適用することができます。PTFグループは、システム上にまだ存在していない時、または媒体上のPTFグループのレベルがシステム上に存在するPTFグループのレベルより高い時にシステムにコピーされます。LICPGM(*ALL)を指定した場合には、媒体上のPTFグループにリストされた特殊処理PTFが導入中に使用されます。

OMITおよびHIPERパラメーターは、INSPTFコマンドのユーザーがさらに選択できるようにするために、提供されています。これらのパラメーターは、PTFのロード活動に対してだけ適用されます。システムにすでにロードされたPTFは適用されません。

INSTYPパラメーターはPTFの適用を制御します。異なった特殊値の使用によって、IPLの開始と同様に即時および遅延適用の組み合わせが可能です。

INSPTFは、システムに複数リリースの基本オプションが導入されているプロダクト用にテープからのPTFのロードをサポートしていません。このようなプロダクトのPTFがテープ上に存在している場合には、INSPTFはこれらのPTFをロードせず、エラーを戻します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクトの説明	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: プロダクト	文字値, *ALL	
	要素 2: リリース	文字値, *ONLY	
DEV	装置	名前, *SERVICE , *NONE	オプション
INSTYP	PTF適用タイプ	*SRVATT , *DLYIPL, *DLYALL, *IMMONLY, *IMMDLY	オプション
OMIT	PTF省略リスト	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プロダクト	文字値	
	要素 2: PTF識別コード	文字値	
	要素 3: リリース	文字値, *ONLY	
HIPER	HIPER PTFのみ	*YES , *NO	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
RESTART	再始動タイプ	*IPLA , *SYS, *FULL	オプション
PMTMED	媒体のプロンプト	*SNGVOLSET , *MLTVOLSET, *MLTSRV	オプション

トップ

プロダクトの説明 (LICPGM)

PTFを導入しなければならないプロダクトのプロダクトID,バージョン, リリース, およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての導入済みプロダクトに使用可能なPTFが導入されます。これは、最初の値であり、かつ指定する場合には唯一の値でなければなりません。この後に指定された値はすべて無視されます。

指定できるライセンス・プログラム値は次の通りです。

ライセンス・プログラム

導入するPTFのプロダクトIDを指定してください。最大300のプロダクトIDを指定することができます。

指定できるライセンス・プログラムのリリース・レベル値は次の通りです。

リリース・レベル

基本プロダクト・オプションのリリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、およびMZはモディフィケーション・レベルです。

*ONLY

この値が有効なのは、システムに導入されているプロダクトの基本オプションのリリースが1つの場合だけです。プロダクトのすべての導入済みオプションに対するPTFは、オプションのリリース・レベルとは無関係にロードされて適用されます。

[トップ](#)

装置 (DEV)

PTFのロードが開始される装置を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていないければなりません。

考えられる値は次の通りです。

*SERVICE

保守サポート・システムから送られてきたPTFが導入されます。

*NONE

PTFはロードされません。システムにすでにロードされたPTFは適用されます。この特殊値は、不完全なPTF導入に続くIPLの後に使用されます。導入されているPTFグループの特殊処理PTFは、このPTFグループの残りのPTFを適用する前に適用され、活動化されなければなりません。

テープ装置名

PTFを導入する元のテープ装置の名前を指定します。

光ディスク装置名

PTFの導入元である光ディスク装置の名前を指定します。

[トップ](#)

PTF適用タイプ (INSTYP)

実行する導入のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SRVATT**

導入のタイプはサービス属性の設定によって決まります。

重要:

サービス属性は、省略時の値としての*DLYIPLで出荷されます。サービス属性の変更 (CHGSRVA) コマンドを使用して、省略時の値を変更してください。

***DLYIPL**

すべてのPTFに遅延適用のマークが付けられ、システムの初期プログラム・ロード(IPL)が実行されます。

***DLYALL**

すべてのPTFに遅延適用のマークが付けられ、システムの初期プログラム・ロード(IPL)は実行されません。

***IMMDLY**

即時PTFが適用され、遅延PTFには次回の初期プログラム・ロード(IPL)時に適用のマークが付けられます。

***IMMONLY**

すべてのPTFがロードされますが、即時PTFのみが適用され、システムの初期プログラム・ロード(IPL)は実行されません。

[トップ](#)

PTF省略リスト (OMIT)

ロードしてはならないPTFのプロダクトID、バージョン、リリース、モディフィケーション・レベル、およびPTF IDを指定します。PTFの現在の状態はLODPTFに渡す前に検査されません。PTFがすでにロードされている場合には、適用されます。最大50のPTFを省略することができます。

指定できるライセンス・プログラム値は次の通りです。

ライセンス・プログラム

ロードしてはならないPTFのプロダクトIDを指定してください。

指定できるPTF番号値は次の通りです。

PTF番号

導入してはならないPTFのPTF IDを指定してください。

指定できるリリース・レベル値は次の通りです。

リリース・レベル

ロードしてはならないPTFについて基本プロダクト・オプションのリリース・レベルまたはPTFのリリース・レベルを指定してください。リリース・レベルは、VXRYMZの形式で指定しなければなりません。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、およびMZはモディフィケーション・レベルです。

***ONLY**

LICPGMパラメーターで選択したプロダクトのリリースのみ。

[トップ](#)

HIPER PTFのみ (HIPER)

媒体からの導入時に高影響普及(HIPER) PTFのみをロードするかどうかを指定します。

注: DEV(*SERVICE)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。これは、IBM累積/予防PTFパッケージの導入時のみ有効です。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 除外リストにリストされているPTF以外のすべてのPTFをロードする必要があります。

***YES** 除外リストに載っていないHIPER PTFのみをロードする必要があります。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

PTF操作が終了した後にテープ・ボリュームまたは光ディスク・ボリュームで自動的に実行される操作を指定します。

注: このパラメーターは、DEVパラメーターでテープまたは光ディスク装置名が指定される場合にだけ有効です。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

再始動タイプ (RESTART)

PTF適用タイプ(INSTYP)パラメーターでIPLを実行するように指定されている場合は、初期プログラム・ロード(IPL)を再始動する点を指定します。

注: これが有効なのは、INSTYP(*DLYIPL)が指定されている場合、あるいはINSTYP(*SRVATT)が指定されていて、PTF導入タイプ(PTFINSTYP)サービス属性が*DLYIPLに設定されている場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***IPLA** IPL属性の変更 (CHGIPLA)コマンドで指定された値が使用されます。この値の現在の設定値を判別するためには、IPL属性の表示 (DSPIPLA)コマンドを使用します。

***SYS** システムが再始動するシステムの数とを判別することを指定します。

オペレーティング・システムは常に再始動されます。ハードウェアが再始動されるのは、再始動を必要とするPTFが適用された場合だけです。***FULL** IPL時に実行される一部の構成変更のような他のハードウェア機能は処理されません。

IPL時間は***SYS**の方が***FULL**を指定した場合より短くすることができます。

***FULL** ハードウェアを含むシステムのすべての部分が再始動されます。

トップ

媒体のプロンプト (PMTMED)

追加のPTFボリューム・セットにプロンプトを出し、装置からのPTFのロード後に***SERVICE**からPTFをロードするかどうかを指定します。

注: DEV(***SERVICE**)またはDEV(***NONE**)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***SNGVOLSET**

PTFのロード時に単一ボリューム・セットのボリュームごとにマウントするようプロンプトを出します。DEVパラメーターに仮想光ディスク装置を指定した場合には、マウントされたすべてのPTFボリュームが処理されます。

***MLTVOLSET**

PTFのロード時に複数のボリューム・セットのボリュームにプロンプトを出します。

***MLTSRV**

PTFのロード時に複数のボリューム・セットのボリュームにプロンプトを出します。PTFが最後のボリューム・セットからロードされた後に、PTFは保守サポート・システム(***SERVICE**)からロードされます。

トップ

INSPTFの例

例1: PTFの省略

```
INSPTF LICPGM((*ALL)) DEV(*SERVICE) INSTYP(*IMMDLY)
      OMIT((5722999 MF12345 V5R3M0) (5722SS1 SI12345 V5R3M0))
```

このコマンドは、MF12345とSI12345以外のシステムに導入されたすべての製品で***SERVICE**であるすべてのPTFをロードします。これはその後、即時に適用できるロード済み状況のすべてのPTFを適用し、残りのPTFに遅延適用のマークを付けます。

例2: HIPERのみの導入

```
INSPTF LICPGM((5722PT1 V5R3M0)) DEV(TAP01) INSTYP(*IMMONLY)
      HIPER(*YES)
```

このコマンドは、HIPERセクションにあるV5R3M0パフォーマンス・ツールのPTFを媒体で検索します。即時に適用できる各PTFは適用が行なわれます。遅延PTFはロードされますが、適用のマークは付けられません。

例3:即時PTFのみの導入

```
INSPTF LICPGM>(*ALL) DEV(TAP01) INSTYP(*IMMONLY)
ENDOPT(*LEAVE)
```

このコマンドは、装置TAP01からシステムに導入された製品のすべてのPTFをロードします。システムでロード済みの状況にあり、即時に適用できる各PTFは適用が行なわれます。遅延PTFは適用には設定されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： INSPTF

*ESCAPEメッセージ

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF358F

LICPGMパラメーターに重複項目が入っている。

CPF35EB

プロダクト&1の複数のリリースが導入されている。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF36B7

PTF導入処理が完了していない。IPLが必要です。

CPF3606

プロダクト&1 &2は導入されていない。

CPF361A

PTFが正常に導入されたが、処置が保留中。

CPF361B

PTF導入処理が正常に実行されず、処置が保留されている。

CPF361C

PTFが導入されなかった。

CPF3615

PTF導入処理が正常に実行されなかった。

CPF3618

モードが通常位置になっていない。

[トップ](#)

ディスク初期設定 (INZDKT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク初期設定(INZDKT)コマンドはディスクを使用できるように初期設定します。このコマンドは、ディスクに識別情報を書き込み、ディスクで使用される形式をセットします。ディスク初期設定では次のことが行なわれます。

- まだ活動状態であって、消去してはならないファイルの検査。
- 記録面の物理的損傷についての各トラックのテスト。3つ以上の障害シリンダーが検出されるか、シリンダー0に障害があるか、あるいは障害トラックのトラックIDを読み取ることができない場合には、ディスクは使用不能です。
- 指定されたセクター・サイズ(128, 256, 512,または1024バイト)および記録密度(単一記録密度または倍記録密度)に各トラックをフォーマット。ディスクのフォーマットによって、後からの処理でディスクをどんな用途に使用できるかが決まります。これについては、FMTパラメーターとSCTSIZパラメーターにさらに詳しい説明があります。
- ディスクの全体をカバーする1つの(満了)ファイルの定義。このファイルは、DATAとして識別されます。

IBM提供のディスクは、顧客に出荷する前に初期設定されています。ディスクは、次の場合に再初期設定の必要があります。

- 形式が変更された。
- ディスクのレコードの順序が変更された(順次にしかできません)。
- 1つまたは2つのトラックで損傷が発生した。
- ディスクが強い磁気にさらされた。

1つのINZDKTコマンドは、一度に1枚のディスクしか初期設定することができません。

注: IBM以外の標準ラベルであるラベル付きのディスクを初期設定するときは、CHECK(*NO)を指定してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ディスク装置	名前	必須, 定位置 1
NEWVOL	新しいボリューム識別コード	文字値, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 2
NEWOWNID	新しい所有者識別コード	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション, 定位置 3
FMT	ディスクの形式	<u>*DATA</u> , 1, 2, 2D, *DATA2, *SAVRST	オプション, 定位置 4

キーワード	記述	選択項目	注
SCTSIZ	セクター・サイズ	*STD , 128, 256, 512, 1024	オプションル、定位置 5
CHECK	活動ファイルの検査	*YES , *NO	オプションル
CODE	コード	*EBCDIC , *ASCII	オプションル

トップ

ディスク装置 (DEV)

初期設定しようとするディスクが入っている装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

新しいボリューム識別コード (NEWVOL)

初期設定されるディスクのボリューム識別コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ボリューム識別コードは指定されず、ボリューム・ラベルの識別フィールドにシステム日付だけが書き込まれます。

ボリューム識別コード

初期設定されるディスクを識別するために、最大6文字のボリューム識別コード指定します。ボリューム識別コードには、英字および数字を任意に組み合わせて使用することができます。

トップ

新しい所有者識別コード (NEWOWNID)

ボリューム・ラベルに書き込むディスク所有者の識別コードを指定します。使用できるのは英字または数字の任意の組み合わせです。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

ブランクが所有者識別フィールドに書き込まれます。

所有者識別コード

ディスクの所有者を識別する最大14文字の、大文字の英字および数字を指定します。値がアポストロフィで囲まれていても、小文字、組み込みブランク、または特殊文字は使用することができません。14桁より少ない文字が指定された場合には、フィールドが左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。

トップ

ディスクットの形式 (FMT)

ディスクットの初期設定に使用する形式を指定します。ディスクットに基本、H, I,またはS/36-E交換形式のデータ・ファイルを入れる場合には、*DATA, *DATA2, 1, 2,または2Dを指定することができます。基本交換形式には、IBMディスクット・タイプ1または2を両方とも使用できるシステム間で確実に交換できるようにする一組の要件があります。ディスクットをAS/400システムまたはSYSTEM/38保管・復元操作で使用する場合(すなわち、そのデータ・ファイルに保管済みオブジェクトが入っている場合)には、*SAVRST (タイプE汎用データ交換)が指定されていなければなりません。また、*SAVRSTはSYSTEM/36保管・復元操作にも有効で、優先的に使用される形式です。

考えられる値は次の通りです。

***DATA**

片面または両面のディスクットが、単一記録密度記録形式で形式設定されます。

- 1** 片面のディスクットが、単一記録密度記録形式で形式設定されます。
- 2** 両面のディスクットが、単一記録密度記録形式で形式設定されます。
- 2D** 両面のディスクットが倍密度記録形式で形式設定されます。

***DATA2**

両面のディスクットが倍密度記録形式で形式設定されます。

***SAVRST**

両面のディスクットが倍密度記録形式で形式設定されます。ディスクットを保管／復元操作で使用する場合には、この形式にしなければなりません。

注: *DATA2, *SAVRST,および2Dはディスクットが倍密度記録方式用に使用されることを指定するので、タイプ2よりむしろ2Dディスクットを使用することをお勧めします。タイプ2Dディスクットは倍密度記録方式用に製造されているのに対して、タイプ2は単一密度記録方式用に製造されていて、倍密度記録方式用に使用すると媒体エラーが起こる傾向があります。

注: FMT(*SAVRST)が指定されている場合には、CODE(*ASCII)は指定することができません。

[トップ](#)

セクター・サイズ (SCTSIZ)

各トラックを初期設定するための1セクター当たりのバイト数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***STD** FMTパラメーターの値に基づき、標準セクター・サイズが使用されます。

	SCTSIZ
FMT (*STD)	
*DATA	128
1	128
2	128
2D	256

***DATA2**

256

***SAVRST**

1024

- 128** 各トラックは、128バイト／セクターで初期設定されます。
- 256** 各トラックは、256バイト／セクターで初期設定されます。
- 512** 各トラックは、512バイト／セクターで初期設定されます。
- 1024** 各トラックは、1024バイト／セクターで初期設定されます。

[トップ](#)

活動ファイルの検査 (CHECK)

活動ファイル（システム日付より後の満了日をもつファイル）の検査を行なうかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- *YES** 検査は、ラベル付きのファイルあるいはシリンダー0だけに入っているファイルだけに対して実行されます。拡張ファイル・ラベル域のファイル・ラベルは検査されません。活動ファイルが見つかった場合には、操作員メッセージが送信されます。操作員は、初期設定を続行するか（この場合には、活動ファイルが破棄されます）、あるいはディスクットの初期設定を終了することができます。
- *NO** ディスクットの初期設定は、活動ファイルの検査を行わずに進められます。

[トップ](#)

コード (CODE)

書き込むボリューム・ラベルを表すコードを指定します。続けて書き込まれるすべてのデータは、同じコードでなければなりません。コードは、ディスクット上では混用することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***EBCDIC**

ボリューム・ラベルはEBCDICで書き込まれ、IBM標準ラベルとなります。後続のデータもすべてEBCDICで書き込まなければなりません。

***ASCII**

ボリューム・ラベルはASCIIで書き込まれ、EBCDICラベルと同じ形式のIBM標準ラベルとなります。後続のデータもすべてASCIIで書き込まなければなりません。FMT(*SAVRST)を指定した場合には、*ASCIIを指定することはできません。

[トップ](#)

INZDKTの例

例1: ディスキットの初期化

```
INZDKT  DEV(DKT1)  NEWVOL(ORIGIN)  NEWOWNID(DEPT504)
```

このコマンドは、ディスク装置DKT1を初期化します。活動ファイルについて、ディスクが検査されます(CHECK(*YES)が前提となります)。ディスクは、基本データ交換ファイルでフォーマットされます(FMT(*DATA)が前提となります)。ボリューム・ラベルでは、ORIGINがボリューム識別コード・フィールドに書き出され、DEPT504が所有者識別コード・フィールドに書き出されます。

例2: ディスキットの保管および復元フォーマットへの初期化

```
INZDKT  DEV(DKT2)  NEWVOL(SAVE)  NEWOWNID(DON)
        FMT(*SAVRST)  CHECK(*NO)
```

このコマンドは、装置DKT2内のディスクを保管および節約フォーマットに初期化します。このディスクは、SAVEのNEWVOLで初期化されます。所有者識別コードフィールドには、DONが書き込まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： INZDKT

*ESCAPEメッセージ

CPF6156

メッセージ&6に対して取り消し応答を受け取った。

CPF6716

装置&1がディスク装置でない。

CPF6717

ディスクの初期設定は終了したが、前にエラーが起きている。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6757

所有者識別コード&1に正しくない文字が入っている。

CPF6758

ボリューム識別コード&1に正しくない文字が入っている。

CPF6779

装置&1のディスクに指定した様式(FMT)が正しくない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

DLFMの初期化 (INZDLFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DLFM初期設定(INZDLFM)コマンドは、開始されるデータ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)を準備し、DLFMによって使用されるデータベース・ファイルから情報を消去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLEARDB	既存のデータベースの消去	<u>*LNKSTS</u> , *ALL	オプション、位置 1

[トップ](#)

既存のデータベースの消去 (CLEARDB)

消去するデータベースを指定します。

*LNKSTS

データ・リンクのリンク状況が入っているデータベース・ファイルが消去されます。登録済み接頭部およびホスト・データベース名が入っているデータベース・ファイルは消去されません。

- *ALL** データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)によって使用されるすべてのデータベース・ファイルが消去されます。

[トップ](#)

INZDLFMの例

データ・リンク・ファイル・マネージャーの初期設定および消去

```
INZDLFM CLEARDB(*ALL)
```

このコマンドは、データ・リンク・ファイル・マネージャーを初期設定し、既存のデータのすべてのデータベース・ファイルを消去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： INZDLFM

*ESCAPEメッセージ

CPF3168

データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)コマンドが正しく実行されませんでした。

[トップ](#)

配布待ち行列の初期設定 (INZDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列初期設定(INZDSTQ)コマンドは、配布待ち行列およびその待ち行列上の項目の状況をリセットします。このコマンドでは、また、オプションで待ち行列上のすべての配布が消去されます。このコマンドは、指定された待ち行列の通常部分と高優先順位部分の両方に適用されます。

重要:配布待ち行列を初期化すると、このコマンドの実行時に行われていた配布の状況によって、ネットワーク内で配布が失われたり、重複したりすることがあります。

配布待ち行列の初期設定では、次のことが行なわれます。

- SNADS (システム・ネットワーク体系(SNA)配布サービス) 送信機能のジョブが待ち行列について活動状態であった場合には、そのジョブは終了させられます。このジョブの取り消しは即時に有効となります。送信されていた配布待ち行列は中断されます。
- 待ち行列タイプがSYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)待ち行列タイプであり、受信先のジョブがこの接続について活動状態であった場合には、そのジョブは終了させられます。このジョブの取り消しは即時に有効となります。部分的に受信された配布は、すべて破棄されます。
- 配布待ち行列が消去される場合に、その待ち行列上のすべての配布は、**待ち行列項目の消去プロンプト** (CLEARパラメーター) に指定された通りに削除されます。
- 待ち行列が消去されない場合には、その待ち行列上の状況が「保留中」でない配布は「作動可能」にセットされます。状況が「保留中」である配布は、保留中のまま残されます。
- 待ち行列状況は、待ち行列が「保留中」状況でないかぎり「作動可能」にセットされます。
- QSNADSシステムが活動状態である場合には、QSNADSサブシステムを開始するために使用されるのと同じ規則に従って、待ち行列についてSNADS送信側機能のジョブが投入されます。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。**配布待ち行列プロンプト** (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1
CLEAR	待ち行列項目の消去	*NO , *YES , *PURGE	オプション

[トップ](#)

配布待ち行列 (DSTQ)

初期設定する配布待ち行列の名前を指定します。この待ち行列は、配布サービス構成(CFGDSTSRV)または配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して、前に構成されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

待ち行列項目の消去 (CLEAR)

待ち行列上の配布が削除されるかどうかを指定します。

重要: *PURGEの値を使用すると、配布が失われて追跡できなくなります。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 待ち行列上の配布は削除されません。

***YES** 待ち行列上の配布が削除されます。削除された各配布が記録され、配布の発信元から通知が要求されていた場合には、その発信元または配布に指定された報告書の宛先に通知が送られます。

注: 配布についての情報を発信元へ報告し戻すためには、システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)の状況配布および配布報告書が使用されます。状況報告書の配布の結果として別の状況報告書が配布されることはありません。状況報告書の配布が削除された場合には、通知は送られません。

***PURGE**

待ち行列上の配布が削除されます。削除された配布は記録されず、発信元または配布に指定された報告書の宛先に通知は送られません。

[トップ](#)

INZDSTQの例

例1: 配布待ち行列の初期化

```
INZDSTQ DSTQ('SYSTEMA APPN')
```

セントラル・サイトの管理者がシステム'SYSTEMA APPN'の接続情報を変更しようとしています。このコマンドは、配布待ち行列変更(CHGDSTQ) コマンドで検出されるエラー条件を避けるように待ち行列を初期化します。待ち行列上の配布は削除されません。

例2: 配布待ち行列の初期化および消去

244 iSeries: OS/400 コマンド ENDMSF (メール・サーバー・フレームワークの終了) ~

```
INZDSTQ DSTQ('ERRORQ') CLEAR(*YES)
```

このコマンドは、経路指定エラーとなった配布のリポジトリとして使用される配布待ち行列ERRORQを消去します。削除される配布がログされて、配布の発信元に通知されます。

例3: 配布待ち行列の初期化およびパージ

```
INZDSTQ DSTQ('TESTQ') CLEAR(*PURGE)
```

このコマンドは、新しいバッチ・アプリケーションのテストに使用される配布待ち行列TESTQを消去します。配布は削除されますがログされず、発信元にも通知されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: INZDSTQ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

光ディスク初期設定 (INZOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク初期設定(INZOPT)コマンドは光ディスク・ボリュームを初期設定します。初期設定される光ディスク・ボリュームのタイプによっては、この操作の完了に30分を要する場合があります。既存の光ディスク・ボリュームが再び初期設定されると、既存のすべての情報が失われます。

制約事項:ボリュームを保護している権限リストが光ディスク媒体ライブラリー装置に入っている場合には、それに対する*ALL 権限が必要です。ボリュームを保護している権限リストが光ディスク装置に入っている場合には、それに対する *CHANGE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプションル, キー, 定位置 1
NEWVOL	新しいボリューム識別コード	文字値, *VOL	オプションル, 定位置 2
DEV	装置	名前	オプションル
THRESHOLD	ボリューム満杯しきい値	1-100, *CALC	オプションル
CHECK	活動ボリューム検査	*NO , *YES	オプションル
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*LEAVE , *UNLOAD	オプションル
CLEAR	消去	*NO , *YES	オプションル
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプションル
TYPE	ボリューム・タイプ	*PRIMARY , *BACKUP	オプションル
CCSID	コード化文字セットID	*CALC , 500, 850	オプションル
MEDFMT	媒体の形式	*MEDTYPE , *HPOFS , *UDF	オプションル

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

初期設定しようとしている光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。

***MOUNTED**

指定された装置 (DEVパラメーター) にマウントされたボリュームが初期設定されます。

ボリューム識別コード

初期設定する光ディスク・ボリュームの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

新しいボリューム識別コード (NEWVOL)

光ディスク・ボリュームが初期設定された後でそのボリュームの識別コードを指定します。この識別コードには、英字(A-Z)、数字(0-9)、ハイフン(-)、下線(_)またはピリオド (.)のみ含まれていなければなりません。最初の文字は英字または数字でなければならず、識別コードは空白を含むことができません。

***VOL** 新しいボリューム識別コードは古いボリューム識別コードと同じになります。

新しいボリューム識別コード

新しいボリューム識別コードを指定してください。

[トップ](#)

装置 (DEV)

初期化するボリュームが入っている光ディスク装置を指定します。このパラメーターは、VOL(*MOUNTED)が指定された時だけ必要です。装置を光ディスク媒体ライブラリー装置とすることはできません。

光ディスク装置

初期設定されるボリュームが入っている光ディスク装置の名前。

[トップ](#)

ボリューム満杯しきい値 (THRESHOLD)

ボリュームが満杯と見なされるまで使用するボリューム上のスペースのパーセンテージを指定します。このフィールドは、媒体形式が*HPOFSの場合にのみ使用されます。その他の媒体形式の場合には、このフィールドは無視され、限界値は省略時の値として100パーセントが使用されます。

*CALC

システムは、媒体形式およびボリューム・タイプに基づいて、使用するボリュームのパーセンテージを計算します。

- 媒体形式が*HPOFSでボリューム・タイプが*PRIMARYの場合、限界値は95パーセントです。
- 媒体形式が*HPOFSでボリューム・タイプが*BACKUPの場合、限界値は99パーセントです。
- 媒体形式が*UDFの場合、限界値は100パーセントです。

ボリューム全体の限界値

ボリュームの限界値パーセントを指定してください。有効な値の範囲は1-100です。

注: ボリューム・タイプが*BACKUPの場合には、このパラメーターは無視され、ボリューム全体の限界値は99パーセントに設定されます。

媒体形式が*UDFの場合には、このパラメーターは無視され、ボリューム全体の限界値は100パーセントに設定されます。

[トップ](#)

活動ボリューム検査 (CHECK)

光ディスク・ボリュームが初期設定されたかをシステムが検査するかどうかを指定します。

- *YES** システムは光ディスク・ボリュームが初期設定されたかどうかを検査します。ボリュームが初期設定されている場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。
- *NO** システムは光ディスク・ボリュームが初期設定されたかどうかを検査しません。ボリュームは初期設定され、既存のデータはすべて失われます。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

初期設定コマンドの完了後に媒体を装置からアンロードするかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、媒体が光ディスク・ライブラリー装置の場合には無視されます。

***LEAVE**

初期設定が完了すると、媒体は装置に残されます。

***UNLOAD**

初期設定が完了すると、媒体は装置からアンロードされます。

トップ

消去 (CLEAR)

初期設定プロセス時にボリューム上の既存のデータが消去されるかどうかを指定します。このパラメーターは、ボリューム媒体タイプが*DVD-RAMの時にだけ適用されます。

注: ボリューム媒体タイプが*WORMの場合には、パラメーターの設定にかかわらずボリュームは絶対に消去されません。

ボリューム媒体タイプが*ERASEの場合には、パラメーターの設定にかかわらずボリュームは常に消去されます。

***NO** ボリュームは消去されません。

***YES** 初期設定に先立って、ボリュームから既存のデータが消去されます。

注: このオプションが選択されている場合には、INZOPTコマンドが完了するまで媒体容量によっては、数時間かそれ以上かかります。

トップ

ボリューム・タイプ (TEXT)

光ディスク・ボリュームについて簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ボリューム・タイプ (TYPE)

初期設定される光ディスク・ボリュームのタイプを指定します。ユーザー適用業務の光ディスク・ボリュームは基本ボリュームとして初期設定されます。バックアップ光ディスク・ボリュームには、次の光ディスク・バックアップ・コマンドを使用してのみ書き込むことができます。すなわち、CVTOPTBKU、CPYOPT、およびDUPOPT です。

*PRIMARY

光ディスク・ボリュームは基本ボリュームとして使用されます。

*BACKUP

光ディスク・ボリュームはバックアップ・ボリュームとして使用されます。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

光ディスク・ボリューム、ディレクトリー、ファイル名、およびボリューム記述が書かれる文字セットを指定します。このパラメーターはユーザー・データの書かれる方法には影響しません。ユーザー適用業務は、ファイル・データが書かれる文字セットを決めなければなりません。

*CALC

システムは、媒体形式に基づいての省略時の文字セットを選択します。

500 EBCDIC文字セットおよびコード・ページ500が使用されます。

850 ASCII文字セットおよびコード・ページ850が使用されます。

[トップ](#)

媒体の形式 (MEDFMT)

光ディスク媒体への書き込み時に使用する媒体形式を指示します。2つの媒体形式、すなわち*HPOFS（ハイパフォーマンス光ディスク・ファイル・システム）と*UDF（汎用ディスク形式）があります。2つの媒体形式の完全な比較については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

*MEDTYPE

ボリュームの初期設定に使用する媒体形式をオペレーティング・システムが決定することを指定します。媒体形式は媒体タイプによって決定されます。

- 媒体タイプが*WORMまたは*UNKNOWNの場合には、媒体は*HPOFS形式を使用して初期設定されます。
- 媒体タイプが*ERASEで、以前に初期設定されていない場合には、媒体は*HPOFS形式を使用して初期設定されます。
- 媒体タイプが*ERASEで、以前に初期設定されていない場合には、媒体は以前の媒体形式を使用して初期設定されます。
- 媒体タイプが*DVD-RAMの場合には、媒体は*UDF形式を使用して初期設定されます。

*HPOFS

ボリュームを初期設定するために、ハイパフォーマンス光ディスク・ファイル・システムが使用されます。HPOFSの特性の1つは、削除済みファイルが占有しているスペースが再利用されないことです。削除されたファイルのスペースを回復できる唯一の方法は、媒体を再初期化することです。ただし、媒体を再初期化すると、それ以前に媒体に記録されたデータはすべて失われます。

***UDF** 汎用ディスク形式（これはISO 13346標準のサブセット）が、ボリュームを初期設定するために使用されます。UDFの特性の1つは、新規ファイルの作成または既存ファイルの拡張のいずれかに必要なときに、削除済みファイルによって占有されているスペースが再利用される点です。また、UDF媒体形式は許可の使用によるファイルおよびディレクトリー・レベルの機密保護も提供します。

[トップ](#)

INZOPTの例

```
INZOPT VOL(VOL01) THRESHOLD(99) CHECK(*N0)
```

このコマンドは、ボリューム・フルしきい値が99%になっている光ディスク・ボリュームVOL01を初期化します。システムはそのボリュームが初期化されているかどうかを調べません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： INZOPT

*ESCAPEメッセージ

OPT1305

光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。

OPT1315

光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1335

ボリューム&1はすでに初期設定されている。

OPT1342

無効なボリューム識別コードが指定されました。

OPT1345

媒体上に使用可能な空きスペースがありません。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1350

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗した。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

OPT1375

光ディスク・ボリューム&1はすでに存在している。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1485

光ディスク・ボリュームの初期設定または名前変更が正常に実行されなかった。

OPT1489

装置&1ではボリューム・パラメーターは使用できない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1540

無効なパラメーターが指定されました。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT2420

光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。

OPT2422

ファイルまたはディレクトリーに対して許可されていません。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

CLIENT ACCESS/400の初期設定 (INZPCS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クライアント・アクセス/400初期設定(INZPCS)コマンドでは、クライアント・アクセス・フォルダーに関する各種の制御文書を作成して、クライアント・アクセス適用業務の操作環境を確立することができます。これらの制御文書には、パーソナル・コンピューター画面に情報を表示するために使用されるコード・ページ・マッピング・テーブル、キーボード・テーブル、およびフォント・ファイルが含まれます。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクをつけないでください。

エラー・メッセージ: INZPCS

*ESCAPE メッセージ

IWS16D0

CLIENT ACCESS/400の初期設定(INZPCSコマンド) が正常に実行されなかった。

IWS16DD

ライブラリー&3のメッセージ・ファイル&2からメッセージ&1を受け取ろうとした時にエラーが起こった。

IWS16E1

INZPCSコマンドが正常に完了した。

IWS16E2

ライブラリー&2のデータ域&1の検索中にエラー。

IWS16E3

ライブラリーQUSRSYSのデータ域QINZPCSDAを作成中にエラー。

IWS16E4

ライブラリーQUSRSYSのデータ域QINZPCSDAの更新中にエラー。

IWS16EE

ライブラリー&2のデータ域&1の削除は正常に実行されなかった。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
KBDTYPE	キーボード・タイプ	*DFT , AGB, AGI, ALI, BGB, BLI, BRB, CAB, CAI, CLB, CSB, DMB, DMI, ESB, FNB, FNI, FAB, FAI, FQB, FQI, GKB, GNB, HNB, ICB, ICI, INB, INI, IRB, ITB, ITI, JEB, JEI, JKB, JPB, JUB, KAB, KOB, LAB, LTB, LVB, MKB, NCB, NEB, NEI, NWB, NWI, PKB, PLB, PRB, PRI, RCB, RMB, RUB, SKB, SPB, SPI, SQB, SSB, SSI, SWB, SWI, SFI, SGI, TAB, THB, TKB, TRB, UAB, UKB, UKI, USB, USI, VNB, YGI	オプションナル, 定位置 1
ASCII	ASCIIコード・ページ番号	*DFT , 437, 720, 737, 775, 813, 819, 850, 851, 852, 855, 856, 857, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 868, 869, 874, 891, 897, 903, 904, 912, 915, 916, 920, 921, 922, 1004, 1006, 1008, 1040, 1041, 1042, 1043, 1046, 1088, 1089, 1098, 1114, 1115, 1124, 1125, 1127, 1129, 1131, 1133	オプションナル
EBCDIC	EBCDICコード・ページ番号	*DFT , 037, 256, 273, 277, 278, 280, 284, 285, 290, 297, 420, 423, 424, 500, 833, 836, 838, 870, 871, 875, 880, 918, 1025, 1026, 1027, 1047, 1097, 1112, 1122, 1123, 1130, 1132	オプションナル
LANGUAGE	言語機能コード	*DFT , *ALL, 2902, 2903, 2904, 2905, 2906, 2909, 2911, 2912, 2913, 2914, 2922, 2923, 2924, 2925, 2926, 2928, 2929, 2931, 2932, 2933, 2937, 2938, 2939, 2940, 2942, 2950, 2954, 2956, 2957, 2958, 2961, 2962, 2963, 2966, 2972, 2974, 2975, 2976, 2978, 2979, 2980, 2981, 2984, 2986, 2987, 2989, 2992, 2994, 2995, 2996, 2998	オプションナル

[トップ](#)

キーボード・タイプ (KBDTYPE)

使用するキーボード・タイプを指定します。

指定できる値は、次の通りです。

***DFT** 省略時のキーボード・タイプが使用されます。このコマンドが最初に実行される時には、省略時の値はシステム値QKBDTYPEから取られます。このコマンドが2回目以降に実行される時には、省略時の値はこのコマンドの前の実行で指定した値が取られます。

キーボード・タイプ

使用する3文字のキーボード・タイプを指定してください。値は文字変換テーブルにリストされます。

文字変換テーブル

- ID** 言語
- AGB** オーストリア/ドイツ
- AGI** オーストリア/ドイツ多国語
- ALI** アルバニア
- BGB** ブルガリア

BLI	ベルギー多国語
BRB	ブラジル
CAB	カナダ／フランス語
CAI	カナダ／フランス多国語
CLB	アラビア語 X／基本語
CSB	チェコ共和国
DMB	デンマーク
DMI	デンマーク多国語
ESB	エストニア語
FNB	フィンランド／スウェーデン
FNI	フィンランド／スウェーデン多国語
FAB	フランス(AZERTY)
FAI	フランス(AZERTY)多国語
FQB	フランス(QWERTY)
FQI	フランス(QWERTY)多国語
GKB	ギリシャ語
GNB	ギリシャ語
HNB	ハンガリー
ICB	アイスランド
ICI	アイスランド多国語
INB	インターナショナル
INI	インターナショナル多国語
IRB	イラン（ペルシャ語）
ITB	イタリア
ITI	イタリア多国語
JEB	日本語（英語）
JEI	日本語（英語）多国語
JKB	日本語（漢字）
JPB	日本語英数小文字拡張
JUB	日本語（米語基本）
KAB	日本語（カタカナ）
KOB	韓国
LAB	ラオス語
LTB	リトアニア語
LVB	ラトビア語
MKB	マケドニア

NCB	ヘブライ語
NEB	オランダ
NEI	オランダ多国語
NWB	ノルウェー
NWI	ノルウェー多国語
PKB	パキスタン語(URDU)
PLB	ポーランド
PRB	ポルトガル
PRI	ポルトガル多国語
RCB	中国語（簡体字）
RMB	ルーマニア
RUB	ロシア
SKB	スロバキア
SPB	スペイン
SPI	スペイン多国語
SQB	セルビア（キリル語）
SSB	スペイン語圏
SSI	スペイン語圏多国語
SWB	スウェーデン
SWI	スウェーデン多国語
SFI	スイス／フランス多国語
SGI	スイス／ドイツ多国語
TAB	中国語（繁体字）
THB	タイ（言語2924と一緒にのみ使用される）
TKB	トルコ（QWERTY）
TRB	トルコ(F)
UAB	ウクライナ語
UKB	英国
UKI	英国多国語
USB	米国／カナダ
USI	米国／カナダ多国語
VNB	ベトナム語
YGI	前ユーゴスラビアの言語（ラテン語）

[トップ](#)

ASCIIコード・ページ番号 (ASCII)

使用するASCIIコード・ページ番号を指定します。使用するコード・ページの詳細については、CLIENT ACCESS/400 INSTALLATION AND ADMINISTRATION GUIDEの「クライアント・アクセス/400の各国語サポート」と呼ばれる付録を参照してください。

注：2バイト言語に対してINZPCSコマンドを実行している場合には、この言語の1バイト・コード・ページを使用してください。INZPCSは1バイト・コード・ページを処理しさえすればよいことになります。2バイト・コード・ページ・サポートは、INZPCSを使用しなくても使用可能です。

指定できる値は、次の通りです。

***DFT** 省略時のコード・ページ番号が使用されます。このコマンドが最初に実行される時には、キーボード・タイプUSBおよびUSIの省略時の値は437で、その他のキーボード・タイプの省略時の値はほとんどが850です。このコマンドが2回目以降に実行される時には、省略時の値はこのコマンドの前の実行の時に指定された値になります。

コード・ページ番号

使用するASCIIコード・ページ番号を指定してください。

[トップ](#)

EBCDICコード・ページ番号 (EBCDIC)

使用するEBCDIC（またはホスト）コード・ページ番号を指定します。使用するコード・ページの詳細については、CLIENT ACCESS/400 INSTALLATION AND ADMINISTRATION GUIDEの「クライアント・アクセス/400の各国語サポート」と呼ばれる付録を参照してください。

注：2バイト言語に対してINZPCSコマンドを実行している場合には、この言語の1バイト・コード・ページを使用してください。INZPCSは1バイト・コード・ページを処理しさえすればよいことになります。2バイト・コード・ページ・サポートは、INZPCSを使用しなくても使用可能です。

***DFT** 省略時のシステム・コード・ページ番号が使用されます。このコマンドが最初に実行される時には、省略時の値はシステム値QCHRIDのコード・ページ部分から取り出されます。このコマンドが2回目以降に実行される時には、省略時の値はこのコマンドの前の実行の時に指定された値になります。

コード・ページ番号

使用するEBCDIC（またはホスト）ページ番号を指定してください。

[トップ](#)

言語機能コード (LANGUAGE)

処理する2次言語の言語機能識別コード(ID)を指定します。

指定できる値は、次の通りです。

***DFT** クライアント・アクセスの1次言語を処理しなければなりません。

言語機能コード

処理する言語の言語機能コードを指定します。言語機能識別名テーブルに値がリストされます。

言語機能識別コード・テーブル

ID	言語
2902	エストニア語
2903	リトアニア語
2904	ラトビア語
2905	ベトナム語
2906	ラオス語
2909	ベルギー英語
2911	スロベニア語
2912	クロアチア語
2913	マケドニア語
2914	セルビア語
2922	ポルトガル語
2923	オランダ語
2924	英語
2925	フィンランド語
2926	デンマーク語
2928	フランス語
2929	ドイツ語
2931	スペイン語
2932	イタリア語
2933	ノルウェー語
2937	スウェーデン語
2938	英語大文字/DBCS
2939	ドイツ語-MNCS
2940	フランス語-MNCS
2942	イタリア語-MNCS
2950	英語大文字
2954	アラビア語
2956	トルコ語
2957	ギリシャ語
2958	アイスランド語
2961	ヘブライ語
2962	日本語(DBCS)
2963	ベルギー・オランダ語
2966	ベルギー・フランス語
260	iSeries: OS/400 コマンド ENDMSF (メール・サーバー・フレームワークの終了) ~

- 2972 タイ語
- 2974 ブルガリア語
- 2975 チェコ語
- 2976 ハンガリー語
- 2978 ポーランド語
- 2979 ロシア語
- 2980 ブラジル・ポルトガル語
- 2981 カナダ・フランス語
- 2984 英語U/L (DBCS)
- 2986 韓国語(DBCS)
- 2987 中国語(DBCS)
- 2989 中国語（簡体字）(DBCS)
- 2992 ルーマニア語
- 2994 スロバキア語
- 2995 アルバニア語
- 2996 ポルトガル語-MNCS
- 2998 ペルシャ語

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： INZPCS

*ESCAPE メッセージ

IWS16D0

CLIENT ACCESS/400の初期設定(INZPCSコマンド) が正常に実行されなかった。

IWS16DD

ライブラリー&3のメッセージ・ファイル&2からメッセージ&1を受け取ろうとした時にエラーが起こった。

IWS16E1

INZPCSコマンドが正常に完了した。

IWS16E2

ライブラリー&2のデータ域&1の検索中にエラー。

IWS16E3

ライブラリーQUSRSYSのデータ域QINZPCSDAを作成中にエラー。

IWS16E4

ライブラリーQUSRSYSのデータ域QINZPCSDAの更新中にエラー。

IWS16EE

ライブラリー&2のデータ域&1の削除は正常に実行されなかった。

[トップ](#)

物理ファイル・メンバー初期設定 (INZPFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・メンバー初期設定(INZPFM)コマンドは、物理ファイルのメンバー内のレコードを、指定されたタイプのレコード（省略時のレコードまたは削除済みレコード）に初期設定します。初期設定されたメンバーが空である場合には、レコードが追加され、指定されたタイプに初期設定されます。メンバーが空でない場合には、指定されたタイプのレコードがメンバーに追加されます。指定された合計レコード数に達するまで、必要な数だけレコードが追加されます。

制約事項

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは*SNAタイプの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション, 定位置 2
RECORDS	レコードの初期設定	*DFT, *DLT	オプション, 定位置 3
TOTRCDS	レコードの合計数	1-4294967288, *NXTINCR	オプション

[トップ](#)

物理ファイル (FILE)

初期設定されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

初期設定されるファイル・メンバーを指定します。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

***LAST** 指定された物理ファイルの最後のメンバーが初期設定されます。

名前 初期設定される物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

レコードの初期設定 (RECORDS)

指定されたメンバーに初期設定または追加するレコードのタイプを指定します。そのメンバー内のレコードは、省略時のレコードまたは削除済みレコードとして初期設定されます。

***DFT** メンバー内のレコードは省略時のレコードとして初期設定されます。DDS (DFTキーワード) に省略時の値が指定されているフィールドがあった場合には、そのフィールドは指定された省略時の値に初期設定されます。そうでない場合には、数値フィールドはすべてゼロに初期設定され、文字フィールドはすべてブランクに初期設定されます。

***DLT** メンバー内のレコードは削除済みレコードとして初期設定されます。これらのレコードはアクセスすることはできず、単にファイル内に位置を占めるだけです。削除済みレコードは、削除されたスペースを再使用するために変更されます。

[トップ](#)

レコードの合計数 (TOTRCDS)

初期設定後のメンバー内のレコードの合計数を指定します。このパラメーターに指定した値により、ファイルのサイズがファイルの作成時に指定されたサイズより大きくなる場合には、メッセージがシステム操作員のメッセージ待ち行列(QSYSOPR)に送られます。操作員は操作を続行または取り消すことができます。

*NXTINCR

メンバー中のレコード数は、ファイルを次に追加される割り振り量まで拡張するために増やされません。メンバーが空である場合には、そのメンバーについて指定された初期割り振り量を満たせるだけレコードが追加されます。ファイルの作成時に**メンバー・サイズ(SIZE)**パラメーターに***NOMAX**が指定された場合には、*NXTINCRは無効です。

1-4294967288

メンバーにもたせたいレコードの合計数を指定してください。メンバー中の既存のレコードの数が

すでにこの数を満たしているか、あるいはこの数より大きい場合には、レコードは初期設定されません。その数が指定された数より小さい場合には、指定された合計数と等しくなる十分な数のレコードが初期設定されます。

[トップ](#)

INZPFMの例

```
INZPFM FILE(*CURLIB/INV) TOTRCDS(12000)
```

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリー***CURLIB**内の**INV**という名前の物理ファイルの最初のメンバー内に最大12,000個のレコードを初期設定します。メンバー中のレコードの合計数を12,000レコードにする数のレコードだけが追加されます。追加されるレコードは、省略時の様式に初期設定されます。DDS (DFTキーワード) に省略時の値が指定されているフィールドがあった場合には、そのフィールドは指定された省略時の値に初期設定されます。そうでない場合には、数値フィールドはすべてゼロに初期設定され、文字フィールドはすべてブランクに初期設定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： INZPFM

*ESCAPEメッセージ

CPF3130

メンバー&2はすでに使用中である。

CPF3131

省略時のレコードでメンバー&2を初期設定することはできない。

CPF3132

TOTRCDSパラメーターの値が抜けているか、あるいは小さすぎる。

CPF3133

ライブラリー&3のファイル&1にメンバーがない。

CPF3134

メンバー&2の処理中に参照制約エラー。

CPF3136

コマンドで&3のファイル&1を使用することはできない。

CPF3137

メンバー&2の消去、初期設定、またはコピーの権限がない。

CPF3138

メンバー&2処理中の検査制約エラー。

CPF3140

メンバー&2の初期設定またはコピーが取り消された。

CPF3141

メンバー&2が見つからない。

CPF3142

ライブラリー&3にファイル&1が見つからない。

CPF3143

メンバー&2に増分値を使用することはできない。

CPF3144

メンバー&2は消去または初期設定されなかった。

CPF3148

新しいレコードのためにメンバー&2に必要なスペースが多すぎる。

CPF3156

ライブラリー&3のファイル&1が使用中である。

CPF3157

トリガーによって要求した操作が妨げられた。

CPF3159

メンバー&2がSTG(*FREE)で保管された。

CPF3160

メンバー&2に対する操作が終了した。項目をジャーナル処理することができません。

CPF3179

&3のDDMファイル&1を消去または初期設定することはできなかった。

CPF3180

メンバー&2は初期設定されなかった。

CPF32CF

分散ファイル・エラー，理由コード&3。

CPF32C3

分散ファイル・エラー，レベルIDが一致していない。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

トップ

システムの初期設定 (INZSYS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム初期設定(INZSYS)コマンドは、導入プロシージャの間に実行される変換を初期設定します。この処理は、ソフトウェア・パッケージが導入された後の最初のIPLの実行中に開始されます。

詳細については、i S e r i e sソフトウェアの導入(SD88-5002)で入手することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージが送られ、そこからメッセージを表示されるメッセージ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

***SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)からのメッセージがシステム操作員に送られます。

メッセージ待ち行列名

メッセージが示されるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

INZSYSの例

INZSYS

このコマンドは、導入プロシージャー中に実行される変換を初期化します。

トップ

エラー・メッセージ： INZSYS

*ESCAPE メッセージ

CPF372A

INZSYSまたはGO LICPGMが現在別のジョブで実行中である。

CPF90E2

ライブラリー&2の前のリリースのファイル&1にエラーが起こった。

CPF90E3

ライブラリー&2のファイル&1でエラーが起こった。

CPF90E4

システム機能が使用中である。理由コードは&1です。

CPF90E8

ライブラリー&2のファイル&1でエラーが起こった。

CPF90E9

複数の、前のリリースのデータが存在している。

トップ

テープ初期設定 (INZTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

テープ初期設定(INZTAP)コマンドは、テープをシステムで使用できるように初期設定するために使用されます。このコマンドは、標準ラベル・テープ処理のために標準ボリューム・ラベルのテープを初期設定するか、あるいはラベルなしテープ処理のためにラベルのないテープを初期設定するために使用されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
NEWVOL	新しいボリューム識別コード	文字値, *NONE , *CTGID	オプション, 定位置 2
NEWOWNID	新しい所有者識別コード	文字値, *BLANK	オプション, 定位置 3
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション
CHECK	活動ファイルの検査	*YES , *NO, *FIRST	オプション
DENSITY	テープ密度	文字値, *DEVTYPE , *CTGTYPE, *FMT3480, *FMT3490E, *FMT3570, *FMT3570E, *FMT3590, *FMT3590E, *FMT3590H, *QIC120, *QIC525, *QIC1000, *QIC2GB, *QIC2DC, *QIC4GB, *QIC4DC, *QIC3040, *QIC5010, *MLR3, *SLR60, *SLR100, *FMT2GB, *FMT5GB, *FMT7GB, *FMT20GB, *FMT60GB, *ULTRIUM1, *ULTRIUM2, *VXA1, *VXA2, 1600, 3200, 6250	オプション
CODE	コード	*EBCDIC , *ASCII	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND , *UNLOAD	オプション
CLEAR	消去	*NO , *YES	オプション

[トップ](#)

装置 (DEV)

使用するために初期設定するボリュームが入っている装置の名前を指定します。テープまたは媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

新しいボリューム識別コード (NEWVOL)

標準ラベル付きテープとして使用するために初期設定するテープのボリューム識別コードを指定します。ボリューム識別コードを指定しなかった場合には、テープはラベルなしテープとして使用されるように初期設定されます。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

テープはラベルなしテープとして使用されるように初期設定されます。テープ上の各データ・ファイルの始めと終わり、およびボリューム自身の始めと終わりを示すためにテープ・マークだけが使用されます。

***CTGID**

テープは、標準ラベルつきテープとして初期設定されます。新しい論理ボリューム識別コードはテープ・カートリッジの外部識別コードと同じです。ライブラリー装置内の各テープは固有の外部識別コードを持っていない限りなりません。

ボリューム識別コード

新しいボリュームを識別するために最大6文字を指定してください。識別コードには英数字(A-Z, ¥, #, @, および0-9)だけを入れなければならず、接頭部または組み込みブランクを持つことはできません。

[トップ](#)

新しい所有者識別コード (NEWOWNID)

ボリューム・ラベルに書き込むテープ所有者の識別コードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

所有者識別コード

テープの所有者を識別する14文字以下を指定してください。14文字より少ない文字が指定された場合には、フィールドが左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

初期設定するテープの既存のボリューム識別コードを指定するか、あるいはテープ装置上に現在あるテープを初期設定するように指示します。

注: 指定された装置が媒体ライブラリー装置である場合には、指定されたボリュームは取り付けて使用するカートリッジ識別コードとする必要があります。

考えられる値は、次の通りです。

***MOUNTED**

指定されたテープ装置に入っているラベル付きまたはラベルなしのすべてのボリュームが使用できるように初期設定されます。新しいボリュームまたは空のボリュームを使用できるように初期設定

するためには、ここに***MOUNTED**を指定し、**活動ファイルの検査**プロンプト(CHECKパラメーター)に***NO**を指定しなければなりません。媒体ライブラリー装置の場合は、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリの次のカートリッジです。

ボリューム識別コード

使用できるように初期設定するラベル付きボリュームの識別コードを指定してください。このパラメーター値は、すでにラベル付きボリュームであるテープを初期設定するためにしか使用できません。指定した装置上のテープにここで指定したものと異なるボリューム識別コードがある場合、あるいはそのテープがラベルなしボリュームの場合には、エラー・メッセージが送られます。

トップ

活動ファイルの検査 (CHECK)

ラベル付きテープ・ボリュームを使用できるように初期設定する前に、活動状態のデータ・ファイルについて検査するかどうかを指定します。指定した装置にラベルなしボリュームがある場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

- *YES** テープ上のすべてのデータ・ファイル・ラベルが検査されます。活動ファイルが見つかった場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。
- *NO** テープの初期設定は活動ファイルの検査なしで続行されます。新しいボリュームまたは空のボリュームを初期設定するためには、ここに***NO**を指定し、**ボリューム識別コード**プロンプト(VOLパラメーター)に***MOUNTED**を指定しなければなりません。

*FIRST

テープ上の最初のデータ・ファイル・ラベルだけが検査されます。ボリューム上にデータ・ファイルがない場合、あるいは最初のデータ・ファイルが満了している場合には、テープ上の他のファイルの検査は行わずにボリュームが使用のために初期設定されます。最初のデータ・ファイルが満了していない場合には、操作が終了され、エラー・メッセージが送られます。

トップ

テープ密度 (DENSITY)

テープに書き出されるデータの記録形式を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*DEVTYPE

テープ装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。

装置 最大容量密度または形式

3480 *FMT3480

3490E *FMT3490E

3570-BXX
*FMT3570

3570-CXX

*FMT3570E

3580-001

*ULTRIUM1

3580-002

*ULTRIUM2

3590 *FMT3590

3590-EXX

*FMT3590E

3590-HXX

*FMT3590H

4685-001

*VXA2

6335 *QIC3040

6343 *QIC1000

6344 *QIC2GB

6348 *QIC1000

6349 *QIC2GB

6368 *QIC1000

6369 *QIC2GB

6379 *QIC1000

6380 *QIC2GB

6381 *QIC2DC

6382 *QIC4DC

6383 *QIC5010

6384 *SLR60

6385 *QIC5010

6386 *MLR3

6387 *SLR100

6390 *FMT7GB

7207-122

*QIC4DC

7208-002

*FMT2GB

7208-012

*FMT5GB

7208-222

*FMT7GB

7208-342

*FMT20GB

7208-345

*FMT60GB

9348 6250

*CTGTYPE

取り付けられたカートリッジ・タイプの装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。装置が特殊なカートリッジ・タイプ情報をサポートしない場合には、*DEVTYPEが使用されます。

テープ密度

使用する密度または形式を指定します。

1600 このテープ・ボリュームのデータ密度は1,600ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

3200 このテープ・ボリュームのデータ密度は3,200ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

6250 このテープ・ボリュームのデータ密度は6,250ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

*FMT3480

このテープの形式はFMT3480です。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3480装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3490E

このテープの形式はFMT3490Eです。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3490E装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3570

このテープの形式はFMT3570です。このデータ形式は3570装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

*FMT3570E

このテープの形式はFMT3570Eです。このデータ形式は3570E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

*FMT3590

このテープの形式はFMT3590です。このデータ形式は3590装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3590E

このテープの形式はFMT3590Eです。このデータ形式は3590E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3590H

このテープの形式はFMT3590Hです。このデータ形式は3590H装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC120**

このテープの形式はQIC120で、120メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC525**

このテープの形式はQIC525で、525メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC1000**

このテープの形式はQIC1000で、1200メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC2GB**

このテープの形式はQIC2GBです。これは、標準長のQIC2GBカートリッジに2.5ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC2DC**

このテープの形式はQIC2DCです。これは、QIC2GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC4GB**

このテープの形式はQIC4GBです。これは、標準長のQIC4GBカートリッジに4ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC4DC**

このテープの形式はQIC4DCです。これは、QIC4GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC3040**

このテープの形式はQIC3040で、これは840メガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・ミニカートリッジ・テープに使用されます。

***QIC5010**

このテープの形式はQIC5010で、これは13.5ギガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***MLR3**

このテープの形式はMLR3です。これは、標準長のMLR3カートリッジに25ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR60**

このテープの形式はSLR60です。これは、標準長のSLR60カートリッジに一般的に60ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR100**

このテープの形式はSLR100です。これは、標準長のSLR100カートリッジに一般的に100ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***FMT2GB**

このテープの形式はFMT2GBです。これは2ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT5GB**

このテープの形式はFMT5GBで、5ギガバイトのデータを収めることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT7GB**

このテープの形式はFMT7GBです。これは7ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT20GB**

このテープの形式はFMT20GBです。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***FMT60GB**

このテープの形式はFMT60GBです。これは、標準長のカートリッジに60ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM1**

このテープの形式はULTRIUM1です。これは、標準長のカートリッジに100ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM2**

このテープの形式はULTRIUM2です。これは、標準長のカートリッジに200ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA1** このテープの形式はVXA1です。これは、標準長のカートリッジに33ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA2** このテープの形式はVXA2です。これは、標準長のカートリッジに80ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

注: セルフ構成テープ装置は、密度パラメーターに有効な追加の値を定義することがあります。特定の装置に有効な追加の密度値を見つけるには、ISERIESナビゲーター（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（テープ・ライブラリー）（テープ資源）（特性）または（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（独立型装置）（特性）を使用するか、あるいは接続されたテープ装置に有効なすべての密度値のリストを参照するには、CLコマンドの「テープ密度」フィールドのF4=プロンプト・キーを使用してください。

トップ

コード (CODE)

ボリューム・ラベルが書き出される文字コードを指定します。ラベルの後に書き出される保管データ以外のデータは、すべて同じコードでなければなりません。保管テープ以外のテープ上でコードを混用することはできません。新しいボリューム識別コードプロンプト(NEWVOLパラメーター)で*NONEを指定するか、あるいはボリューム識別コードを指定しないで、テープをラベルなしテープとして使用するために初期設定しようとする、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***EBCDIC**

ボリューム・ラベルは、EBCDICコードで書き出され、IBM標準ラベルです。追加のデータもすべてEBCDICコードで書き出さなければなりません。

***ASCII**

ボリューム・ラベルは、ASCIIコードで書き出され、ANSI標準ラベルです。追加のデータもすべてASCIIコードで書き出さなければなりません。

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作が終了した後にテープが巻き戻されるだけか、あるいは巻き戻されアンロードされるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*REWIND

操作の終了後にテープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*UNLOAD

テープは、操作の終了後に自動的に巻き戻されてアンロードされます。

トップ

消去 (CLEAR)

初期設定時に、テープから前のすべてのラベルおよびデータが削除されるかどうかを指定します。ボリュームからすべてのデータを消去する必要がある場合には、初期設定ボリューム・ラベルまたはテープ・マーカ一の位置からテープ・マーカ一の終わりまでスペースが取られます。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 既存のデータは削除されません。既存のデータが削除されなくても、ボリュームが初期設定された後は、ボリューム上のデータにアクセスすることはできません。

***YES** テープの始めが使用のために初期設定された後、そのテープ上の残りのデータは削除されます。
*YES値が必要なのは、旧データに関する機密保護がある場合だけです。*YESが選択された場合には、初期設定の操作に長い時間かかることがあります。

トップ

INZTAPの例

```
INZTAP  DEV(TAPE1)  NEWVOL(T00100)  CHECK(*NO)  CODE(*ASCII)
        ENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、ASCII文字コードを使用して、TAPE1という名前のテープ装置上のボリュームを初期設定します。その新規ボリューム識別コードは、そこに有効なボリューム識別コードまたは終了していないフィールド（活動フィールド）が含まれているかどうかにかかわらず、T00100になります。ボリュームが初期設定されると、テープは巻き戻されて、アンロードされます。この新規ボリューム・ラベルより前のデータは、いずれも削除されませんが、アクセスできなくなります。

トップ

エラー・メッセージ： INZTAP

***ESCAPE** メッセージ

CPF67A0

ボリュームIDがカートリッジIDと一致しない。

CPF6702

装置&1のボリュームの処理中にエラーが起こった。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6715

装置&1のテープの始めにエラーが起こった。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6720

装置&1で間違ったボリューム&2が見つかった。

CPF6721

装置&1はテープ装置でない。

CPF6722

装置&1にテープの終わりが見つかった。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF6750

装置&1でNEWVOL(*NONE)は正しくない。

CPF6751

装置&4でロードの障害が起こった。

CPF6754

ボリューム&2に活動ファイル&4が見つかった。

CPF6760

装置&1の準備ができていない。

CPF6762

装置&1のカートリッジが正しくないタイプである。

CPF6763

装置&1のカートリッジが正しくないタイプである。

CPF6768

装置&1のボリュームは書き込み保護されている。

CPF6772

装置&1のボリュームを処理することができない。

CPF6774

新しいボリューム&2は標準外ラベル・テープである。ボリュームは準備されません。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

繰り返し (ITERATE)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

反復(ITERATE)コマンドは、関連したDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORループ内のコマンドの処理を中断し、関連したENDDOコマンドに制御を渡します。DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORの条件付き部分が評価され、それに従って処理が再開されます。

オプションのコマンド・ラベルを指定すると、処理は関連したDOコマンド・グループのENDDOにスキップします。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- このコマンドは、DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンド・グループ内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMDLBL	コマンド・ラベル	単純名, <u>*CURRENT</u>	オプション, 定位置 1

トップ

コマンド・ラベル (CMDLBL)

ラベルはITERATEコマンドと同じプログラム内にあり、しかも活動状態のDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORグループのラベルでなければなりません。ラベル名を指定するために、CL変数名を使用することはできません。

*CURRENT

このITERATEコマンドを囲む最も内側のループで繰り返します。

単純名 繰り返す囲んでいるDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドのラベル名を指定してください。

トップ

ITERATEの例

```
DCL  VAR(&INT)  TYPE(*INT)  LEN(2)
DCL  VAR(&NAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
:
DOUNTIL  COND(&INT *GT 100)
:  (CLコマンドのグループ)
IF  COND(&NAME *EQ *NONE) THEN(ITERATE)
CHGVAR  VAR(&INT)  VALUE(&INT + 1)
:  (CLコマンドのグループ)
ENDDO /* ITERATEがここに制御権を渡す*/
```

IFコマンドが&NAMEの値を*NONEに等しいと評価するたびに、ITERATEが処理されます。制御権はENDDOコマンドに移り、関連したDOUNTILに指定された条件が評価されます。&INTの値が100以下であれば、再びループが処理されます。&INTの値が101以上であると、制御権は関連したENDDOに移ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ITERATE

なし

[トップ](#)

そのまま (LEAVE)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

中断(LEAVE)コマンドは、関連したDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORループ内のコマンドの処理を終了し、関連したENDDOコマンドの後にある最初のコマンドに制御を渡します。

次のコマンド順序はこのフローを示します。

```
L1:    DOWHILE &LGL1
      ...
L2:    DOWHILE &LGL2
      ...
      IF &LGL3 (LEAVE CMDLBL(L1))
      IF &LGL4 LEAVE
      ...
ENDDO
      /* &LGL4が真に評価された場合はここに*/
      ...
ENDDO
      /* &LGL3が真に評価された場合はここに*/
      ...
```

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- このコマンドは、DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンド・グループ内でのみ有効です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMDLBL	コマンド・ラベル	単純名, <u>*CURRENT</u>	オプション, 位置 1

[トップ](#)

コマンド・ラベル (CMDLBL)

ラベルはLEAVEコマンドと同じプログラム内にあり、しかも活動状態のDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORグループのラベルでなければなりません。ラベル名を指定するために、CL変数名を使用することはできません。

*CURRENT

このLEAVEコマンドを囲む最も内側のループで繰り返します。

単純名 終了する囲んでいるDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドのラベル名を指定してください。

トップ

LEAVEの例

例1:単純DOFORループの中断

```
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(2)
DCL VAR(&NAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
:
DOFOR VAR(&INT) FROM(0) TO(10)
: (CLコマンドのグループ)
IF COND(&NAME *EQ *NONE) THEN(LEAVE)
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

LEAVEコマンドが活動中のDOFORグループの処理を中断し、ENDDOの次のコマンドから処理が続行されます。

例2:ネストされたループで中断

```
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(2)
DCL VAR(&NAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&LGL) TYPE(*LGL) VALUE('1') /*真*/
:
LOOP1: DOFOR VAR(&INT) FROM(0) TO(10)
: (CLコマンドのグループ)
LOOP2: DOUNTIL COND(&LGL)
: (CLコマンドのグループ)
IF COND(&NAME *EQ *NONE) THEN(LEAVE CMDLBL(LOOP1))
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO /* DOUNTIL */
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO /* DOFOR */
```

LEAVEコマンドが活動中のDOUNTILおよびDOFORグループの処理を両方とも中断し、DOFORコマンドに対応するENDDOの次のコマンドから処理が続行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: LEAVE

なし

[トップ](#)

データ定義リンク／リンク解除 (LNKDTADFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ定義リンク(LNKDTADFN)コマンドは、ディクショナリー、プログラム記述ファイル、または外部記述ファイル内のファイル定義をリンクまたはリンク解除します。

制約事項:すでにリンクされているファイルは、リンクさせることができません。しかし、同時に複数のファイルに定義をリンクさせることができます。

注: ファイル・テキストとファイル定義が同じでない場合には、新しいバージョンの定義が作成されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*LINK, *UNLINK	必須, 定位置 1
FILE	データベース・ファイル	単一値: *ALL その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前	オプション
DFN	ファイル定義	名前	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *FIRST	オプション

[トップ](#)

オプション (OPTION)

プログラム記述ファイル、外部記述ファイル、またはファイル定義に対して実行される処置を指定します。

注: 外部記述ファイルはリンク解除しかできません。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***LINK** プログラム記述ファイルまたはファイル定義がリンクされます。

***UNLINK**

プログラム記述ファイル、外部記述ファイル、またはファイル定義がリンク解除されます。

[トップ](#)

データベース・ファイル (FILE)

連係または連係解除するプログラム記述ファイルまたは外部記述ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

使用できるファイルの値は次の通りです。

***ALL** 指定したディクショナリーの定義に連係されたすべてのプログラム記述ファイルが連係解除されます。この値が有効なのは、*UNLINKがオプションプロンプト (OPTIONパラメーター) にも指定され、ディクショナリー名がデータ・ディクショナリープロンプト (DTADCTパラメーター) にも指定された場合だけです。この値は外部記述ファイルには正しくありません。

ライブラリー名/ファイル名

連係または連係解除するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

データ・ディクショナリー (DTADCT)

プログラム記述ファイルに連係または連係解除するファイル定義を含むディクショナリーの名前を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*LINKが指定されている場合、あるいはデータベース・ファイルプロンプト (FILEパラメーター) に*ALLが指定され、オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*UNLINKが指定されている場合には、名前は必須です。

[トップ](#)

ファイル定義 (DFN)

プログラム記述ファイルに連係するファイル定義の名前を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*UNLINKが指定されている場合には、このパラメーターは適用されません。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

プログラム記述ファイルに連係するファイル定義の作成日を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*UNLINKが指定されている場合には、この情報は無視されます。

考えられる値は次の通りです。

*FIRST

指定された定義名を持ち、作成日が一番早いファイル定義が使用されます。

作成日 プログラム記述ファイルに連係するファイル定義の作成日を指定します。

[トップ](#)

LNKDTADFNの例

```
LNKDTADFN  OPTION(*LINK)  FILE(MYLIB/MYFILE)
           DTADCT(MINE)  DFN(MYDEF)
```

このコマンドは、ディクショナリーMINEの定義MYDEFを、ライブラリーMYLIBにあるプログラム記述データベース・ファイルMYFILEにリンクします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： LNKDTADFN

*ESCAPEメッセージ

CPF2E9B

定義&1が見つからない。

CPF2FE0

ディクショナリー&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF2FE1

ディクショナリー&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF2FE2

ディクショナリー&1は現在使用中である。

CPF2FE3

システム相互参照ファイルにエラーがある。

CPF2FE4

システム相互参照ファイルを使用することはできない。

CPF2F02

ディクショナリー&1の使用は認可されていない。

CPF2F07

ディクショナリー&1にエラーがある。

CPF2F08

辞書&1が見つからない。

CPF2F6A

LNKDTADFNの&3のファイル&2が正しくない。

CPF2F6C

すべてのファイルがリンク解除されなかった。

CPF2F61

&3のファイル&2は現在使用中である。

CPF2F7B

ファイル&2がリンクされなかった。レコード長が等しくない。

CPF2F7C

開始キー位置&1がフィールド&2を分割する。

CPF2F7D

終了キー位置&1がフィールド&2を分割する。

CPF2F7F

&3のファイル&2はすでにリンクされている。

CPF2F76

物理ファイルのファイル定義しかリンクすることができない。

CPF2F77

ファイルがキー付きでなかった。キー付きファイル定義にリンクすることはできません。

CPF2F78

定義&1にエラーがある。

CPF2F79

キー・フィールドが一致していない。

CPF2F80

&3のファイル&2はリンクされていない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

イメージ・カタログのロード/アンロード (LODIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドは、イメージ・カタログおよびそのイメージを仮想光ディスク装置に関連付けるために使用します。オプション (OPTION)パラメーターに基づいてイメージ・カタログの状況が以下のように変更されます。

*LOAD

これにより、イメージ・カタログの状況は「使用可能」に変わります。「マウント済み」または「ロード済み」状況のすべてのイメージ・カタログ・ファイルは、指定された仮想光ディスク装置にロードされることとなります。すべてのイメージ・カタログ・ファイルについて、「保管可能」属性が「保管不可」に設定されます。

*UNLOAD

これにより、イメージ・カタログの状況は「使用不能」に変わります。すべてのイメージ・カタログのイメージが、指定された仮想光ディスク装置から除去されます。すべてのイメージ・カタログ・ファイルについて、「保管可能」属性が「保管可能」に設定されます。

仮想光ディスク装置と関連付けることができるイメージ・カタログは1つだけです。仮想光ディスク装置と関連したイメージ・カタログがすでにある場合には、OPTION(*UNLOAD)を使用して、現行のイメージ・カタログをアンロードすることができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
DEV	仮想光ディスク装置	名前	必須, 定位置 2
OPTION	オプション	*LOAD, *UNLOAD	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

イメージ・カタログ (IMGCLG)

ロードまたはアンロードするイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

[トップ](#)

仮想光ディスク装置 (DEV)

イメージ・カタログをロードまたはアンロードする装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 CDまたはDVD装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

イメージ・カタログをロードまたはアンロードするかどうかを指定します。

***LOAD**

イメージ・カタログは仮想光ディスク装置にロードされます。

***UNLOAD**

イメージ・カタログは仮想光ディスク装置からアンロードされます。

[トップ](#)

LODIMGCLGの例

例1:イメージ・カタログをロード

```
LODIMGCLG IMGCLG(MYCLG) DEV(OPTVRT01) OPTION(*LOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログMYCLGを装置OPTVRT01にロードします。

例2:イメージ・カタログをアンロード

```
LODIMGCLG IMGCLG(MYCLG) DEV(OPTVRT01) OPTION(*UNLOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログMYCLGを装置OPTVRT01からアンロードします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: LODIMGCLG

***ESCAPE** メッセージ

CPFBC10

イメージ・カタログ&1が装置&2にロードされなかった。

CPFBC11

イメージ・カタログ&1が装置&2からアンロードされなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

[トップ](#)

IMGCLG項目のロード/アンロード/マウント (LODIMGCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ項目のロード/アンロード/マウント(LODIMGCLGE)コマンドは、イメージ・カタログ中のイメージ・カタログ項目の状況を変更するために使用されます。オプション (OPTION)パラメーターに基づいてイメージ・カタログ項目の状況が以下のように変更されます。

*LOAD

これにより、イメージ・カタログ項目の状況は「ロード済み」に変わります。

*UNLOAD

これにより、イメージ・カタログ項目の状況は「アンロード済み」に変わります。

*MOUNTED

これにより、イメージ・カタログ項目の状況は「マウント済み」に変わります。

「マウント済み」の状況にできるイメージ・カタログ項目は1つだけです。OPTION(*MOUNTED)を指定した場合には、「マウント済み」状況の既存の項目は「ロード済み」に変更されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
IMGCLGIDX	イメージ・カタログ索引	1-256, *FIRST, *LAST	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*MOUNT, *LOAD, *UNLOAD	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

イメージ・カタログ (IMGCLG)

使用するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

[トップ](#)

イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)

その状況を変更するイメージ・カタログ項目の索引番号を指定します。

*FIRST

イメージ・カタログ中の最初のイメージ・カタログ項目。

***LAST** イメージ・カタログ中の最後のイメージ・カタログ項目。

1-256 使用したいイメージ・カタログ索引番号を指定します。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

イメージ・カタログ項目の新しい状況を指定します。

*MOUNT

イメージ・カタログ項目は、イメージ・カタログにマウントされます。

***LOAD**

イメージ・カタログ項目は、イメージ・カタログにロードされます。

***UNLOAD**

イメージ・カタログ項目は、イメージ・カタログからアンロードされます。

[トップ](#)

LODIMGCLGEの例

例1:イメージ・カタログ項目をマウント

```
LODIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(*FIRST)  OPTION(*MOUNT)
```

このコマンドは、イメージ・カタログMYCLGの中の最初のイメージ・カタログ項目をマウントします。イメージがマウントされると、イメージは「ロード済み」状況に変更されます。

例2:イメージ・カタログ項目をロード

```
LODIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(5)  OPTION(*LOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログMYCLGの指標番号5と関連したイメージ・カタログ項目をロードします。

例3:イメージ・カタログ項目をアンロード

```
LODIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(*LAST)  OPTION(*UNLOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログMYCLGの中の最後のイメージ・カタログ項目をアンロードします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: LODIMGCLGE

***ESCAPE** メッセージ

CPFBC46

索引&1のカタログ項目がロードされなかった。

CPFBC47

索引&1のカタログ項目がアンロードされなかった。

CPFBC48

索引&1のカタログ項目がマウントされなかった。

CPFBC0D

索引&1のカタログ項目がロードされなかった。

CPFBC0E

索引&1のカタログ項目がアンロードされなかった。

CPFBC0F

索引&1のカタログ項目がマウントされなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

[トップ](#)

プログラム一時修正ロード (LODPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正ロード(LODPTF)コマンドは、指定されたプロダクトのプログラム一時修正(PTF)をテープ、ディスク、光ディスク装置、または保管ファイルからプロダクトPTFライブラリーにロードします。各PTFには、プログラムを含め、プログラム一時修正適用(APYPTF)コマンドによってプロダクトに適用できる1つまたは複数のオブジェクトが入っています。

一度に1つのプロダクトに対するPTFだけしか、ロードすることはできません。特定のPTFは選択または除外してロードできるので、指定されたプログラムのすべてのPTFをロードする必要はありません。

制約事項: このコマンドを使用するためには、QSRVとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていないければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	名前, *SERVICE, *SAVF	オプション
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SPRPTF	取り替えられたPTF	*APYPERM, *NOAPY	オプション
RLS	リリース	文字値, *ONLY	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
PATHID	経路識別コード	1-9999, *FIRST, *SELECT	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
COVER	PTFカバー・レター・コピー	*YES, *NO, *ONLY	オプション

トップ

プロダクト (LICPGM)

PTFをロードするプロダクトの7桁のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

装置 (DEV)

PTFのロードが開始される装置を指定します。装置名は装置記述によってシステムに認識されていなければなりません。

*SERVICE

保守サポート・システムから送られたPTFがロードされます。

*SAVF

PTFは保管ファイルからロードされます。*SAVFが指定された場合には、**保管ファイルプロンプト** (SAVFパラメーター) の値が必要です。

装置名 PTFのロードに使用されるテープ、ディスケット、または光ディスク装置の名前を指定します。

トップ

選択するPTF番号 (SELECT)

指定されたプロダクトに対してロードされるPTFを指定します。SELECTパラメーターに単一PTF番号が指定されている場合には、**除外するPTF番号**プロンプト(OMITパラメーター) を指定することはできません。

注: SELECT(*ALL)およびDEV(*SERVICE)を指定した場合には、永続的に除去されたPTFは無視されます。除去されたPTFをロードするためには、**選択するPTF番号**プロンプト (SELECTパラメーター) にそのPTFを指定してください。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***ALL** 指定されたプロダクトに対してすべてのPTFがロードされます。

PTF番号

ロードされる単一PTFのPTF識別番号を指定します。最大50個のPTF番号を指定することができます。

トップ

除外するPTF番号 (OMIT)

このパラメーターに指定されている以外のすべてのPTFがロードされることを指定します。残りのPTFをロードする時に、除外する (ロードしない) PTF番号を指定してください。最大50個のPTF番号を指定することができます。**選択するPTF番号**プロンプト (SELECTパラメーター) に単一PTFの番号が指定されている場合には、OMITパラメーターを指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

取り替えられたPTF (SPRPTF)

このロード操作で見つかったPTFと取り替えられることになる、一時的に適用されたPTFに対して実行される操作を指定します。

*APYPERM

指定されたプロダクトの場合には、一時的に適用されるPTF,およびPTF媒体中のPTFと取り替えられるPTFは、新しく取って代わるPTFがロードされる前に、自動的に、永久的に適用されます。また、取り替えられるPTFに前提PTFが入っている場合には、これらもこの操作によって永久的に適用されます。

*NOAPY

一時的に適用されたPTFが、PTF媒体に入っているPTFと取り替えられる時には、ロード操作が停止します。取り替えようとしている一時的に適用されたPTFは、LODPTFコマンドを再び実行する前に、永久的に適用するか (APYPTFコマンド)、あるいは除去 (RMVPTFコマンド) しておかなければなりません。

トップ

リリース (RLS)

ロードされるPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

この値が有効なのは、システムに導入されているプロダクトの基本オプションのリリースが1つの場合だけです。プロダクトのすべての導入済みオプションに対するPTFは、オプションのリリース・レベルとは無関係にロードされます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0-9の数字、変数Zは0-9の数字またはA-Zの文字とすることができます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの基本オプションのリリース・レベルである場合には、オプションのリリース・レベルとは無関係に、そのプロダクトのすべての導入済みオプションのPTFがロードされます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの基本オプションのリリース・レベルでない場合には、そのリリース・レベルで導入されるオプションのPTFだけがロードされます。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

PTFデータをロードするためにロード操作が開始されるテープ・ボリューム上の順序番号を指定します。このパラメーターは、装置プロンプト (DEVパラメーター) にテープ装置名が指定されている場合にだけ有効です。

*SEARCH

指定されたプロダクトの最初のPTFファイルでテープ・ボリュームが検索されます。最初に見つかったPTFファイルがロードされます。

順序番号

ロードするPTFファイルの順序番号を指定してください。この順序番号はテープ上に存在しなければなりません。有効な値の範囲は1 - 16777215です。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

PTF操作が終了した後にテープ・ボリュウムまたは光ディスク・ボリュウムで自動的に実行される操作を指定します。

注: このパラメーターは、DEVパラメーターでテープまたは光ディスク装置名が指定される場合にだけ有効です。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュウムを排出します。

[トップ](#)

経路識別コード (PATHID)

ロードしたいPTFが入っている光ディスク媒体上のファイルの識別番号を指定します。光ディスク媒体上に存在する各プロダクトおよびリリースのPTFファイルにはパスIDの番号があり、これによって特定の順序でファイルを処理できます。指定されたパスIDからのPTFだけがシステム上にロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、光ディスク装置名をDEVパラメーターに指定した場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

指定されたプロダクトおよびリリースの光ディスク媒体で最初のPTFファイルが検索されます。これはSELECTパラメーターに指定された検索従属性に従って行われます。

- SELECTパラメーターに特定のPTF IDが指定された場合には、指定されたPTFの最初のオカレンスがロードされます。
- SELECTパラメーターに*ALLが指定された場合には、最低のパスIDをもつ既存のPTFファイルがロードされます。

***SELECT**

光ディスク媒体上に存在し、プロダクトおよびリリースと一致するPTFファイルのリストが表示されます。特定のファイルを選択して、そこからPTFをロードすることができます。バッチ環境では、この値は選択できません。

パスID 既存のPTFファイルのパスIDを指定し、そこからPTFデータをロードします。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVF)

ロードされるPTFが入っている保管ファイルのライブラリーおよび名前を指定します。このパラメーターは、**装置プロンプト** (DEVパラメーター) に*SAVFが指定されている場合にのみ有効です。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

使用できる保管ファイルの値は次の通りです。

保管ファイル名

ロードされるPTFが入っている保管ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

PTFカバー・レター・コピー (COVER)

PTFのカバー・レターを物理ファイルにコピーするかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、テープ装置名または光ディスク装置名を**装置プロンプト** (DEVパラメーター) に指定した時だけです。

***YES** PTFがロードされた後で、カバー・レターが物理ファイルにコピーされます。

***NO** カバー・レターは物理ファイルにコピーされません。

*ONLY

カバー・レターは物理ファイルにコピーされますが、PTFはロードされません。SEQNBRパラメーターが指定されている場合には、そのパラメーターには、PTFを入れるファイルの順序番号が入っていなければなりません。

[トップ](#)

LODPTFの例

例1: PTFの省略

```
LODPTF LICPGM(5722SS1) OMIT(SI00003 SI00008 SI00014)
```

このコマンドは、SI00003, SI00008, およびSI00014以外の製品5722SS1の保守サポート・システム (*SERVICE)から、すべてのPTFをロードします。プログラム一時修正適用(APYPTF)コマンドは、5722SS1製品にこれらのPTFを適用するのに使用することができます。

例2: PTFの選択

```
LODPTF LICPGM(5722SS1) DEV(OPT01) SELECT(SI00009 SI00010)
```

このコマンドは、OPT01という名前の光ディスク装置からSI00009とSI00010という名前のPTFをロードします。プログラム一時修正適用(APYPTF)コマンドは、5722SS1製品にこれらのPTFを適用するのに使用することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： LODPTF

*ESCAPEメッセージ

CPF35AA

ライセンス内部コードPTF &2はすでに適用されている。

CPF35AB

ライセンス内部コード修正&2は適用されていない。

CPF35AE

重複したPTF &1が見つかった。

CPF35A0

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF35A1

ライセンス内部コードの間違ったコピーを使用している。

CPF35A2

PTF &2に必要なハードウェア変更が導入されていない。

CPF35A3

ライセンス内部コード修正&2が一時適用されていない。

CPF35A5

ライセンス内部コード修正&2が永久適用されていない。

CPF35A6

ライセンス・プログラムの言語オプション&1は導入されていない。

CPF35A8

ロードするPTFがない。

CPF35A9

ライセンス内部コード修正を処理中にエラーが起こった。

CPF35CF

PTF &1-&2は適用されていない。

CPF35C1

LODPTFが終了した。これ以上使用可能な記憶域がありません。

CPF35C9

PTF &1-&2 &3が正しくない。

CPF35EB

プロダクト&1の複数のリリースが導入されている。

CPF35E3

インターフェースのエラーが検出された。

CPF35FA

PTF &1-&2は適用されていない。

CPF35F4

カバー・レターの処理中にエラーが起こった。

CPF35F6

ライブラリー&1のMPTFIが削除されて作成された。

CPF354A

パス識別コードには*SELECTを指定できない。

CPF354C

光ディスク・ボリューム上のPTFファイル进行处理できない。

CPF354D

装置&1は使用できない。

CPF354E

ファイルが選択されなかった。

CPF354F

必要なPTFファイル进行处理できない。

CPF355B

プロダクト&1の複数のリリースが媒体上に見つかった。

CPF355C

パス識別コード&1にPTFが見つからなかった。

CPF3558

&3のタイプ*&2の&1を割り振ることができない。

CPF3564

PTF &1-&2に損傷がある。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF3587

PTFがロードされていない。

CPF3590

PTF &1-&2 &3はロードされなかった。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF3606

プロダクト&1 &2は導入されていない。

CPF361D

PTFの適用順序を決定することができない。

CPF3612

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3616

PTFはロードされなかった。

CPF3619

装置上にリリース&1のPTFが見つかった。

CPF3657

エラーが起こったのでPTFはロードされなかった。

CPF3693

エラーが起こったので保守機能は終了した。

CPF3924

PTFがロードされていない。

CPF3931

必要なプログラムが見つからない。PTFは完了していません。

CPF3945

ライセンス・プログラムのPTF活動のレコードが削除された。

CPF3992

ライセンス・プログラム&1 &2のPTFが保管／復元媒体上に存在しない。

CPF6602

PTF &1-&2 &3が見つからない。

CPF8191

&9のプロダクト定義&4に損傷があります。

CPF8193

&9のプロダクト・ロード・オブジェクト&4に損傷があります。

[トップ](#)

Q/A データベース・ロード (LODQSTDB)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

質問・回答データベース・ロード(LODQSTDB)コマンドによって、質問・回答(Q&A)データベースを代替媒体(テープなど)からシステムにロードすることができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプションナル, 位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>QUSRSYS</u>	オプションナル, 位置 2

トップ

Q/Aデータベース (QSTDB)

ロードするQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

使用するQ&Aデータベースの名前を指定してください。

- Q&Aデータベースがシステム上にすでに存在している場合には、指定したQ&Aデータベースのサブセットがこれに置き換わります。
- Q&Aデータベースがシステム上に存在していない場合には、指定したライブラリーにこれが作成されます。

[トップ](#)

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QUSRSYS

このコマンドのためのライブラリーの省略時の値はQUSRSYSです。

ライブラリー名

Q&Aデータベースがロードされるライブラリーを指定してください。このライブラリーはシステムに存在しているものでなければなりません。

[トップ](#)

LODQSTDBの例

LODQSTDB

このコマンドは、システムへのデータベース・ロード画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： LODQSTDB

なし

[トップ](#)

ロードおよび実行 (LODRUN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体プログラム・ロードおよび実行(LODRUN)は、ユーザー作成のプログラム・オブジェクトをテープ、ディスクетт, または光ディスク装置からライブラリーQTEMPに復元します。システムは装置名を復元されたプログラムに渡して、復元されたプログラムに制御権を移動します。

LODRUNコマンドの実行は、次の通りです。

1. 媒体から、QINSTAPPという名前でライブラリーQTEMPから保管されていなければならないユーザー作成のプログラムが検索されます。

注: プログラムQINSTAPPは、ターゲット・システムに存在しているユーザー・プロファイルによって所有されていなければなりません。QINSTAPPが所有ユーザー・プロファイルのないシステムに復元されると、制御権は移動されず、そのプログラムは実行されません。

2. QINSTAPPプログラムがユーザーのシステムのQTEMPライブラリーにすでに存在している場合には、そのプログラムは削除されます。
3. QINSTAPPプログラムは、RSTOBJコマンドを使用してQTEMPライブラリーに復元されます。RSTOBJコマンドには、次の値が指定されます。

- OBJ(QINSTAPP)
- OBJTYPE(*PGM)
- SAVLIB(QTEMP)
- ENDOPT(*LEAVE)
- MBROPT(*ALL)
- ALWOBJDIF(*NONE)
- RSTLIB(QTEMP)
- VOL(*MOUNTED)

装置が光ディスク装置である場合には、ENDOPTパラメーターおよびVOLパラメーターは指定されません。

装置が光ディスクの場合には、このコマンドのDIRに指定された値がオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドのOPTFILEパラメーターに使用されます。

SEQNBRパラメーターは、LODRUNコマンドのSEQNBRパラメーターに従って指定されます。

復元操作に使用される装置はLODRUNコマンドによって判別されます。*TAP, *DKT,または*OPTがDEVパラメーターに指定されていると、システムが装置のためにAS/400命名規則を使用するか、あるいはSYSTEM/36命名規則を使用するかを判別するために、LODRUNコマンドはQDEVNAMINGシステム値を調べます。

- QDEVNAMINGが*NORMAL (AS/400規則)の場合
 - 装置TAP01はDEV(*TAP)に使用されます。

- 装置DKT01はDEV(*DKT)に使用されます。
- 装置OPT01はDEV(*OPT)に使用されます。
- QDEVNAMINGが*S36 (システム/36規則)の場合
 - テープ・カートリッジが検出されると、装置TCがDEV(*TAP)に使用されます。そうでない場合には、装置T1が使用されます。
 - 装置I1はDEV(*DKT)に使用されます。
 - 装置OPT01はDEV(*OPT)に使用されます。システム/36命名規則は光ディスク装置には適用されません。

DEVパラメーターで指定されたその他のすべての値は現状のまま使用されます。

4. システムの制御はQINSTAPPプログラムに渡されます。QINSTAPPプログラムは、たとえば、他の適用業務をユーザーのシステムに復元して、それらの適用業務を実行するために使用することができます。
5. ユーザーがサインオフすると、QINSTAPPプログラムがシステムから除去されます。
6. 3つのシステム値の設定が一緒に機能して、QINSTAPPプログラムが復元できるようになっているかどうか、また復元中に変換されるかどうかを判別します。3つのシステム値は次の通りです。
 - QVFYOBJRST オブジェクト復元の検査
 - QFRCCVNRST 復元時の変換強制
 - QALWOBJRST オブジェクト復元可能オプション

これらの値でQINSTAPPプログラムの復元および変換が可能になっていない場合には、LODRUNコマンドは制御権をQINSTAPPプログラムに移動されません。

QINSTAPPプログラムを提供するユーザーには、このプログラムを作成してサポートする責任があります。QINSTAPPプログラムはIBMから提供されません。このプログラムは、多くの異なるタスクを遂行するように設計することができます。たとえば、このプログラムは次を実行することができます。

- その他のプログラムまたは適用業務の復元および実行
- ライブラリーの復元
- 別のプログラムまたは適用業務の削除
- 特定の環境の作成
- 既存適用業務への修正の適用

QINSTAPPプログラムは、LODRUNコマンドが入力されるたびに一度だけ実行されます。LODRUNコマンドは、ただ1つのパラメーター(DEV)を渡します。これはQINSTAPPプログラムの復元元の装置を指定します。QINSTAPPプログラムはLODRUNコマンドを再び使用しようとしません。これは、予測できない結果になります。

QINSTAPPプログラムの作成の他に、このプログラムを提供しているユーザーは、このプログラムが入っている媒体をユーザーに提供する責任があります。プログラムをテープ、ディスケット、または光ディスク装置で配布するには、次を実行してください。

1. テープまたはディスケットを準備してください。テープの場合は、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用します。ディスケットの場合は、FMT(*SAVRST)を指定してディスケット初期設定(INZDKT)コマンドを使用します。
2. 重複オブジェクト作成(CRTDUPOBJ)コマンドは、QINSTAPPプログラムをQTEMP ライブラリーに作成するために使用します。

3. オブジェクト保管(SAVOBJ)コマンドは、QINSTAPPプログラムをQTEMPから所要のテープ装置またはディスク装置に保管するために使用します。このプログラムは、それが入っている媒体ファイルでただ1つのオブジェクトでなければなりません。次を指定してください。

- LIB(QTEMP)
- LABEL(*LIB)
- CLEAR(*ALL)

LABEL(*LIB)を指定すると、ラベルは必ずQTEMPになります。QINSTAPPプログラムがテープ装置に保管中の場合、および追加適用業務、プログラム、またはライブラリーがテープに保管される場合には、ENDOPT(*LEAVE)も指定されていなければなりません。ターゲット・リリースが省略時の値(*CURRENT)でない場合には、TGTRLSパラメーターに正しい値も入力しなければなりません。

4. その他の任意の適用業務、プログラム、またはライブラリーをテープまたはディスクに保管するには、オブジェクト保管(SAVOBJ)、ライブラリー保管(SAVLIB)、またはライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドを使用してください。このステップは任意選択で、LODRUNコマンドの実行時に、QINSTAPPプログラムが保管する適用業務をユーザーのシステムに保管するために使用されます。

QINSTAPPプログラムがテープに保管された場合には、そのテープはQINSTAPPプログラムの復元後に巻き戻されません。QINSTAPPプログラムがユーザーのシステムに復元する適用業務または適用業務のシリーズはテープ上の次のものになります。

制約事項: LODRUNコマンドには*SAVSYS権限が必要です。媒体からロードされて呼び出されるQINSTAPPプログラムは、正しく実行するために追加の権限が必要な場合があります。QINSTAPPプログラムを提供するユーザーは、追加権限が必要かどうかをユーザーに通知する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前, *TAP, *DKT, *OPT	オプション、定位置 1
SEQNBR	順序番号	10 進数, *FIRST, *SEARCH	オプション
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED, *SAVVOL	オプション
DIR	ディレクトリー	文字値, !	オプション

トップ

装置 (DEV)

プログラムのロード元の入出力装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***TAP** プログラムは、システムに接続された省略時のテープ装置からロードされます。

***DKT** プログラムは、システムに接続された省略時のディスク装置からロードされます。

***OPT** プログラムは、システムに接続された省略時の光ディスク装置からロードされます。

テープ装置

プログラムのシステムへのロード元のテープ装置の名前を指定してください。

ディスケット装置

プログラムのシステムへのロード元のディスケット装置の名前を指定してください。

光ディスク装置

プログラムのシステムへのロード元の光ディスク装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープを使用する場合だけ、復元操作に使用する順序番号を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

テープ装置のボリュームで、QTEMPラベルと一致している識別コードをもつデータ・ファイルが先頭データ・ファイルから検索し始められます。最初に一致するものが検出されると、そのオブジェクトが復元されます。

***SEARCH**

テープ装置のボリュームで、QTEMPラベルと一致している識別コードをもつデータ・ファイルが現在のテープ位置より後の最初のデータ・ファイルから検索し始められます。一致するものが検出されると、そのオブジェクトが復元されます。

順序番号

ファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1-16777215です。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

テープを使用する場合だけ、テープ装置のボリューム識別子を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***MOUNTED**

現在テープ装置にマウントされているボリュームが使用されます。

ボリューム識別コード

テープ装置にマウントするボリュームを指定してください。

[トップ](#)

ディレクトリー (DIR)

光ディスク装置を使用する場合だけ、復元操作に使用するディレクトリーを指定します。QTEMP;1という名前のファイルが指定されたディレクトリー内で検出されると、そのオブジェクトが復元されます。

考えられる値は次の通りです。

/ ルート・ディレクトリー(())が使用されます。

ディレクトリー名

QTEMPという名前のファイルを検索するディレクトリーを指定します。

[トップ](#)

LODRUNの例

例1: テープからのプログラムの復元

```
LODRUN DEV(TAP01)
```

このコマンドは、プログラム・オブジェクトを装置TAP01上のテープからライブラリーQTEMPに復元します。ここで制御権は復元されたプログラムに移ります。

例2: テープからのプログラムQINSTAPPの復元

```
LODRUN DEV(TAP01) SEQNBR(5)
```

このコマンドは、プログラム・オブジェクトQINSTAPPを装置TAP01の順序番号5にあるテープからライブラリーQTEMPに復元します。ここで制御権は復元されたプログラムに移ります。この順序番号が見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。この順序番号のファイル・ラベルがQTEMPでない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

例3: CD-ROMからのプログラムQINSTAPPの復元

```
LODRUN DEV(*OPT) DIR('/APP1/INST')
```

このコマンドは、プログラム・オブジェクトQINSTAPPを装置OPT01上のCD-ROMからライブラリーQTEMPに復元します。CD-ROMにおけるQTEMPライブラリーのファイル名は/APP1/INST/QTEMPです。ここで制御権は復元されたプログラムに移ります。ファイルが見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: LODRUN

なし

[トップ](#)

ディレクトリーの作成 (MD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの作成 (MD)コマンドは、システムに新しいディレクトリーを追加します。

ディレクトリーは、他のオブジェクトの名前を含むオブジェクトです。ライブラリーおよびフォルダーはディレクトリーの1つのタイプです。ディレクトリーが作成されると、リンクがディレクトリーの接頭部に追加されます。オブジェクトをディレクトリーに入れる前に、そのディレクトリーが作成されていなければなりません。

このコマンドはディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CRTDIR
- MKDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. 作成されるディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システムのライブラリーであるか、“ルート” (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーの場合には、次の制約事項が適用されます。
 - **オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)**パラメーターで*SYSVAL以外の値を指定する場合には、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
2. 作成されるディレクトリーがQDLSの既存のフォルダー中のフォルダーである場合には、次の制約事項が適用されます。
 - 既存のフォルダーの変更(*CHANGE)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. “ルート” (/), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システム内にディレクトリーを作成する場合には、新しいディレクトリーを入れるディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
5. ディレクトリーを作成している場合には、所有者ID (UID)がそのディレクトリーを作成中のユーザーです。

ディレクトリーが“ルート” (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システム内に作成される場合には、以下が適用されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオフの場合は、グループID (GID)はそのディレクトリーを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオンの場合には、新規ディレクトリーのグループID (GID)は親ディレクトリーのGIDに設定されます。

ディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内に作成される場合には、1次ユーザー・プロファイルからGIDが取得されます。その他のファイル・システムについては、GIDは親ディレクトリーから取得されます。

6. オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)パラメーターに*PARENT以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *RWX, *RW, *RX, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *NONE	オプションル
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプションル
CRTOBJAUD	オブジェクトの値の監査	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプションル
CRTOBJSCAN	オブジェクトのオプションをスキャン中	*PARENT, *YES, *NO, *CHGONLY	オプションル
RSTDRNMUNL	制限付き名前変更とリンク解除	*NO, *YES	オプションル

トップ

ディレクトリー (DIR)

作成するディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: 文字Qで始まる名前は使用しないでください。システムは、そのような名前のライブラリーまたはディレクトリーをシステム・ライブラリーまたはシステム・ディレクトリーと見なします。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

ディレクトリーに対してユーザーに与えられる共通データ権限を指定するか、あるいは作成されたディレクトリーからすべての権限を継承するように指定します。

*INDIR

作成するディレクトリーの権限は、作成されたディレクトリーによって決定されます。新しいディレクトリーの直前のディレクトリーが権限を決定します。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。

QDLSフォルダーについて作成されたディレクトリーの省略時の値として、第1レベルのフォルダーの*EXCLUDEが使用されます。第2レベル以上で作成された場合には、前のレベルの権限が使用されます。QOPENSYS,および"ルート" (/)ファイル・システムは、親ディレクトリーのデータ権限の値を使用します。値*INDIRがオブジェクトの共通認可 (OBJAUT)パラメーターまたはDTAAUTパラメーターのいずれかに指定されている場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定する必要があります。

- *RWX** 所有者に限定されているか、オブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),オブジェクト変更(*OBJALTER),およびオブジェクト参照(*OBJREF) 権限によって制御されている場合を除き、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行することができます。読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限を提供します。
- *RW** オブジェクトの内容を表示および変更することができます。読み取り、書き込み(*RW)権限は、*OBJOPRおよびデータ読み取り(*READ),追加(*ADD),更新(*UPD),削除(*DLT)権限を提供します。
- *RX** プログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。読み取り、実行(*RX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ,実行(*EXECUTE)権限を提供します。
- *WX** オブジェクトの内容を変更してプログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。書き込み、実行(*WX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT,*EXECUTE権限を提供します。
- *R** オブジェクトの内容を検討することができます。読み取り(*R)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ権限を提供します。
- *W** ユーザーはオブジェクトの内容を変更することができます。書き込み(*W) 権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT権限を提供します。
- *X** プログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。実行(*X)権限は、*OBJOPRおよびデータ*EXECUTE権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

***NONE**

オブジェクトに対するデータ権限は与えられません。この値を*NONEのOBJAUT 値と一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。権限リスト名の形式は、現行の10文字形式のままです。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

トップ

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ディレクトリーのユーザーに与えられる共通オブジェクト認可を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このディレクトリーが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリ

ーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。OBJAUTパラメーターまたは**データの共通認可(DTAAUT)**パラメーターのいずれかに値*INDIRを指定した場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定しなければなりません。

*NONE

その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, または*OBJREF)は、いずれもユーザーに与えられません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リストを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。この値を*NONEのDTAAUT値と一緒に使用することはできません。

***ALL** その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, または*OBJREF)は、すべてユーザーに与えられます。

次の値の最大4つまでを指定できます。

*OBJEXIST

オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元操作の実行、およびオブジェクトの所有権の転送が行えます。

*OBJMGT

オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が与えられます。この権限により、オブジェクトの機密保護、オブジェクトの移動または名前変更を指定し、データベース・ファイルにメンバーを追加することができます。

*OBJALTER

オブジェクトに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が与えられます。オブジェクトの属性を変更することができます。データベース・ファイルについて、トリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去して、データベース・ファイルの属性を変更することができます。SQLパッケージについてこの権限があれば、SQLパッケージの属性を変更することができます。現在、この権限が使用されるのはデータベース・ファイルおよびSQLパッケージの場合だけです。

*OBJREF

オブジェクトに対するオブジェクト参照(*OBJREF)権限が与えられます。データベース・ファイルについてのみ使用されるもので、そのオブジェクトに対する操作が他のオブジェクトによって制約される可能性がある別のオブジェクトから、そのオブジェクトを参照することができます。物理ファイルの場合には、その物理ファイルの親へ参照の制約を追加することができます。

トップ

オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)

このディレクトリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

*SYSVAL以外のこのパラメーターの値は、一部のファイル・システムではサポートされないことがあります。

*SYSVAL

ディレクトリー内のオブジェクトのオブジェクト監査値は、システム監査値(QCRTOBJAUD)によって決まります。

***NONE**

このオブジェクトを使用しあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

***USRPRF**

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD) コマンドのOBJAUDパラメーターは、特定のユーザーに対する監査をオンにするために使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

トップ

オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときに、ディレクトリーに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト

[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) を参照してください。

この属性を指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーの場合だけです。その他のファイル・システムの場合には、*PARENTを指定する必要があります。これは無視されます。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

***PARENT**

このディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値は、親ディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値からコピーされます。

***YES** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムで記述されている規則に従ってスキャンされます。

***NO** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***CHGONLY**

ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されていれば、オブジェクトはスキ

キャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFSCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

[トップ](#)

制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)

ディレクトリー内のオブジェクトに対して実行される名前変更およびリンク解除操作に、特別な制約が適用されるかどうかを指定します。この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じで、ネットワーク・ファイル・システム(NFS), QFILESVR.400, "ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーにしか設定できません。NFSとQFILESVR.400の両方のファイル・システムは、属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、この属性をサポートします。

***NO** このディレクトリーからのオブジェクトの名前変更またはリンク解除についての追加の制約はありません。

***YES** このディレクトリー内のオブジェクトを名前変更またはリンク解除できるのは、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真である場合だけです。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

[トップ](#)

MDの例

MDの代替コマンド名はCRTDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、MDはそれらのすべてで直接CRTDIRに置き換えることができます。

例1: ディレクトリーの作成

```
CRTDIR DIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRを作成して、これを現行ディレクトリーに追加します。残りのパラメーターには省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: MD

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

[トップ](#)

ディレクトリーの作成 (MKDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの作成 (MKDIR)コマンドは、システムに新しいディレクトリーを追加します。

ディレクトリーは、他のオブジェクトの名前を含むオブジェクトです。ライブラリーおよびフォルダーはディレクトリーの1つのタイプです。ディレクトリーが作成されると、リンクがディレクトリーの接頭部に追加されます。オブジェクトをディレクトリーに入れる前に、そのディレクトリーが作成されていなければなりません。

このコマンドはディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CRTDIR
- MD

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. 作成されるディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システムのライブラリーであるか、“ルート” (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーの場合には、次の制約事項が適用されます。
 - **オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)**パラメーターで*SYSVAL以外の値を指定する場合には、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
2. 作成されるディレクトリーがQDLSの既存のフォルダー中のフォルダーである場合には、次の制約事項が適用されます。
 - 既存のフォルダーの変更(*CHANGE)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. “ルート” (/), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システム内にディレクトリーを作成する場合には、新しいディレクトリーを入れるディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
5. ディレクトリーを作成している場合には、所有者ID (UID)がそのディレクトリーを作成中のユーザーです。

ディレクトリーが“ルート” (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システム内に作成される場合には、以下が適用されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオフの場合は、グループID (GID)はそのディレクトリーを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオンの場合には、新規ディレクトリーのグループID (GID)は親ディレクトリーのGIDに設定されます。

ディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内に作成される場合には、1次ユーザー・プロファイルからGIDが取得されます。その他のファイル・システムについては、GIDは親ディレクトリーから取得されます。

6. オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)パラメーターに*PARENT以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *RWX, *RW, *RX, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *NONE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクトの値の監査	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
CRTOBJSCAN	オブジェクトのオプションをスキャン中	*PARENT, *YES, *NO, *CHGONLY	オプション
RSTDRNMUNL	制限付き名前変更とリンク解除	*NO, *YES	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

作成するディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: 文字Qで始まる名前は使用しないでください。システムは、そのような名前のライブラリーまたはディレクトリーをシステム・ライブラリーまたはシステム・ディレクトリーと見なします。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

ディレクトリーに対してユーザーに与えられる共通データ権限を指定するか、あるいは作成されたディレクトリーからすべての権限を継承するように指定します。

*INDIR

作成するディレクトリーの権限は、作成されたディレクトリーによって決定されます。新しいディレクトリーの直前のディレクトリーが権限を決定します。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。

QDLSフォルダーについて作成されたディレクトリーの省略時の値として、第1レベルのフォルダーの*EXCLUDEが使用されます。第2レベル以上で作成された場合には、前のレベルの権限が使用されます。QOPENSYS,および"ルート" (/)ファイル・システムは、親ディレクトリーのデータ権限の値を使用します。値*INDIRがオブジェクトの共通認可 (OBJAUT)パラメーターまたはDTAAUTパラメーターのいずれかに指定されている場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定する必要があります。

- *RWX** 所有者に限定されているか、オブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),オブジェクト変更(*OBJALTER),およびオブジェクト参照(*OBJREF) 権限によって制御されている場合を除き、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行することができます。読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限を提供します。
- *RW** オブジェクトの内容を表示および変更することができます。読み取り、書き込み(*RW)権限は、*OBJOPRおよびデータ読み取り(*READ),追加(*ADD),更新(*UPD),削除(*DLT)権限を提供します。
- *RX** プログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。読み取り、実行(*RX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ,実行(*EXECUTE)権限を提供します。
- *WX** オブジェクトの内容を変更してプログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。書き込み、実行(*WX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT,*EXECUTE権限を提供します。
- *R** オブジェクトの内容を検討することができます。読み取り(*R)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ権限を提供します。
- *W** ユーザーはオブジェクトの内容を変更することができます。書き込み(*W) 権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT権限を提供します。
- *X** プログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。実行(*X)権限は、*OBJOPRおよびデータ*EXECUTE権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

***NONE**

オブジェクトに対するデータ権限は与えられません。この値を*NONEのOBJAUT 値と一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。権限リスト名の形式は、現行の10文字形式のままです。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

[トップ](#)

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ディレクトリーのユーザーに与えられる共通オブジェクト認可を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このディレクトリーが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリ

ーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。OBJAUTパラメーターまたは**データの共通認可 (DTAAUT)**パラメーターのいずれかに値*INDIRを指定した場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定しなければなりません。

*NONE

その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, または*OBJREF)は、いずれもユーザーに与えられません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リストを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。この値を*NONEのDTAAUT値と一緒に使用することはできません。

***ALL** その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, または*OBJREF)は、すべてユーザーに与えられます。

次の値の最大4つまでを指定できます。

*OBJEXIST

オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元操作の実行、およびオブジェクトの所有権の転送が行えます。

*OBJMGT

オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が与えられます。この権限により、オブジェクトの機密保護、オブジェクトの移動または名前変更を指定し、データベース・ファイルにメンバーを追加することができます。

*OBJALTER

オブジェクトに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が与えられます。オブジェクトの属性を変更することができます。データベース・ファイルについて、トリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去して、データベース・ファイルの属性を変更することができます。SQLパッケージについてこの権限があれば、SQLパッケージの属性を変更することができます。現在、この権限が使用されるのはデータベース・ファイルおよびSQLパッケージの場合だけです。

*OBJREF

オブジェクトに対するオブジェクト参照(*OBJREF)権限が与えられます。データベース・ファイルについてのみ使用されるもので、そのオブジェクトに対する操作が他のオブジェクトによって制約される可能性がある別のオブジェクトから、そのオブジェクトを参照することができます。物理ファイルの場合には、その物理ファイルの親へ参照の制約を追加することができます。

トップ

オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)

このディレクトリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

*SYSVAL以外のこのパラメーターの値は、一部のファイル・システムではサポートされないことがあります。

*SYSVAL

ディレクトリー内のオブジェクトのオブジェクト監査値は、システム監査値(QCRTOBJAUD)によって決まります。

***NONE**

このオブジェクトを使用しあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

***USRPRF**

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD) コマンドのOBJAUDパラメーターは、特定のユーザーに対する監査をオンにするために使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

トップ

オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときに、ディレクトリーに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) を参照してください。

この属性を指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーの場合だけです。その他のファイル・システムの場合には、*PARENTを指定する必要があります。これは無視されます。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

***PARENT**

このディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値は、親ディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値からコピーされます。

***YES** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムで記述されている規則に従ってスキャンされます。

***NO** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***CHGONLY**

ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されていれば、オブジェクトはスキ

キャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFSCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

[トップ](#)

制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)

ディレクトリー内のオブジェクトに対して実行される名前変更およびリンク解除操作に、特別な制約が適用されるかどうかを指定します。この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じで、ネットワーク・ファイル・システム(NFS), QFILESVR.400, "ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーにしか設定できません。NFSとQFILESVR.400の両方のファイル・システムは、属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、この属性をサポートします。

***NO** このディレクトリーからのオブジェクトの名前変更またはリンク解除についての追加の制約はありません。

***YES** このディレクトリー内のオブジェクトを名前変更またはリンク解除できるのは、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真である場合だけです。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

[トップ](#)

MKDIRの例

MKDIRの代替コマンド名はCRTDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、MKDIRはそれらのすべてで直接CRTDIRに置き換えることができます。

例1: ディレクトリーの作成

```
CRTDIR DIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRを作成して、これを現行ディレクトリーに追加します。残りのパラメーターには省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: MKDIR

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

[トップ](#)

メッセージ・モニター (MONMSG)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例
エラー・メッセージ

メッセージ・モニター(MONMSG)コマンドは、このコマンドが使用されているプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるエスケープ・メッセージ、通知メッセージ、および状況メッセージをモニターするために使用されます。完了メッセージと診断メッセージはモニターできません。

MONMSGコマンドを制御言語(CL)プログラムでコンパイルする時に、指定されたメッセージの到着用モニターが確立されます。コマンドは、コマンドに指定された比較データによって指定された条件のメッセージをモニターします。その条件を満たすメッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、MONMSGコマンドに指定されたCLコマンドが処理されます。

最大1000のMONMSGコマンドをプログラムに指定して、特定の条件または条件のグループのメッセージの到着をモニターすることができます。特定のメッセージ識別コード、または総称のメッセージ識別コードをモニターすることができます。

MONMSGコマンドは、CLプロシージャーのほとんどのコマンドの後にコーディングすることができます。プログラムの始めではない個所に入れたMONMSGコマンドは、その直前のコマンドにだけ適用され、これはコマンド・レベルのMONMSGコマンドと呼ばれます。コマンド・レベルのMONMSGコマンドはその前のコマンドによって送信されたメッセージだけをモニターします。そのコマンドによって送信されたメッセージがMONMSGコマンドに指定された条件を満たした場合には、同じMONMSGコマンドに指定された処置が取られます。100のMONMSGコマンドをあるコマンドの直後にコーディングして、そのコマンドが送信したメッセージをモニターすることができます。

MONMSGコマンドに指定された処置が実行されて、その処置がGOTOまたはRETURNコマンドで終了していない場合には、メッセージを送信したコマンドの後にあるプログラムのコマンドに制御が戻ります。その処置がGOTOコマンドで終了した場合には、GOTO コマンドに指定されたプログラムのコマンドに制御が分岐します。処置がRETURNコマンドで終了した場合には、MONMSGコマンドが入っているプログラムを呼び出したプログラムに制御が戻されます。

1つまたは複数のMONMSGコマンドがプログラムの始めの宣言コマンド、または宣言コマンドがないPGMコマンド、の直後に入れられた場合には、これらのコマンドは、プログラムのすべてのコマンド（最大100）によって送信されたメッセージをモニターします。これはプログラム・レベルのMONMSGコマンドと呼ばれます。そのプログラムのコマンドによって送信されたメッセージが、プログラム・レベルのMONMSGコマンドの1つに指定された条件を満たした場合には、同じコマンドに指定された対応の処置が取られます。

コマンド・レベルのMONMSGコマンドによって取られる処置は、プログラム・レベルのMONMSGコマンドを一時変更します。

プログラムの始めに入れられるMONMSGコマンドのEXECパラメーターに対して、コマンドをコーディングした場合には、使用可能となるのはGOTOコマンドだけであり、モニターされたメッセージが発生した場

合に制御を移す先のコマンドのレベルを指定しなければなりません。EXECパラメーターにコマンドがコーディングされない場合には、モニターされたメッセージは無視されます。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- これがコーディングできるのは、プログラムの始まりのPGMコマンドの後の最後の宣言コマンド（宣言コマンドを使用する場合）の後であるか、あるいはCLプロシージャで使用可能な任意のコマンドの後にコーディングすることができますが、次のコマンドは除かれます。すなわち、DO, DOWHILE, DUNTIL, DOFOR, ELSE, ENDDO, SELECT, WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT, ENDPGM, GOTO, IF,またはRETURNです。別のプログラムがこのコマンドによってモニターされるメッセージを送信した場合には、そのプログラムに戻るできないことに注意してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
CMPDTA	比較データ	文字値, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 2
EXEC	実行するコマンド	コマンド・ストリング	オプション, 定位置 3

トップ

メッセージ識別コード (MSGID)

このコマンドによりモニターする1つまたは複数のエスケープ・メッセージ、通知メッセージ、または状況メッセージのメッセージ識別コードを指定します。1つのコマンドで、特定のメッセージ識別コードまたは総称メッセージ識別コードを最大50個まで指定することができます。

注: 多くのCLコマンドが多くの異なったエラー条件に対して1つのエスケープ・メッセージを出します。エラーまたは障害に関する詳細は、エスケープ・メッセージの前にある診断メッセージ中に指定されます。診断メッセージをモニターすることはできませんが、エスケープ・メッセージは、ユーザーのメッセージ・モニターが活動化された後に、ジョブの外部メッセージ待ち行列からこれを受信することができます。

メッセージ識別コードの最初の3文字は、英字1文字と、これに続く2桁の英数字（英字または数字）で構成されたコードでなければなりません。最後の4文字は、10進数の0 - 9および文字A - Fで構成することができます。

注: MCHコード(MCHNNNN)を使用するメッセージ識別コードでは、最後の4桁に0-9の数値だけを使用します。

右端の2桁または4桁すべてにゼロを指定した(USRMM00など) 場合には、総称メッセージ識別コードが指定されます。たとえば、CPF0000が指定された場合は、接頭部'CPF'を持つすべてのメッセージがモニターされます。総称メッセージ識別コードは、コマンド・レベルのMONMSGステートメントとプロシージャ・レベルのMONMSGステートメントの両方に使用することができます。

メッセージがこのプログラムのメッセージ待ち行列に到着した時にモニターされる1 - 50のメッセージのメッセージ識別コードを指定します。コマンドが出すエスケープ、通知、および状況メッセージのメッセージ識別コードとメッセージ・テキストは、INFORMATION CENTERにある当該コマンドの資料に記載されています。もちろん、当該コマンドのオンライン・ヘルプにも入っています。CL変数を使用してメッセージ識別コードを指定することはできません。

これは必須パラメーターです。

トップ

比較データ (CMPDTA)

プログラムのメッセージ待ち行列で受け取るモニター対象メッセージ（指定したメッセージ識別コードのどれかに該当するもの）を、このコマンドにより処置するかどうかを決めるために使用する比較データを指定します。プログラム・メッセージ送出し(SNDPGMMSG)コマンドのMSGDTAパラメーターに指定されたメッセージ・データと、比較データが比較されます。メッセージ置き換え値の最初の部分（最初の28桁まで、またはそれ以下）が、指定された比較データと一致した場合には、このコマンドのEXECパラメーターに指定された処置が取られます。比較データが指定されていない場合にも処置が行なわれます。

***NONE**

比較データは指定されません。プログラムのメッセージ待ち行列のメッセージが、このコマンドがモニターしているコマンドからのものである場合で、さらに、指定された識別コードがある場合には、**実行するコマンド (EXEC)**パラメーター指定された処置が取られます。

比較データ

28文字以下の文字ストリングを、必要ならばアポストロフィで囲んで指定してください。指定した文字ストリングは、受信したメッセージに含まれるメッセージ・データの最初の文字以降の同数の文字と比較されます。比較データが受信したメッセージ・データの最初の部分と一致した場合には、このコマンドは、EXECパラメーターに指定された機能を実行します。比較データに対してCL変数を指定することはできません。

比較データは、プログラム変数表示(DSPPGMVAR)コマンドを使用して表示することができます。

トップ

実行するコマンド (EXEC)

プログラムのメッセージ待ち行列に送られてきたモニター対象メッセージが、このコマンドで指定した条件を満たしていた場合に処理されるCLコマンドを指定します。コマンドを指定しなかった場合には、モニター対象メッセージが待ち行列に送られてきても、そのメッセージは無視され、プログラム中の次のコマンドに制御が渡されます。

プログラムの始めにMONMSGコマンドがある場合には、EXECパラメーターでGOTO コマンドおよび制御権を受け取るコマンドを識別するラベルを指定しなければなりません。

このコマンドに指定された条件を満たすメッセージを受信した時に実行される、CL コマンドを、使用されるそのパラメーターも含めて指定します。受信したメッセージが指定された条件を満たしていない場合には、指定されたコマンドは実行されません。CLコマンドの代わりに、CL変数を指定することはできません。

注: EXECにDO, DOWHILE, DOUNTIL, DOFOR,またはSELECTコマンドが指定されている場合は, 条件が満たされると, そのコマンドと関連したグループ全体が処理されます。

[トップ](#)

MONMSGの例

例1:任意のコマンドから送られてくるメッセージのモニター

PGM

```
MONMSG MSGID(CPF0001 CPF1999) EXEC(GOTO EXIT2)
```

この例は, CLプロシージャの始めに置かれて, メッセージCPF0001およびCPF1999をモニターするMONMSGコマンドを示しています。これらのメッセージは, プロシージャの後の方で処理されるコマンドから送られてくる可能性があるものです。プロシージャで実行中のいずれかのコマンドからどちらかのメッセージを受け取ると, ラベルEXIT2で識別されるコマンドに制御権が分岐します。

CPF0001は, メッセージ自身の中で識別されるコマンドでエラーが見つかったことを示すメッセージです。CPF1999は, 多数のデバッグ・コマンド(CHGPGMVARなど) から送られてくる可能性があるメッセージで, コマンドでエラーが発生したが, メッセージの中ではコマンドを識別しないことを示すものです。

例2:単一のコマンドから送られてくるメッセージのモニター

CHGVAR VAR(&A) VALUE(&A / &B)

```
MONMSG MSGID(MCH1211) EXEC(CHGVAR VAR(&A) VALUE(1))
```

この例では, MONMSGコマンドは変数変更(CHGVAR)コマンドの後にあるので, CHGVARコマンドから送られてくるメッセージのみをモニターします。ゼロによる除算が試みられると, エスケープ・メッセージMCH1211がこのプログラムのメッセージ待ち行列に送られます。MSGID(MCH1211)が指定されているので, MONMSGコマンドはこの条件をモニターし, メッセージを受け取ると, 2番目のCHGVARコマンドが処理されます。この例では, 変数&Aの値は1に設定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: MONMSG

なし

[トップ](#)

マウントFSの追加 (MOUNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

マウント・ファイル・システム追加(MOUNT)コマンドは、ファイル・システム内のオブジェクトを、統合ファイル・システム名空間に対してアクセス可能にします。アクセス可能にするファイル・システムは、ローカル・システムのユーザー定義ファイル・システム(*UDFS)、ネットワーク・ファイル・システム・クライアント(*NFS)を介してアクセスされるリモート・ファイル・システム、あるいはリモートNETWAREファイル・システム(*NETWARE)のいずれかとすることができます。マウントの宛先であるディレクトリーマウントするディレクトリー (MNTOVRDIR)が存在しなければなりません。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- ADDMFS

ネットワーク・ファイル・システム・コマンドの詳細については、OS/400 NFSサポート(SC88-4019)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。
2. NETWAREファイル・システムをマウントしようとしている場合には、マウントするファイル・システムに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
3. ユーザーは、マウントするディレクトリーに対する書き込み(*W)権限を持っていないければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	ファイル・システムのタイプ	*NFS, *UDFS, *NETWARE	必須, キー, 定位置 1
MFS	マウントするファイル・システム	パス名	必須, キー, 定位置 2
MNTOVRDIR	マウントするディレクトリー	パス名	必須, キー, 定位置 3
OPTIONS	マウント・オプション	文字値, *DFT	オプション
CCSID	コード化文字セットID	要素リスト	オプション
	要素 1: データ・ファイル CCSID	1-65533, *ASCII, *JOBCCSID, *BINARY	
	要素 2: パス名CCSID	1-65533, *ASCII, *JOBCCSID	
CODEPAGE	コード・ページ	要素リスト	オプション
	要素 1: データ・ファイル・コード・ページ	1-32767, *ASCII, *JOBCCSID, *BINARY	
	要素 2: パス名コード・ページ	1-32767, *ASCII, *JOBCCSID	

ファイル・システムのタイプ (TYPE)

マウントするファイル・システムのタイプを指定します。マウントのタイプは、マウントするファイル・システム (MFS)パラメーターの正しい形式を判別します。

***NFS** MFSパラメーターに指定されたファイル・システムは、ネットワーク・ファイル・システムです。MFSパラメーターは、ホスト名:パス名の形式でなければなりません。ここで、ホスト名はシステム名またはIPアドレスのいずれかとすることができ、パス名は絶対パス名でなければなりません。

*UDFS

MFSパラメーターに指定されたファイル・システムはユーザー定義ファイル・システムです。MFSパラメーターの形式は、次の2つのうちのいずれかでなければなりません。

- `/DEV/QASPXX/UDFSNAME.UDFS`, ここでXXは有効なシステムまたはシステムの基本ユーザー補助記憶域プール(ASP)番号の1つで、UDFSNAMEはユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。
- `/DEV/ASPNAME/UDFSNAME.UDFS`, ここでASPNAMEはシステムの有効なASP名の1つで、UDFSNAMEはユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

パスの名前部分は、指定されたQASPXXまたはASPNAMEディレクトリー内で固有でなければなりません。

*NETWARE

MFSパラメーターに指定されたファイル・システムはNETWAREファイル・システムです。MFSパラメーターの形式は、次のうちのいずれかでなければなりません。

- サーバー/ボリューム:パス名, ここでパス名は任意指定です。
- ボリュームに対するNETWAREディレクトリー・サービス(NDS)コンテキスト, マウントするディレクトリー・マップ・オブジェクト, またはボリュームまたはディレクトリー・マップ・オブジェクトへの別名。NDSコンテキストは、区別されたコンテキストまたは相対コンテキストとすることができます。相対コンテキストを指定した場合には、ジョブの現行コンテキストが検索され、それが見つからない場合には、省略時のシステム・コンテキストが検索されます。ボリュームに対するコンテキストまたはボリュームに対する別名を指定した場合には、任意選択のディレクトリー・パスを指定することもできます。

注: MFSパラメーターで、コロンの後にドットおよびパス名が入っていない相対コンテキストが指定されている場合には、コマンドのプロンプトが出されたときにパラメーター値が引用符で囲まれていることを確認する必要があります。コマンド分析プログラムは、MFS値をラベルとして解釈し、後書きコロンを除去することができます。

これは必須パラメーターです。

マウントするファイル・システム (MFS)

マウントするファイル・システムのパス名を指定します。これは、ローカル・ブロック特殊ファイル (*BLKSF)へのパス、リモートNFSパス名、またはNETWAREファイル・システムのパスにすることができます。MFSパラメーターの正しい形式を調べるには、**ファイル・システムのタイプ (TYPE)**パラメーターを参照してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

マウントするディレクトリー (MNTOVRDIR)

ファイル・システムをマウントする既存のディレクトリーのパス名を指定します。このディレクトリーはマウント・ファイル・システムによって「カバーされた」状態になります。このディレクトリーが存在しなければなりません。

同じディレクトリーに複数のファイル・システムを、1つの上にもう1つをマウントすることができます。しかし、最上部にマウントされたファイル・システムにアクセスできるだけで、ファイル・システムは後でマウントした順序とは逆の順序（後入れ先出し法）でアンマウントする必要があります。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

マウント・オプション (OPTIONS)

オプション・リストには、マウント・オプションの文字ストリングが含まれます。オプションはコンマで区切ります。一部のオプションでは、オプションの後に等号 '=' および値を続けます。オプションを指定しないと、そのオプションの省略時の値が使用されます。オプション・リストには、スペースが含まれる場合があります。

***DFT** ネットワーク・ファイル・システム(*NFS)をマウントするためのオプション・ストリングの省略時の値は、次の通りです。

```
'RW,SUID,RSIZE=8096,WSIZE=8096,TIMEO=20,RETRANS=5,
ACREGMIN=30,ACREGMAX=60,ACDIRMIN=30,ACDIRMAX=60,HARD'
```

ユーザー定義ファイル・システム(*UDFS)のマウントの、オプションのストリングの省略時の値は次のとおりです。

```
'rw,suid'
```

NETWAREファイル・システム(*NETWARE)をマウントするためのオプション・ストリングの省略時の値は、次の通りです。

```
'RW,ACREGMAX=60,ACDIRMAX=60'
```

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合には、次のオプションのすべてが有効です。ユーザー定義ファイル・システムのマウントで有効なのは、*RO*, *RW*, *SUID*, および *NOSUID* オプションだけです。NETWAREファイル・システムのマウントで有効なのは、*RO*, *RW*, *ACREGMAX*, *ACDIRMAX*, *NOAC*, および *NOCTO* オプションだけです。マウントするファイル・システムのタイプに有効でないオプションを指定した場合には、それらは無視されます。

オプション・リスト

使用可能なオプションとその説明を以下に示します。

RWIRO

このオプションはマウント・ファイル・システムの保護を指定します。*RO*（読み取り専用）または*RW*（読み取り/書き込み）のいずれかを指定できます。どちらも指定しない場合には、*RW*とみなされます。

SUIDINOSUID

ユーザー定義ファイル・システムまたはNETWAREファイル・システムのマウントで、*SUID*が指定されている場合には、*SETUID*の実行が許可されます。これは、許可ビット以外のビットをセットすることができることを意味します。*NOSUID*が指定されている場合には、*SETUID*の実行は許可されません。

HARDISOFT

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、*NFS*ファイル・システムがハード・マウントかソフト・マウントかを指定します。ハード・マウントは、操作に対する肯定応答がサーバーによって送られるまで、その操作は再試行されることを意味します。ソフト・マウントとは、リモート操作が*RETRANS*オプションで指定された回数だけ失敗した場合には、タイムアウト・エラーが戻されることを意味します。どちらも指定されていない場合には、*HARD*とみなされます。

RSIZE=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、読み取りバッファのサイズ（バイト数）を指定します。読み取りバッファは、*NFS*読み取り要求時に、*NFS*クライアントとリモート*NFS*サーバーの間のデータ転送用に使用されます。使用可能な範囲は512から8096までです。*RSIZE*が指定されていない場合には、省略時値の8096とみなされます。パフォーマンスを良くするために、読み取りバッファは、適用業務バッファ・サイズの倍数にしてください。

WSIZE=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、書き出しバッファのサイズ（バイト数）を指定します。書き出しバッファは、*NFS*書き出し要求時に、*NFS*クライアントとリモート*NFS*サーバーの間のデータ転送用に使用されます。使用可能な範囲は512から8096までです。*WSIZE*が指定されていない場合には、省略時値の8096とみなされます。パフォーマンスを良くするために、書き出しバッファは、適用業務バッファ・サイズの倍数にしてください。

TIMEO=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、クライアントが各試行に対して応答するのを待機する時間（1/10秒数）を指定します。使用可能な範囲は0から10000までです。*TIMEO*が指定されていない場合には、省略時値の20/10秒(2秒)とみなされます。

RETRY=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、マウント操作を再試行する回数を指定します。使用可能な範囲は0から10000までです。*RETRY*が指定されていない場合には、省略時値の5回の再送信とみなされます。

RETRANS=N

ネットワーク・ファイル・システムのマウントでは、サーバーへの送信を再試行する回数を指定します。使用可能な範囲は0から10までです。*RETRANS*が指定されていない場合には、省略時値の5回の再送信とみなされます。

ACREGMIN=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合には、ファイル更新後に、記憶されたファイル属性をローカルに保持する最小秒数を指定します。使用可能な範囲は1から3600までです。*ACREGMIN*が指定されていない場合には、省略時値の30秒とみなされます。

ACREGMAX=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合には、ファイル更新後に、記憶されたファイル属性をローカルに保持する最大秒数を指定します。使用可能な範囲は1～2,000,000,000です。*ACREGMAX*が指定されていない場合には、省略時値の60秒とみなされます。

ACDIRMIN=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合には、ファイル更新後に、記憶されたファイル属性をローカルに保持する最小秒数を指定します。使用可能な範囲は1から3600までです。*ACDIRMIN*が指定されていない場合には、省略時値の30秒とみなされます。

ACDIRMAX=N

ネットワーク・ファイル・システムまたはNETWAREファイル・システムをマウントする場合には、ディレクトリー更新後に、記憶されたディレクトリー属性をローカルに保持する最大秒数を指定します。使用可能な範囲は1～2,000,000,000です。*ACDIRMAX*が指定されていない場合には、省略時値の60秒とみなされます。

NOCTO

ネットワーク・ファイル・システムまたはNETWAREファイル・システムをマウントする場合には、ファイルのオープン時にリモート属性を強制的にリフレッシュするかどうかを指定します。このオプションが存在している場合には、ファイルのオープン時にサーバーからの属性は更新されず、最後のクローズ時に変更はサーバーに送られません。*NOCTO*が存在しない場合には、省略時値の「抑制なし」とみなされます。

NOAC ネットワーク・ファイル・システムまたはNETWAREファイル・システムをマウントする場合には、属性および名前のローカル記憶域を抑止するかどうかを指定します。このオプションが存在する場合には、属性および名前のローカル記憶域が抑制されます。*NOAC*が存在しない場合には、省略時値の「抑制」とみなされます。*NOAC*が指定されている場合には、*AGREGMIN*、*AGREGMAX*、*AGDIRMIN*、および*AGDIRMAX*に指定された値を指定できませんが、使用されません。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

ネットワーク・ファイル・システムの場合に、使用される特定の文字表現を識別する1対のコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。最初のCCSIDは、リモート・システム上のデータ・ファイルにはどのエンコード・スキームを前提とするかを指定します。2番目のCCSIDは、リモート・システム上のパス名にはどのエンコード・スキームを前提とするかを指定します。

このパラメーターが有効なのは、マウントがネットワーク・ファイル・システムの場合だけです。

要素1: データ・ファイルCCSID

***BINARY**

変換は使用されません。

***ASCII**

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからのCCSID が使用されます。

1-65533

リモート・システムのデータ・ファイルに想定されるCCSIDを指定してください。

要素2: パス名CCSID

***ASCII**

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからのCCSID が使用されます。

1-65533

リモート・システムのパス名に想定されるCCSIDを指定してください。UCS-2レベル1 (1200)に変換できるCCSIDだけがサポートされます。サポートされる変換のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「グローバル化」情報を参照してください。

トップ

コード・ページ (CODEPAGE)

ネットワーク・ファイル・システムの場合に、1対のコード・ページを指定します。最初のコード・ページは、リモート・システム上のデータ・ファイルにはどのコード・ページを前提とするかを指定します。2番目のコード・ページは、リモート・システム上のパス名にはどのコード・ページを前提とするかを指定します。

このパラメーターが有効なのは、マウントがネットワーク・ファイル・システムの場合だけです。

注: このパラメーターは、**コード化文字セットID (CCSID)**と置き換えられますが、CODEPAGEパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能な限りCCSIDパラメーターを使用してください。

要素1:データ・ファイル・コード・ページ

注: 元のデータと文字当たりのバイト数が同じコード・ページを指定する必要があります。

***BINARY**

変換は使用されません。

***ASCII**

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブ・コード化文字セット識別コード(CCSID)が使用されます。

***JOBCCSID**

現行ジョブと関連した省略時のジョブ・コード化文字セット識別コード(CCSID)が使用されます。

1-32767

リモート・システムでデータ・ファイルに想定されるコード・ページを指定してください。1バイトまたは2バイトのコード化スキームに対応するコード・ページのみがサポートされます。混合バイト・コード化スキームに対応するコード・ページはサポートされません。

要素2:要素コード・ページ

*ASCII

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブ・コード化文字セット識別コード(CCSID)が使用されます。

*JOBCCSID

現行ジョブと関連した省略時のジョブ・コード化文字セット識別コード(CCSID)が使用されます。

1-32767

リモート・システムのパス名に想定されるコード・ページを指定してください。CCSIDをUCS-2レベル1 (1200)に変換できるコード・ページのみがサポートされます。サポートされる変換のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバルゼーション」情報を参照してください。

トップ

MOUNTの例

MOUNTの代替コマンド名はADDMFSです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、MOUNTはそれらのすべてで直接ADDMFSに置き換えることができます。

例1: ユーザー定義ファイル・システムのマウント

```
ADDMFS TYPE(*UDFS) MFS('/DEV/QASP03/PROD1') MNTOVRDIR('DIRB')
```

このコマンドは、ユーザー定義ファイル・システムPROD1をディレクトリーDIRBにマウントします。その他のパラメーターには省略時の値を使用します。

例2: ネットワーク・ファイル・システムのマウント

```
ADDMFS TYPE(*NFS) MFS('RAINFALL:/QSYS.LIB/RAY.LIB')
MNTOVRDIR('/MYSTUFF')
```

このコマンドは、リモート・システムRAINFALLからディレクトリー/MYSTUFFに/QSYS.LIB/RAY.LIBをマウントします。

例3: OPTIONSを指定したネットワーク・ファイル・システムのマウント

```
ADDMFS TYPE(*NFS) MFS('RAINFALL:/QSYS.LIB/RAY.LIB')
MNTOVRDIR('/MYSTUFF')
OPTIONS('RO,NOSUID,RSIZE=256,RETRANS=10')
CODEPAGE(*ASCII *JOBCCSID) CCSID(*ASCII *JOBCCSID)
```

このコマンドは、リモート・システムRAINFALLからディレクトリー/MYSTUFFに/QSYS.LIB/RAY.LIBをマウントします。さらに、読み取り専用としてマウントするように指定し、SETUIDの実行を許可しないで、読み取りバッファを256バイトに設定して、再送信回数を10に設定します。リモート・パス名に使用するコード化文字セット識別コードを判別するには、ジョブ CCSID が使用されます。

例4: OPTIONSを指定したNETWAREファイル・システムのマウント

```
ADDMFS TYPE(*NETWARE) MFS('RCHNWSVR1/LOTUS:LOTSUITE/SMARTCTR')
MNTOVRDIR('/TEMP1') OPTIONS('RO,AGREGMAX=120')
```

このコマンドは、ディレクトリー/TEMP1に、サーバーRCHNWSVR1にあるボリュームLOTUSが入っているNETWAREディレクトリーLOTSUITE/SMARTCTRをマウントします。さらに、読み取り専用としてマウントするように指定し、ローカルにファイル属性を保管する最大時間を120秒に設定します。

例5: NETWAREディレクトリー・サービス・コンテキストを使用したマウント

以下に、NETWAREディレクトリー・サービス(NDS)コンテキストを使用してNETWAREファイル・システムをマウントするいくつかの例を示します。

```
ADDMFS TYPE(*NETWARE) MFS('.LOTUS_VOL.ROCHESTER.IBM')
MNTOVRDIR('/TEMP1')
```

このコマンドは、ディレクトリー/TEMP1に、識別されたコンテキストを使用してNDSボリュームLOTUS_VOLをマウントします。

```
ADDMFS TYPE(*NETWARE)
MFS('CN=LOTUS_VOL.OU=ROCHESTER:LOTSUITE/SMARTCTR')
MNTOVRDIR('/TEMP1')
```

このコマンドは、ディレクトリー/TEMP1に、相対パスと完全修飾名を使用して、NDSボリュームLOTUSのパスLOTSUITE/SMARTCTRをマウントします。

```
ADDMFS TYPE(*NETWARE) MFS('.CN=LOTUSMAP.OU=ROCHESTER.O=IBM')
MNTOVRDIR('/TEMP1')
```

このコマンドは、ディレクトリーTEMP1に、識別されたコンテキストと完全修飾名を使用して、ディレクトリー・マップをマウントします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: MOUNT

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

オブジェクトの移動 (MOV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトの移動 (MOV)コマンドは、オブジェクトをそれが入っているディレクトリーから別のディレクトリーへ移動します。

TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが使用されている場合には、オブジェクトは別のディレクトリーに移動されて、オブジェクトは同じ名前を保持します。 **TOオブジェクト (TOOBJ)**パラメーターが使用されている場合には、オブジェクトも名前変更されます。

元のオブジェクトが読み取り専用ファイル(PCの読み取り専用属性フラグがオンになっているファイル) の場合には、移動コマンドは次のように作動します。

1. 元のファイルを削除することができる（すなわち、そのファイルの読み取り専用ビットをオフにすることができる）場合には、移動は成功し、そのファイルの読み取り専用属性は保存されます。
2. 元のファイルを削除することができない場合（たとえば、CD-ROMファイルなど）には、移動操作は正常に実行されず、移動元が読み取り専用であることを示すメッセージが出されます。

ファイル・システム内でファイルを移動すると、最終アクセス日付/時刻、データ変更日付/時刻、および属性変更日付/時刻が新しいファイルに保存されます。ファイルが"ルート" (/), QOPENSYS, QDLS,またはUDFSファイル・システムへと元のファイル・システムの外側へ移動された場合には、属性変更日付/時刻が現在の時刻に変更されます。QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内のデータベース・ファイル・メンバー(*MBR)に移動する場合には、データの変更日付/時刻も更新されます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- MOVE

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. オブジェクトの移動先のディレクトリーには、TOOBJパラメーターで指定された名前がすでに入っているではありません（またTODIRが使用されている場合には、OBJパラメーターで指定された名前がTODIRに存在してはいけません）。
2. バイト・ストリーム・ファイル・タイプのオブジェクトだけが、ファイル・システム間で移動されません。
3. ディレクトリーを従属ディレクトリーに移動することはできません。
4. データベース・ファイル・メンバーを移動することはできません。
5. QDLS内のオブジェクトを、補助記憶域プール(ASP)間で移動することはできません。
6. 独立ASP QSYS.LIBの中のライブラリーを、基本補助記憶域プール(ASP)に移動することはできません。ただし、独立ASP QSYS.LIBの中のライブラリーは、システムASPまたは他の独立ASPに移動することができます。

7. MOVEコマンドは、1つのファイル・システムから別のファイル・システムへ移動するときには、オブジェクトの専用認可をコピーしません。

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
TODIR	TOディレクトリー	パス名, :	オプション, 定位置 2
TOOBJ	TOオブジェクト	パス名	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, * OBJ , *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, * OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
DTAFMT	データ形式	* BINARY , *TEXT	オプション
FROMCODPAG	FROMコード・ページ	1-32767, * OBJ , *PCASCII	オプション
TOCODEPAGE	TOコード・ページ	1-32767, * OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

移動するオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: オブジェクト名のパターンを使用できるのは、**TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターが使用されている場合だけです。

トップ

TOディレクトリー (TODIR)

オブジェクトの移動先ディレクトリーのパス名を指定します。移動されるオブジェクトは、**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定された名前を使用します。

: パス・オブジェクトは現行ディレクトリーに移ります。

ディレクトリー名

オブジェクトの移動先のディレクトリーの名前を指定してください。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: TODIRと **TOオブジェクト (TOOBJ)**パラメーターは相互に排他的です。

[トップ](#)

TOオブジェクト (TOOBJ)

オブジェクトの移動先ディレクトリーのパス名およびオブジェクトの新しい名前を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: **TOディレクトリー (TODIR)**とTOOBJパラメーターは相互に排他的です。

[トップ](#)

変換元CCSID (FROMCCSID)

移動操作のソースでコード化文字セット識別コード(CCSID)を取得するメソッドを指定します。必要であれば、このCCSIDがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。

***PCASCII**

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを計算するには、移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴは、MICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるCCSIDとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからのコード化文字セット識別コード(CCSID)が使用されます。

1-65533

CCSID値を指定してください。

[トップ](#)

変換先CCSID (TOCCSID)

移動操作のターゲットでデータのコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*CALC

移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、ファイル・システムに別のCCSIDを判別させて移動を続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのCCSIDに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のCCSIDを計算します。このCCSIDを移動操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを、ソース・ファイルのCCSIDに基づいて計算します。このCCSIDを移動操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWS適用業務で使用することができます。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのコード化文字セット識別コード(CCSID)が使用されます。

1-65533

CCSID値を指定してください。このCCSIDがオブジェクトの移動先であるファイル・システムで使用できない場合には、移動操作は正常に実行されません。

トップ

データ形式 (DTAFMT)

移動するファイルのデータの形式を指定します。

*BINARY

ファイルには2進数形式のデータ（実行可能ファイルなど）が入っています。移動時にデータの変換は行われません。ただし、移動するオブジェクトにソース・オブジェクトとは違うCCSIDがある場合には、設定される前にすべての拡張属性が新しいオブジェクトのCCSIDに変換されます。

***TEXT** ファイルにはデータがテキスト形式で入っています。移動時にデータを新しいオブジェクトのCCSIDに変換します。データは移動時にはテキストとして処理されます。

データベース・メンバーがストリーム・ファイルに移動される場合には、行形式設定文字（改行、タブ、ファイルの終わりなど）は、一方のCCSIDから他方のCCSIDに変換されるだけです。

ストリーム・ファイルがデータベース・メンバーに移動される場合には、ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っていないければ、移動は失敗します。入っていないと移動は正常に実行されません。ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っている場合には、データベース・ファイルへの移動時に次の処置が実行されます。

- 行の終わり文字を除去します。
- レコードを、ブランク（ソース物理ファイル・メンバーの場合）またはヌル（データ物理ファイル・メンバーの場合）で埋め込みます。
- タブ文字を、適切な数のブランクで次のタブ位置まで置き換えます。

トップ

FROMコード・ページ (FROMCODPAG)

移動操作のソース用コード・ページを入手する方法を指定します。必要であれば、このコード・ページがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換元CCSID (FROMCCSID)**パラメーターと置き換えられますが、FROMCODPAGパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならFROMCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。

*PCASCI

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、移動するオブジェクトのコード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT, およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるコード・ページとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

1-32767

コード・ページの値を指定してください。

トップ

TOコード・ページ (TOCODEPAGE)

移動操作の行き先のデータ・コード・ページを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換先CCSID (TOCCSID)**と置き換えられますが、TOCODEPAGEパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならTOCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*CALC

移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、ファイル・システムに別のコード・ページを判別させて移動を続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページを計算します。このコード・ページを移動操作のターゲットと関連付け、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にはデータ変換にこのコード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*PCASCII

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページを計算します。このコード・ページを移動操作のターゲットと関連付け、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にはデータ変換にこのコード・ページを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWS適用業務で使用することができます。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

1-32767

コード・ページの値を指定してください。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

トップ

MOVの例

例1: オブジェクトの移動

```
MOV OBJ('/CURRENT/DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
    TODIR('/ARCHIVE')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルをCURRENTという名前のディレクトリーからARCHIVEという名前のディレクトリーへ移動します。

例2: 変換して移動

```
MOV OBJ('/DATAFB')
    TOOBJ('/QSYS.LIB/APP1.LIB/DATA.FILE/DATAFB.MBR')
    TOCODEPAGE(*CALC) DTAFMT(*TEXT) TOCCSID(*CALC)
```

ストリーム・ファイル'DATAFB'がデータベース・ファイル'DATAFB.MBR'へ移動されます。TOCCSID(*CALC)を指定することによって、(この場合にはQSYS.LIBファイル・システムへ)移動されるファイル・システムは、'/DATAFB'と同じCCSIDで新しいメンバーを作成しようとします。これが失敗すると(この場合には、'DATA.FILE'が'DATAFB'と同じCCSIDでないと)、ファイル・システムは適切なCCSIDの選択を許可されて、移動を完了します。DTAFMT(*TEXT)を指定することにより、'DATAFB'のデータはテキストとして処理され、新しいファイル'DATAFB.MBR'用に選択したCCSIDに変換されます。

トップ

エラー・メッセージ： MOV

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B8

&1オブジェクトは移動された。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

文書の移動 (MOVDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書移動(MOVDOC)コマンドは、システムが文書の検索に使用するパスを変更します。この文書は補助記憶域の別の場所に物理的に移動されるわけではなく、また新しいオブジェクトが作成されるわけでもありません。

制約事項:

1. ユーザーはシステム・ディレクトリーに登録されていなければならず、さらに移動する文書に対して *ALL権限およびFROMフォルダーとTOフォルダー（適用できる場合）の両方に対して*CHANGE権限が必要です。
2. 文書をフォルダーに移動したりフォルダーから文書を移動したりするためには、そのフォルダーに対して*CHANGE権限が必要です。
3. 異なる補助記憶域プール(ASP)に存在するフォルダー間で文書を移動することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMDOC	取り出し文書	文字値, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FROMFLR	取り出しフォルダー	文字値, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 2
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 3
RENAME	名前付け直し	文字値, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 4
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

[トップ](#)

取り出し文書 (FROMDOC)

移動される文書を指定します。FROMDOCパラメーターに文書名が指定された場合には、FROMFLRパラメーターにフォルダー名を指定しなければなりません。FROMDOCパラメーターに*SYSOBJNAMが指定された場合には、SYSOBJNAMパラメーターにシステム・オブジェクト名を指定しなければなりません。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名は、移動したい文書の識別に使用されます。このパラメーターは、フォルダーのない文書の移動に使用しなければなりません。また、システム・オブジェクト名が分かっ

ている場合に、フォルダー／文書名の代わりに使用されることがあります。FROMDOCパラメーターに*SYSOBJNAMが指定された時には、SYSOBJNAMパラメーターにユーザー定義変数を指定し、文書名を指定しなければなりません。

文書名 移動される文書の名前を指定を指定します。

注: FROMDOC (文書名) が指定された場合には、FROMFLR (フォルダー名) が必要です。FROMDOC(*SYSOBJNAM)が指定された場合には、SYSOBJNAM (システム・オブジェクト名) およびRENAME (文書名) が必要です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

取り出しフォルダー (FROMFLR)

文書を移動しているフォルダーの名前を指定します。文書名が名前、*SYSOBJNAM (FROMDOC)パラメーターに指定されている場合は、フォルダー名をこのパラメーターに入力しなければなりません。FROMDOC(文書名)が指定されている場合は、FROMFLR(*NONE)を指定することはできません。

*NONE

移動される文書はそのシステム・オブジェクト名によって指定されます。

フォルダー名

移動される文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

受け取りフォルダー (TOFLR)

文書を移動するフォルダー名前を指定します。文書名を名前付け直し (RENAME)パラメーターに入力した場合には、このパラメーターにフォルダー名を入力しなければなりません。

*NONE

文書はフォルダーなしのオブジェクトになります。TOFLR(*NONE)を指定した場合には、その文書はフォルダーなしとなり、そのシステム・オブジェクト名でしか参照することはできません。

フォルダー名

文書を入れることになるフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

名前付け直し (RENAME)

移動された文書がTOFLRフォルダー内で認識される名前を指定します。このパラメーターにより、ユーザーは、フォルダー外文書をフォルダーに移動する際に、文書の名前を指定することができます。また、文書のあるフォルダーから別のフォルダーへ移動する際に、文書の名前を変更することもできます。

ユーザーが文書をフォルダーに移動したい場合には、TOFLRフォルダー内におけるその文書の名前を固有としなければなりません。

新しい名前がすでにTOFLRパラメーターで指定されたフォルダーまたはフォルダー内の文書に割り当てられている場合には、ユーザーは、ターゲット文書の新しい名前を選択するか、あるいは同じ名前をもつフォルダーまたは文書の名前を変更しなければなりません。

ユーザーがFROMDOCパラメーターに*SYSOBJNAMを指定した場合には、RENAMEパラメーターに文書名を指定しなければなりません。

***SAME**

フォルダーをあるフォルダーから別のフォルダーに移動する時は、文書名は変更されません。または文書がフォルダーなしに作成される時には名前がなくなります。

文書名 TOFLRフォルダー内の移動された文書の名前を指定してください。

注: FROMDOC(*SYSOBJNAM)を指定した場合には、RENAME (文書名) を指定しなければなりません。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

移動したい文書のシステム・オブジェクト名(SYSOBJNAM)を指定します。このパラメーターを指定できるのは、FROMDOC(*SYSOBJNAM)を指定した場合だけです。システム・オブジェクト名を指定してください。

[トップ](#)

MOVDOCの例

例1:無フォルダー文書の追加

```
MOVDOC FROMDOC(*SYSOBJNAM) FROMFLR(*NONE) TOFLR(FLR1)
        RENAME(DOC1) SYSOBJNAM(CNTR192366)
```

このコマンド（システム・オブジェクト名がCNTR192366である）は、無フォルダー文書をFLR1に追加し、DOC1と名前を付けます。

例2:文書の移動およびその名前の保持

```
MOVDOC FROMDOC(DOC1) FROMFLR(FLR1) TOFLR(FLR2)
        RENAME(*SAME)
```

このコマンドは、DOC1をFLR1からFLR2に移動し、名前DOC1を保持します。

例3:文書の移動および名前変更

```
MOVDOC FROMDOC(DOC1) FROMFLR(FLR1) TOFLR(FLR2)
        RENAME(DOC2)
```

このコマンドは、DOC1をFLR1からFLR2に移動し、DOC2に名前変更します。

例4:文書の移動およびその無フォルダーへの変更

```
MOVDOC FROMDOC(DOC1) FROMFLR(FLR1) TOFLR(*NONE)
```

このコマンドは、DOC1をFLR1から移動し、無フォルダー文書に変更します。

エラー・メッセージ： MOVDOC

*ESCAPEメッセージ

CPF8A13

フォルダー&1の文書&2は移動されなかった。

オブジェクトの移動 (MOVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトの移動 (MOVE)コマンドは、オブジェクトをそれが入っているディレクトリーから別のディレクトリーへ移動します。

TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが使用されている場合には、オブジェクトは別のディレクトリーに移動されて、オブジェクトは同じ名前を保持します。**TOオブジェクト (TOOBJ)**パラメーターが使用されている場合には、オブジェクトも名前変更されます。

元のオブジェクトが読み取り専用ファイル(PCの読み取り専用属性フラグがオンになっているファイル) の場合には、移動コマンドは次のように作動します。

1. 元のファイルを削除することができる（すなわち、そのファイルの読み取り専用ビットをオフにすることができる）場合には、移動は成功し、そのファイルの読み取り専用属性は保存されます。
2. 元のファイルを削除することができない場合（たとえば、CD-ROMファイルなど）には、移動操作は正常に実行されず、移動元が読み取り専用であることを示すメッセージが出されます。

ファイル・システム内でファイルを移動すると、最終アクセス日付/時刻、データ変更日付/時刻、および属性変更日付/時刻が新しいファイルに保存されます。ファイルが"ルート" (/), QOPENSYS, QDLS,またはUDFSファイル・システムへと元のファイル・システムの外側へ移動された場合には、属性変更日付/時刻が現在の時刻に変更されます。QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内のデータベース・ファイル・メンバー(*MBR)に移動する場合には、データの変更日付/時刻も更新されます。

このコマンドはオブジェクトの移動 (MOV)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- MOV

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. オブジェクトの移動先のディレクトリーには、TOOBJパラメーターで指定された名前がすでに入っているではありません（またTODIRが使用されている場合には、OBJパラメーターで指定された名前がTODIRに存在してはいけません）。
2. バイト・ストリーム・ファイル・タイプのオブジェクトだけが、ファイル・システム間で移動されません。
3. ディレクトリーを従属ディレクトリーに移動することはできません。
4. データベース・ファイル・メンバーを移動することはできません。
5. QDLS内のオブジェクトを、補助記憶域プール(ASP)間で移動することはできません。

6. 独立ASP QSYS.LIBの中のライブラリーを、基本補助記憶域プール(ASP)に移動することはできません。ただし、独立ASP QSYS.LIBの中のライブラリーは、システムASPまたは他の独立ASPに移動することができます。
7. MOVEコマンドは、1つのファイル・システムから別のファイル・システムへ移動するときには、オブジェクトの専用認可をコピーしません。

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
TODIR	TOディレクトリー	パス名, .	オプション, 定位置 2
TOOBJ	TOオブジェクト	パス名	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, * OBJ , *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, * OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
DTAFMT	データ形式	* BINARY , *TEXT	オプション
FROMCODPAG	FROMコード・ページ	1-32767, * OBJ , *PCASCII	オプション
TOCODEPAGE	TOコード・ページ	1-32767, * OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

移動するオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: オブジェクト名のパターンを使用できるのは、**TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターが使用されている場合だけです。

トップ

TOディレクトリー (TODIR)

オブジェクトの移動先ディレクトリーのパス名を指定します。移動されるオブジェクトは、**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定された名前を使用します。

： パス・オブジェクトは現行ディレクトリーに移ります。

ディレクトリー名

オブジェクトの移動先のディレクトリーの名前を指定してください。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: TODIRと **TOオブジェクト (TOOBJ)**パラメーターは相互に排他的です。

トップ

TOオブジェクト (TOOBJ)

オブジェクトの移動先ディレクトリーのパス名およびオブジェクトの新しい名前を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

注: **TOディレクトリー (TODIR)**とTOOBJパラメーターは相互に排他的です。

トップ

変換元CCSID (FROMCCSID)

移動操作のソースでコード化文字セット識別コード(CCSID)を取得するメソッドを指定します。必要であれば、このCCSIDがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを計算するには、移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴは、MICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるCCSIDとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのコード化文字セット識別コード(CCSID)が使用されます。

1-65533

CCSID値を指定してください。

トップ

変換先CCSID (TOCCSID)

移動操作のターゲットでデータのコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*CALC

移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、ファイル・システムに別のCCSIDを判別させて移動を続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのCCSIDに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のCCSIDを計算します。このCCSIDを移動操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを、ソース・ファイルのCCSIDに基づいて計算します。このCCSIDを移動操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWS適用業務で使用することができます。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのコード化文字セット識別コード(CCSID)が使用されます。

1-65533

CCSID値を指定してください。このCCSIDがオブジェクトの移動先であるファイル・システムで使用できない場合には、移動操作は正常に実行されません。

トップ

データ形式 (DTAFMT)

移動するファイルのデータの形式を指定します。

*BINARY

ファイルには2進数形式のデータ（実行可能ファイルなど）が入っています。移動時にデータの変換は行われません。ただし、移動するオブジェクトにソース・オブジェクトとは違うCCSIDがある場合には、設定される前にすべての拡張属性が新しいオブジェクトのCCSIDに変換されます。

***TEXT** ファイルにはデータがテキスト形式で入っています。移動時にデータを新しいオブジェクトのCCSIDに変換します。データは移動時にはテキストとして処理されます。

データベース・メンバーがストリーム・ファイルに移動される場合には、行形式設定文字（改行、タブ、ファイルの終わりなど）は、一方のCCSIDから他方のCCSIDに変換されるだけです。

ストリーム・ファイルがデータベース・メンバーに移動される場合には、ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っていないければ、移動は失敗します。入っていないと移動は正常に実行されません。ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っている場合には、データベース・ファイルへの移動時に次の処置が実行されます。

- 行の終わり文字を除去します。
- レコードを、ブランク（ソース物理ファイル・メンバーの場合）またはヌル（データ物理ファイル・メンバーの場合）で埋め込みます。
- タブ文字を、適切な数のブランクで次のタブ位置まで置き換えます。

トップ

FROMコード・ページ (FROMCODPAG)

移動操作のソース用コード・ページを入手する方法を指定します。必要であれば、このコード・ページがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換元CCSID (FROMCCSID)**パラメーターと置き換えられますが、FROMCODPAGパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならFROMCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、移動するオブジェクトのコード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT, およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるコード・ページとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

1-32767

コード・ページの値を指定してください。

トップ

TOコード・ページ (TOCODEPAGE)

移動操作の行き先のデータ・コード・ページを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換先CCSID (TOCCSID)**と置き換えられますが、TOCODEPAGEパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならTOCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*CALC

移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、ファイル・システムに別のコード・ページを判別させて移動を続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページを計算します。このコード・ページを移動操作のターゲットと関連付け、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にはデータ変換にこのコード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*PCASCII

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページを計算します。このコード・ページを移動操作のターゲットと関連付け、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にはデータ変換にこのコード・ページを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWS適用業務で使用することができます。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

1-32767

コード・ページの値を指定してください。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

[トップ](#)

MOVEの例

MOVEの代替コマンド名はMOVです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、MOVEはそれらのすべてで直接MOVに置き換えることができます。

例1: オブジェクトの移動

```
MOV OBJ('/CURRENT/DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
    TODIR('/ARCHIVE')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルをCURRENTという名前のディレクトリーからARCHIVEという名前のディレクトリーへ移動します。

例2: 変換して移動

```
MOV OBJ('/DATAFB')
    TOOBJ('/QSYS.LIB/APP1.LIB/DATA.FILE/DATAFB.MBR')
    TOCCSID(*CALC) DTAFMT(*TEXT) TOCCSID(*CALC)
```

ストリーム・ファイル'DATAFB'がデータベース・ファイル'DATAFB.MBR'へ移動されます。TOCCSID(*CALC)を指定することによって、(この場合にはQSYS.LIBファイル・システムへ)移動されるファイル・システムは、'/DATAFB'と同じCCSIDで新しいメンバーを作成しようとしています。これが失敗すると(この場合には、'DATA.FILE'が'DATAFB'と同じCCSIDでないと)、ファイル・システムは適切なCCSIDの選択を許可されて、移動を完了します。DTAFMT(*TEXT)を指定することにより、'DATAFB'のデータはテキストとして処理され、新しいファイル'DATAFB.MBR'用に選択したCCSIDに変換されます。

エラー・メッセージ： MOVE

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B8

&1オブジェクトは移動された。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

オブジェクト移動 (MOV OBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト移動(MOV OBJ)コマンドでは、オブジェクトを現在割り当てられているライブラリーから除去して、別のライブラリーに入れます。保管および復元情報は、オブジェクト記述から除去されます。

注: ライブラリー作成(CRTL LIB)コマンドの作成権限(CRTAUT)パラメーターで作成先ライブラリーについて指定された値は、使用されません。オブジェクトの所有権と共通および専用権限は同じままです。

制約事項:

1. 移動されるオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限、オブジェクトが現在入っているライブラリーに対する削除(*DELETE)および実行(*EXECUTE)権限、オブジェクトの移動先のライブラリーに対する追加(*ADD)および実行(*EXECUTE)権限が必要です。
2. ライブラリー、ユーザー・プロファイル、編集記述、回線記述、制御装置記述、装置記述、ジャーナル、およびジャーナル・レシーバーといったオブジェクト・タイプは移動できません。
3. システム操作員メッセージ待ち行列QSYSOPR、すべてのワークステーション・ユーザー・メッセージ待ち行列、およびシステム・ログQHSTといったオブジェクトは移動できません。
4. オブジェクトの移動先のライブラリーに、移動されるオブジェクトと同じ名前およびタイプのオブジェクトが入ってはいけません。
5. オブジェクトの移動先のライブラリーをQTEMPにすることはできません。
6. ユーザー空間(*USRSPC)、ユーザー見出し(*USRIDX)、およびユーザー待ち行列 *USRQのユーザー定義域オブジェクトをコピーできるのは、システム値QALWUSRDMN (ライブラリーでユーザー定義域オブジェクトが使用できる) で使用できるライブラリーに対してだけです。しかし、ユーザー・オブジェクトがシステム・ドメイン・オブジェクトとして作成された場合には、制約はありません。
7. 一般に、オブジェクトと受け入れライブラリーが異なった補助記憶域プール(ASP)内にある場合には、オブジェクトをその受け入れライブラリーに移動することはできません。オブジェクトを移動できないと、エラー・メッセージが送られます。この一般規則には以下に示す特例があります。
 - 基本ユーザーASP内にある保管ファイルを、システムASP (ASP 1)内にあるライブラリーに移動することができます。ただし、これは、その保管ファイルのライブラリーもシステムASP内にある場合に限られます。
 - 2次ASP内のオブジェクトを、同じASPグループ内の1次ASPに移動することができます。ただし、これは、移動先ライブラリーがQRPLXXXXX (ここで'XXXXX'はASPグループの1次ASPの番号) である場合に限られます。
 - 以下の点を考慮して、オブジェクトをQTEMPから1次または2次ASPに移動することができます。
 - 「移動」は保管または復元操作によって遂行されます。
 - オブジェクトのサイズは1テラバイト未満でなければなりません。(ASPへのライブラリーの移動(QHSMOVL) APIにはこのサイズ制限はありません。)
 - オブジェクトを名前変更できない場合には、オブジェクトを移動することはできません。
 - データ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクト記述しか移動されません。オブジェクトの内容は移動されません。

- オブジェクトが移動されると、以下の属性が元のオブジェクトとは異なってしまいます。
 - 最後に使用された日付はblankに設定されます。
 - 変更日時は現在日時に設定されます。
 - 使用日数カウントはゼロに設定されます。
 - 日付使用カウント・リセットはblankに設定されます。
 - 復元日時は現在日時に設定されます。
 - 元のオブジェクトがジャーナル処理されていた場合にも、オブジェクトはジャーナル処理されません。
- オブジェクトに対する専用権限は保持されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *JOBQ, *JOBQ, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
TOLIB	TOライブラリー	名前, *CURLIB	必須, 定位置 3
ASPDEV	複写元ASP装置	名前, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション
TOASPDEV	宛先ASP装置	名前, *ASPDEV, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

別のライブラリーに移動されるオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

移動されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

移動されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

移動されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

トップ

TOライブラリー (TOLIB)

オブジェクトが移動される先のライブラリーを指定します。ライブラリーQTEMP は指定できません。

これは必須パラメーターです。

***CURLIB**

オブジェクトは現行ライブラリーに移動されます。現行スレッドのライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オブジェクトが移動される先のライブラリーの名前を指定してください。

トップ

複写元ASP装置 (ASPDEV)

移動されるオブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このライブラリーがスレッドと関連したライブラリー名スペースの一部でないASPに存在する場合には、必ず正しいオブジェクトが移動されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。**ライブラリー (OBJ)**パラメーターに*LIBLまたは*CURLIBを指定した時に、このパラメーターを使用する場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

- * 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

宛先ASP装置 (TOASPDEV)

TOライブラリー(TOLIB)パラメーターに指定された移動先ライブラリーの記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。移動先ライブラリーがスレッドと関連したライブラリー・ネーム・スペースの一部でないASPに存在する場合には、このパラメーターを指定して確実に正しいオブジェクトが移動されるようにしなければなりません。TOLIBパラメーターに*CURLIBを指定した時に、このパラメーターを使用する場合には、TOASPDEV(*)を指定しなければならないか、TOASPDEV(*ASPDEV)を指定して、複写元ASP装置(ASPDEV)パラメーターを*にしなければなりません。

*ASPDEV

ASPDEVパラメーターに指定されたASP装置がライブラリーを見つけるために検索されます。

- * 現在、スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)、およびスレッドのASPグループ内の1次および2次ASP (スレッドがASPグループを持っている場合)が含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

MOV OBJの例

例1:汎用ライブラリーからのオブジェクトの移動

```
MOV OBJ OBJ(QGPL/X) OBJTYPE(*PGM) TOLIB(MY)
```

Xプログラム(*PGM)オブジェクトを見つけるために汎用ライブラリー(QGPL)が検索されます。Xプログラム・オブジェクトは、MYライブラリーに移動されます。このコマンドが実行されると、Xプログラム・オブジェクトはもうQGPLライブラリーに存在しなくなります。

例2:ライブラリー・リスト内のライブラリーからのオブジェクトの移動

```
MOV OBJ OBJ(*LIBL/Y) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(Z)
```

-または-

```
MOV OBJ Y *FILE Z
```

Yファイル・オブジェクトを見つけるために、ライブラリー・リスト(*LIBL)が検索されます。ライブラリー・リストを構成するライブラリーに同じ名前のファイル・オブジェクトが複数存在する場合には、ライブラリー・リストで最初に見つかったYファイル・オブジェクトがZライブラリーに移動されます。このコマンドが実行されると、Yファイル・オブジェクトは、それが見つかったライブラリーにはもう存在しなくなります。

例3:独立補助記憶域プール(ASP)内のライブラリーから別のASPのライブラリーへのオブジェクトの移動

```
MOV OBJ OBJ(INVENTORY/MONTHLY) OBJTYPE(*PGM)
      TOLIB(WINVENTORY) ASPDEV(SALES) TOASPDEV(WSALES)
```

MONTHLYプログラム・オブジェクトを見つけるためにSALES独立補助記憶域プール(ASP)内のINVENTORYライブラリーが検索されます。MONTHLYプログラム・オブジェクトは、WSALES ASP内のWINVENTORYライブラリーに移動されます。このコマンドが実行されると、MONTHLYプログラム・オブジェクトはもうSALES ASP内のINVENTORYライブラリーに存在しなくなります。SALES ASPおよびWSALES ASPは活動化されて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、状況が「使用可能」になっていなければなりません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: MOV OBJ

*ESCAPEメッセージ

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF0601

&2のファイル&1に対する操作は許可されていない。

CPF0602

ファイル&1は、すでにライブラリー&2に存在している。

CPF0605

&2の装置ファイル&1は、記憶域を解放して保管された。

CPF0610

&2のファイル&1が使用可能でない。

CPF0678

&2のファイル名&1に対する操作は実行されなかった。

CPF1763

1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2135

タイプ*&3のオブジェクト&1はライブラリーにすでに存在している。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF216C

TOLIB(*CURLIB)にはTOASPDEV値は無効である。

CPF2173

ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

- CPF2183**
オブジェクト&1をライブラリー&3に移動することができない。
- CPF2189**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。
- CPF2193**
オブジェクト&1をライブラリー&4に移動することはできない。
- CPF22BC**
タイプ&3のオブジェクト&1はプログラム定義のオブジェクトでない。
- CPF2451**
メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。
- CPF2512**
メッセージ待ち行列&1に対してこの操作を使用することはできない。
- CPF32CF**
分散ファイル・エラー，理由コード&3。
- CPF32C3**
分散ファイル・エラー，レベルIDが一致していない。
- CPF320B**
データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。
- CPF320C**
SQLコレクション&2ではファイル&1は許されない。
- CPF3201**
ライブラリー&2にファイル&1はすでに存在している。
- CPF3202**
ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。
- CPF3203**
&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。
- CPF322D**
データベース・ファイル&1の操作は実行されなかった。
- CPF3220**
&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。
- CPF3224**
ファイル&1に対する操作の実行は認可されていない。
- CPF323C**
QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。
- CPF323D**
ユーザーは正しい権限をもっていない。
- CPF323F**
ライブラリー&2のファイル&1の移動または名前変更が完了していない。
- CPF3231**
ライブラリー&2からファイル&1を移動することはできない。

CPF324B

ファイル&1にディクショナリーを割り振ることができない。

CPF324C

並行権限ホルダー操作のため、移動、名前変更、または復元を行なうことはできない。

CPF3245

ファイル&1メンバー&6の損傷により、ファイル&3に対する操作は行なわれなかった。

CPF325D

フィールドCCSID値に互換性がない。

CPF327C

ファイル&1をライブラリー&4に移動することができない。

CPF327E

ファイル&1の代替名は使用できない。

CPF329D

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF3323

ジョブ待ち行列&1はすでに&2に存在している。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3353

&2に出力待ち行列&1はすでに存在している。

CPF3373

&2のジョブ待ち行列&1は移動されなかった。ジョブ待ち行列は使用中です。

CPF3374

&2の出力待ち行列&1は移動されなかった。出力待ち行列は使用中です。

CPF3467

出力待ち行列&1が削除されてから、再作成された。

CPF3469

出力待ち行列に対する操作は認められない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7010

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF7014

オブジェクト&1をライブラリー&4に移動することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9827

オブジェクト&1を作成したり&2に移動することはできない。

CPF9833

*CURASGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9876

保護されたライブラリー&2は変更できません。

[トップ](#)

メッセージ・カタログの組合せ (MRGMSGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・カタログ組合せ(MRGMSGCLG)コマンドは、1つまたは複数のソース・ファイル (SRCFILEパラメーター) からのメッセージ・テキストを、指定されたメッセージ・カタログ (CLGFILEパラメーター) 内のメッセージ・テキストと組み合わせます。指定されたカタログが存在していない場合には、CLGCCSID, DTAAUT,およびOBJAUTパラメーターに指定された値を使用してそのカタログが作成されます。指定されたカタログがすでに存在している場合には、既存のメッセージ・カタログのCCSID, DTAAUT,およびOBJAUT属性が使用されます。

最大300のメッセージ・テキスト・ソース・ファイルを指定することができます。メッセージ・テキスト・ソース・ファイルは指定された順に処理されます。各ソース・ファイルが次から次へと連続的にカタログを変更します。メッセージ・カタログにすでに存在しているメッセージ番号がソース・ファイルにある場合には、メッセージ・カタログ・ファイル内の古いメッセージ・テキストは、ソース・ファイルに定義されている新しいメッセージ・テキストに置き換わります。メッセージ・カタログに存在していないメッセージ番号がソース・ファイルにある場合には、そのメッセージ情報がメッセージ・カタログに追加されます。

また、このコマンドは次の代替コマンド名を使用して出すことができます。

- GENCAT

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLGFILE	メッセージ・カタログ名	パス名	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル・パス名	値 (最大 300 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 2
CLGCCSID	メッセージ・カタログの CCSID	1-65533, *SRCCSID, *JOB	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
SRCCSID	ソース・ファイルのCCSID	1-65533, *SRCFILE, *JOB	オプション
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *NONE, *RWX, *RX, *RW, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション

[トップ](#)

メッセージ・カタログ名 (CLGFILE)

変更または作成するメッセージ・カタログのパス名を指定します。ストリーム・ファイル・パス名内のすべてのディレクトリが存在していなければなりません。指定されたパス名をもつストリーム・ファイルが存在していない場合には、指定されたファイル名をもつメッセージ・カタログが作成されます。そのパス名が QSYSファイル・システムにある場合には、そのファイルが存在していなければなりません。QSYSファイル・システムにファイル・メンバーが存在していない場合には、それが作成されます。複数のデータ・ワールドをもつソース物理ファイルはサポートされていません。

トップ

ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)

メッセージ・カタログと組み合わせるメッセージ・テキストが入っているソース・ファイルのパス名を指定します。ファイルがQSYSファイル・システムからのものである場合には、それはデータベース・ソース物理ファイルでなければなりません。

注: ソース・ファイルがレコード・ファイルでない場合には、ソース・ファイル中の各行は、ソース・ファイルの作成時には改行または行送り文字で終了していなければなりません。

トップ

メッセージ・カタログのCCSID (CLGCCSID)

メッセージ・テキストをメッセージ・カタログに入れる際のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。メッセージ・カタログがストリーム・ファイルの場合には、入力されたCCSID値がストリーム・ファイルの属性を設定するために使用されます。メッセージ・カタログのCCSIDを表示するには、オブジェクト・リンク処理(WRKLNK) コマンドを使用します。QSYSファイル・システム内のメッセージ・カタログのCCSID を調べるには、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを使用します。

考えられる値は次の通りです。

*SRCCSID

ソース・ファイルのCCSID (SRCCSIDパラメーター) に指定された値からCCSID が決定されることを示す特殊値。

***JOB** カタログ情報の代わりにジョブのCCSIDが使用されることを示す特殊値。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

コード化文字セットID

カタログ情報の代わりに使用されるCCSIDを指定してください。値0, 65534,および65535は無効です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

メッセージ・カタログを簡単に記述したテキストを指定します。

注: オブジェクトへのテキストの割り当ては、メッセージ・カタログに使用されているファイル・システムまたはオブジェクト・タイプによって提供されるサポートにより異なります。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

8桁のブランク文字からなるモード名が使用されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ソース・ファイルのCCSID (SRCCSID)

ソース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SRCFILE**

CCSIDが最初のソース・ファイル (SRCFILEパラメーター) のCCSIDから決定されることを示す特殊値。

***JOB** ソース・ファイルのCCSIDにジョブのCCSIDが使用されることを示す特殊値。ジョブCCSIDが65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

コード化文字セットID

ソース・ファイルのCCSIDを指定してください。値0, 65534,および65535は無効です。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

作成されるオブジェクトの中のデータに対してユーザーに与えられる共通権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

作成されるオブジェクトに対する権限は、それが作成されるディレクトリーによって決まります。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***RWX** ユーザーには、オブジェクトに対する*RWX権限が与えられます。*RWX権限により、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在、オブジェクト管理、オブジェクト変更、およびオブジェクト参照権限によって制御される操作を除いて、オブジェクトについてのすべての操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できます。*RWX権限は、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を提供します。

***RX** *RX権限により、ユーザーはプログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトにおける基本操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。*RX権限は、オブジェクト操作権と読み取りおよび実行の権限を提供します。

***RW** *RW権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示および変更できます。*RW権限は、オブジェクト操作権およびデータの読み取り、追加、更新、および削除権限を提供します。

***WX** *WX権限により、ユーザーはオブジェクトの内容の変更、プログラムの実行、およびライブラリーまたはディレクトリーの検索ができます。*WX権限は、オブジェクト操作権と、データの追加、更新、削除、および実行権限を提供します。

***R** *R権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示できます。*R権限は、オブジェクト操作権およびデータ読み取り権を提供します。

***W** *W権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を変更できます。*W権限は、オブジェクト操作権、およびデータの追加、更新、削除権限を提供します。

***X** *X権限により、ユーザーはプログラムを実行したり、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索できます。*X権限は、オブジェクト操作権およびデータ実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

除外権限は、ユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値が*NONEでなければなりません。

***NONE**

ユーザーはオブジェクトに対するデータ権限を何も認可されません。この値をOBJAUT値*NONEと一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ユーザーに与えられるオブジェクトに対する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このオブジェクトが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***NONE**

他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照権限）はユーザーに認可されません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リスト名を指定する場合には、この値を指定しなければなりません。

***ALL** 他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、および参照権限）のすべてがユーザーに認可されます。

あるいは、次の値を最大4つまでを指定します。

***OBJEXIST**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト存在権限を認可されます。

***OBJMGT**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト管理権限を認可されます。

***OBJALTER**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト変更権限を認可されます。

*OBJREF

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト参照権限を認可されます。

[トップ](#)

MRGMSGCLGの例

```
MRGMSGCLG  CLGFILE('/USDIR/USMSG.CAT')  CLGCCSID(*SRCCSID)
           SRCFILE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MSGSRC.FILE/USMSG.MBR')
           DTAAUT(*R)  TEXT('MESSAGE CATALOG FOR USA')
```

このコマンドは、QSYSファイル・システム中のライブラリーMYLIBにあるソース物理ファイルMSGSRCのメンバーUSMSGのメッセージ・テキストをディレクトリーUSDIR中のメッセージ・カタログUSMSG.CATと組み合わせます。メッセージ・カタログがまだ存在しない場合には、ソース・ファイルのCCSIDおよびデータ権限*Rで作成されます。テキスト・パラメーターは、これをUSAのメッセージ・カタログとして記述します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： MRGMSGCLG

*ESCAPEメッセージ

CPF3BE3

メッセージ・カタログ&1が作成または更新されていない。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル組み合わせ (MRGMSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイル組み合わせ(MRGMSGF)コマンドによって、1つのメッセージ・ファイルからのメッセージを別のメッセージ・ファイルのメッセージと組み合わせることができます。組み合わせの処理時には、置き換えられるメッセージを保持するために別のメッセージ・ファイルを指定することができます。このコマンドによって指定したメッセージ・ファイルが削除されることはありません。

このコマンドが処理される前に、取り出しメッセージ・ファイル(FROMMSGF)、受け取りメッセージ・ファイル(TOMSGF)、またはその両方のファイルにはメッセージが入っていてもかまいませんが、置き換えメッセージ・ファイル(RPLMSGF)には入ってはなりません。この3つの可能性は、MRGMSGFコマンドが処理されると、次のようになります。

- メッセージがFROMMSGFにしかない時には、それがTOMSGFに追加されます
- メッセージがTOMSGFにしかない時には、それがTOMSGFに残ります
- メッセージがFROMMSGFとTOMSGFの両方にある時には、TOMSGF内のメッセージがまずRPLMSGFに保管され（置き換えメッセージ・ファイルが指定された場合）、次にTOMSGF内のメッセージがFROMMSGF内のメッセージで置き換えられます

制約事項:取り出しメッセージ・ファイル(FROMMSGFパラメーター) に対する使用(*USE)権限、受け取りメッセージ・ファイル(TOMSGFパラメーター) に対する使用(*USE)、追加(*ADD)、および削除(*DLT)権限と、置き換えメッセージ・ファイル(RPLMSGFパラメーター) に対する*USEおよび*ADD権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMMSGF	取り出しメッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 取り出しメッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOMSGF	受け取りメッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 受け取りメッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RPLMSGF	置き換えられたメッセージ・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 置き換えられたメッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
SELECT	選択するメッセージID	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMIT	除外するメッセージID	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション

トップ

取り出しメッセージ・ファイル (FROMMSGF)

組み合わせるメッセージが入っているメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: 取り出しメッセージ・ファイル

名前 組み合わせるメッセージが入っているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

取り出しメッセージ・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 取り出しメッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)

メッセージが組み合わせられる先のメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: 受け取りメッセージ・ファイル

名前 メッセージが組み合わせられる先のメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

受け取りメッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 受け取りメッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定します。

トップ

置き換えられたメッセージ・ファイル (RPLMSGF)

受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルからオーバーレイされたメッセージを受け取るメッセージ・ファイルを指定します。

単一値

*NONE

TOMSGFメッセージ・ファイルからのオーバーレイされたメッセージは、置き換えメッセージ・ファイルにコピーされません。

修飾子 1: 置き換えられたメッセージ・ファイル

名前 オーバーレイされたメッセージを受け取るメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

置き換えメッセージ・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 置き換えメッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

選択するメッセージID (SELECT)

取り出しメッセージ・ファイル (FROMMSGF)パラメーターに指定したメッセージ・ファイルから受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)パラメーターに指定したメッセージ・ファイルに組み合わせるための選択メッセージIDを指定します。選択したメッセージだけが組み合わせられます。

単一値

***ALL** 取り出しメッセージ・ファイルのすべてのメッセージIDが、受け取りメッセージ・ファイルのメッセージと組み合わせられます。

その他の値

メッセージ識別コード

組み合わせられる最大50のメッセージIDのリストを指定してください。

[トップ](#)

除外するメッセージID (OMIT)

取り出しメッセージ・ファイル (FROMMSGF)パラメーターに指定したメッセージ・ファイルから受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)パラメーターに指定したメッセージ・ファイルに組み合わせないための選択メッセージIDを指定します。このリストに含まれない取り出しメッセージ・ファイル内のすべてのメッセージIDが組み合わせられます。

単一値

***NONE**

メッセージIDは組み合わせ処理から取り除かれません。

その他の値

メッセージ識別コード

組み合わせされない最大50のメッセージIDのリストを指定します。メッセージIDがリストされていないすべてのメッセージが組み合わせられます。

[トップ](#)

MRGMSGFの例

例1: 2つのファイルの組み合わせ

MRGMSGF FROMMSGF(A) TOMSGF(B)

テーブル1. 組み合わせ前のファイルの内容

メッセージ・ファイル A メッセージ・ファイル B

```
-----
ABC1234 'TEXT A4'      ABC1233 'TEXT B3'
ABC1236 'TEXT A6'      ABC1234 'TEXT B4'
ABC1237 'TEXT A7'      ABC1235 'TEXT B5'
ABC1238 'TEXT A8'      ABC1236 'TEXT B6'
```

以下は、MRGMSGFコマンドが処理された後の2つのメッセージ・ファイルです。メッセージABC1234とメッセージABC1236は両方のファイルにあることに注意してください。組み合わせが行われると、ファイルAからのメッセージ・テキスト（それぞれテキストA4およびA6）でファイルBのメッセージ・テキスト（それぞれテキストB4およびB6）が置き換えられます。

テーブル2. 組み合わせ後のファイルの内容

メッセージ・ファイル A メッセージ・ファイル B

```
-----
ABC1234 'TEXT A4'      ABC1233 'TEXT B3'
ABC1236 'TEXT A6'      ABC1234 'TEXT A4'
ABC1237 'TEXT A7'      ABC1235 'TEXT B5'
ABC1238 'TEXT A8'      ABC1236 'TEXT A6'
                         ABC1237 'TEXT A7'
                         ABC1238 'TEXT A8'
```

例2: 置き換えファイル・オプションを指定した2つのファイルの組み合わせ

以下の例では、受け取りファイル内の置き換えられたメッセージが、置き換えられる前と別のファイルに保管されます。

MRGMSGF FROMMSGF(A) TOMSGF(B) RPLMSGF(C)

テーブル3. 組み合わせ前のファイルの内容

メッセージ・ファイル A メッセージ・ファイル B

```
-----
ABC1234 'TEXT A4'      ABC1233 'TEXT B3'
```

```
ABC1236 'TEXT A6'   ABC1234 'TEXT B4'
ABC1237 'TEXT A7'   ABC1235 'TEXT B5'
ABC1238 'TEXT A8'   ABC1236 'TEXT B6'
```

以下は、MRGMSGFコマンドが処理された後の2つのメッセージ・ファイルです。メッセージABC1234とメッセージABC1236は両方のファイルにあることに注意してください。組み合わせが行われると、これら2つのメッセージからのテキストが最初にファイルC（それぞれテキストB4およびB6）に移動します。次に、ファイルAからのメッセージ・テキスト（それぞれテキストA4およびA6）でファイルBのメッセージ・テキスト（それぞれテキストB4およびB6）が置き換えられます。

テーブル4. 組み合わせ後のファイルの内容

メッセージ・ファイル A	メッセージ・ファイル B	メッセージ・ファイル C
-----	-----	-----
ABC1234 'TEXT A4'	ABC1233 'TEXT B3'	ABC1234 'TEXT B4'
ABC1236 'TEXT A6'	ABC1234 'TEXT A4'	ABC1236 'TEXT B6'
ABC1237 'TEXT A7'	ABC1235 'TEXT B5'	
ABC1238 'TEXT A8'	ABC1236 'TEXT A6'	
	ABC1237 'TEXT A7'	
	ABC1238 'TEXT A8'	

[トップ](#)

エラー・メッセージ： MRGMSGF

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用を許可されていません。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2452

置き換えられるメッセージ・ファイルにメッセージが入っていない。

CPF2461

メッセージ・ファイル&1を拡張することができなかった。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2510

&2のメッセージ・ファイル&1に論理的な損傷がある。

CPF2519

メッセージIDリストの処理中に、エラーが起こった。

CPF2561

メッセージは組み合わせられなかった。

CPF2562

同じメッセージ・ファイルを複数回指定することはできない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

TCP/IP ホスト・テーブルの組み合わせ (MRGTCPHT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPホスト・テーブル組み合わせ(MRGTCPHT)コマンドは、物理ファイル・メンバーからのホスト名、IPアドレス、およびテキスト注記項目をローカル・ホスト・テーブルに組み合わせます。ローカル・ホスト・テーブル全体をユーザー指定の物理ファイル・メンバー中のホスト・テーブルで置き換えることのできる置き換えオプションも提供されています。

*ISERIES, *AIX,または*NICファイル形式のいずれかをローカル・ホスト・テーブルと組み合わせることのできるファイル形式オプションが提供されています。ローカル・ホスト・テーブルはメンバーQUSRSYS/QATOCHOST.HOSTSの中に入っており、物理ファイルとして作成されます。

ホスト・テーブルを組み合わせる時には、IPアドレスごとに最大4つまでのホスト名を使用することができます。たとえば、ローカル・ホスト・テーブルがすでに3つのホスト名をもっていて、組み合わせられる物理ファイル・メンバーが追加の2つのホスト名をもっている場合には、物理ファイル中の最初のホスト名だけが最終ホスト・テーブルに組み合わせられます。ローカル・ホスト・テーブルおよび組み合わせられる物理ファイル・メンバーの両方に存在しているホスト名は複写されません。

重要:ローカル・ホスト・テーブルの元のコピーは、TCP/IPホスト・テーブル組み合わせ(MRGTCPHT)コマンドによって保管されません。元のホスト・テーブルを保管するには、ファイル・コピー(CPYF)コマンドを使用してファイルQUSRSYS/QATOCHOST.HOSTSのコピーを作成してください。これはMRGTCPHTコマンドを出す 前に 実行してください。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション, 定位置 2
FILEFMT	ファイル形式	*AS400, *AIX, *NIC	オプション
REPLACE	ホスト・テーブルの置き換え	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

FROMファイル (FROMFILE)

組み合わせ操作に使用されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

修飾子1: FROMファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 物理ファイルを入れるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

FROMメンバー (FROMMBR)

組み合わせ操作で使用される物理ファイル・メンバーを指定します。

***FIRST**

物理ファイルの最初のメンバーを使用してホスト・テーブルと組み合わせられます。

***LAST** 物理ファイルの最後のメンバーを使用してホスト・テーブルと組み合わせられます。

名前 使用する物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル形式 (FILEFMT)

ローカル・ホスト・テーブルと組み合わせる物理ファイル・メンバーの形式を指定します。

***AS400**

ローカル・ホスト・テーブルと組み合わせる物理ファイル・メンバーはISERIES形式です。

注: *AS400を使用できるのは、指定された物理ファイル・メンバーがバージョン3,リリース1,モディフィケーション0 (V3R1M0)またはそれ以降のOS/400を実行中のISERIESからのホスト・テーブルである場合だけです。V3R1M0より前の任意のバージョンのOS/400を実行しているISERIESからのホスト・テーブルを移入する場合には、*AIXを指定してください。

***AIX** ローカル・ホスト・テーブルと組み合わせる物理ファイル・メンバーは*AIX形式です。

***NIC** ローカル・ホスト・テーブルと組み合わせる物理ファイル・メンバーは*NIC形式です。

[トップ](#)

ホスト・テーブルの置き換え (REPLACE)

物理ファイル・メンバーをローカル・ホスト・テーブルと組み合わせるか、あるいはローカル・ホスト・テーブルを置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 物理ファイル・メンバーをローカル・ホスト・テーブルと組み合わせます。

***YES** 物理ファイル・メンバーをローカル・ホスト・テーブルによって置き換えます。

トップ

MRGTCPHTの例

例1:ローカル・ホスト・テーブルの置換

```
MRGTCPHT FROMFILE(AS400FILE) REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、QUSRSYS/QATOCHOST.HOSTSの内容を物理ファイルAS400FILEの先頭メンバーの内容によって置き換えます。物理ファイルAS400FILEの最初のメンバーがAS/400ホスト・テーブル・フォーマットに入っています。

例2:ローカル・ホスト・テーブルのマージ

```
MRGTCPHT FROMFILE(HOSTLIB/NICFILE) FROMMBR(NEWHOSTS) FILEFMT(*NIC)
```

このコマンドは、ローカル・ホスト・テーブルの現在の内容と、ライブラリーHOSTLIB内の物理ファイルNICFILEのNEWHOSTSメンバーの内容を組み合わせます。物理ファイルは*NIC形式になっています。レコードは、このコマンドによって*NIC形式から*AS400形式に変換されます。

トップ

エラー・メッセージ： MRGTCPHT

***ESCAPE** メッセージ

TCP1927

ファイル&1,メンバー&2のレコードが正しくない。

TCP1929

ホスト・テーブルが使用できない。

TCP1934

ライブラリー&2の組み合わせファイル&1,メンバー&3が見つからない。

トップ

TCP/IPネットワーク状況の処理 (NETSTAT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザーのローカル・システム上のTCP/IPネットワーク経路、インターフェース、TCP接続、およびUDPポートの状況についての情報を入手するためには、NETSTAT としても知られているTCP/IPネットワーク状況処理(WRKTCPSTS)コマンドを使用してください。TCP/IP接続を終了するか、あるいはTCP/IPインターフェースを開始または終了するためにNETSTATを使用することもできます。

SNA (IPS)を経由するIPが使用可能な場合には、NETSTATはSNAインターフェース、経路、および接続を使用するIPについての情報を表示します。SNA接続を使用したIPを終了したり、SNAインターフェースを使用したIPを開始または終了するために、NETSTATを使用することもできます。

このコマンドを使用するためには、TCP/IPプロトコル・スタックまたはSNAを使用するIPが活動状態でなければなりません。どちらも活動状態でない場合には、NETSTATはエスケープ・メッセージを出します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*SELECT , *IFC, *RTE, *CNN	オプション的、定位置 1

[トップ](#)

オプション (OPTION)

処理したいTCP/IP状況情報を指定します。

***SELECT**

「TCP/IPネットワーク状況の処理」メニューを表示します。

***IFC** 「TCP/IPインターフェース状況の処理」リストを表示します。

***RTE** 「TCP/IP経路情報の処理」リストを表示します。

***CNN** 「TCP/IP接続状況の処理」リストを表示します。

[トップ](#)

WRKTCPSTSの例

例1: TCP/IPネットワーク状況処理メニューを表示

```
WRKTCPSTS
```

-または-

```
WRKTCPSTS OPTION(*SELECT)
```

これらのコマンドのいずれかによって「TCP/IPネットワーク状況処理」メニューが表示されます。

例2: OPTIONパラメーターを使用

```
WRKTCPSTS OPTION(*CNN)
```

このコマンドは、「TCP/IP接続状況処理」パネルを表示します。

例3: 定位置パラメーターを使用

```
WRKTCPSTS *RTE
```

OPTIONパラメーターは定位置パラメーターです。OPTIONキーワードは必要ありません。このコマンドは、NETSTATを開始し、「TCP/IP経路情報表示」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKTCPSTS

*ESCAPE メッセージ

TCP2670

要求を完了することができない。TCP/IPサービスは使用できません。

TCP3844

インターフェース&3のデータは使用できない。

TCP3881

リストのデータは使用できない。

TCP3882

データは使用できない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

DNS QUERYプログラムの開始 (NSLOOKUP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
エラー・メッセージ

DNS QUERY開始(STRDNSQRY),およびその別名NSLOOKUP, NSLOOKUP (ネーム・サーバー検索) 開始ツール。

NSLOOKUPは、DNSサーバーから情報を検索したり、DNSサーバーの応答をテストすることができる対話式QUERYツールです。DNSサーバーを使用するためにシステムを構成する前に、そのDNSサーバーが正しく応答していることを確認することができます。また、ホスト、ドメイン、およびDNSサーバーに関するDNS情報を検索することもできます。

注: NSLOOKUPは、DNSサーバーから情報を求め(照会)ます。NSLOOKUP QUERYセッションを開始するためには、そのQUERYセッションに「省略時」のサーバーとして活動DNSサーバーが指定されていることが必要です。省略時のサーバーは、とくに指示がない限りNSLOOKUPがすべてのQUERYを送信する先のDNSサーバーです。以下のヘルプにおける「省略時のサーバー」または「省略時のDNSサーバー」に対するすべての参照は、現行NSLOOKUP QUERYセッションの省略時のDNSサーバーだけを指しています。

NSLOOKUPはDNSサーバーから情報を検索します。QUERYを送る活動DNSサーバーが必要です。ツールを開始する時にDNSサーバーをDMNNAMSVRで指定しない場合には、次の1つをセッションの省略時のDNSサーバーとして設定しようとします。1.システムを構成して使用するDNSサーバー。あるいは2.ローカル・システムで実行しているDNSサーバー。

これらの条件のいずれも存在しない場合には、NSLOOKUPはDNSサーバーをQUERY に指定しない限り情報を検索することができません。DMNNAMSVRによって、QUERYセッションを開始して選択したDNSサーバーをセッションの省略時のサーバーとして設定することができます。

このコマンドには、次の2つのパラメーターがあります。

1. HOSTNAME
2. DMNNAMSVR

これらのパラメーターは、QUERYセッションのための省略時のDNSサーバーを指定するため、あるいはセッションの始動時に特定のホストに関する情報を要求するために、STRDNSQRYで使用されます。これらのパラメーターのヘルプは、セッション・サブコマンドのリストの後にあります。

以下は、QUERYセッションが開始された後に使用することができるNSLOOKUPサブコマンドのリストです。

名前 ホストのIPアドレスNAMEを示します。NAMEをホスト名に置き換えます。現行または「省略時の」DNSサーバーが照会されます。

NAME1 NAME2

ホストのIPアドレスNAME (NAME1)を示しますが、現行(省略時の)DNSサーバーの代わりにNAME2に情報を照会します(ここで、NAME2はDNSサーバーの名前です)。

QUERYセッションのための現行または「省略時の」DNSサーバー以外のDNSサーバーに対するQUERYを指示することができます。

HELP (または?)

STRDNSQRY (NSLOOKUP)ツールのためのサブコマンドのリストを表示します。

SERVER NAME

現行 (省略時の) DNSサーバーを使用して、省略時の (現行) DNSサーバーをNAMEに変更します (ここで、NAMEはDNSサーバーの名前です)。

LSERVER NAME

初期の省略時のDNSサーバーを使用して、省略時の (現行) DNSサーバーをNAMEに変更します (ここで、NAMEはDNSサーバーの名前です)。

QUERYセッション中に省略時のDNSサーバーを切り替え、現行DNSサーバーが新しいDNSサーバー名を分析解決できない場合に有用です。LSERVERにより、現行DNSサーバーの代わりに初期の省略時のDNSサーバーを使用し、切り替えを行うことができます。初期DNSサーバーでも新しいDNS名を分析解決することができない場合には、IP アドレスが分かっているならばNAMEをそれに置き換えてください。新しいDNSサーバーのIPアドレスが分からない場合には、DMNNAMSVRパラメーターを使用してNSLOOKUPセッションを再始動し、その新しいDNSサーバーをQUERYセッションの省略時のサーバーとして指定してみてください。

ROOT ルートDNSサーバーをQUERYセッションの省略時のDNSサーバーにします。ルートDNSサーバーは、'SET ROOT=NAME'オプションによって定義されます。

SET SETサブコマンドによって、QUERYセッション・オプションの値を設定することができます。SETサブコマンドに有効なオプションの値は、次の通りです。

SET ALL

すべてのセッション・オプションの現行値を示します。オプション値が設定されていない場合には、各オプションの省略時の値が表示されます。

SET DEBUG

デバッグ情報を表示します。

SET NODEBUG

デバッグ情報は表示しません。

SET D2

完全な (冗長) デバッグ情報を表示します。

SET NOD2

完全な (冗長) デバッグ情報は表示しません。

SET DEFNAME

省略時のドメイン名を各QUERYに付加します。省略時のドメイン名は、'SET DOMAIN=NAME'オプションによって定義されます。

SET NODEFNAME

省略時のドメイン名を各QUERYには付加しません。

SET SEARCH

DEFNAMEオプションの代わりにSRCHLISTオプションを使用します。'SET SRCHLIST=N1/N2/N3...'オプションによって定義されたドメイン名のリストを使用します。

SET NOSEARCH

SRCHLISTオプションは使用しません。

SET RECURSE

省略時のサーバーに情報がない場合に、他のDNSサーバーを照会します。

SET NORECURSE

省略時のサーバーに情報がない場合に、他のDNSサーバーを照会しません。

SET VC

UDPに代えてTCPをQUERYに使用します。

SET NOVC

UDPに代えてQUERYのTCPを使用することはしません。

SET IGNORETC

UDP応答が切り捨てられた場合に、TCPを使用したQUERYは再試行しません。

SET NOIGNORETC

UDP応答が切り捨てられた場合に、TCPを使用したQUERYを再試行します。

SET DOMAIN=NAME

省略時のドメイン名をNAMEに設定します (NAMEをドメイン名に置き換えます)。`'SET DEFNAME'` オプションによって使用される省略時のドメイン名を定義します。

SET SRCHLIST=N1/N2/N3...

各QUERYに付加するドメイン名のリストを作成します。このリスト中の各ドメイン名が、応答が受信されるか、あるいはリスト中に名前がなくなるまで、QUERYに付加されます。N1, N2, N3,などをドメイン名に置き換えます。

SET ROOT=NAME

ルート・サーバーをNAMEに設定します (NAMEをDNSサーバー名に置き換えます)。`'ROOT'` サブコマンドによって使用されるサーバーを定義します。

SET RETRY=X

再試行回数をXに設定します (Xは数値です)。

注: 再試行回数の省略時値は1です。再試行値は、NSLOOKUPが最初に再試行するまで待機する時間 (秒数) であるタイムアウト値と一緒に作用します。再試行値は、通常1または2に設定されます。

SET TIMEOUT=X

初期タイムアウト間隔をX秒に設定します (Xは数値です)。

注: TIMEOUT=Xは、最初のQUERYで応答が受信されない場合に、NSLOOKUPが最初の再試行をするまで待機する長さを決定します。正常に行われない再試行のたびにタイムアウト値は2倍になります。省略時の値は5秒です。

SET TYPE=X

DNSサーバーがQUERYへの返答に使用するDNSレコードのタイプを決定します。次のDNSレコード・タイプの1つを'X'に置き換えます。

A IPアドレス・レコード。これが省略時の値です。

ANY QUERYの対象として存在する任意のレコード・タイプ。

CNAME

正規名レコード。真の (正規) ホスト名の別名のリストが存在していれば、それを戻します。

HINFO

ホスト情報。QUERYの対象であるCPUタイプおよびオペレーティング・システムに関する情報。

MX メール交換レコード。

- NS** ゾーンのネーム・サーバー(DNSサーバー) 情報。
- PTR** ポインター・レコード。IPアドレスに対するホスト名を戻します。
- SOA** 権限の開始レコード。
- TXT** テキスト・レコード。
- WKS** このホストで使用可能な既知のサービスまたはアプリケーション。
- 注: このタイプの情報レコードは通常は使用できません。

SET PORT=X

DNSサーバーの照会にTCP/IPポート'X'を使用します。ここで、'X'はTCP/IPポート番号です。省略時の値はポート53です。

注: DNSサーバーの事前割り当てポート番号は53で、多くのDNSサーバーでこれを使用します。照会するDNSサーバーがポート53を使用していない限り、通常はポート値を設定する必要はありません。特殊な状況のもとでは、その他のポートが使用される場合があります。ポート53を使用しないDNSサーバーを照会するには、ポート値をそのDNSサーバーで使用されているポート番号に設定してください。

- LS** リスト。リスト・サブコマンドは、情報を表示するか、それをファイルに書き出すために使用されます。これは、表示または書き出される情報の種類、および書き出される場合には、情報を書き出すファイルのパスおよびファイル名を決定するために、追加の値で使用されます。LSサブコマンドの値は、次の通りです。

LS DOMAIN > FILE

DOMAIN中のIPアドレスのリストをFILEに書き出します。DOMAINをドメインの名前に置き換え、FILEを書き出す先の全パスおよびファイル名に置き換えます。

```
LS COMPANY.US.COM > /TEMP/FILENAME.EXTENSION
```

LS -A DOMAIN

DOMAIN中のすべての正規（真の）名および別名をリストします（DOMAINをドメイン名に置き換えます）。

LS -H DOMAIN

DOMAIN用のHINFO（CPUタイプおよびオペレーティング・システム）をリストします（DOMAINをドメイン名に置き換えます）。

LS -S DOMAIN

DOMAINで使用可能な事前割り当てサービスをリストします（DOMAINをドメイン名に置き換えます）。

LS -D DOMAIN

DOMAINに関する使用可能なすべてのレコードをリストします（DOMAINをドメイン名に置き換えます）。すべてのDNSレコード・タイプを含みます。

LS -T TYPE DOMAIN

DOMAINに関するすべてのDNS TYPEレコードをリストします。TYPEをDNSレコード・タイプに置き換え、DOMAINをドメイン名に置き換えます。DNSレコード・タイプのリストについては、'SET TYPE=X'サブコマンドを参照してください。

VIEW FILE

LS出力FILEの内容を表示します（FILEをLS出力ファイル名に置き換えます）。

EXIT QUERYセッションを終了します。次に実行キーを押して、コマンド行に戻ります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
HOSTNAME	ホスト	文字値, *NONE	オプションル, 定位置 1
DMNNAMSVR	ドメイン・ネーム・サーバー	文字値, *CFG	オプションル

[トップ](#)

ホスト (HOSTNAME)

ドメイン・ネーム・サービス(DNS)サーバーに情報を提供させたいTCP/IPホストを指定してください。ホストの語句による名前か、その数字によるIPアドレスのいずれかを使用することができます。たとえば、ホストの名前がANYBIZ.USA.COMで、その数字アドレスが123.4.56.7であるとします。アドレスを得るには名前を使用し、名前を得るにはアドレスを使用します。

HOSTNAMEパラメーターに有効な値は、次の通りです。

***NONE**

ホスト名は提供されません。これがHOSTNAMEパラメーターの省略時値であり、ホスト名またはアドレスを指定しない場合に使用されます。対話式NSLOOKUPセッションが開始されます。

ホスト名

DNSサーバーQUERYに使用するホストの名前を指定してください。

ホストIPアドレス

DNSサーバーQUERYに使用するホストのIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNAMSVR)

NSLOOKUPがQUERYセッションの省略時のサーバーとして使用するDNSサーバーの名前またはIPアドレスを指定してください。

注: NSLOOKUPはDNSサーバーから情報を検索します。QUERYを送る活動DNSサーバーが必要です。ツールを開始する時にDNSサーバーをDMNNAMSVRで指定しない場合には、次の1つをセッションの省略時のDNSサーバーとして設定しようとしています。1.システムを構成して使用するDNSサーバー。あるいは2.ローカル・システムで実行しているDNSサーバー。

これらの条件のいずれも存在しない場合には、NSLOOKUPはDNSサーバーをQUERY に指定しない限り情報を検索することができません。DMNNAMSVRによって、QUERYセッションを開始して選択したDNSサーバーをセッションの省略時のサーバーとして設定することができます。

NSLOOKUP QUERYセッションの省略時のDNSサーバーを指定するためには、STRDNSQRYコマンドのDMNNAMEパラメーターを使用してください。TCP/IPネットワークがアクセスするDNSサーバーを指定することができます。あるいは、システムで使用すると指定する前にDNSサーバーの応答をテストしたい場合には、そのサーバーを指定します。

DMNNAMEパラメーターに有効な値は、次の通りです。

***CFG** 現在このシステムで使用するために指定されているDNSサーバーを使用します。

ドメイン・ネーム・サーバー名

DNSサーバーの名前を指定してください。

ドメイン・ネーム・サーバーIPアドレス

DNSサーバーのIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

データベース・ファイルのオープン (OPNDBF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース・ファイル・オープン(OPNDBF)コマンドはデータベース・ファイル・メンバーをオープンします。レコードの処理は、共用オープン操作を行なう適用業務プログラムによって後から実行されます。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは次のようになります。
 - 分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、*SNAタイプのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。
 - *SNAタイプの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。
 - 様式選択プログラムを必要とする論理ファイルに対してスレッド・セーフではありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTION	オープン・オプション	*INP, *OUT, *ALL	必須, 定位置 2
MBR	オープンするメンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション, 定位置 3
OPNID	オープン・ファイル識別コード	名前, *FILE	オプション, 定位置 4
ACCPH	使用するアクセス・パス	*FILE, *ARRIVAL	オプション
SEQONLY	順次のみへの制限	要素リスト	オプション
	要素 1: 順次のみ	*NO, *YES	
	要素 2: レコード数	整数	
COMMIT	コミットメント制御活動中	*NO, *YES	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDFN, *ACTGRP, *JOB	オプション
DUPKEYCHK	重複キー検査	*NO, *YES	オプション
TYPE	オープンのタイプ	*NORMAL, *PERM	オプション

トップ

ファイル (FILE)

オープンされるメンバーが入っているファイルを指定します。現在有効となっている一時変更が処理されません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オープン・オプション (OPTION)

ファイルのオープンに使用するオプションを指定します。ファイルの最初の全オープン操作で選択したオプションは、後続の共用オプションで変更されません。

これは必須パラメーターです。

***INP** ファイルは入力操作の場合にだけオープンされます。

***OUT** ファイルは出力操作の場合にだけオープンされます。

***ALL** ファイルはすべての操作（入力、出力、更新、および削除）でオープンされます。

[トップ](#)

オープンするメンバー (MBR)

データベース・ファイルでオープンするメンバーを指定します。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

***LAST** ファイル中で作成された最後のメンバーがオープンされます。

メンバー名

オープンするメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

メンバーがクローズまたは位置指定される時にオープン操作が参照できるように、このオープン操作の命名に使用される識別コードを指定します。この識別コードは、ファイル・クローズ(CLOF)コマンドおよびデータベース・ファイル位置指定(POSDBF) コマンドに指定しなければなりません。この識別コードは、ファイルがクローズされるまでは、別のデータベース・ファイル・オープン(OPNDBF)コマンドには使用されません。これを使用すると、エスケープ・メッセージが送られ、オープン操作は正常に実行されません。

***FILE** オープン操作 IDとしてファイル名が使用されます。

名前 このオープン操作を識別するために使用する名前を指定してください。

[トップ](#)

使用するアクセス・パス (ACCPATH)

このオープン操作に使用するアクセス・パスを指定します。

***FILE** ファイルのアクセス・パスが使用されます。キー順ファイルの場合には、キー順アクセス・パスが使用されます。そうでない場合には、到着順パスが使用されます。

***ARRIVAL**

到着順アクセス・パスが使用されます。キー順ファイルの場合には、キー順アクセス・パスは無視されます。

[トップ](#)

順次のみへの制限 (SEQONLY)

通常はレコードが順次処理されるデータベース・ファイルについて、そのファイルで順次専用処理を使用するかどうかを指定します。また、このパラメーターは、順次専用処理を使用する場合に、データベース・ファイル相互間で1グループとして転送されるレコードの数も指定します。順次専用処理を指定した一時変更が有効となっている場合には、このパラメーターに指定したものよりこの一時変更の方が優先します。

注: オープン・オプション(OPTION)パラメーターに*ALLが指定された場合、あるいはコミットメント制御活動中(COMMIT)パラメーターに*YESが指定された場合には、このパラメーターに*NO値が使用されません。

要素1: 順次のみ

***NO** このデータベース・ファイルは順次専用処理を使用しません。

***YES** このデータベース・ファイルは順次専用処理を使用します。

要素2: レコード数

整数 ファイルは順次専用処理を使用します。このパラメーター値は、メンバーのデータを実際にアクセスする前に、データベースがブロック化して内部バッファーに入れるレコード数を示します。この値の指定は必須ではありません。この値が指定されない場合には、データベースは省略時の値を選択します。

[トップ](#)

コミットメント制御活動中 (COMMIT)

このファイルをコミットメント制御の下に入れるかどうかを指定します。

コミットメント制御のもとでデータベース・ファイルをオープンする前に、ユーザーはコミットメント・トランザクションのすべてのファイルがジャーナル処理されることを確認しなければなりません。変更後イメージだけがジャーナル処理されている場合には、システムは、変更がコミットメント定義のもとでオープンされたファイルの期間中に変更前および変更後の両方のイメージのジャーナル処理を暗黙に開始します。

***NO** このファイルはコミットメント制御のもとには置かれません。

***YES** このファイルはコミットメント制御のもとに置かれます。

[トップ](#)

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

***ACTGRPDFN**

オープン操作の有効範囲は、OPNDBFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。

***ACTGRP**

オープン・データ・パス(ODP)の有効範囲は、その活動化グループとなります。同じ活動化グループからの共用オープンだけがこのODPを共用することができます。このODPは、活動化グループが非活動化されるか、あるいはファイル・クローズ(CLOF)コマンドが活動化グループをクローズするまでは再利用されません。

***JOB** オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

重複キー検査 (DUPKEYCHK)

このコマンドによってオープンされた入出力操作で、重複キー検査を行なうかどうかを指定します。

***NO** 入出力コマンドで重複キーのフィードバックは提供されません。

***YES** 入出力コマンドで重複キーのフィードバックが提供されます。

[トップ](#)

オープンのタイプ (TYPE)

資源再利用機能(RCLRSC)が有効となる再帰レベルを指定します。

注: このパラメーターは、有効範囲のオープン(OPNSCOPE)パラメーターが指定された時には無効です。

***NORMAL**

プログラムがクローズ操作を行わずに終了した場合に、資源再利用機能がファイルをクローズできるようにします。

*PERM

ファイル・クローズ(CLOF)コマンドを使用してクローズ操作が行なわれるか、あるいは経路指定ステップが終了するまで、ファイルはオープンされたままになっています。資源再利用(RCLRSC)コマンドが使用されても、オープン・データ・パス(ODP)は存在したままです。

[トップ](#)

OPNDBFの例

OPNDBF FILE(MASTER/PAYROLL) OPTIONS(*INP)

このコマンドは、ファイルPAYROLLの最初のメンバーを入力処理用にオープンします。このオープン操作に関連したオープン識別コードは、ファイル名を識別コードとしてもちます。ファイルがSHARE(*YES)として指定されている場合には、ファイルPAYROLLの後続のオープン操作（アプリケーション・プログラム中など）はさらに効率よく実行し、同じODPを使用します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OPNDBF

*ESCAPEメッセージ

CPF4125

&2のファイル&1メンバー&3のオープンは正常に行なわれなかった。

CPF4174

ファイル&1のOPNID(&4)はすでに存在している。

CPF4175

出力専用とMBR(*ALL)を一緒に使用することはできない。

CPF4176

&2のファイル&1がデータベース・ファイルでない。

CPF432A

コミットメント制御下でオープンできない。理由コードは&8です。

CPF4327

コミットメント制御の資源の限界を超えている。

CPF4328

メンバー&4はジャーナル&6にジャーナル処理されなかった。

CPF4329

ジャーナル&6をコミットメント定義&9に関連づけることができない。

CPF8361

資源をコミットメント制御下に入れることができない。理由コードは&1です。

CPF8367

コミットメント制御操作を実行できない。

[トップ](#)

QUERYファイル・オープン (OPNQRYF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERYファイル・オープン(OPNQRYF)コマンドは、データベースQUERY要求を満足させるデータベース・レコードのセットに対して、ファイルをオープンします。一度オープンされると、このファイルはデータベース・ファイル・オープン(OPNDBF)コマンドを使用してオープンされたデータベース・ファイルのように見え、そのファイル中のレコードは、オープン・データ・パス(ODP)を共有している高水準言語プログラムによってアクセスされます。ファイル・クローズ(CLOF)コマンドを使用することによって、このパスはクローズされ、すべてのQUERY資源が割り振り解除されます。

このコマンドは、次のデータベース機能の任意の組み合わせを実行するために使用されます。

- 複数のファイル、メンバー、およびレコード様式から、レコードを結合させます。性質は等しいものでも、違っているものでも結合させることができます。
- フィールドの値や定数を用いた、数値演算および文字演算によって新しいフィールドの値を計算します。
- 1つまたは複数のフィールドの等しい値によってレコードをグループにまとめ、各グループごとにフィールドの最小値および平均値の計算などの累計機能を実行します。
- 使用可能なレコードのサブセットを選択しますが、選択はグループ化の前に行われることもあるいは後に行われることもあります。
- 1つまたは複数のキー・フィールドの値に従って、結果のレコードを配列します。

制約事項:

1. ユーザーは、FILEパラメーターに指定されているファイル、ライブラリー、およびメンバー名を変更するために一時変更を使用することができます。FORMAT(*FILE)パラメーターが指定されていない場合には、FORMATパラメーターに指定されているファイルおよびライブラリーに対する一時変更は無視されます。一時変更コマンドに指定されたパラメーター値 (TOFILE, MBR, LVLCHK, WAITRCD, SEQONLY,またはINHWRTおよびSHARE以外のもの) はOPNQRYFコマンドによって無視されます。
2. OPNQRYFコマンドは、ジョブまたは活動化グループ中の既存のオープン・データ・パス(ODP)を共有しません。ジョブまたは活動化グループ中の既存のSHARE(*YES) ODPに、QUERYファイル・オープンというオープン・データ・パス(ODP)と同じファイル、ライブラリー、およびメンバー名がある場合には、QUERYファイルはオープンされず、エスケープ・メッセージが送られます。
3. 後続の各共有オープン操作では、OPNQRYFコマンドの実行時に有効となる同じオープン・オプション (SEQONLYなど) を使用しなければなりません。
4. 一部のシステム機能 (物理ファイル・メンバー表示(DSPPFM)およびファイル・コピー(CPYF)コマンドなど) は既存のオープン・データ・パスを共有しません。これらの機能と一緒にOPNQRYFコマンドを使用することはできません。
5. BASICは既存のオープン・データ・パスを共有しないので、OPNQRYFコマンドを使用してオープンされたファイルを、BASICで書かれたプログラムの中で使用することはできません。
6. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する

分散ファイルに対しては正常に実行されません。また、このコマンドは*SNAタイプの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してもスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。

7. このコマンドのユーザーは次の権限をもっていなければなりません。

- FILEおよびFORMATパラメーターで指定されたファイルを見つけるために必要な任意のライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限
- FILEパラメーターで指定された任意の物理または論理ファイルに対するオブジェクト操作権(*OBJOPR),および物理ファイル, または論理ファイル・メンバーの基礎になっている物理ファイル・メンバーに対する次の1つまたは複数のデータ権限。
 - 読み取り(*READ)権限-ファイルが入力用にオープンされている場合 (オプション*INPを使用)
 - 追加(*ADD)権限-ファイルが出力用にオープンされている場合 (オプション*OUTを使用)
 - 更新(*UPD)権限-ファイルが更新用にオープンされている場合 (オプション*UPDを使用)
 - 削除(*DLT)権限-ファイルが削除用にオープンされている場合 (オプション*DLTを使用)
 - *READ, *ADD, *UPD,および*DLT権限-ファイルがすべての入出力操作用にオープンされている場合 (オプション*ALLを使用)
- FORMATパラメーターで指定されている任意のファイルに対する*OBJOPR権限
- MAPFLDパラメーターで指定されている任意の変換テーブルに対する使用(*USE)権限 (オプション*USEを使用)

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル仕様	値 (最大 32 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *LAST, *ALL	
	要素 3: レコード様式	名前, *ONLY	
OPTION	オープン・オプション	単一値: *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *INP, *OUT, *UPD, *DLT	オプション, 定位置 2
FORMAT	様式仕様	単一値: *FILE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: レコード様式	名前, *ONLY	
QRYSLT	QUERY選択式	文字値, *ALL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
KEYFLD	キー・フィールド仕様	単一値: *NONE , *FILE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: キー・フィールド	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: キー・フィールド	名前	
	修飾子 2: ファイルまたは要素	名前, *MAPFLD, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32	
	要素 2: キー・フィールド順序	*ASCEND , *DESCEND	
	要素 3: 絶対値による順序	*ABSVAL	
UNIQUEKEY	固有キー・フィールド	1-120, *NONE , *ALL	オプション
JFLD	結合フィールド仕様	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 取り出しフィールド	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 取り出しフィールド	名前	
	修飾子 2: ファイルまたは要素	名前, *MAPFLD, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32	
	要素 2: 受け取りフィールド	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 受け取りフィールド	名前	
	修飾子 2: ファイルまたは要素	名前, *MAPFLD, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32	
	要素 3: 結合演算子	*EQ , *NE, *LT, *GT, *LE, *GE	
JDFTVAL	省略時の値による結合	*NO , *YES, *ONLYDFT	オプション
JORDER	ファイル結合順序	*ANY , *FILE	オプション
GRPFLD	フィールド名のグループ化	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: フィールド名のグループ化	名前	
	修飾子 2: ファイルまたは要素	名前, *MAPFLD, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32	
GRPSLT	グループ選択式	文字値, *ALL	オプション
MAPFLD	マップされたフィールド仕様	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: マップされたフィールド	名前	
	要素 2: フィールド定義式	文字値	
	要素 3: マップされたフィールドのタイプ	*CALC , *BIN2, *BIN4, *FLT4, *FLT8, *DEC, *ZONED, *CHAR, *VCHAR, *HEX, *VHEX, *DATE, *TIME, *TIMESTP, *ONLY, *VONLY, *OPEN, *VOPEN, *EITHER, *VEITHER, *GRAPHIC, *VGRAPHIC	
	要素 4: 長さ	0-32766	
	要素 5: 小数点以下の桁数	0-63	
	要素 6: マップ式フィールド CCSID	1-65535, *CALC , *HEX	
IGNDECERR	10進データ・エラーの無視	*NO , *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OPNID	オープン・ファイル識別コード	名前, *FILE	オプション
SEQONLY	順次のみへの制限	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 順次のみ	*YES	
	要素 2: レコード数	1-32767	
COMMIT	コミットメント制御活動中	*NO , *YES	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDFN , *ACTGRP, *JOB	オプション
DUPKEYCHK	重複キー検査	*NO , *YES	オプション
ALWCPYDTA	データのコピー可能	*YES , *OPTIMIZE, *NO	オプション
OPTIMIZE	パフォーマンスの最適化	単一値: *ALLIO , *MINWAIT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: パフォーマンスの最適化	*FIRSTIO	
	要素 2: レコード数	1-2147483647	
OPTALLAP	すべてのアクセス・パスの最適化	*NO , *YES	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *HEX, *JOB , *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	名前, *JOB	オプション
CCSID	最終出力CCSID	1-65535, *JOB , *HEX	オプション
TYPE	オープンのタイプ	*NORMAL , *PERM	オプション

トップ

ファイル仕様 (FILE)

QUERYファイル・オープンによって処理される1つまたは複数のファイル、メンバー、およびレコード様式を指定します。指定するファイルはすべて、物理または論理データベース・ファイル、あるいは分散データ管理機能(DDM)ファイルでなければなりません。また分散データ管理機能ファイルを使用する場合には、これらが参照するファイルがすべて同じターゲット・システム上になければなりません。

複数のファイル、メンバー、およびレコード様式が指定されると、QUERYはフィールド値を結合して、レコードのセットを1つ作成します。指定するリスト中のファイルは、結合論理ファイルまたはビュー論理ファイル・メンバーのいずれでも構いません。ビュー論理ファイルの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「SQL解説書」情報を参照してください。

このパラメーターには32個の値を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 処理するファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** データベース・ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

作成された中で最も古いメンバーが使用されます。

***LAST** 作成された中で最も新しいメンバーが使用されます。

***ALL** 区分ファイルのすべてのメンバーが使用されます。

名前 使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

要素3: レコード様式

***ONLY**

ファイルの唯一のレコード様式が使用されます。ファイルに複数のレコード様式がある場合には、レコード様式名を指定しなければなりません。

名前 使用するレコード様式の名前を指定してください。このレコード様式は、このパラメーターの最初の要素で指定されたデータベース・ファイルに存在しなければなりません。

トップ

オープン・オプション (OPTION)

QUERYファイルに対して使用されるオープン・オプションを指定してください。ファイルの最初の全オープン時に選択されたオプションは、後続の共用オープンでは変更されません。***ALL**または、***INP**、***OUT**、***UPD**、および***DLT**の4つまでを任意の順序でリストに組み合わせた値のいずれかを指定することができます。

単一値

ALL** すべての操作(INP**、***OUT**、***UPD**、***DLT**)に備えてファイルがオープンされます。

その他の値 (最大4個指定可能)

INP** 入力に備えてファイルがオープンされます。結合処理またはグループ処理が要求された場合、UNIQUEKEY処理が指定された場合、**様式仕様 (FORMAT)**パラメーターで指定された、QUERYファイル・オープンのレコード様式のフィールド全部が入力専用で使用される場合、あるいはQUERYを実行するのに一時ファイルが必要な場合に認められる値は、INP**だけです。

- *OUT** 出力用のファイルをオープンしてください。一部の高水準言語では、一定のファイル（高水準言語プログラムで「直接アクセス」として定義されたファイルなど）に対する出力は、入力および更新操作の組み合わせを使用することによって行なわれます。このようなプログラムでQUERYファイル・オープンを使用するためには、*UPDおよび*INPを指定するか、あるいは*ALLを指定します。
- *UPD** 更新操作のファイルをオープンしてください。更新操作の前に入力操作を行なう場合には、*UPDを指定する時に*INPを指定しなければなりません。
- *DLT** 削除操作のファイルをオープンしてください。削除操作の前に入力操作を行なう場合には、*DLTを指定する時に*INPを指定しなければなりません。

トップ

様式仕様 (FORMAT)

QUERYファイル・オープンによって使用可能なレコードに使用される、レコード様式を指定してください。QUERYファイル・オープンのレコード様式の単純フィールド名は、**マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)**パラメーターで定義されたフィールドを表すか、あるいは**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式すべてを通じて、固有のフィールド名でなければなりません。MAPFLDパラメーターで指定されたフィールドと同じ名前のフィールドの値は、MAPFLDパラメーターのマップされたフィールド定義によって決まります。MAPFLDパラメーターで定義されていないフィールドの値は、FILEパラメーターで指定された、基礎になっているファイル、メンバー、およびレコード様式の中の、同じ名前を持ったフィールドのマッピングによって決まります。**様式仕様 (FORMAT)**パラメーターで識別されるレコード様式で指定された、各フィールドの名前、タイプ、長さ、小数点以下の桁数、キーボード・シフト、および使用状況の属性のみが、QUERYファイル・オープンに使用されます。その他の属性はすべて無視されます。属性は同じである必要はありません。異なる場合には、変数変更(CHGVAR)コマンドに類似した方法で、フィールドがマップされます。

単一値

***FILE** **ファイル仕様 (FILE)**パラメーターの最初の、または唯一の項目のレコード様式が使用されます。FILEパラメーターに複数のファイル、メンバー、およびレコード様式が指定されている場合には、*FILEを指定することはできません（結合QUERYが必要となります）。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 使用するレコード様式が入っている物理または論理データベース・ファイル、または分散データ管理機能(DDM)ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** データベース・ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: レコード様式

*ONLY

ファイルのレコード様式のみが使用されます。レコード様式名を指定しないと、*ONLYが省略時の値となります。ファイルに複数のレコード様式がある場合には、レコード様式名を指定しなければなりません。

名前 使用するレコード様式の名前を指定してください。このレコード様式は、このパラメーターの最初の要素で指定されたデータベース・ファイルに存在しなければなりません。

トップ

QUERY選択式 (QRYSLT)

QUERYファイル・オープンで使用可能なレコードを決めるために使用する（グループ化する前）選択値を指定します。

***ALL** **ファイル仕様 (FILE)**パラメーターで指定された、物理または論理ファイル、メンバー、およびレコード様式の中のすべてのレコードが（結合処理が必要な場合はその後で）選択されます。

'QUERY-選択項目'

選択されるレコードを決定するために使用される値を記述する式（アポストロフィで囲む）を指定してください。フィールドと定数値、あるいはフィールドの関数と定数値の関係（*EQ, *NEなど）からなる論理式を指定することができます。各関係では少なくとも1つのフィールド名が指定されます。しかし、集計機能に依存（フィールド定義で直接に、あるいはマップ・フィールドを参照することによって間接的に依存）するフィールドを指定することはできません。

各フィールド名はファイル名、あるいはFILEパラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式のリストの中の、そのフィールドを含んでいる要素を示す番号によって、修飾することができます。フィールドが**マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)**パラメーターで定義されている場合には、*MAPFLDの値を指定してフィールド名の修飾に使用できます。

データ・タイプの互換性の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。

トップ

キー・フィールド仕様 (KEYFLD)

QUERYレコードを配置するために使用する1つまたは複数のキー・フィールドの名前を指定するか、あるいは**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターに指定された最初の、または唯一のファイル、メンバー、およびレコード様式のアクセス・パス順を、QUERYレコードの配置用に使用することを指定します。キー・フィールド名を指定する場合には、各キー・フィールドに対応するキーの部分昇順とするか降順とするかを指示し、また、レコードを数字キー・フィールドの絶対値にしたがって配置するかどうかを指示します。指定したキー・フィールドが2バイト(DBCS)フィールドの場合には、データは1バイトの順序で配置されます。

単一値

***NONE**

QUERYレコードを配置する場合に、キー・フィールドは使用されません。したがって、どんな配置でも受け入れられます。QUERYファイル・メンバーの現在のレコード数などの要素に基づいて同じQUERYを2回実行する場合には、システムがQUERYレコードを異なった配置に指定することさえ可能となります。*NONEを指定することによって、システムがより高い融通性をもって、QUERYファイル・オープンによるレコードの処理パフォーマンスを向上させることができます。

***FILE** QUERYレコードは、**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターで指定された最初のファイル、メンバー、およびレコード様式と同じ配置になります。リスト上の最初のファイルに到着順アクセス・パスできない場合でも、*FILEが指定できます。この場合のQUERYレコードの配置は、FILEパラメーターで指定された最初のファイル、メンバー、およびレコード様式の到着順序と一致します。

KEYFLD(*FILE)を指定し、SRTSEQパラメーターに*HEX以外の分類順序を指定してあった場合には、真のファイル順序を反映しない順序でレコードを受け取ることがあります。ファイルがキー付きの場合には、ファイルのキー・フィールドに分類順序が適用されます。ファイル内に分類順序テーブルまたは代替照合順序テーブルがあった場合には、順序付けは無視されます。これによってユーザーは、すべてのフィールド名のリストがなくとも、分類順序を適用するフィールドを指示することができます。QUERYについて分類順序が指定されていない場合には、V2R3M0より前のリリースでの順序と同じにQUERYが順序付けられます。

要素1: キー・フィールド

QUERYレコードを配置するためのキー順アクセス・パスの定義に使用される1つ以上のフィールド名（フィールド名は最大50まで指定可能）を指定してください。各フィールド名はファイル名、あるいは**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式のリストの中の、そのフィールドを含んでいる要素値を示す番号によって、修飾することができます。フィールドが**マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)**パラメーターで定義されている場合には、特殊値*MAPFLDを使用してフィールド名を修飾することもできます。

すべてのキー・フィールドの合計の長さは10000バイトを超えることはできません。さらに、キー・フィールドの合計の長さが2000バイトを超える場合には、OPTIONパラメーターに*INPを指定しなければならず、フィールドを絶対値で順序付けることはできません。

注: 上に記述した限界は、使用された各可変長キー・フィールドごとに2バイト減少します。たとえば、3つのキー・フィールドが可変長の場合には、10000バイト - (3つの可変長フィールド * フィールド当たり2バイト) = 9994バイトとなるので、すべてのキー・フィールドの長さの合計は9994バイトを超えることはできません。

修飾子1: キー・フィールド

名前 キー・フィールドとして使用するフィールドの名前を指定してください。

修飾子2: ファイルまたは要素

***MAPFLD**

このフィールドはMAPFLDパラメーターに指定します。

1-32 使用するFILEパラメーターの要素リスト値の位置を指定してください。要素リスト値は、データベース・ファイル、ファイル・メンバー、およびレコード様式を指定します。

名前 FILEパラメーターに指定したデータベース・ファイルの名前を指定してください。

要素2: キー・フィールド順序

***ASCEND**

指定されたキー・フィールドで定義されたキー部分が、昇順キーの値の順序になります。

***DESCEND**

指定されたキー・フィールドで定義されたキー部分が、降順キーの値の順序になります。

要素3: 絶対値による順序

***ABSVAL**

指定されたキー・フィールドで定義されたキー部分が、キー・フィールドの絶対値に従って配置されます。***ABSVAL**は***ASCEND**や***DESCEND**と合わせて指定できますが、キー・フィールドが数字でないと無視されます。***ABSVAL**を指定しないと、レコードは数字キー・フィールドの符号付きの値に従って配置されます。

[トップ](#)

固有キー・フィールド (UNIQUEKEY)

QUERYを固有のキー値をもつレコードに制限するかどうかを指定し、また固有としなければならないキー・フィールドの数を指定します。このパラメーターに***ALL**または数値を指定した場合には、ヌル値は等しいと見なされます。

***NONE**

キー・フィールド仕様 (**KEYFLD**)パラメーターに指定するキー・フィールドは、固有とする必要はありません。キー値に関係なく、すべてのQUERYレコードをQUERYファイル・オープンで使用することができます。

***ALL** **KEYFLD**パラメーターで指定されたキー・フィールドは、すべて固有でなければなりません。すべてのキー・フィールドの値が同じQUERYレコードが複数存在する場合には、QUERYファイル・オープンでは最初のレコードだけが使用可能となります。

1-120 固有とするキー・フィールドの数を1-120の範囲で指定してください。この値は、**KEYFLD**パラメーターで決定されたキー・フィールドの数より大きくてはいけません。指定した数の連続キー・フィールドの中に同じ値の複数のQUERYレコードがある場合には、それらの最初のレコードだけがQUERYファイル・オープンで使用できます。

[トップ](#)

結合フィールド仕様 (JFLD)

QUERYが複数のファイル・メンバーからのレコードを結合するかどうかを指定し、QUERYレコードの組み立てで**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターに指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式からのフィールド値を結合する方法を指定します。

FILEパラメーターに指定された最初のファイル、メンバー、およびレコード様式は結合プライマリーと呼ばれ、**FILE**パラメーターに指定されたその他のすべての要素は結合セカンダリーと呼ばれます。このパラ

メーターは、対になったフィールド名のリストを指定します。リストでは、各対の最初のフィールドには、各対の2番目のフィールド名と同じ値をもつ結合セカンダリーでレコードを選択するために使用する値が入っています。

結合元および結合先フィールドは、マップされたフィールド(**マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)**)パラメーターに指定)にできますが、フィールド定義で直接あるいはマップされたフィールドを参照することによって間接的に集計機能に依存するフィールドを使用できません。

結合元および結合先フィールドが同じフィールド属性をもっている必要はありません。データ・タイプの互換性の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。

FILEパラメーターに複数のファイルが指定され、**省略時の値による結合 (JDFTVAL)**パラメーターに*NOが指定され、**ファイル結合順序 (JORDER)**パラメーターに*ANYが指定された場合には、システムは**結合フィールド仕様 (JFLD)**パラメーターおよび**QUERY選択式 (QRYSLT)**パラメーターから情報を取り、最終的な結合仕様を派生させます。FILEパラメーターに、QRYSLTパラメーターまたはJFLDパラメーターで参照されないファイルを指定した場合には、そのファイルのすべてのレコードはFILEパラメーターで指定された他方のファイルから作成された他のすべてのレコードと論理的に結合されます。

JDFTVALパラメーターで*YESまたは*ONLYDFTを指定するか、あるいはJORDERパラメーターで*FILEを指定した場合には、結合フィールドはJFLDパラメーターで指定しなければなりません。

最大50の結合フィールドの対を指定できます。

単一値

*NONE

結合操作は指定しません。FILEパラメーターに複数のファイルを指定し、JDFTVALパラメーターに*NOを指定し、さらにJORDERパラメーターに*ANYを指定した場合には、システムが自動的にQRYSLTパラメーターから結合フィールドを検索します。

要素1: 取り出しフィールド

結合セカンダリー・ファイル、メンバー、およびレコード様式のレコードを選択するために使用する値を提供するフィールド名を指定してください。フィールド名はファイル名、あるいはFILEパラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式のリストの中の、そのフィールドを含んでいる要素を示す番号によって修飾することができます。このフィールドがMAPFLDパラメーターで定義されたものである場合には、フィールド名を修飾するために特殊値*MAPFLDを使用することもできます。

結合元フィールドは、MAPFLDパラメーターで定義する単純フィールドまたはマップされたフィールドです。JDFTVALパラメーターに*YESまたは*ONLYDFTを指定した場合には、結合元フィールドは、その対の結合先フィールドに対応した結合セカンダリーより前の、FILEパラメーターに指定された結合プライマリまたは結合セカンダリーに入っているフィールドによって決まります。

修飾子1: 取り出しフィールド

名前 結合元フィールドの名前を指定してください。

修飾子2: ファイルまたは要素

*MAPFLD

このフィールドはMAPFLDパラメーターに指定します。

1-32 使用するFILEパラメーターの要素リスト値の位置を指定してください。要素リスト値は、データベース・ファイル、ファイル・メンバー、およびレコード様式を指定します。

名前 FILEパラメーターに指定したデータベース・ファイルの名前を指定してください。

要素2: 受け取りフィールド

QUERYレコードの組み立てで結合セカンダリー・ファイル、メンバー、およびレコード様式からレコードを選択するために使用されるフィールド名を指定してください。フィールド名はファイル名、あるいはFILEパラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式のリストの中の、そのフィールドを含んでいる要素を示す番号によって修飾されます。このフィールドがMAPFLDパラメーターで定義されたものである場合には、フィールド名を修飾するために特殊値*MAPFLDを使用することもできます。

結合先フィールドは、MAPFLDパラメーターで定義する単純フィールドまたはマップされたフィールドです。JDFTVALパラメーターに*YESまたは*ONLYDFTが指定されている場合には、結合先フィールドは単一結合セカンダリーに入っているフィールドによって決まります。この結合セカンダリーが結合論理ファイルである場合には、その結合論理ファイルのプライマリー物理ファイル・メンバーに入っているフィールドだけが結合先フィールドの構成要素として使用されます。各結合セカンダリーのすべての結合先フィールドの合計の長さ（結合元および結合先の属性が同じでない場合には変更後）は、JDFTVAL(*NO)が指定されていない限り2000バイトを超えることはできません。JDFTVAL(*NO)が指定されている場合には2000バイトの制限はありません。

修飾子1: 受け取りフィールド

名前 結合先フィールドの名前を指定してください。

修飾子2: ファイルまたは要素

*MAPFLD

このフィールドはMAPFLDパラメーターに指定します。

1-32 使用するFILEパラメーターの要素リスト値の位置を指定してください。要素リスト値は、データベース・ファイル、ファイル・メンバー、およびレコード様式を指定します。

名前 FILEパラメーターに指定したデータベース・ファイルの名前を指定してください。

要素3: 結合演算子

指定した結合元フィールドおよび結合先フィールドで実行する結合操作のタイプを指定します。JDFTVALパラメーターで*NOを指定し、JORDERパラメーターで*ANYを指定した場合、あるいは複数の結合フィールドの対を指定した場合には、各対に異なる結合演算子を指定することができます。JDFTVALパラメーターで*YESまたは*ONLYDFTを指定するか、あるいはJORDERパラメーターで*FILEを指定した場合には、結合の対に関係なく、1つの結合演算子しか指定できません。

- *EQ 「等しい」結合操作が実行されます。
- *GT 「より大」結合操作が実行されます。
- *LT 「より小」結合操作が実行されます。
- *NE 「等しくない」結合操作が実行されます。
- *GE 「大きいか等しい」結合操作が実行されます。
- *LE 「小さいか等しい」結合操作が実行されます。

トップ

省略時の値による結合 (JDFTVAL)

結合フィールド仕様 (JFLD)パラメーターで指定された結合接続を満たす正しいフィールド値をもつレコードが入っていない結合セカンダリー・ファイルからのフィールドに省略時の値を使用する結合レコードを、QUERYファイルに含めるかどうかを指定します。

結合処理では、結合プライマリーおよび結合セカンダリーからのフィールド値の収集が試みられます。これは、結合先フィールドで適切な値を生成する結合セカンダリー中のレコードに結合元フィールドの値を対応させることによって行なわれます。結合セカンダリーと対応する結合フィールドの対に必要な結合先フィールドを生成するレコードが結合セカンダリー中にない場合には、このパラメーターは結合セカンダリーから獲得したすべてのフィールドに、省略時の値を使用してQUERYレコードを作成すべきかどうかを指定します。

ファイル仕様 (FILE)パラメーターに結合論理ファイルが含まれている場合には、そのすべての結合論理ファイルは、このパラメーター値と互換性がなければなりません。照会される結合論理ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS)に、JDFTVALキーワードが入っていない場合には、FILEパラメーターに指定された結合論理ファイルのいずれかで、このパラメーターが使用されないことがあるので、JDFTVAL(*NO)が必要です。FILEパラメーターに指定されたJDFTVALキーワードが結合論理ファイルにある場合には、このQUERYファイル・オープンの結合論理ファイルは、JDFTVALキーワードを使用して作成しなければならないので、*YESが必要です。FILEパラメーターのファイルがビュー論理ファイルである場合には、このパラメーターに*NOを指定しなければなりません。

JDFTVAL属性が、処理される結合論理ファイルの属性と互換性がない場合には、FILEパラメーターで指定された結合またはビュー論理ファイルを、これらの基礎になっている物理ファイル・メンバーと置き換えることができます。どんな方法にしても、物理ファイル・メンバーからのレコードを結合するためには、JFLDパラメーターで正しい追加結合元フィールドおよび結合先フィールドの対を指定することができます。

FILEパラメーターで複数のファイルを指定し、*YESまたは*ONLYDFTを指定した場合には、システムは、JFLDパラメーターで指定された結合フィールドを最終的な結合仕様として使用します。

- *NO 結合QUERYレコードの構成に省略時の値を使用しません。
- *YES 省略時の値を使用したものも、使用しなかったものも含めて、結合のためのレコードがすべて作成されます。FILEパラメーターには、ビュー論理ファイルは許されません。
- *ONLYDFT
結合の組み立てにおいて、省略時の値を使用して生成されたレコードのみが作成されます。このオ

プシオンは例外レコードだけを、QUERYファイル・オープンで使用可能なレコードに組み込むために使用されます。*ONLYDFTを指定した場合は、FILEパラメーターに、結合論理ファイルまたはビュー論理ファイルは指定できません。

トップ

ファイル結合順序 (JORDER)

結合QUERYの場合に、結合順序が、**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターで指定された順序と一致する必要があるかどうかを指定します。結合順序が変わった場合には、QUERYレコードは異なる配置で生成されません。**省略時の値による結合 (JDFTVAL)**パラメーターで指定された値が*YESまたは*ONLYDFTである場合には、このパラメーターは無視されます。結合順序を変更すると、結合の省略時の値の処理が必要な時に戻されるレコードが入れ替わることがあるので、FILEパラメーターで指定された順序は常に保存されます。

FILEパラメーターで複数のファイルを指定して、*FILEを指定した場合には、システムは、**結合フィールド仕様 (JFLD)**パラメーターで指定された結合フィールドを最終的な結合仕様として使用します。

***ANY** どのようなファイル結合順序でも使用できます。そしてこの配置がシステムによって、QUERYレコードの作成に使用されます。同じQUERYを2度続けて実行（対象となるファイルの現在のレコードの数などの要素に基づいて実行）した場合には、そのたびに異なった配置に結果のレコードを戻すことも、QUERYでは可能です。*ANYを指定すると、**ファイル結合順序 (JORDER)**パラメーターに他のいかなる値を指定するよりも、QUERYファイル・オープンを用いたレコード処理のパフォーマンスを、システムが柔軟に向上させることができるようになります。

***FILE** FILEパラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式の要素の順序は結合操作において保存されます。

トップ

フィールド名のグループ化 (GRPFLD)

QUERYの結果をグループ化するために使用されるフィールド名を指定します。**QUERY選択式 (QRYSLT)**パラメーターによって選択されたレコードの各グループに1つのQUERYレコードが（必要により結合処理の後）作成されます。グループは、**様式仕様 (FORMAT)**パラメーターで識別されたレコード様式に指定されたフィールドに同じ値のセットをもつレコードの集まりによって定義されます。グループ内のすべてのヌル値は等しいと見なされます。フィールド名が指定されていないで、グループ処理が必要な場合には、ファイル全体が1つのグループと見なされます。作成された各QUERYレコードは、**グループ選択式 (GRPSLT)**パラメーターに指定された選択値に応じて、QUERYファイル・オープンを介して使用可能になるか、あるいは廃棄されます。順序を確実にするためには、**キー・フィールド仕様 (KEYFLD)**パラメーターを指定しなければなりません。

単一値

***NONE**

グループを編成するためには、フィールドは使用されません。グループ機能が必要となる（GRPSLTパラメーターで選択値が指定されているか、あるいは**マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)**パラメーターで指定されたフィールドで集約機能を使用しているために必要となる）場合には、QRYSLTパラメーターで指定された値によって選択されたすべてのレコードが、1つのグループとして扱われます。

その他の値

QUERYの結果のグループ化に使用する1つまたは複数（最大50）のフィールド名を指定してください。各フィールド名はファイル名、あるいはFILEパラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式のリストの中の、そのフィールドを含んでいる要素を示す番号によって、修飾することができます。このフィールドがMAPFLDパラメーターに指定されたものである場合には、フィールド名を修飾するために特殊値*MAPFLDを使用することもできます。

MAPFLDパラメーターで定義されたグループ化用のフィールドは、その定義で集計機能を参照できません（直接参照することも、あるいはMAPFLDパラメーターで指定された別のフィールドを使用して間接的に参照することもできません）。また、グループ化用のすべてのフィールドの合計長は、2000バイトを超えることができません。

修飾子1: フィールド名のグループ化

名前 QUERY結果のグループ化に使用するフィールドの名前を指定してください。

修飾子2: ファイルまたは要素

*MAPFLD

このフィールドはMAPFLDパラメーターに指定します。

1-32 使用するFILEパラメーターの要素リスト値の位置を指定してください。要素リスト値は、データベース・ファイル、ファイル・メンバー、およびレコード様式を指定します。

名前 FILEパラメーターに指定したデータベース・ファイルの名前を指定してください。

トップ

グループ選択式 (GRPSLT)

どのレコードがQUERYファイル・オープンで使用可能かを判別するためにグループ化の後で使用する選択値を指定します。

***ALL** フィールド名のグループ化 (**GRPFLD**)パラメーターに記述されているグループ機能によって定義されているすべてのレコードが選択されます。

'グループ選択項目'

選択するレコードの判別に使用する値を記述する式（アポストロフィで囲む）を指定してください。フィールドと定数値、あるいはフィールドの関数と定数値の関係(*EQ,*NE など) からなる論理式を指定することができます。グループ化フィールド、集計機能、およびリテラルを構成するグループ化フィールド(**GRPFLD**パラメーターで指定)、リテラル、集計機能(%AVG, %STDDEVなど)、およびマップされたフィールド(**マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)**パラメーターで指定)だけがいずれかの関係で参照されます。各関係では少なくとも1つのフィールドを指定しなければなりません。

各フィールド名はファイル名、あるいは**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式のリストの中の、そのフィールドを含んでいる要素を示す番号によって、修飾することができます。このフィールドがMAPFLDパラメーターに指定されたものである場合には、フィールド名を修飾するために特殊値*MAPFLDを使用することもできます。

データ・タイプの互換性の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。

トップ

マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)

他のフィールドからマップされるか、または得られるQUERYフィールドの定義を指定してください。他のパラメーターで指定されたフィールド名が、**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式の要素の中の1つにのみ存在する単純フィールド名の場合には、MAPFLDは普通は必要ありません。

最大50個のマップされたフィールド定義を指定することができます。

単一値

*NONE

マップされたフィールドは必要ありません。他のパラメーターで指定されたフィールド名はすべて、FILEパラメーターで指定されたレコード様式の中にあります。

要素1: マップされたフィールド

名前 このマップされたフィールドを参照しなければならない、他のパラメーターで使用される単純フィールド名を指定してください。パラメーターのリスト要素の最初の部分には、修飾名は許されません。また、マップされたフィールド名の値には、すべて固有のものを指定しなければなりません。

要素2: フィールド定義式

文字値 マップされたフィールドを定義する、最大256文字までの式（アポストロフィで囲まれたもの）を指定してください。この指定は、FILEパラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式の要素のどれか1つに存在する他のフィールドか、あるいはリストの初めの方に現れるマップされたフィールド定義によって定義されている他のフィールドを用いて、定義します。定義に使用されるフィールドのデータ・タイプによって、数値演算あるいはストリング操作が許されません。

各フィールド名はファイル名、あるいはFILEパラメーターで指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式のリストの中の、そのフィールドを含んでいる要素を示す番号によって、修飾することができます。フィールドが**マップされたフィールド仕様 (MAPFLD)**パラメーターで指定されている場合には、特殊値*MAPFLDを使用してフィールド名を修飾することもできます。

要素3: マップされたフィールドのタイプ

このマップされたフィールドに、フィールド・タイプを指定してください。あるいは該当する属性（フィールド・タイプを含める）をシステムに計算させるには、*CALC を指定してください。フィールド・タイプに値を指定しないと*CALCが省略時の値となります。

*CALCを使用した場合には、次の2つのいずれかの方法でフィールド属性が決められます。**様式仕様 (FORMAT)**パラメーターで識別されたレコード様式のフィールド定義に一致する属性になるか、あるいは(FORMATパラメーターのレコード様式に該当のフィールドがなければ)このフィールドのマップされたフィールド定義で指定された式に基づいて属性が計算されます。FORMATパラメーターで識別されるレコード様式でマップされたフィールドが使用される場合には、*CALCを使用するか、あるいはFORMATパラメーターで指定されたレコード様式のフィールドのものと同一属性（フィールド・タイプ、フィールド長、およびフィールドの小数部）を指定しなければなりません。

フィールド・タイプは、マップされたフィールド定義に指定された式の最終結果にとって有効なものでなければなりません。

次は、文字、DBCS混用、DBCS択一、DBCS専用、図形、バイナリー・ストリング、および数値タイプ間の、サポートされないマッピングです。

- 文字または数値からDBCS専用へ
- DBCS混用からDBCS択一またはDBCS専用へ
- DBCS択一から文字、数値、またはDBCS専用へ
- DBCS専用またはDBCS図形から文字または数値へ
- UCS-2またはUTF-16からDBCS択一またはDBCS専用へ
- バイナリー・ストリングからバイナリー・ストリング以外へ
- 数値からバイナリー・ストリングへ

注: バイナリー・ストリングとは、BLOBとBINCHARの両方のデータ・タイプを指します。

マッピングの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。

***CALC**

適切なフィールド・タイプ属性を計算します。

***BIN2** 2バイトの2進数フィールド。

***BIN4** 4バイトの2進数フィールド。

***FLT4** 4バイトの浮動小数点フィールド。

***FLT8** 8バイトの浮動小数点フィールド。

***DEC** パック10進数フィールド。

***ZONED**

ゾーン10進数フィールド。

***CHAR**

文字フィールド。

***VCHAR**

可変長文字フィールド。

***HEX** 16進数フィールド。

***VHEX**

可変長16進数フィールド。

***DATE**

日付フィールド。

***TIME** 時刻フィールド。

***TIMESTP**

タイム・スタンプ・フィールド。

***ONLY**

DBCS専用フィールド。

***VONLY**

可変長DBCS専用フィールド。

***OPEN**

DBCS混用フィールド。

***VOPEN**

可変長DBCS混用専用フィールド。

***EITHER**

DBCS択一フィールド。

***VEITHER**

可変長DBCS択一フィールド。

***GRAPHIC**

DBCS図形フィールド。

***VGRAPHIC**

可変長DBCS図形フィールド。

要素4: 長さ

0-32766

フィールド長は、数字フィールドの場合には桁数、文字またはDBCSフィールドの場合にはバイト数、図形フィールドの場合には文字数で指定してください。DBCS専用またはDBCS択一フィールド・タイプの場合には、フィールド長は偶数値でなければなりません。各フィールド・タイプの有効な長さの範囲は、テーブル1に示されています。要素3 (マップされたフィールドのタイプ)に *CALCを使用した場合には、値を指定してはいけません。

表 1. 図: テーブル1. QUERYフィールドの構造

フィールド・タイプ	外部フィールド長	省略時の長さ と 小数部
*BIN2	1-5	5 0
*BIN4	1-10	10 0
*FLT4	1-9	7 6
*FLT8	1-17	15 14
*DEC	1-63	15 5
*ZONED	1-63	15 5
*CHAR	1-32766	32
*VCHAR	0-32740	32
*HEX	1-32766	32
*VHEX	0-32740	32
*DATE	5-10	8
*TIME	4-8	7
*TIMESTP	14; 16-26	26
*ONLY	4-32766	32
*VONLY	0-32740	32
*OPEN	4-32766	32
*VOPEN	0-32740	32
*EITHER	4-32766	32
*VEITHER	0-32740	32
*GRAPHIC	1-16383	32
*VGRAPHIC	0-16370	32

要素5: 小数点以下の桁数

0-63

10進桁数として表現され、フィールド長に指定された合計桁数より大きくない数字フィールドの小数点以下の桁数を指定します。値が指定されない場合には、その値はゼロと見なされます。2進数または文字フィールドの場合、要素3 (マップされたフィールドのタイプ)に *CALCが指定された場合には、フィールドの10進数の値を指定しないでください。

要素6: マップ式フィールドCCSID

*CALC

コード化文字セットID (CCSID)値は、MAPFLDフィールド定義を構成するフィールドまたはリテラル値のCCSIDによって決定されます。

***HEX** フィールド・データの変換が行なわれないように事前定義値が使用されます。

1-65535

使用するCCSIDを指定してください。このコマンドのプロンプト時にIDの完全なリストを見るには、カーソルをこのパラメーターのフィールドに位置づけて、F4 (プロンプト) キーを押してください。

MAPFLD定義のリテラル値がジョブの省略時のCCSIDを伴います。しかし、MAPFLDがリテラル値だけからなり、ユーザーがフィールドのCCSID値を指定した場合には、リテラル値にそのCCSIDが伴います。これによって、リテラルにジョブの省略時のCCSID以外のタグを付けることができます。

注: 通常、*HEXおよび*VHEXフィールドには対応したCCSIDがありません。このため、フィールドのデータは、そのデータが使用されるシステムの省略時のCCSIDに関係なく同じものとして扱われます。しかし、*HEXおよび*VHEXフィールドにCCSIDを指定した場合には、CCSIDがフィールドの16進属性を一時変更し (この結果フィールドは*CHARまたは*VCHARとして扱われます)、フィールドが別の省略時のCCSIDをもつシステムに移動された場合には、フィールドのデータが異なって処理されることがあります。

[トップ](#)

10進データ・エラーの無視 (IGNDECERR)

システムがQUERY処理時に10進数データ・エラーを無視するかどうかを指定します。

***NO** システムは10進数データ・エラーを無視しません。

***YES** システムは10進数データ・エラーを無視します。10進数データにエラーが見つかった場合には、有効でない符号または数字は自動的に有効な値に変更されます。

[トップ](#)

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

QUERYファイル・オープンがクローズされた時に、ファイル・クローズ(CLOF)コマンドまたはデータベース・ファイル位置指定(POSDBF)コマンドで参照されるように、QUERYファイル・オープンの呼び名として使用される識別名を指定します。この識別名は、前にデータベース・ファイル・オープン(OPNDBF)コマンドまたはOPNQRYFコマンドを使用してオープンされて、まだクローズされていない他のいかなるファイルに対応した識別名とも、異なるものでなければなりません。

***FILE** **ファイル仕様 (FILE)**パラメーターで指定された最初、あるいは唯一のファイルの名前が、オープン識別名に使用されます。

名前 このQUERYファイル・オープンと対応させたい名前を指定してください。

[トップ](#)

順次のみへの制限 (SEQONLY)

ファイルに対して順次のみ処理を使用するかどうか、および、QUERYファイル・オープンに対して読み取りまたは書き込み操作を実行する時に1グループとして処理されるレコードの数を指定します。QUERYファイル・オープンODPは、このコマンドに指定された他のパラメーター値に応じて、このパラメーターで指定されたものとは異なるSEQONLY値を使用します。SEQONLY値が変更された場合には、メッセージが送信されます。

単一値

***NO** ファイルでは順次のみ処理が使用されません。

要素1: 順次のみ

***YES** QUERYファイル・オープンでは、順次のみ処理が使用されます。

要素2: レコード数

1-32767

オープンされたQUERYファイルに対して読み取りまたは書き込み操作を実行する時に、1つのグループとして処理するレコード数を指定してください。値を指定しないと、システムは1つのグループとして処理するレコード数を計算します。

[トップ](#)

コミットメント制御活動中 (COMMIT)

このファイルをコミットメント制御の下に入れるかどうかを指定します。

コミットメント制御のもとでデータベース・ファイルをオープンする前に、ユーザーはコミットメント・トランザクションのすべてのファイルがジャーナル処理されることを確認しなければなりません。事後イメージだけがジャーナル処理されている場合には、システムは、変更がこのコミットメント定義のもとでオープンされたファイルの期間中に事前および事後の両方のイメージのジャーナル処理を暗黙に開始します。

***NO** QUERYファイル・オープンがコミットメント制御のもとにおかれません。

***YES** QUERYファイル・オープンがコミットメント制御のもとにおかれます。

[トップ](#)

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

注: TYPEも指定した場合には、このパラメーターは無効です。

*ACTGRPDFN

オープン操作の有効範囲は、OPNQRYFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって決まります。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。マルチスレッド・ジョブでは、このODPが共用できる同一スレッド内および同一の活動化グループ内のそれらだけをオープンします。

*ACTGRP

オープン・データ・パス(ODP)の有効範囲は活動化グループとなります。同じ活動化グループからの共用オープンだけがこのODPを共用することができます。このODPは、活動化グループが非活動化されるか、あるいはファイル・クローズ(CLOF)コマンドが活動化グループをクローズするまでは再利用されません。

*JOB オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。ジョブがマルチスレッドである場合には、同じスレッドからオープンされたジョブだけがこのODPを共用できます。

トップ

重複キー検査 (DUPKEYCHK)

このコマンドによってオープンされたファイルの入出力操作について、重複キーのチェックを実行すべきかどうかを示します。

*NO 入出力コマンドについて重複キーのフィードバックは提供されません。

*YES 入出力コマンドについて重複キーのフィードバックが提供されます。

トップ

データのコピー可能 (ALWCPYDTA)

システムが**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターに指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式からデータのコピーを行なうことができるかどうかを指定します。できる場合には、システムは、コピーのために**QUERY**ファイルをオープンすることができます。情報がコピーされた後でコピーがデータベースの変更を反映しないので、システムは通常データのコピーの使用を避けます。しかし、一定の要求では、指定された**QUERY**機能を実行するためにデータのコピーを必要とします（結合の基礎となる複数のファイルに含まれるキー・フィールドが指定されている場合など）。

*YES システムは、**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターに指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式からのデータのコピーを使用する場合があります。データのコピーが使用されるのは、要求された**QUERY**機能の実行で必要な場合だけです。

*OPTIMIZE

システムは、分類ルーチンを使用して、**FILE**パラメーターに指定されたファイル、ファイル・メンバー、およびレコード様式からの出力を順序付けます。分類ルーチンは、**KEYFLD**パラメーターが指定され、分類ルーチンの使用が他の**OPNQRYF**オプションと矛盾せずに**QUERY**のパフォーマンス向上する場合にのみ使用されます。

分類では、**FILE**パラメーターに指定された1つまたは複数のファイルのレコードのほとんどまたはすべてが戻されるので、**QUERY**のパフォーマンスが向上します。

分類を使用すると、**OPNQRYF**コマンドの処理に必要な時間が増すことがあります。これは、分類が実行され、**QUERY**から戻されるすべてのレコードが**OPNQRYF**コマンドの活動中に処理されるために起こります。しかし、すでにレコードが処理されているので、レコードの読み取り（プログラムまたは**CPYFRMQRYP**コマンドを使用）は非常に高速です。したがって、**QUERY**の全般的な処理時間は減少します。

OPNQRYFコマンドに**KEYFLD**パラメーターを指定しても、**ALWCPYDTA(*OPTIMIZE)**を指定した場合に必ず**QUERY**が索引を使用するとはかぎりません。分類ルーチンが使用される場合には、ファイルが索引によるアクセスでオープンされません。**OPNQRYF** コマンドからレコードを読み取る

プログラムが索引によるアクセス（順次処理ではなくランダム処理）を必要とする場合には、ALWCPYDTA(*YES)またはALWCPYDTA(*NO)を指定しなければなりません。

分類が使用される時には、ROLLBACKステートメントが出されても、QUERYファイルの位置は変更されません。したがって、パラメーターをもつQUERYがオープンされる時には、後続のROLLBACKステートメントは、回復単位の開始位置にあったQUERY 処理されたファイルの位置をリセットしません。

注: ROLLBACKステートメントによるQUERYファイルの位置変更が必要な場合、あるいは索引によるアクセスでQUERY処理されたファイルのオープンが必要な場合には、ALWCPYDTA(*OPTIMIZE)を指定しないでください。

OPNQRYFコマンドで分類が有効となる前に次のことが必要です。

- ALWCPYDTA(*OPTIMIZE)を指定しなければなりません。
- OPTIONパラメーターを指定する場合には、*INPでなければなりません。
- KEYFLDパラメーターには*FILEまたは*NONE以外の値を指定しなければなりません。
- UNIQUEKEYパラメーターは指定してはならず、もし指定するのであれば*NONEを指定しなければなりません。
- SEQONLYパラメーターを指定する場合には、*YESでなければなりません。
- DUPKEYCHKパラメーターは指定してはならず、もし指定するのであれば*NOを指定しなければなりません。
- FORMATパラメーター（またはFORMATパラメーターを指定しない場合にはFILEパラメーター）によって指定されたファイル中のすべてのフィールドの合計バッファー長は32700バイトを超えてはなりません。

QUERY最適化プログラムは、分類が使用されるかどうかを決定します。この決定は、QUERYから予想されるレコードの数およびOPNQRYFステートメントに指定されたオプションに基づいています。最適化プログラムによる分類の選択には次のことが影響します。

- OPTIMIZEパラメーターには*ALLIOまたは*MINWAITを指定しなければなりません。*FIRSTIOが指定された場合には、指定するレコードの数はQUERYから予想される結果のレコードの数に近いが、等しくなければなりません。
- FILEパラメーターに指定するファイル中のレコードの数は最小でも200レコードでなければなりません。
- QUERYの結果には最小でも200レコードが含まれなければなりません。

***NO** システムは、**ファイル仕様 (FILE)**パラメーターに指定されたファイル、メンバー、およびレコード様式からのデータのコピーを使用しません。要求されたQUERY機能の実行のためにデータのコピーを使用する必要がある場合には、QUERYファイルはオープンされないで、エラー・メッセージが出されます。

トップ

パフォーマンスの最適化 (OPTIMIZE)

このコマンド上の他の指定を満足させる選択処理および結合処理の実行方法を決定するために、システムによって使用される最適化の目標を指定してください。

キー・フィールド仕様 (**KEYFLD**)パラメーターまたはフィールド名のグループ化 (**GRPFLD**)パラメーターによって、アクセス・パスの構築が必要となる場合には（既存のアクセス・パスを共用できない場合には）、このパラメーターに指定された値に関係なく、アクセス・パスは完全に構築されます。最適化は選択処理のタイミングに主に影響します。

単一値

***ALLIO**

システムは、すべてのQUERYレコードがファイルから読み取られるものとして、QUERY全体の処理にかかる合計時間を改善するように試みます。

***MINWAIT**

システムは、ファイルからレコードを読み取る場合の遅延を少なくして、QUERYを向上させるようにします。

要素1:パフォーマンスの最適化

***FIRSTIO**

システムは、QUERYファイルのオープンに要する時間、およびファイルからレコードの最初のバッファを検索する時間を改善するように試みます。

要素2:レコード数

1-2147483647

検索予定のレコード数を指定します。QUERY最適化プログラムは、この情報を使用して、QUERYの適切なインプリメンテーションを決定します。

[トップ](#)

すべてのアクセス・パスの最適化 (OPTALLAP)

QUERY最適化プログラムがQUERYの実行方法を決定する時に、QUERY処理されるファイルに存在するすべてのアクセス・パスを考慮するかどうかを指定します。

***NO** QUERY最適化プログラムは通常通りに機能することができます。QUERYの開始方法を決定する時には、最適化プログラムは、内部タイムアウト値に達するまで、アクセス・パスを考慮します。QUERY処理されるファイルに多数のアクセス・パスがある場合には、使用可能なすべてのアクセス・パスを考慮する前に最適化プログラムがタイムアウトになることがあります。

***YES** QUERY最適化プログラムに、内部タイムアウト値を強制的に無視させ、QUERYプログラムのすべてのファイルに対して使用可能なすべてのアクセス・パスを考慮させます。ファイルに対して多数のアクセス・パスがある場合には、QUERYプログラムを最適化するために長時間かかる場合があることに注意してください。

[トップ](#)

分類順序 (SRTSEQ)

QRYSLTまたはGRPSLTパラメーターに指定されたソートおよびグループ選択、JFLDパラメーターに指定された結合、KEYFLDパラメーターに指定された順序、GRPFLDパラメーターに指定されたグループ化、%MINまたは%MAX組み込み関数、またはUNIQUEKEYパラメーターに指定された固有キーの値のソートおよびグループ化について使用されるソート・シーケンスを指定します。

単一値

***JOB** ジョブでジョブのSRTSEQ値が検索されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

*LANGIDSHR

共用の重みづけ分類テーブルが使用されます。

*LANGIDUNQ

固有の重みづけ分類テーブルが使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 このQUERYで使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語識別コードを指定します。

***JOB** ジョブでジョブのLANGID値が検索されます。

言語ID ジョブによって使用される言語識別コードを指定してください。

[トップ](#)

最終出力CCSID (CCSID)

文字、DBCS混用、DBCS択一、および図形フィールドが戻されるコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。UTF-8、UCS-2、またはUTF-16フィールドからのデータは変換されません。

***JOB** データは、OPNQRYFコマンドを出しているジョブのCCSIDで戻されます。

***HEX** データが戻される前に、CCSID変換は実行されません。

1-65535

CCSID値を指定してください。データが戻される前に、このCCSIDに変換されます。

[トップ](#)

オープンのタイプ (TYPE)

資源再利用(RCLRSC)コマンドがファイルをクローズするレベルを指定します。

注: OPNSCOPEパラメーターに省略時値が指定されていないくて、要求が省略時の活動化グループからのものでない場合には、このパラメーターは無視されます。

***NORMAL**

資源再利用(RCLRSC)コマンドを実行するプログラム呼び出しがファイルをクローズせずに終了した場合には、このコマンドがファイルをクローズします。

***PERM**

ファイル・クローズ(CLOF)コマンドによってクローズされるか、あるいは経路指定ステップまたは省略時の活動化グループが終了するまで、ファイルはオープンされたままです。資源再利用(RCLRSC)コマンドを実行したとしても、QUERYファイルはオープンされたままです。

トップ

例

例1:特定のレコードを選択

注: OPNQRYFコマンドを使用したレコード選択の追加の例は、INFORMATION CENTERの「データベース・プログラミング」のトピックにあります。

```
OPNQRYF FILE(ORDFILE) OPTION(*ALL)
         QRYSLT('ORDDATE=%RANGE("840101" "841231") &
               ORDAMT>100')
         KEYFLD((ORDAMT *DESCEND))
```

このコマンドは、QRYSLTパラメーターを使用して、ファイルORDFILEの最初のメンバーで、オーダー日付1984年のオーダー金額100を超えるレコードだけを選択します。FORMATパラメーターが省略されているので、オープンされたQUERYファイルはファイルORDFILEと同じレコード様式をもっています。オープンされたQUERYファイルでは、すべてのファイル操作（入力、出力、更新、および削除）が許可されます。レコードをオーダー金額の降順の値で配置するように、KEYFLD仕様が使用されています。

例2: %XLATE組み込み関数を使用

```
OPNQRYF FILE(TELEFILE)
         QRYSLT('%XLATE(USRNAME QSYSTRNTBL) *CT
               "GEORGE"')
```

このコマンドは、%XLATE組み込み関数を使用して、フィールドUSRNAMEを大文字に変換し、フィールドUSRNAMEに値GEORGEを含むレコードだけを選択するように*CT演算子を指示しています。QSYSTRNTBLは、IBM提供の変換テーブルで、英字の小文字（aからz）を大文字（AからZ）に変換します。この変換は、文字が大文字小文字混合で出てきても検索値の認識が保証されるように実行されます。オープンされたQUERYファイルから使用可能なレコードは、ファイルTELEFILEと同じレコード様式をもっています。

例3: %XLATE組み込み関数を使用

```
OPNQRYF FILE(TELEFILE) QRYSLT('USRNAME *CT ''GEORGE'')
         MAPFLD((USRNAME
               '%XLATE(TELEFILE/USRNAME QSYSTRNTBL)'))
```

前の例では、オープンされたQUERYファイルからレコードを読み取る高水準言語(HLL)プログラムに戻されるフィールドUSRNAMEの値は、大文字に変換されません。

この例は、HLLプログラムに使用可能となるフィールドUSRNAMEの大文字バージョンを作成する方法を示しています。これは、フィールドUSRNAMEの変換される値にマップ・フィールド(MAPFLDパラメータ

一) を定義することによって行います。このフィールドは、使用しているオープンされたQUERYファイルのレコード様式中のフィールド名と同じフィールド名をもちます。フィールドの変換済みバージョンが選択(QRYSLTパラメーター) に使用され、オープンされたQUERYファイルのレコード様式で使用されます。

例4: %SST組み込み関数を使用

```
OPNQRYF FILE((HISTLIB/ORDFILE HIST1))
         OPTION(*INP *UPD *DLT)
         FORMAT(ORDINFO ORDDTLS) QRYSLT('MONTH=7')
         MAPFLD((YEAR '%SST(ORDDATE 1 2)' *ZONED 2)
                (MONTH '%SST(ORDDATE 3 2)' *ZONED 2)
                (DAY '%SST(ORDDATE 5 2)' *ZONED 2))
```

このコマンドは、%SST組み込み関数を使用して、ファイルORDFILEの文字フィールドORDDATEの年月日部分のサブストリングを作成します。ファイルORDINFOがレコード様式ORDDTLSをもっていて、少なくともフィールドYEAR, MONTH,およびDAYのレコードを含む場合には、これらのフィールドはオープンされたQUERYファイルのレコード様式で入力専用となります。その理由は、これらが組み込み関数(%SST)を使用して定義されていて、文字と数値(ゾーン10進形式)タイプを混合するマッピングを使用しているためです。このファイルは、入力、更新、および削除操作作用にオープンされていますが、フィールドYEAR, MONTH,およびDAYのレコードは、オープンされたQUERYファイルのオープン・データ・パス(ODP)を使用して更新されることはありません。オープンされたQUERYファイルは、ライブラリーHISTLIBのファイルORDFILEのHIST1メンバーのレコードだけを使用し、このファイルを介して検索されたレコードは、ファイルORDINFOのレコード様式ORDDTLSと同じ様式をもちます。7月に属するレコードだけ(QRYSLTパラメーター) が、オープンされたQUERYファイルを介して処理されます。

例5:各セットの最初のレコードを戻す

```
OPNQRYF FILE((ROUTELF *FIRST LOCUSR))
         QRYSLT('%SST(TOLOC 1 4) *EQ "ROCH"')
         KEYFLD(FROMUSR FROMLOC TOUSR TOLOC) UNIQUEKEY(*ALL)
```

このコマンドは、KEYFLDおよびUNIQUEKEYパラメーターを使用して、ファイルROUTELFの最初のメンバーのレコード様式LOCUSRで、フィールドFROMUSR, FROMLOC, TOUSR,およびTOLOCに同じ値をもつ各レコード・セットの最初のレコードだけを戻します。QUERY結果は、フィールドTOLOCの先頭4桁に値ROCHをもったレコードだけを選択することによってさらに限定されます。このオープンされたQUERYファイルを介して使用可能となるレコードは、ファイルROUTELFのレコード様式LOCUSRにすべてのフィールドを含んでいます。ファイルROUTELFにアプリケーションによって経路指定されたメッセージに関する情報が入っている場合には、この例は、受信ロケーション名がROCHで始まるすべての送信側と受信側の固有の対を示します。

例6:ファイルを自身に結合

```
OPNQRYF FILE(PARTPF PARTPF) FORMAT(PARTJOIN)
         JFLD((1/PNBR 2/PNBR *GE))
         MAPFLD((PNM1 '1/PNAME')
                (PNM2 '2/PNAME')
                (PNBR '1/PNBR'))
```

この例は、ファイルを自身に結合する方法とともに、MAPFLDパラメーターを使用して、基礎になるファイル中のフィールドを名前変更する方法を説明しています。結合元フィールドと結合先フィールドの両方としてフィールドPNBRを使用して、「より大または等しい」結合が実行されます。

ファイルPARTJOINの様式には、名前PNBR, PNM1,およびPNM2のフィールドが入っているものとします。フィールド名PNBRは、MAPFLDパラメーターで定義されているので、QUERY出力レコード様式中で有効です。ファイルPARTJOINのレコード様式に名前PNAMEのフィールドが入っている場合には、エラーが起きます。その理由は、FILEパラメーターに指定された両方のファイルにこのフィールドが存在し、

MAPFLDパラメーターで定義されたフィールドの名前でないためです。マップ・フィールド定義がフィールド名になるので、フィールドPNM1とPNM2の属性はフィールドPNAMEの属性と一致し、オープンされたQUERYファイル・レコードのフィールドPNBRの属性はファイルPARTPFのフィールドPNBRと一致します。さらに、ファイルを自身に結合する時には常に、基礎になるファイルで定義されている任意のフィールドにファイル番号を指定する必要があります。

例7:基礎になるファイルのフィールドを名前変更

次のように同じQUERYを指定することもできます。

```
OPNQRYF FILE(PARTPF PARTPF) FORMAT(PARTJOIN)
        QRYSLT('1/PNBR *GE 2/PNBR')
        MAPFLD((PNM1 '1/PNAME')
              (PNM2 '2/PNAME')
              (PNBR '1/PNBR'))
```

FILEパラメーターに複数のファイルが指定され、JDFTVALおよびJORDERパラメーターに省略時の値が指定されているので、システムは、QRYSLTパラメーター指定された値から結合仕様を使用します。

例8: 明細レコードのないマスター・レコードを選択

```
OPNQRYF FILE(CUSMAS ORDFIL) FORMAT(CUSMAS)
        JFLD((CUSNBR ORDFIL/CUSNBR)) JDFTVAL(*ONLYDFT)
        MAPFLD((CUSNBR 'CUSMAS/CUSNBR'))
```

このコマンドは、結合QUERYを使用して、関連した明細レコードをもっていないマスター・レコードだけを選択します。マスター・ファイル(CUSMAS)は、両方のレコード様式にあるカスタマー番号フィールドによって明細ファイル(ORDFIL)に結合（等結合）されます。カスタマー番号フィールド名は、両方のレコード様式中で同じ(CUSNBR)です。CUSNBRがMAPFLDパラメーターで定義されたフィールドの名前であるために、すべての箇所ですべてのフィールド名CUSNBRが使用され、ファイルCUSMASのCUSNBRフィールドのマップ済みフィールド・バージョン（カスタマー・マスター・ファイルのレコード様式と対応するオープンされたQUERYファイルのレコード様式を含む）が使用されます。JDFTVALパラメーターは、省略時の値を使用して作成されるレコードだけがオープンされたQUERYファイルを介して使用可能になることを指示します。対応する明細レコードをもつ（カスタマー番号フィールドに同じ値をもつ）すべてのマスター・レコードが除外され、対応する明細レコードをもっていないすべてのマスター・レコードが結果のレコードを作成します。

例9:対応するマスター・レコードのない明細レコードを識別

```
OPNQRYF FILE(ORDFIL CUSMAS) FORMAT(ORDFIL)
        JFLD((CUSNBR CUSMAS/CUSNBR)) JDFTVAL(*ONLYDFT)
        MAPFLD((CUSNBR 'ORDFIL/CUSNBR'))
```

前の例を変更したこの例は、（同じファイルを使用して）対応するマスター・レコードのないすべての明細レコード（この場合には未登録カスタマー番号のすべてのオーダー）を識別する方法を示します。

例10:基本的な統計を計算

```
OPNQRYF FILE(SCORES) FORMAT(CLSSTATS) GRPFLD(CLSID)
        GRPSLT('CLSAVG<70 & CLSMAX-CLSMIN>30')
        MAPFLD((CLSCNT '%COUNT')
              (CLSAVG '%AVG(USRSCORE)')
              (CLSMIN '%MIN(USRSCORE)')
              (CLSMAX '%MAX(USRSCORE)'))
```

このコマンドは、グループ化機能を使用して、ファイルSCORES中で、フィールドCLSIDに同じ値をもつレコードの各グループの基本統計を計算します。ファイルCLSSTATSが、フィールドCLSIDおよびMAPFLDパラメーターで指定されたすべてのフィールドを含むレコード様式をもっていると、オープンされたQUERY

ファイルを紹介して使用可能になる各レコードには、グループ化フィールドの値(CLSID)とともに、そのグループに含まれるレコード数、およびそのグループのフィールドUSRSCOREの平均値、最小値、および最大値が含まれます。グループ化の後で選択が実行され、グループのUSRSCOREの平均値が70より小さく、そのグループの最大スコアと最小スコアの差が30より大きい時にだけそのグループのレコードが作成されます。

例11:特定の値でレコードを選択

```
OPNQRYF FILE(ITMMAST)
        QRYSLT('ITMCODE=%RANGE(32 50) & ITMTYPE="P"')
        ALWCPYDTA(*NO) OPTIMIZE(*FIRSTIO)
        SEQONLY(*YES 10) TYPE(*PERM)
```

このコマンドは、ファイルITMMASTの最初のメンバーから、フィールドITMCODEの範囲が32から50で、フィールドITMTYPEの値が英字Pと等しいレコードだけを選択します。ALWCPYDTAパラメーターは、オープンされたQUERYファイルがファイルITMMASTのレコードのコピーを使用してはならないことを指定します。OPTIMIZEおよびSEQONLYパラメーター値によって、システムはオープンされたQUERYファイルの処理を向上し、10レコードの最初のバッファの検索に必要な時間を最小化しようとしています。このパラメーター値の組み合わせは、オープンされたQUERYファイルのオープン・データ・パス(ODP)を共用し、各表示画面に10レコードを表示する高水準言語対話式照会プログラムでファイルを使用している時には、良い選択肢です。オープンされたQUERYファイルのオープン・データ・パス(ODP)は「永続」(TYPEパラメーター)ですが、これはファイル・クローズ(CLOF)コマンドを使用してファイルがクローズされるまで、あるいは経路指定ステップが終了するまで、オープンされたままになることを意味します。

例12:特定のCCSIDでリテラルをタグ付け

```
OPNQRYF FILE(ITMMAST) QRYSLT('ITMTYPE=PFIELD')
        MAPFLD((PFIELD 'P' *CHAR 1 *N 930))
```

このコマンドは、ファイルITMMASTの最初のメンバーから、フィールドITMTYPEの値が文字セット930の英字'P'と等しいレコードだけを選択します。マップされたフィールドは、リテラル'P'を特定のCCSIDでタグ付けできるように作成されます。

リテラルが特定のCCSIDでタグ付けされていない場合には、このQUERYを実行しているジョブのCCSIDが割り当てられます。このために、OPNQRYFステートメントが異なるCCSIDのシステム（おそらく別の国）間で共用されているCLプログラムの一部である場合には、選択仕様にリテラルを使用しているQUERYは、ファイル中のデータが同じであっても、すべてのシステムで同じ結果を戻さない可能性があります。このことは、CLプログラムが異なるCCSIDのジョブで実行される時にリテラルの内部表記が異なっていることがあるために起こります。この場合には、この表記はファイル中の同じレコードを一致させません。ファイル中のデータの内部表記は、現行ジョブのCCSIDに基づいて変更されないことに注意してください。

特定のCCSIDでリテラルをタグ付けすることで、この問題を回避します。特定のCCSIDでタグ付けしたリテラルは、すべてのシステムで同じ内部表記を維持します。リテラルのタグ付けに使用するCCSIDは、リテラルの比較対象のフィールドに割り当てたCCSIDと同じでなければなりません。

例13:非結合QUERYを使用

```
OPNQRYF FILE((EMPLOYEE)) KEYFLD((NAME))
        ALWCPYDTA(*OPTIMIZE)
```

このコマンドは、EMPLOYEEファイルのすべてのレコードを戻します。

例14:結合QUERYを使用

```
OPNQRYF FILE((EMPLOYEE) (MANAGEMENT)) FORMAT(EMPLOYEE)
KEYFLD((NAME)) JFLD((1/EMPID 2/MEMPID))
ALWCOPYDTA(*OPTIMIZE)
```

このコマンドは、結合基準によって、必要なレコードをすべて戻します。

例15:文字と数値データを比較するQUERY

```
OPNQRYF FILE((STAFF)) QRYSLT('SALARY > "18357.50"')
```

このコマンドは、SALARYが数値フィールドでQRYSLTのリテラル値が文字であっても、STAFFファイル中で給与が18357.50より大きいすべてのレコードを戻します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2169

ジョブのソート順序情報を使用することができない。

CPF2619

テーブル&1が見つからない。

CPF3BCC

言語識別コード&1は正しくない。

CPF3BC6

ソート順序&1が正しくない。

CPF3BC7

CCSID &1が有効範囲外である。

CPF3BC8

CCSID &1からCCSID &2への変換はサポートされていない。

CPF3BC9

CCSID &1からCCSID &2への変換は定義されていない。

CPF3BDD

UCS2データのソート順序&1が正しくない。

CPF3FC0

言語識別コードが正しくない。

CPF4174

ファイル&1のOPNID(&4)はすでに存在している。

CPF8133

&9のテーブル&4に損傷がある。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9813

ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

STATUS メッセージ*CPI4011**

QUERYプログラム実行中。&2レコードが選択され、&1レコードが処理されました。

CPI4301

QUERYプログラム実行中。

CPI4302

QUERYプログラム実行中。&1に&2のアクセス・パス作成中。

CPI4303

QUERYプログラム実行中。&2のファイル&1のコピー作成中。

CPI4304

QUERYプログラム実行中。&1レコードが選択され、選択は完了しました。

CPI4305

QUERYプログラム実行中。*Nのファイル*Nのコピー・ソート中。

CPI4306

QUERYプログラム実行中。&2のファイル&1からアクセス・パス作成中。

CPI4307

QUERYプログラム実行中。&1の&2からハッシュ・テーブルを作成中。

[トップ](#)

そうでない場合 (OTHERWISE)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

SELECTコマンド・グループ内のいずれかのWHENコマンドですべての条件が真であると評価されなかった場合に処理されるコマンドまたはコマンドのグループ(IFまたはDOグループ内の)を指定します。コマンドまたはDOグループが処理されると、このOTHERWISEコマンドと関連したENDSELECTコマンドの後にある次のコマンドに制御が移ります。このパラメーターで指定したコマンドがDO, DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドである場合には、DOグループ内のすべてのコマンドがパラメーターによって指定したコマンドと見なされます。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- このコマンドは、SELECT-ENDSELECTコマンド・グループ内でのみ有効です。
- OTHERWISEは、SELECT-ENDSELECTコマンド・グループに1つしか指定できません。
- SELECT-ENDSELECTコマンド・グループ内のWHENコマンドは、すべてOTHERWISEコマンドより前になければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	コマンド・ストリング	オプション、位置 1

トップ

コマンド (CMD)

真に評価される式がどのWHENコマンドにもなかった場合に処理されるコマンド(IFまたはDOグループ内)を指定します。

このパラメーターで指定したコマンドがDO, DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドである場合には、DOグループ内に指定したすべてのコマンドが、パラメーターによって指定したコマンドの一部と見なされます。

CMDパラメーターにコマンドが指定されないと (ヌルOTHERWISE),このWHENコマンドと関連したENDSELECTコマンドより後の次のコマンドに制御が渡されます。

CLコマンドはCMDパラメーターに指定することができますが、次のコマンドは例外です。

- ELSE
- PGM, ENDPGM
- ENDDO
- MONMSG
- DCL, DCLF
- WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT

[トップ](#)

OTHERWISEの例

```
DCL  VAR(&NAME)  TYPE(*CHAR)  LEN(10)
:
SELECT
  WHEN  COND(&NAME *EQ *CMD)  THEN(DO)
    :  (CLコマンドのグループ)
ENDDO
  WHEN  COND(&NAME *EQ *PGM)  THEN(DO)
    :  (CLコマンドのグループ)
ENDDO
  OTHERWISE  COND(CHGVAR &NAME *PGM)
ENDSELECT
```

OTHERWISEは、SELECTコマンド・グループ内のいずれかのWHENコマンドですべての条件が満たされなかった場合に実行するコマンドを指定します。この例では、&NAMEの値が*CMDでも*PGMでもないと、CHGVARが実行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OTHERWISE

なし

[トップ](#)

データベース・ファイル一時変更 (OVRDBF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドは、(1)プログラムに指定されているファイルを一時変更する（置き換える）か、(2)プログラムで使用されるファイルの一部のパラメーターを一時変更するか、あるいは(3)プログラムで指定されたファイルおよび処理中のファイルの特定のパラメーターを一時変更します。このコマンドによって一時変更されるパラメーターは、ファイル記述、プログラム、または以前に実行された他のファイル一時変更コマンドで指定されます。このコマンドは、物理ファイル、論理ファイル、および分散データ管理機能(DDM)ファイルに適用されます。

プログラムで指定したファイルを一時変更する（置き換える）ためには、そのファイルの名前をFILEパラメーターに指定し、それを一時変更するファイル（プログラムによって処理されるファイル）の名前をTOFILEパラメーターに指定してください。このコマンドの他のパラメーターは、一時変更先のファイルのファイル記述に含まれるパラメーター値を一時変更するために使用することができます。

ファイル全体を置き換えるのではなく、プログラムに指定したファイルの一部のパラメーターだけを一時変更するためには、そのファイルの名前をFILEパラメーターに指定し、TOFILEパラメーターに*FILE値を指定してください。次にこのコマンドの他のパラメーターを使用して、ファイルの特定のパラメーターを一時変更してください。指定されなかったパラメーターは、プログラム中のファイル記述に指定されたパラメーターにも、前に出された他のファイル一時変更コマンドに指定されたパラメーターにも影響しません。

制約事項:

1. マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは、最初のスレッドからしか出すことができません。
2. マルチスレッド・ジョブでは、活動化グループまたは活動化ジョブの有効範囲を設定した一時変更だけが2次スレッドで実行されるオープンに影響します。

注: 一時変更は、すべてのコマンドで使用できるわけではありません。一時変更できないコマンドのリストが一時変更先のファイルの詳細とともにISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックにあります。

注: このコマンドを使用しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更中のファイル	名前	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
TOFILE	データベース・ファイルの一時変更	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイルの一時変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
MBR	一時変更しているメンバー	名前, *FIRST , *LAST , *ALL	オプション, 位置 3
POSITION	ファイルの開始桁	単一値: *NONE , *START , *END その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 検索順序	*RRN , *KEYB , *KEYBE , *KEY , *KEYAE , *KEYA	
	要素 2: *RRN -レコードNO *KEY-NO キーフィールド	符号なし整数	
	要素 3: *KEY -レコード様式 (キー付き)	名前	
	要素 4: *KEY -キー値	文字値	
RCDFMTLCK	レコード様式のロック	値 (最大 32 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: レコード様式	名前	
	要素 2: ロック状態	*SHRRD , *SHRNUP , *SHRUPD , *EXCLRD , *EXCL	
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, *NONE	オプション
FMTSLR	レコード様式選択プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: レコード様式選択プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED , *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, *IMMED , *NOMAX	オプション
NBRRCDS	一度に検索するレコード	整数	オプション
EOFDLY	EOF再試行遅延(秒数)	1-99999, *NONE	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*NO	オプション
EXPCHK	満了日の検査	*YES , *NO	オプション
INHWRT	書き込み禁止	*YES , *NO	オプション
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO , *YES	オプション
OVRSCOPE	有効範囲の一時変更	*ACTGRPDFN , *CALLLVL , *JOB	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO , *YES	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDFN , *JOB	オプション
SEQONLY	順次のみへの制限	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 順次のみ	*YES	
	要素 2: レコード数	整数	
DSTDTA	分散データ	*BUFFERED , *PROTECTED , *CURRENT	オプション

トップ

一時変更中のファイル (FILE)

この一時変更コマンドが適用される使用中のプログラムのファイル名を指定します。指定するファイルは、データベース・ファイルの一時変更プロンプト (TOFILEパラメーター) に*FILEが指定されている場合には、データベース・ファイルでなければなりません。そうでない場合には、任意の装置ファイルまたはデータベース・ファイル名を指定することができます。

トップ

データベース・ファイルの一時変更 (TOFILE)

一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) で指定されたファイルの代わりに使用するデータベース・ファイルの名前を指定するか、あるいは*FILEが指定された場合には、このコマンドで指定されたパラメーターによって特定の属性を一時変更することを指定します。このコマンドで指定されるパラメーターは、データベース・ファイル、プログラム、または以前に実行された他のOVRDBFコマンドで指定された同じパラメーターを一時変更します。

***FILE** 一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) に指定されたデータベース・ファイルは、このコマンドで指定された値によってそのパラメーターの一部を一時変更されています。

データベース・ファイル名

一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) で指定されたファイルの代わりに使用するデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

一時変更しているメンバー (MBR)

データベース・ファイル内で使用されるメンバーを指定します。このパラメーターは、システム/38またはAS/400システム以外のリモート・システムを参照する分散データ管理機能(DDM)ファイルには無効です。

メンバー名

使用中のプログラム、または呼び出される他の(OVRDBF)コマンドで指定されたメンバー名を (ファイルのオープン時に) 一時変更するメンバー名を指定してください。メンバー名が指定されていない、データベース・ファイルの一時変更プロンプト (TOFILEパラメーター) に*FILE以外の値が指定された場合には、ファイルの最初のメンバーが使用されます。

*FIRST

データベース・ファイルの最初のメンバーが使用されます。

***LAST** データベース・ファイルの最後のメンバーが使用されます。

***ALL** ファイルのすべてのメンバーが順序通りに処理されます。すべてのメンバーは、最初のメンバーと同じ一時変更パラメーターでオープンされます。最初のメンバーのオープン前に出された一時変更は処理されますが、最初のメンバーのオープン後に出された一時変更または一時変更削除は処理されません。前に出されたOVRDBFコマンドでMBR(*ALL)が指定され、このコマンドがまだこのファイルに効力をもっている場合には、EOFDLY, FMSTLR, INHWRT,またはPOSITIONパラメーターを指定することはできません。互いに排他的なパラメーターが指定された場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

メンバー名

プログラムの使用で、または呼び出されたその他のOVRDBFコマンドに指定されたメンバー名を（ファイル・オープン時に）一時変更するメンバー名を指定します。メンバー名が指定されないで、*FILEではなくてTOFILEパラメーターが指定された場合には、ファイル中の最初のメンバーが使用されます。

トップ

ファイルの開始桁 (POSITION)

データベース・ファイルからレコードを読み取る場合の開始位置を指定します。取り出す最初のレコードはファイルの始め(*START)または終わり(*END)にあるもの、ファイルのn番目のレコード(*RRN)、あるいはキー・フィールド値およびキー検索値(*KEY, *KEYA, *KEYAE, *KEYB,または*KEYBE)の1つで指定されたレコードとすることができます。このパラメーターは、プログラム中に指定された値あるいは他の呼び出されたOVRDBFコマンドに指定された値を一時変更します。

注: *ALLが一時的に変更しているメンバープロンプト (MBRパラメーター) に以前に指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

*NONE

特殊な位置指定は不要です。最初の入出力操作は、読み取るレコードを示します。

*START

開始位置はファイルの最初のレコードです。前のレコード読み取り操作がプログラムで指定された場合には、ファイルの終わり条件が起きます。

***END** 開始位置はファイルの最後のレコードです。次のレコードが読み取られた時にファイルの終わり条件に達します。前のレコード読み取り操作が要求された場合には、ファイルの最後のレコードが読み取られます。

*RRN相対レコード番号

最初に読み取られるレコードの相対レコード番号（ファイルの始めからの位置）を指定します。相対レコード番号の前には値*RRNを付けなければなりません。たとえば、*RRN 480は、レコード480が次に読み取られることを指定します。前のレコード読み取り操作が要求された場合には、ファイルの479番目のレコードが読み取られます。

キー操作フィールドの数レコード様式名キーの値

指定されたキー操作、フィールドの数、レコード様式名、およびキーの値によって識別されるレコードが読み取られる最初のレコードを指定します。これらの値に対応するレコードが存在していない場合には、例外が通知されます。

キー操作の値として次のいずれか1つを指定してください。

***KEYB (前のキー)**

残りの検索値（フィールドの数、レコード様式名、およびキーの値）により識別されたレコードより1つ前のレコードが最初に読み取られるレコードです。

***KEYBE (前または等しいキー)**

検索値によって識別されたレコードが最初に読み取られるレコードです。それらの値に対応するレコードがない場合には、それらの値に最も近い前のレコードが選択されます。

***KEY (等しいキー)**

検索値によって識別されたレコードが最初に読み取られるレコードです。プログラムに前のレコード読み取り操作が指定されている場合には、前のレコードが読み取られます。

***KEYAE (後または等しいキー)**

検索値によって識別されたレコードが最初に読み取られるレコードです。それらの値に対応するレコードがない場合には、次の最高値のレコードが選択されます。

***KEYA (後のキー)**

残りの検索値（フィールドの数、レコード様式名、およびキーの値）により識別されたレコードの後のレコードが最初に読み取られるレコードです。

残りの検索値は次のように指定します。

フィールドの数

検索に使用するキー・フィールドの数を指定します。指定するフィールドの数は、ファイル用の各キーのフィールドの実際の数と同じである必要はありません。たとえば、*KEY 1 FMT1 Aを指定した場合には、最初のキー・フィールドにAの値をもつファイル様式FMT1の最初のレコードが読み取られます。キーの値ゼロを指定した場合には、すべてのキー・フィールドに基づいて検索が行なわれます。ゼロを使用した場合には、キーの値には、最大キー・サイズが入れられ、使用しない場合には、一致は起こりません。

レコード様式名

指定されたキーの値が含まれているデータベース・ファイルのレコード様式の名前を指定してください。レコード様式の名前が指定されていない場合には、他の検索値と一致する最初のレコードがすべてのレコード様式で検索されます。

キーの値

最初に読み取るレコードを指定します。キーの値は、文字または正のゾーン10進数形式のアポストロフィで囲まれた文字ストリングとして指定するか、あるいは16進数形式(X'値')で指定します。文字ストリングには最大2000桁までを指定することができます。

たとえば、POSITION(*KEY 1 FMT2 X'123F')は、次のことを指定します。

1. システムがレコード様式FMT2からレコードを検索します。
2. 1つのキー・フィールドが検索に使用されます（キーの値に多数のキー・フィールドがあっても）。
3. レコードに16進数値123F（パック10進数値123.0の16進数等価）が入っています。見つかった時に、このレコードが表示されます。

DDMファイルと一緒にPOSITIONパラメーターを使用する影響については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「分散管理」情報に詳細があります。

トップ

レコード様式のロック (RCDFMTLCK)

プログラムによって使用される時の、指定のレコード様式のロック状態を指定します。ロック状態は、各様式と対応したデータのロック方法を指示します。次の例には、各レコード様式に指定されるロック状態、およびロックが活動中に他のプログラムで使用可能な操作が示されています。

ロック状態	他のプログラム操作
*SHRRD (共用読み取り)	読み取りおよび更新可能
*SHRNUP (共用読み取り, 更新禁止)	読み取り可能, 更新 不可
*SHRUP (共用更新)	読み取りおよび更新可能
*EXCLRD (読み取り 可能占有)	読み取り可能, 更新 不可
*EXCL (読み取り 禁止占有)	読み取りおよび 更新不可

各ロック状態の説明はCLプログラミング (SD88-5038)にあります。

各レコード様式ごとに、1つのロック状態の値が後に続くレコード様式名を指定してください。オブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドでファイルに指定したロック状態の方が、このパラメーターで指定されたロック状態より制限が強い場合には、このパラメーターは無視されます。したがって、このパラメーターは、ファイルに指定したより制限が強いロック状態しかレコード様式に指定することができません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

レコードを補助(永続)記憶域の中に強制的に書き出す前に、これらのレコードに対して実行可能な挿入、削除、または更新操作の数を指定します。この物理ファイルがジャーナル処理されている場合には、大きい数または*NONEを使用してください。*NONEの場合には、ジャーナルと物理ファイルの同期に時間がかかることがあります。このパラメーターの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの付録Aを参照してください。ジャーナル管理の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

このパラメーターは、データベース・ファイル、プログラム、または以前に実行された他のOVRDBFコマンドで指定された強制書き出し率を一時変更します。

*NONE

強制書き出し率はありません。レコードが補助記憶装置にいつ書き出されるかは、システムが決定します。

強制書き出し操作前の書き出し操作の数

レコード数を指定してください。このデータベース・ファイルと関連した物理ファイルをジャーナルに記録する場合には、大きい強制書き出し率を指定してください。

トップ

レコード様式選択プログラム (FMTSLR)

論理ファイル・メンバーに複数の論理レコード様式が入っている時に呼び出されるレコード様式選択プログラムの名前を指定します。レコードがデータベース・ファイルに挿入され、レコード様式名が高水準言語プログラムに含まれていない場合には、ユーザー作成の選択プログラムが呼び出されます。レコード様式選択プログラムの使用についての詳細はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報にあります。このパラメーターは、データベース・ファイル中に指定された値あるいは前に出された他のOVRDBFコマンドに指定された値を一時変更します。

様式選択プログラムとして指定するプログラムは、CLプログラム作成(CRTCLPGM) コマンドにUSRPRF(*OWNER)を指定して作成することはできません。

注: *ALLが一時変更しているメンバープロンプト (MBRパラメーター) に以前に指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

プログラム名

プログラムが記憶されているライブラリー名によって任意に修飾された選択プログラム名を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られません。

このパラメーターは、データベース・ファイル、プログラム、または以前に実行された他のOVRDBFコマンドで指定された待機時間を一時変更します。

このパラメーターの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの付録Aにあります。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイルのオープン時に、ファイル資源の即時割り振りが試みられません。

***CLS** クラス記述で指定された省略時の待機時間が、ファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

秒数 プログラムが、ファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1-32767秒です。

[トップ](#)

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムが、更新または削除するレコード、または指定されたLCKLVL(*ALL)によってコミットメント制御環境で読み取るレコードを待機する秒数を指定します。レコードのロックの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報にあります。指定された待機時間内に当該レコードが割り振られない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

注: このパラメーターは、データベース・ファイル、プログラム、または以前に実行された他のOVRDBFコマンドで指定されたレコード待機時間を一時変更します。DDMファイルの場合の最小遅延は60秒です。この値は、ローカル・データベース・ファイルに指定された遅延より長い値を必要とする場合があります。

考えられる値は次の通りです。

*NOMAX

プログラムはレコード・ロックをいつまでも待機します。

*IMMED

プログラムは待機しません。レコードの即時ロックは、レコードが読み取られる時に獲得されます。

秒数 プログラムが、レコード・ロックを待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1-32767秒です。

[トップ](#)

一度に検索するレコード (NBRRCDs)

補助記憶装置から1単位として読み取られ、主記憶装置に1単位として書き出されるレコード数を指定します。実際に読み取られるデータの大きさは、レコード数に（論理レコード長ではなく）、物理レコード長を掛けたものと等しくなります。有効な値の範囲は1 - 32767です。このパラメーターは順次処理またはランダム処理で有効であり、データ・レコードが処理される順に補助記憶装置に物理的に入っている時にだけ指定されます。このパラメーターは、プログラム、または以前に実行された他のOVRDBFコマンドで指定されたレコード数の値を一時変更します。

[トップ](#)

EOF再試行遅延(秒数) (EOFDLy)

ここで遅延の秒数を指定すると、ファイルの終わりに達した時に、この秒数の経過後に追加のレコードの読み取りを試みます。ファイルにレコードを追加する機会を他のジョブに与えて、ジョブを再び開始しないで新しいレコードを処理するために、この遅延が使用されます。遅延時間が終了すると、ジョブが活動状態になり、データ管理機能は新しいレコードが追加されたかどうかを判別します。新しいレコードが追加されて

いなかった場合には、ジョブは適用業務プログラムに通知しないで、さらにこの遅延時間待機します。秒数が指定された時には、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはデータの強制終了(FEOD) が起こるまで、指定のデータベース・ファイルでファイルの終わりが起こりません。

注: *ALLが一時変更しているメンバープロンプト (MBRパラメーター) に以前に指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

EOFDLYのためにレコードを待機中のジョブを終了するには次に示すいくつかの方法があります。

- 適用業務プログラムによって最後のレコードとして認識されるレコードを指定されたファイルに書き込む。ここでこの適用業務プログラムは、強制的にデータの終わり(FEOD)としてファイル終了処理を開始するか、あるいはファイルをクローズすることができます。
- EOFDLY時間に指定された時間より大きい遅延時間を指定した制御値(ENDJOB OPTION(*CNTRLD))を使用してジョブを終了します。指定するDELAYパラメーター時間は、EOFDLYの実行時間に加えてファイルに追加された可能性がある新しいレコードの処理時間およびユーザーの適用業務で行なわれるファイルの終わり処理時間を含めたものでなければなりません。ファイルの終わりはデータベースによって設定され、通常ファイルの終わり条件は、新しいレコードが取り出された後で起こります。
- 即時にジョブを終了する(ENDJOB OPTION(*IMMED))。
- ジョブが対話式である場合に、システム要求を開始して、前の要求を終了する。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

通常のファイルの終了処理が行なわれます。

秒数 ファイルの終わり条件が起こった時に、次のレコードのGETを試みるまで、プログラムが待機する秒数を指定します。データの強制終了が起こるまで、あるいはジョブが *CNTRLDオプションで終了するまで、ファイルの終わりの通知は出されません。有効な値は1 - 99999の範囲です。

トップ

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによってファイルがオープンされた時に、データベース・ファイルのレコード様式に対するレベル識別名が検査されるかどうかを指定します。メンバーがオープンされている時に行なわれるこの検査では、システムはプログラムによって使用される各レコード様式識別名をデータベース・メンバーの対応する識別名と比較します。プログラムにレコード様式識別名が含まれていない限り、レベル検査を行なうことができません。このコマンドでは、レベル検査を*NOから*YESに一時変更することはできません。

***NO** ファイルのオープン時にレベル識別コードは検査されません。

トップ

満了日の検査 (EXPCHK)

指定したメンバーの満了日を検査するかどうかを指定します。この日付検査は、物理ファイル・メンバーの場合にだけ有効です。このパラメーターは、プログラム中に指定された値あるいは他の呼び出されたOVRDBFコマンドに指定された値を一時変更します。

***YES** 物理ファイル・メンバーの満了日が検査されます。当日の日付が満了日を過ぎている場合には、エスケープ・メッセージがプログラムに送られます。

*NO 満了日は検査されません。

[トップ](#)

書き込み禁止 (INHWRT)

処理されたレコードがデータベース・ファイルに書き出されるか、削除されるか、あるいは更新されるかを指定します。書き込み禁止パラメーターによって、処理されたレコードをデータベースに保管しないで、プログラムをテストすることができます。このパラメーターは、前に出された他のOVRDBFコマンドのINHWRTパラメーターを一時変更します。

注: *ALLが一時変更しているメンバープロンプト (MBRパラメーター) に指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

*YES 処理されたレコードをデータベース・ファイルに書き出すことはできません。これらは、出力装置に書き出されるだけです。

*NO 実動ファイルの更新プロンプト (UPDPRODパラメーター) で*NOが指定され、プログラムがデバッグ・モードになく、しかもファイルがプロダクション・ライブラリーにない場合には、処理されたすべての新しいレコードおよび変更されたレコードがデータベースに書き出されます。この場合には、エスケープ・メッセージがプログラムに送られます。

[トップ](#)

他の一時変更からの保護 (SECURE)

前に呼び出されたファイル一時変更コマンドの影響から、このファイルを保護するかどうかを指定します。

*NO このファイルは他のファイル一時変更から保護されません。値は、前に呼び出されたファイル一時変更コマンドの影響を受けて一時変更されます。

*YES このファイルは以前に出されたファイル一時変更コマンドの影響から保護されます。

[トップ](#)

有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)

一時変更の影響の範囲 (有効範囲) を指定します。

*ACTGRPDFN

一時変更の有効範囲は、コマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

*CALLLVL

一時変更の有効範囲は、現行の呼び出しレベルによって決まります。現行の呼び出しレベルと同じか、またはそれ以上の呼び出しレベルで実行されたすべてのオープン操作は、この一時変更によって影響を受けます。

*JOB 一時変更の有効範囲は、一時変更が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共有します。

データベース・ファイルの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報にあります。

考えられる値は次の通りです。

- *NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。
- *YES** メンバーが2回以上オープンされた場合には、メンバーをオープンする時に、**オープン・データ・パス共用**プロンプト (SHAREパラメーター) にも***YES**を指定するジョブの各プログラムと同じODPが共用されます。これには、同じプログラム中の複数回のオープン操作が含まれます。

トップ

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲 (有効範囲) を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ACTGRPDFN**

オープン操作の有効範囲は、OVRDBFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。

- *JOB** オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。

トップ

順次のみへの制限 (SEQONLY)

レコードが順次でのみ処理されるデータベース・ファイルの場合に、ファイルで順次のみ処理が使用されるかどうかを指定します。このパラメーターは、順次のみ処理が使用される場合には、データベースに対してグループとしての転送が行なわれるレコード数も指定します。この数字を指定しない場合には、システムが省略時の値を決定します。このパラメーターは、データベース・ファイルを順次に処理するプログラムのパフォーマンスを改善するために使用されます。このパラメーターは、プログラム、または以前に実行された他のOVRDBFコマンドで指定された値を一時変更します。

プログラム中で入力専用としてオープンされたファイルの場合には、指定された数のレコードがグループとしてデータベースから内部データ管理バッファに転送されます。

プログラム中で出力専用としてオープンされたファイルの場合には、内部データ管理バッファ中にプログラムから指定された数の処理されるレコードが受け取られる時に、常に1グループのレコードがデータベ

スに転送されます。出力ファイルの場合には、順次専用処理は、物理ファイル・メンバーおよび1つの物理ファイル・メンバーのみを基礎とする論理ファイル・メンバーに有効です。

SEQONLY(*YES)を指定し、次の条件のいずれかが真であると、SEQONLYパラメーターは無視され、メッセージが出されます。

- プログラムがメンバーを出力専用としてオープンし、SEQONLY(*YES)が省略時のレコード数と一緒に指定され、しかもオープンされたメンバーが論理メンバーまたは固有キー順物理メンバーのいずれかであるか、あるいは他のアクセス・パスが物理メンバー上で作成されている。
- プログラムがメンバーを入力または出力以外にオープンしている。
- 出力用にプログラムによってオープンされたメンバーが他の多くのメンバーを基礎としている。
- レコード長にフィードバック域を加えた合計が32,767バイトを超えている。

注: このパラメーターがISERIESまたはAS/400システム以外のシステム上でDDMの代替索引ファイルに使用されると、予期しない結果が起こります。

考えられる値は次の通りです。

***NO** データベース・ファイルは、順次のみ処理に限定されません。

***YES** このデータベース・ファイルは順次専用処理を使用します。グループとして転送されるレコード数の省略時の値は、ファイルの使用法、含まれるアクセス・パスのタイプ、およびファイルのレコード長に基づいてシステムによって決定されます。

- 省略時の値は、次の場合にほぼ4Kの内部バッファに収まるレコード数です。
 - 入力専用オープンされているすべてのデータベース・ファイル
 - 出力用にオープンされ、到着順または非固有キー順序でのみ処理され、それらを基礎としている論理ファイル・メンバーがない物理ファイル
- 次の場合には、省略時の値は1レコードです。
 - 出力専用オープンされているすべての論理ファイル
 - 出力専用オープンされ、固有キー順アクセス・パスをもっているか、あるいはキー順物理ファイル・メンバーのアクセス・パスを共用しないキー順アクセス・パスをもつ少なくとも1つの従属論理ファイルがある物理ファイル

レコード数

毎回転送されるレコード数の1 - 32767までの有効な値が後に続いている*YESを指定します。ファイルは、順次のみ処理を使用し、データベースと内部バッファとの間で転送される各グループのレコード数を示す値を指定しなければなりません。ユーザーは、指定されたバッファ・サイズがプログラムが実行中の記憶域プールのプログラムに対して常に使用可能であること確認しなければなりません。ファイルは順次専用処理を使用します。

レコードが内部データ管理バッファ中にある時には、他のジョブがデータベース中の同じレコードを変更することができ、順次専用入力処理を実行中のプログラムはその更新を関知しません。レコードがバッファ中にある時に他の更新が行なわれないようにするためには、プログラムでオブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドを使用して、ファイルの*EXCLRDロックまたは*EXCLロックを指定することができます。

プログラムが順次専用出力処理を実行し、バッファ中のレコードがデータベースに書き込まれる時に起こる可能性があるエラー（キーの重複や変換マッピング・エラーなど）を処理しない場合には、バッファ中でエラーのある最初のレコードより後にあるレコードは書き込まれません。

ファイルが出力用にオープンされ、このパラメーターに指定された値がファイルに指定された強制書き出し率と同じでない場合には、システムによって使用される値はいずれか小さいほうになります。変更された値を告げるメッセージがユーザーに送られます。

データベースへのレコードの書き出しのためにSEQONLY(*YES)を処理する時には、各レコードのフィードバック情報（相対レコード番号など）は、常に変更されるとはかぎりません。このようなフィードバック情報が重要である場合には、SEQONLY(*NO)またはSEQONLY(*YES 1)を指定してください。

順次専用データベース・ファイルの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報にあります。

トップ

分散データ (DSTDTA)

分散ファイルで使用されるデータ検索方式を指定します。非分散ファイルに対して使用された場合には、このパラメーターは無効です。SEQONLYなどの他のパラメーターは、各システムからデータを検索する方法にまだ影響を及ぼし、このパラメーターは、分散ファイルのアクセス時にすべてのデータを管理する方法を制御します。このパラメーターは、システムによって選択されたか、あるいは前に出された他のOVRDBFコマンドに指定された分散ファイル・データ検索方式を一時変更します。DSTDTAの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「DB/2 MULTISYSTEM FOR ISERIES」情報を参照してください。

考えられる値は次の通りです。

*BUFFERED

最高のパフォーマンスを達成するために、リモート・システムおよびローカル・システムからのデータは、ユーザーによって検索されるまで、バッファ内に保管することができます。

*PROTECTED

データをバッファに入れることができますが、他のジョブが更新しないようにするためにロックされます。この場合には、*BUFFEREDと同じパフォーマンスが得られますが、現行データは保証されます。あるジョブがこのオプションを使用している時には、他のジョブはこのファイル内のデータを更新することはできません。

*CURRENT

データはバッファに入れられません。このオプションでは、完全ライブ・データと最大の並行性が提供される結果となりますが、最適なパフォーマンスは得られません。

トップ

OVRDBFの例

例1:既存メンバーの一時変更

```
OVRDBF FILE(ORDERSIN) MBR(MONDAY)
```

このコマンドは、既存のメンバーをメンバーMONDAYで一時変更します。一時変更が有効となると、ファイルORDERSINがオープンされる時に、メンバーMONDAYが処理されます。

例2:共用仕様の一時変更

```
OVRDBF FILE(ORDERSIN) SHARE(*YES)
```

このコマンドは、ファイルORDERSINの共用仕様を一時変更します。この一時変更により、経路指定ステップ内のこのファイルの後続するオープンはこのファイルのODPを共用します。

例3:ファイル、メンバー、およびロック状態の一時変更

```
OVRDBF FILE(INPUT) TOFILE(PAYROLL) MBR(MBR1)
      RCDFMLCK((EMPDATA *EXCL))
```

このコマンドは、レコード・フォーマットEMPDATAのファイル、メンバー、およびロック状態を一時変更します。この一時変更によって、ファイルINPUTがオープンした時に、以下が起きます。

- ファイルPAYROLLがファイルINPUTの代わりに処理される。
- メンバーMBR1が以前指定したメンバーの代わりに処理される。
- ロック*EXCLが既存のロックの代わりにレコード・フォーマットEMPDATAに配置される>(*EXCLによって、一時変更が有効な間、別のプログラムがレコード・フォーマットを使用できなくなります。)

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OVRDBF

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

ディסקレット・ファイル一時変更 (OVRDKTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディסקレット・ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンドは、(1)プログラムに指定されているファイルを一時変更する（置き換える）か、(2)プログラムによって使用されるファイルの一部のパラメーターを一時変更するか、あるいは(3)プログラムで指定されたファイルおよび処理されたファイルの一部のパラメーターを一時変更するために使用されます。このコマンドによって一時変更されるパラメーターは、ファイル記述、プログラム、またはその他の呼び出されたファイル一時変更コマンドに指定されています。プログラムで指定したファイルが一時変更される場合には、そのファイルの名前をFILE パラメーターに指定し、一時変更先のファイル（処理済みのファイル）の名前をTOFILE パラメーターに指定します。OVRDKTFコマンドには、一時変更先のファイルのファイル記述に含まれる値を一時変更するパラメーターも指定します。プログラムに指定されたファイルが置き換えられないが、そのファイルの一部のパラメーターを一時変更する場合には、FILEパラメーターにそのファイルの名前を指定し、TOFILEパラメーターに*FILEを指定します。一時変更するパラメーターは、OVRDKTFコマンドの他のパラメーターで指定します。指定しないパラメーターはファイル記述、プログラム、または他の呼び出されるファイル一時変更コマンドに指定されたパラメーターに影響しません。

ファイルの一時変更の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピック、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715),および印刷装置 プログラミング (SD88-5073)にあります。

注: このコマンドを入力しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更中のファイル	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	ディסקレット・ファイルの一時変更	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ディスクレット・ファイルの一時変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: ディスクレット装置	名前	
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
LABEL	ファイル・ラベル	文字値	オプション
EXCHTYPE	ディスクレット・ファイル交換タイプ	*STD, *BASIC, *H, *I	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CODE	コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *NONE, *PERM	オプション
SPOOL	データのスパール	*YES, *NO	オプション
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAXRCDS	スパール出力レコードの最大数	1-500000, *NOMAX	オプション
SCHEDULE	スパール出力のスケジュール	*JOBEND, *FILEEND, *IMMED	オプション
HOLD	スパール・ファイルの保留	*NO, *YES	オプション
SAVE	スパール・ファイルの保管	*NO, *YES	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	*JOB, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
USRDTA	ユーザー・データ	文字値, *BLANK	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO, *YES	オプション
OVRSCOPE	有効範囲の一時変更	*ACTGRPDFN, *CALLLVL, *JOB	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*YES, *NO	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDFN, *JOB	オプション

トップ

一時変更中のファイル (FILE)

この一時変更コマンドが適用される使用中のプログラムのファイル名を指定します。 ディスケット・ファイルの一時変更プロンプト (TOFILEパラメーター) に*FILEを指定している場合には、指定するファイルはディスク装置ファイルでなければなりません。そうでない場合には、任意の装置ファイルまたはデータベース・ファイル名を指定することができます。

トップ

ディスク・ファイルの一時変更 (TOFILE)

一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) に指定されたファイルの代わりに使用するディスク・ファイルの名前を指定するか、あるいは*FILEが指定された場合には、このコマンドで指定されたパラメーターによって特定の属性を一時変更することを指定します。このコマンドで指定されるパラメーターは、ディスク装置ファイル、プログラム、または呼び出される他の(OVRDKTF)コマンドで指定されたのと同じパラメーターを一時変更します。

***FILE** 一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) で指定されたディスク装置ファイルには、このコマンドで指定された値によって一時変更されたそのパラメーターの一部があります。

ディスク装置ファイル名

一時変更されるファイルの代わりに使用されるディスク装置ファイルの修飾名を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

装置ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

装置 (DEV)

入出力操作を実行するディスク装置ファイルで使用されるディスク装置の名前を指定します。ディスク装置ファイル、プログラム、または呼び出される他のディスク装置ファイル一時変更 (OVRDKTF) コマンドで指定された装置名を指定してください。弊社提供のディスク装置記述の装置名はQDKTです。データのスパールプロンプト (SPOOLパラメーター) の*YESの値がオープン時にファイルに対して有効となっている場合には、このパラメーターは無視されます。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRDKTF コマンドに指定されている値を一時変更します。

装置名 このディスク装置ファイルに使用される装置の名前を指定してください。この装置ファイルを作成する前に、装置名は装置記述としてシステム上にすでに存在していなければなりません。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

ディスク装置ファイルによって使用されるディスクの1つまたは複数のボリューム識別コードを指定します。ボリュームは、このパラメーターで指定する識別コードと同じ順序で装置に書き出さなければなりません。ファイルが逆方向読み取りのためにオープンされている場合には、リスト中のボリューム識別コードは最後から最初に処理されます (しかし、装置リストの装置は最初から最後の順に使用されます)。ファイルにボリューム識別コードのリストが提供されている場合には、操作員メッセージで必要なボリュームの名前が示されます。

注: このパラメーターは、ディスク装置ファイル、プログラム、または他の呼び出されるOVRDKTF コマンドに指定されたボリューム識別コードを一時変更します。

***NONE**

このコマンドのこのファイルにディスク・ボリューム識別コードが指定されません。ボリューム識別コードは、後で装置ファイルがオープンされる前にディスク装置ファイル一時変更 (OVRDKTF) コマンド、ディスク装置ファイル変更 (CHGDKTF) コマンド、あるいは高水準言語プログラムで指定することができます。そうでない場合には、ボリューム識別コードの検査は行われません。

ボリューム識別コード

ボリュームが書き込まれる順序で識別コード (最大6文字の英数字) を指定してください。複数の識別コードをリストする時には、区切り文字としてブランクが使用されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

ファイル・ラベル (LABEL)

処理または作成されるディスク上のデータ・ファイルのデータ・ファイル・ラベルを指定します。入力ファイル（システムへのディスク入力）の場合には、このラベルは、ディスクに存在しているファイルの識別コードを指定します。出力ファイル（ディスクへのシステム出力）の場合には、これは、ディスクに作成されるファイルの識別コードを指定します。

注: このパラメーターは、ディスク装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定されたラベルを一時変更します。

データ・ファイル・ラベル

このディスク装置ファイルに使用されるデータ・ファイルの識別コードに最大8文字を指定してください。

[トップ](#)

ディスク・ファイル交換タイプ (EXCHTYPE)

ディスク出力ファイルの場合にのみ、システムがディスク・データを書き込む場合に、装置ファイルにより使用される交換タイプを指定します。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRDKTF コマンドに指定されている値を一時変更します。

***STD** タイプ1またはタイプ2のディスクの場合には、BASIC交換形式が使用されます。タイプ2 Dのディスクの場合には、H交換タイプが使用されます。

*BASIC

BASIC交換タイプが使用されます。

***H** H交換タイプを使用します。

***I** I交換タイプを使用します。

[トップ](#)

コード (CODE)

システムによるディスク・データの読み取りや書き込みに装置ファイルで使用される文字コードのタイプを指定します。このコードは拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)とすることができます。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRDKTF コマンドに指定されている値を一時変更します。

*EBCDIC

このディスク装置ファイルでは、EBCDIC文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

ディスク入力データ・ファイルの場合にだけ、そのデータ・ファイルがディスクに作成された日付を指定します。このパラメーターで指定する作成日（ある場合）が、ディスクに書き込まれた日付と一致しない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定された値を一時変更します。

*NONE

装置ファイルのオープン前にOVRDKTFコマンド、CHGDKTFコマンド、または高水準言語プログラムで指定しないかぎり、データ・ファイルの作成日は検査されません。

作成日 装置ファイルで使用されるデータ・ファイルの作成日を指定してください。日付は、ジョブ属性DATFMTおよび区切り記号を使用する場合にはジョブ属性DATSEPで定義された形式で指定しなければなりません。しかし、指定された日付は、YYMMDDの形式でディスク・ラベルに入れます。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

ディスク出力ファイルの場合にのみ、この装置ファイルで使用するデータ・ファイルの満了日を指定します。データ・ファイルは、指定した満了日の翌日まで保護され、そのファイルには書き込むことができません。

注: 満了日は、装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定された値を一時変更します。

*NONE

データ・ファイルは作成されたその日しか保護されません。

*PERM

データ・ファイルは永続的に保護されます。満了日として999999が、ディスクに書き込まれます。

満了日 データ・ファイルが満了する日付を指定してください。日付は、ジョブ属性DATFMTおよび区切り記号を使用する場合にはジョブ属性DATSEPで定義された形式で指定しなければなりません。しかし、指定された日付は、YYMMDDの形式でディスク・ラベルに入れます。

[トップ](#)

データのスパール (SPOOL)

ディスク装置ファイルの入力または出力データをスパールするかどうかを指定します。

このパラメーターは、装置ファイル、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定されたスプール値を一時変更します。

***NO** データはスプールされません。このファイルが入力用にオープンされている場合には、データはディスクから直接に取り出されます。これが出力ファイルの場合には、データはプログラムによって処理された時点でディスクに直接に書き出されます。

注: SPOOL(*NO)を指定した場合には、このコマンドのOUTQ, MAXRCDS, SCHEDULE, HOLD, SAVE, OUTPTY,およびUSRDTAの各パラメーターは無視されます。

***YES** データはスプールされます。このファイルが入力用にオープンされている場合には、名前のあるインライン・データ・ファイルまたは名前のない次のインライン・データ・ファイルが処理されます。これが出力ファイルの場合には、データはスプール書き出しプログラムによる処理用にスプールされます。名前付きまたは名前なしのインライン・ファイルの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイル・システムおよび管理」情報にあります。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

スプール出力の場合にのみ、スプール出力ファイルの出力待ち行列名を指定します。

このパラメーターは、装置ファイル、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定された出力待ち行列名を一時変更します。

出力待ち行列名

出力データがスプールされる出力待ち行列の名前とライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)

スプール出力の場合にだけ、ディスク・ファイルを使用するスプール・ジョブのスプール出力ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定します。

このパラメーターは、ディスク装置ファイル、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定された値を一時変更します。

*NOMAX

スプール出力ファイルに入れることができるレコード数に最大数はありません。

最大レコード数

スプール出力ファイルに入れることができるレコードの最大数を指示する1 - 500000の値を指定してください。

[トップ](#)

スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)

スプール出力ファイルの場合にのみ、スプール出力ファイルをスプール書き出しプログラムに対して使用可能にする時点を指定します。

このパラメーターは、装置ファイル、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定されたスケジューリング値を一時変更します。

*JOBEND

スプール出力ファイルは、ジョブ全体の完了後にのみ、スプーリング書き出しプログラムで使用可能になります。

*FILEEND

スプール出力ファイルは、プログラムでファイルがクローズされると、スプール書き出しプログラムで使用可能になります。

*IMMED

スプール出力ファイルは、最初の出力レコードがプログラムによって作成されると、スプール書き出しプログラムで使用可能になります。

[トップ](#)

スプール・ファイルの保留 (HOLD)

スプール出力ファイルの場合だけ、スプール・ファイルを保持するかどうかを指定します。ファイルはスプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって解放されます。

注: このパラメーターは、ディスク装置ファイル、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定された保留値を一時変更します。

***NO** スプール出力ファイルは、出力待ち行列に保持されません。スプール出力は、**スプール出力のスケジュールプロンプト (SCHEDULEパラメーター)** の値に基づいてスプーリング書き出しプログラムで使用可能になります。

***YES** スプール出力ファイルは、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって解放されるまで保持されます。

[トップ](#)

スプール・ファイルの保管 (SAVE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、スプール・ファイルの出力が作成された後にスプール・ファイルを保管する（出力待ち行列に残す）かどうかを指定します。

注: このパラメーターは、ディスク装置ファイル、またはその他の呼び出されたOVRDKTFコマンドで指定された保管値を一時変更します。

- *NO スプール・ファイル・データは、その出力の作成後に、出力待ち行列に保管されません。
- *YES スプール・ファイル・データは、そのファイルが削除されるまで、出力待ち行列に保管されます。ファイルが作成された後に、状況はWTRからSAVに変更されます。

[トップ](#)

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

- *JOB スプール・ファイルを作成したジョブと対応した出力優先順位が使用されます。

出力優先順位

出力優先順位として、1（高位）から9（低位）までの数値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・データ (USRDTA)

スプール出力の場合には、ファイルを識別するユーザー指定データを指定します。

*BLANK

10個の空白がユーザー・データとして用いられます。

ユーザー・データ

ユーザー指定テキストとして、最大10文字までが使用できます。

[トップ](#)

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。

- *NO ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。
- *YES ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

- *CLS クラス記述で指定された省略時の待機時間が、ファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

秒数 プログラムが、ファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1-32767秒です。

[トップ](#)

他の一時変更からの保護 (SECURE)

このファイルが前に呼び出されたファイル一時変更コマンドの影響を受けないように保護するかどうかを指定します。

***NO** このファイルは他のファイル一時変更から保護されません。その値は前に呼び出されたファイル一時変更コマンドの影響によって一時変更されます。

***YES** このファイルは、前に呼び出されたファイル一時変更コマンドの影響を受けないように保護されています。

[トップ](#)

有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)

一時変更の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

***ACTGRPDFN**

一時変更の有効範囲は、コマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

***CALLLVL**

一時変更の有効範囲は、現行の呼び出しレベルによって決まります。現行の呼び出しレベルと同じか、またはそれ以上の呼び出しレベルで実行されたすべてのオープン操作は、この一時変更によって影響を受けます。

***JOB** 一時変更の有効範囲は、一時変更が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

*ACTGRPDFN

オープン操作の有効範囲は、OVRDKTFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。

*JOB オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

OVRDKTFの例

例1:スプール仕様の変更

```
OVRDKTF FILE(OUT) VOL(DPT706) LABEL(STATUSR) SPOOL(*YES)
```

このコマンドは、OUTという名前の出力ファイルでスプール仕様を変更します。プログラムがOUTファイルの出力データを作成する時には、データはスプール書き出しプログラムによる処理用にスプールされます。書き出しプログラムは、ボリューム識別コードがDPT706のディスク上にある、STATUSRと呼ばれるデータ・ファイルにデータを書きこむことによって、このデータを処理します。

例2: DBCS処理の指定

```
OVRDKTF FILE(IGCLIB/IGCDCT) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、このファイルに2バイト文字セット・データが入るよう、ライブラリーIGCLIBに保管されるディスク・ファイルIGCDCTを一時変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OVRDKTF

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

表示装置ファイル一時変更 (OVRDSPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンドは、(1)プログラムに指定されているファイルを一時変更する（置き換える）か、(2)プログラムで使用されるファイルの一部のパラメーターを一時変更するか、あるいは(3)プログラムで指定されたファイルおよび処理されたファイルのパラメーターを一時変更するために、使用されます。このコマンドによって一時変更されるパラメーターは、ファイル記述、プログラム、またはその他の呼び出されたファイル一時変更コマンドに指定されています。

プログラムで指定したファイルを一時変更する場合には、そのファイルの名前をFILEパラメーターに指定し、一時変更先のファイル（処理されるファイル）の名前をTOFILEパラメーターに指定します。OVRDSPFコマンドには、一時変更先のファイルのファイル記述に含まれる値を一時変更するパラメーターも指定します。プログラムに指定されたファイルが置き換えられないが、そのファイルの一部のパラメーターを一時変更する場合には、FILEパラメーターにそのファイルの名前を指定し、TOFILEパラメーターに*FILEを指定します。一時変更されるパラメーターは、OVRDSPFコマンドの他のパラメーターで指定します。指定しないパラメーターはファイル記述、プログラム、または他の呼び出されるファイル一時変更コマンドに指定されたパラメーターに影響しません。

ファイルの一時変更の詳細は、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715)にあります。

注: このコマンドを使用しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更中のファイル	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	表示装置ファイルの一時変更	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 表示装置ファイルの一時変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *REQUESTER	オプション, 定位置 3
CHRID	文字識別コード	単一値: *DEV, *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DECfmt	10進数形式	*FILE, *JOB	オプション
SFLENDTXT	SFLENDテキスト	*MSG, *FILE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
IGCEXNCHR	外字	*YES, *NO	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	1-32767, *NOMAX, *IMMED	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*NO	オプション
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO , *YES	オプション
OVRSCOPE	有効範囲の一時変更	*ACTGRPDFN , *CALLLVL, *JOB	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*YES, *NO	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDFN, *JOB	オプション

トップ

一時変更中のファイル (FILE)

この一時変更コマンドが適用される使用中のプログラムのファイル名を指定します。表示装置ファイルの一時変更プロンプト (TOFILEパラメーター) に*FILEが指定されている場合には、指定するファイルは表示装置ファイルでなければなりません。そうでない場合には、任意の装置ファイルまたはデータベース・ファイル名を指定することができます。

トップ

表示装置ファイルの一時変更 (TOFILE)

一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) で指定されたファイルの代わりに使用する表示装置ファイル名を指定するか、あるいは*FILEが指定された場合には、このコマンドで指定されたパラメーターによって特定の属性を一時変更することを指定します。このコマンドで指定されるパラメーターは、表示装置ファイル、プログラム、または呼び出される他のOVRDSPFコマンドで指定された同じパラメーターを一時変更します。

***FILE** 一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) で指定した表示装置ファイルのパラメーターが、このコマンドで指定する値により一時変更されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

装置ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

表示装置ファイル名

一時変更されたファイルの代わりに使用される表示装置ファイル名およびライブラリーを指定します。

[トップ](#)

装置 (DEV)

表示装置ファイルで使用される1つまたは複数の表示装置名を指定します。このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、または呼び出される他の表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンドで指定された装置名を一時変更します。弊社提供の表示装置ファイルに指定された装置名は*REQUESTERです。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、または呼び出されたその他のOVRDSPFコマンドで指定された装置名を一時変更します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***REQUESTER**

プログラムが呼び出される表示装置は、ファイルのオープン時に割り当てられた装置です。

装置名 装置のユーザーとシステムとの間でデータ・レコードを受け渡しするために、この装置ファイルで使用される1つまたは複数の表示装置名を指定してください。この装置ファイルを作成する前に、各装置名を（装置記述で）システムに前もって知らせておかなければなりません。名前の1つとして*REQUESTERを指定することができます。

最大50の装置名（*REQUESTERが指定されている場合はそれを含む）をこのコマンドで指定することができますが、総数が、ファイルのオープン時に**装置の最大数**プロンプト（MAXDEVパラメーター）で指定する数を超えることはできません。

[トップ](#)

文字識別コード (CHRID)

このファイル用の文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。CHRID DDSキーワードを指定して作成された表示装置ファイルをワークステーション装置で使用する場合に、正しい文字が表示され、また、正しい16進バイトの値が適用業務プログラムに戻されるように、システムが必要に応じて、ワークステーション装置との間で受け渡しするデータを変換します。表示装置ファイルCHRID処理および表示装置との間で受け渡しするデータを変換するために使用する変換テーブルについての詳細は、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715)にあります。

***DEV D**

適用業務を実行しているワークステーションの装置記述で指定したCHRID値が使用されます。

*DEV D値は、ファイルにワークステーションと同じ文字識別コードがあるので変換の必要がないことを意味します。有効な値のリストについては、表示装置記述作成(CRTDEV D) コマンドのCHRIDパラメーターを参照してください。

***SYSVAL**

適用業務プログラムを実行するシステムに指定されているCHRIDの値が使用されます。ワークステーションの文字識別コードによっては、変換が必要になる場合があります。

***JOBCCSID**

文字データは、表示装置ファイルの入力では装置CHRIDからジョブのCCSID（コード化文字セット

識別コード)に、表示装置ファイルの出力ではジョブのCCSIDから装置CHRIDに変更されます。文字データは、必要な場合に、入力時には装置CHRIDからジョブのCCSID(コード化文字セット識別コード)から変換され、また出力時にはジョブのCCSIDから装置CHRIDに変換されます。

注: ファイルがV2R3M0より前のリリース・レベルのシステムで作成されたものである場合には、この値を使用することはできません。

***CHRIDCTL**

システムは、このファイルに対するCHRIDコマンド・パラメーターで*JOBCCSIDを使用するか*DEVVDを使用するかを判別するために、CHRIDCTLジョブ定義属性を検査します。

図形文字セットコード・ページ

表示装置の属性と一致する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。有効な値の範囲は、1 - 32,767です。

[トップ](#)

10進数形式 (DECfmt)

EDTCDE DDSキーワードで数字フィールドを編集する時に使用する10進数形式を指定します。10進数形式の値は、小数点としてのコンマおよびピリオドの使用、および編集済みフィールドにおける3桁の定位置区切り記号を決定します。

考えられる値は次の通りです。

***FILE** ファイルの作成時にそのファイルと一緒に記憶された10進数形式の値を使用します。

***JOB** ファイルのオープン時にDECfmtジョブ属性からの10進数形式の値を使用します。

[トップ](#)

SFLENDテキスト (SFLENDTXT)

サブファイルを表示する場合に、「続く...」および「終わり」というテキストが検索される場所を指定します。「続く...」および「終わり」というテキストは、サブファイル制御レコードにSFLEND(*MORE) DDSキーワードが指定されている時にサブファイル中に表示されます。

考えられる値は次の通りです。

***MSG** ファイルがオープンされた時にシステムの現行活動言語に存在するメッセージCPX6AB1およびCPX6AB2から検索された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。

***FILE** ファイルの作成時にファイルに記憶された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。このテキストは、ファイルが作成された時にシステムの活動言語に存在するメッセージCPX6AB1およびCPX6AB2から検索されます。

[トップ](#)

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS 属性を指定します。

プログラム記述ファイルの場合に、指定できる値は次の通りです。

- *NO ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。
- *YES ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

DDSファイルの場合に、指定できる値は次の通りです。

- *NO ファイルのDBCS属性だけがDDSファイルで定義されている属性です。
- *YES DDSで定義したものに加えてDBCS属性には、(1)代替データ・タイプ(IGCALTTYP) のDDSキーワードを有効にすること、および(2) DDSでは識別されないフィールドまたはメッセージのDBCS属性の識別が含まれます。

トップ

外字 (IGCEXNCHR)

システムが2バイト文字セット(DBCS)の外字を処理するかどうかを指定します。

- *YES システムはDBCS外字を処理します。
- *NO システムはDBCS外字を処理しないで、未定義文字として表示します。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

このパラメーターの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの付録Aを参照してください。

注: ファイルに対する獲得操作の実行時には、装置資源による装置の即時割り振りが必要です。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、または呼び出されたその他のOVRDSPFコマンドで指定された待機時間を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

- *CLS クラス記述で指定された省略時の待機時間が、ファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

秒数 プログラムが、ファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1-32767秒です。

[トップ](#)

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

HLLプログラムの複数装置ファイルに対する、送信勧誘プログラム装置からの読み取り操作の完了をプログラムが待機する秒数を指定します。ファイルが複数装置ファイルと見なされる場合の判別方法の詳細については、適切なHLL解説書を参照してください。読み取り操作を行なうプログラムは、ファイルが現在獲得しているすべての送信勧誘装置からの入力を待機します。指定された時間内に送信勧誘装置からレコードが戻されない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。このパラメーターは、1つの装置に向けられた入力操作には影響を与えません。

このパラメーターを使用して、WAITコマンドの完了をCLプログラムが待機する秒数の指定に使用することもできます。レコードを戻すはずの装置からレコードが戻されない場合には、エスケープ・メッセージがCLプログラムに送られます。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、または呼び出されたその他のOVRDSPFコマンドで指定された待機レコード値を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

*NOMAX

ファイルに対する送信勧誘プログラム装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する時間には制限がありません。

*IMMED

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

秒数 送信勧誘プログラム装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによってファイルがオープンされた時に、この装置ファイルのレコード様式のレベル識別名を検査するかどうかを指定します。ファイルのオープン時に行なわれるこの検査は、システムがプログラムで使用される各レコード様式の識別コードを装置ファイルの対応する識別コードと比較することによって行なわれます。同じレコード様式名が複数のファイルに存在することができるため、各レコード様式にはその様式の作成時に固有の内部システム識別コードが与えられます。

プログラムにレコード様式識別名が含まれていない限り、レベル検査を行なうことができません。このコマンドでは、レベル検査を*NOから*YESに一時変更することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***NO** ファイルのオープン時にレベル識別コードは検査されません。

[トップ](#)

他の一時変更からの保護 (SECURE)

このファイルが、前の呼び出しレベルのファイル一時変更コマンドの影響から保護されるかどうかを指定します。

- *NO** このファイルは他のファイル一時変更から保護されません。その値は前の呼び出しレベル・ファイルの一時変更コマンドの影響を受けて、一時変更することができます。
- *YES** このファイルは、前の呼び出しレベルのファイル一時変更コマンドの影響を受けないように保護されます。

[トップ](#)

有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)

一時変更の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

***ACTGRPDFN**

一時変更の有効範囲は、コマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

***CALLLVL**

一時変更の有効範囲は、現行の呼び出しレベルによって決まります。現行の呼び出しレベルと同じか、またはそれ以上の呼び出しレベルで実行されたすべてのオープン操作は、この一時変更によって影響を受けます。

- *JOB** 一時変更の有効範囲は、一時変更が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

データ待ち行列名 (DTAQ)

送信勧誘された表示装置からデータ使用可能事象の信号が送られた時に、システムから項目を受け取るデータ待ち行列の名前を指定します。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないため、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。データ待ち行列の詳細は、CLプログラミング (SD88-5038)にあります。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

データ待ち行列は指定されません。

データ待ち行列名

項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

- *LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

データ待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

トップ

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

データベース・ファイルの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報にあります。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、または呼び出されたその他のOVRDSPFコマンドで指定された値を一時変更します。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

トップ

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ACTGRPDFN

オープン操作の有効範囲は、OVRDSPFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。

***JOB** オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。

トップ

OVRDSPFの例

```
OVRDSPF FILE(DISPLAY75) WAITFILE(30)
```

このコマンドは、DISPLAY75装置ファイル記述、プログラム、または呼び出されたその他のOVRDSPFコマンドで指定されたファイル待機時間値を一時変更します。このコマンドが実行されるプログラムは、必要なファイル資源をDISPLAY75という名前のファイルに割り当てるのを、30秒まで（必要な場合）待機します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OVRDSPF

*ESCAPEメッセージ

CPF1892

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

ICFプログラム装置項目一時変更 (OVRICFDEVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ICFプログラム装置項目の一時変更(OVRICFDEVE)コマンドを使用して、システム間通信機能(ICF)ファイルにプログラム装置項目およびリモート・ロケーション名を一時的に追加するか、あるいはICFファイルに指定されたリモート・ロケーション名および属性のプログラム装置項目を一時変更することができます。

注: このコマンドを使用しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

一時変更処理の実行方法の詳細はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピック、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715),および印刷装置 プログラミング (SD88-5073)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGMDEV	プログラム装置	文字値	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *REQUESTER	オプション, 定位置 2
CMNTYPE	通信タイプ	*ALL, *APPC, *ASYNCR, *BSCCL, *FINANCE, *INTRA, *RETAIL, *SNUF	オプション, 定位置 3
DEV	装置	名前, *LOC	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
FMTSLT	様式選択	*PGM, *RECID, *RMTFMT	オプション
APPID	適用業務識別コード	名前, *DEV, *USER	オプション
BATCH	バッチ活動	*NO, *YES	オプション
HOST	ホスト・タイプ	*DEV, *CICS, *IMS, *IMSRTR	オプション
ENDSSNHOST	ホストとのセッション終了	*RSHUTD, *TERMSELF	オプション
SPCHOSTAPP	特別なホスト適用業務	*DEV, *NONE, *FLASH	オプション
INZSELF	実行初期設定	*NO, *YES	オプション
HDRPROC	ヘッダー処理	*SYS, *USER	オプション
MSGPTC	メッセージ保護	*YES, *NO	オプション
EMLDEV	エミュレーション装置	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置タイプ	3278, 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	
	要素 2: データ形式	*UNFORMAT, *FIELD, *NOFIELD, *EXTFIELD	

キーワード	記述	選択項目	注
CNVTYPE	会話タイプ	*SYS, *USER, *SRCPGM	オプション
BLOCK	ブロック化のタイプ	単一値: *DEV, *NONE, *ITB, *IRS, *NOSEP, *USER その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ブロック化のタイプ	*SEP	
	要素 2: *SEPの場合のレコード分離文字	16 進値, X'1E'	
RCDLEN	レコード長	1-32767, *DEV	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-32767, *DEV	オプション
TRNSPY	透過モード伝送	*DEV, *NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES	オプション
TRUNC	後書きブランクの切り捨て	*DEV, *NO, *YES	オプション
OVRFLWDTA	オーバーフロー・データ	*DISCARD, *RETAIN	オプション
GRPSEP	グループ区切りのタイプ	*DEV, *EOT, *DEV3740, *OFCSYS	オプション
RMTBSCSEL	リモートBSCSEL	*DEV, *NO, *YES	オプション
INLCNN	初期接続	*CTLD, *DIAL, *ANS	オプション
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO , *YES	オプション
OVRSCOPE	有効範囲の一時変更	*ACTGRPDFN , *CALLLVL, *JOB	オプション

トップ

プログラム装置 (PGMDEV)

属性を一時変更するICFファイルのプログラム装置名を指定します。ICFファイルに追加できる装置の合計数は、ICFファイル作成(CRTICFF)コマンドまたはICFファイル変更(CHGICFF)コマンドのMAXPGMDEVパラメーターによって決まります。

プログラムが連絡するICFプログラム装置項目の名前を指定してください。この名前は、入出力装置固有の入出力操作でプログラム装置およびセッション属性を識別するために使用されます。同じリモート・ロケーション名が複数回指定されたとしても、プログラム装置名は固有でなければなりません。これで、複数のセッションを同一のリモート・ロケーションに存在させるか、あるいは同一のリモート・ロケーションの各セッションに異なる属性値をもたせることができます。このプログラム装置名はICFファイルの項目全体で固有になっていなければなりません。同じプログラム装置に対して2度目の一時変更コマンドが入力された場合には、両方とも（一時変更処理の規則に従って）同じプログラム装置項目を定義します。

注: システムがAPPC装置記述を選択するためにRMTLOCNAME, DEV, LCLLOCNAME,およびRMTNETIDパラメーターをどのように使用するかについては、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。リモート・ロケーションは、ICFプログラム装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドまたは適用済みプログラム装置一時変更を使用して指定しなければなりません。リモート・ロケーションが指定されない場合には、プログラム装置の獲得時にエスケープ・メッセージが送信されます。

リモート・ロケーション名

プログラムの通信先のリモート・ロケーションの名前を指定してください。リモート・ロケーションはこのコマンドの実行時に存在している必要はありませんが、プログラムがプログラム装置の獲得時に、このロケーション用に、システム上、あるいは拡張分散ネットワーク機能(APPN)のいずれかに構成されて存在していなければなりません。別のプログラム装置名を使用して、指定されたリモート・ロケーションを複数回追加することができます。実行中の時には、各非同期(ASYNC)、2進データ同期通信同等リンク(BSCEL)、またはシステム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF)リモート・ロケーションと関連したプログラム装置名は、ファイルによって一度に1つだけ獲得することができます。各リモート拡張プログラム間通信(APPC)ロケーションの場合には、複数の関連したプログラム装置名をファイルによって一度に獲得することができます。各SNUFリモート・ロケーションについて、多数の装置がある場合は、装置が**装置**プロンプト (DEVパラメーター) に指定されない限り、システム使用する装置を判別します。

*REQUESTER

プログラムが開始された通信装置を参照するために使用された名前が使用されます。プログラム装置が獲得される時に割り当てられるセッションは、そのプログラムの開始要求を受け取ったセッションと同じです。プログラムがプログラム開始要求の結果として開始されたものでない場合には、プログラム装置の獲得は正常に行なわれません。ターゲット・プログラムはICFファイル内のリモート・ロケーション名として*REQUESTERを使用して、ソース・プログラムがプログラム開始要求の送信に使用するセッションに接続します。

*REQUESTERはターゲットの通信ジョブの場合にだけ有効です。これ以外のタイプのジョブに*REQUESTERが指定された場合には、プログラム装置の獲得時にエスケープ・メッセージが送信されます。また獲得操作で*REQUESTERが使用された場合には、次のパラメーターは無視されます。

- 装置プロンプト (DEVパラメーター)
- ローカル・ロケーションプロンプト (LCLLOCNAMEパラメーター)
- モードプロンプト (MODEパラメーター)
- リモート・ネットワーク 識別コード プロンプト (RMTNETIDパラメーター)

トップ

通信タイプ (CMNTYPE)

プロンプトに表示されるパラメーターの通信タイプを指定します。このパラメーターは、プロンプト出すためにのみ使用されます。コマンドの実行時には無視されます。このパラメーターに指定する値は、ユーザーに表示される (プロンプトを出される) 他のパラメーターのサブセットを決定します。

***ALL** すべてのパラメーターが対話式プロンプトに表示されます。

*APPC

APPCパラメーターだけが対話式プロンプトに表示されます。

*ASYNC

非同期パラメーターだけが対話式プロンプトに表示されます。

*BSCEL

BSCELパラメーターだけが対話式プロンプトに表示されます。

*FINANCE

FINANCEパラメーターだけが対話式プロンプトに表示されます。

*RETAIL

RETAILパラメーターだけが対話式プロンプトに表示されます。

*INTRA

INTRAパラメーターだけが対話式プロンプトに表示されます。

*SNUF

SNUFパラメーターだけが対話式プロンプトに表示されます。

[トップ](#)

装置 (DEV)

リモート・ロケーションで使用される通信装置を指定します。このパラメーターはすべての通信タイプに適用されますが、APPC、INTRA、およびSNUF通信タイプの場合だけ指定してください。装置がリモート・ロケーションに対して有効でない場合には、プログラム装置の獲得時にエスケープ・メッセージが送信されず、ICFプログラム装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドが指定のプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、DEV(*LOC)が使用されます。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置をリモート・ロケーションと関連づけることができる場合には、システムがどの装置を使用するかを決定します。

装置名 ユーザー・プログラムが通信を行なう装置名を指定してください。装置名はすべての通信タイプに適用されますが、リモート・ロケーションの特定の装置を指定したい場合には、APPCおよびSNUF通信タイプに対してのみ指示してください。リモート・ロケーションの装置名が正しくない場合には、プログラム装置の獲得時にエスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ユーザーのロケーション名を指定します。このパラメーターは、APPC通信タイプにだけ適用されます。ICFプログラム装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドが、指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、LCLLOCNAME(*LOC)が使用されます。

***LOC** リモート・ロケーション名と対応したローカル・ロケーション名が使用されます。

*NETATR

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ユーザーのロケーションの名前を指定してください。ローカル・ロケーション名は、リモート・ロケーションに対し特定のローカル・ロケーション名を示したい場合にAPPCでのみ指定されます。ローカル・ロケーション名がリモート・ロケーションまたはリモート・ロケーションと装置に有効でない場合には、プログラム装置を獲得する時点でエスケープ・メッセージが送信されます。

[トップ](#)

モード (MODE)

使用するモード名を指定します。このパラメーターはAPPC通信タイプにだけ適用されます。ICFプログラム装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドが指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、MODE(*NETATR)が使用されます。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

*BLANK。

8桁の空白文字で構成されるモード名が使用されます。

モード名

APPC通信装置に対するモード名を指定してください。モードがリモート・ロケーション装置、ローカル・ロケーション、およびリモート・ネットワークIDのどのような組み合わせにも有効でない場合には、プログラム装置を獲得する時点でエスケープ・メッセージが送信されます。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションで使用されるリモート・ネットワークIDを指定します。このパラメーターは、APPC通信タイプにだけ適用されます。ICFプログラム装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドが指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、RMTNETID(*LOC)が使用されます。

***LOC** リモート・ロケーションの任意のリモート・ネットワークIDを使用することができます。複数のリモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションと関連している場合には、システムがリモート・ネットワークIDを自動的に選択します。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたりモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

*NONE

リモート・ネットワーク識別コードは使用されません。

リモート・ネットワーク識別コード

APPC通信装置のリモート・ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

様式選択 (FMTSLT)

入力操作で使用するレコード様式選択を指定します。ICFプログラム装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドが指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、FMTSLT(*PGM)が使用されます。

***PGM** プログラムはレコード様式の選択項目を判別します。レコード様式名のある入力（読み取り）操作が指定された場合には、その様式が常に選択されます。入力操作にレコード様式名が指定されていない場合には、省略時の様式（ファイルの最初のレコード様式）が常に選択されます。

また、これは、ファイルのデータ記述仕様(DDS)に指定されたレコード識別キーワードがある場合、あるいはリモート様式が受け取られた場合には、これらはレコードの選択時に考慮されないことを意味します。

*RECID

ファイルのDDSに指定されたレコード識別キーワードを使用して、レコードの選択が行なわれま
す。ファイルにレコード識別キーワードがない場合には、エラー・メッセージが出されてプログラ
ム装置の獲得操作が終了し、装置は獲得されません。

*RMTFMT

レコード選択を行なうために、送信元システムから受け取ったりモート様式名が使用されます。装
置がAPPC装置でなく、かつ*RMTFMTが指定されている場合には、プログラム装置を獲得する時点
で実行時エラーが起こります。

トップ

適用業務識別コード (APPID)

サインオン・メッセージと一緒に送信される顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)または情報管理シ
ステム／仮想記憶域(IMS/VS)ホスト・サブシステムのVTAM識別コードを（文字で）指定します。このパラ
メーターはSNUF装置にだけ適用されます。ADDICFDEVEコマンドが、指定されたプログラム装置に対して
実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、APPID(*DEVVD)が使用されま
す。

*DEVVD

装置記述に指定された適用業務識別コードが使用されます。

*USER

適用業務プログラムはホストにメッセージまたはサインオンを送ることができます。これは、3270
プログラム・インターフェースの使用時にだけ有効です。

適用業務識別コード

サインオン・メッセージと一緒に送信される適用業務識別コードを指定します。

トップ

バッチ活動 (BATCH)

CICS/VSおよびIMS/VSの場合に、このセッションがバッチ・ジョブに使用されるかどうかを指定します。
このパラメーターはSNUF,小売業、およびINTRA装置だけに適用されます。ADDICFDEVEコマンドが指定
されたプログラム装置に対して実行されず、このパラメーターが一時変更されない場合には、BATCH(*NO)
が使用されます。

***NO** バッチ・ジョブは使用されません。

YES** バッチ・ジョブが発生し、SNUFは物理レコードを論理レコードに組み立てません。YES**を指定し
た場合には、**メッセージ保護**プロンプト（MSGPTCパラメーター）に***NO**も指定しなければなりま
せん。

トップ

ホスト・タイプ (HOST)

このセッションが通信を行なうホストまたはリモート・サブシステムを指定します。このパラメーターは SNUF装置にだけ適用されます。指定されたプログラム装置に対してADDICFDEVEコマンドが実行されない場合、またはこのパラメーターが一時変更されない場合には、HOST(*DEVD)が使用されます。

*DEVD

装置記述に指定されたホスト・システムが使用されます。

*CICS セッションはCICS/VSと通信を行ないます。

*IMS セッションはIMS/VSと通信を行ないます。

*IMSRTR

セッションは受信可能オプションを用いてIMS/VSと通信を行ないます。

トップ

ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)

SNAアップライン機能(SNUF)がホストとのセッションを終了する方法を指定します。

*RSHUTD

SNUFがオフへの切り替え要求コマンドをホストに送信します。

*TERMSELF

SNUFがセッション終了コマンドをホストに送信します。値*RSHUTDが弊社以外のホストとのセッションを正常に終了しなかった場合には、この値を使用する必要がある場合があります。

トップ

特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)

SNUFがCICSまたはIMS適用業務層の外側の特殊なホスト適用業務に対するサポートをカスタマイズするかどうかを指定します。

*DEVD

装置記述で指定された特殊なホスト適用業務が使用されます。

*NONE

SNUFは、特殊なホスト適用業務に対するサポートをカスタマイズしていません。

*FLASH

SNUFは、連邦準備フラッシュ適用業務に対するサポートをカスタマイズしています。

トップ

実行初期設定 (INZSELF)

SNUFがホストに正常に送った不定様式サインオンの代わりに定様式INIT-SELFを組み込むかどうかを指定します。

*NO SNUFによって指定された不定様式の省略時のサインオンが使用されます。

*YES SNUFによって指定された定様式INIT-SELFが使用されます。

ヘッダー処理 (HDRPROC)

顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)および情報管理システム／仮想記憶(IMS/VS)の両方の場合に、受け取った機能管理ヘッダーを適用業務プログラムに渡すかどうかを指定します。このパラメーターはSNAアップライン機能(SNUF)通信タイプにだけ適用されます。指定されたプログラム装置でICFプログラム装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドが実行されない場合、またはこのパラメーターが一時変更されない場合には、HDRPROC(*SYS)が使用されます。

***SYS** SNUFはデータをプログラムに渡す前に機能管理ヘッダーを除去します。

***USER**

機能管理ヘッダーは渡されます。

メッセージ保護 (MSGPTC)

CICS/VSとIMS/VSの両方の場合に、メッセージ保護がこのセッションで使用されるかどうかを指定します。このパラメーターはSNUF通信タイプにだけ適用されます。ADDICFDEVEコマンドが、指定されたプログラム装置に対して実行されない場合には、MSGPTC(*YES)が使用されます。

***YES** メッセージ保護が使用されます。SNUFは応答されるまでメッセージを保管し、エラーが起こった場合には、再同期化しようとしています。バッチ活動プロンプト (BATCHパラメーター) に*NOを指定した時にだけ*YESが有効です。

***NO** メッセージ保護を使用しません。

エミュレーション装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値(要素)のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

***NONE**

このプログラム装置項目は、3270データ・ストリームの送信および受信には使用されません。

装置タイプ値は、次の通りです。

3278 データ・ストリームは3278, 3277,または3279表示装置用です。

3284 データ・ストリームは3284印刷装置用です。

3286 データ・ストリームは3286印刷装置用です。

3287 データ・ストリームは3287印刷装置用です。

3288 データ・ストリームは3288印刷装置用です。

3289 データ・ストリームは3289印刷装置用です。

データ形式の値は次の通りです。

エミュレーション装置のタイプを指定すると、次のエミュレーション装置のデータ形式の1つを指定することができます。

***UNFORMAT**

不定様式の3270データ・ストリームが送信または受信されます。ユーザーの適用業務プログラムは、データ・ストリームを画面イメージまたは印刷装置イメージに変換しなければなりません。

***FIELD**

定様式3270データ・ストリームが送信または受信されます。定様式の3270データ・ストリームには、フィールド定義を含む画面イメージまたは印刷装置イメージが入っています。フィールド定義は、フィールドの位置および特性を示します。*FIELDが有効なのは、BATCHパラメーターに*NOを指定した場合だけです。

***NOFIELD**

定様式3270データ・ストリームが送信または受信されます。定様式3270データ・ストリームには、フィールド定義のない表示画面イメージまたは印刷装置イメージが入っています。*NOFIELDが有効なのは、BATCHパラメーターに*NOを指定した場合だけです。

***EXTFIELD**

定様式3270データ・ストリームが送信または受信されます。定様式3270データ・ストリームには、フィールド定義が後に続く表示画面イメージが入っています。フィールド定義は、フィールドのロケーションおよび特性を示します。*EXTFIELDは、BATCHパラメーターに*NOを指定し、エミュレーション装置のタイプとして3278を指定した場合にだけ、有効です。

トップ

会話タイプ (CNVTYPE)

適用業務プログラムを設計するための会話タイプを指定します。このパラメーターは、拡張プログラム間通信(APPC)通信タイプに対してのみ有効です。指定されたプログラム装置に対してADDICFDEVEコマンドが実行されず、このパラメーターが一時変更されない場合には、CNVTYPE(*SYS)が使用されます。APPC通信タイプの詳細情報については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)で調べることができます。

***SYS** LU 6.2アーキテクチャーのAPPCマップ式会話サポートが使用されます。

***USER**

LU 6.2アーキテクチャーのAPPC基本会話サポートが使用されます。

***SRCPGM**

ターゲット・プログラムはソース・プログラムで指定された会話タイプを受け入れます。

トップ

ブロック化のタイプ (BLOCK)

レコードを送信時に組み合わせてブロック化するかどうかの制御をシステムまたはユーザーのどちらが行なうかを指定します。このパラメーターはBSCSEL通信タイプに適用されます。ADDICFDEVEコマンドが、指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、BLOCK(*DEVD)が使用されます。

このパラメーターを使用して、次のレコード様式条件のいずれかを指定することができます。

- ブロック化またはブロック解除なし: DDSの中で記述されているレコード様式がレコードおよびブロックの両方の様式となります。
- ユーザーによるブロック化/ブロック解除: システムのレコード形式を記述するために必要なBSCSEL制御を指定してください。
- レコード分離文字を用いたシステムによるブロック化: ブロック内のレコード境界を判別するためにシステムが使用するレコード分離文字を指定してください。
- 固定長レコードのシステムによるブロック化: システムは固定長のレコードを使用し、それにしたがってレコードのブロック化またはブロック解除を行いません。

*NONEまたは*USER以外の値をパラメーターに指定した場合には、レコードは、必要に応じてシステムにより出力時にブロック化され、入力時にブロック解除されます。

*DEVD

装置記述のブロック・オプションが使用されます。

*NONE

システムによるブロック化またはブロック解除は行なわれません。

***ITB** レコードは、中間テキスト・ブロック(ITB)制御文字の位置に基づいて、ブロック化またはブロック解除されます。入力ファイルの場合には、次の中間テキスト・ブロック文字を位置づけることによって、レコードが区切られます。ブロックを区切るためには、中間テキスト・ブロック文字として、テキストの終わりまたは伝送ブロックの終わり文字が使用されます。出力ファイルの場合には、レコードの後にITB文字が追加されます。そのITB文字がブロックの最後の文字である場合には、テキスト終結または伝送ブロック終結文字で置き換えられます。

***IRS** レコードは、レコード間分離文字(IRS)の位置に基づいて、ブロック化またはブロック解除されません。入力ファイルの場合には、レコードは次のIRS文字を見つけることによって区切られます。出力ファイルの場合には、レコードの後にIRS文字が追加されます。

*NOSEP

装置との間で送受信されるブロックにレコード分離文字は含まれません。システムは、DDSの様式仕様の指定にしたがって、固定長レコードを用いてレコードのブロック化および非ブロック化を行いません。

*USER

プログラムが、レコード分離文字、BSCSELフレーム指示文字、透過伝送文字、およびその他のレコードの送信に必要なすべての制御文字を与えます。

***SEP** レコードは、ユーザー指定のレコード分離文字の位置に基づいて、ブロック化またはブロック解除されます。入力ファイルの場合には、レコードは次のレコード分離文字を見つけることによって区切られます。出力ファイルの場合には、レコードの後にレコード分離文字が追加されます。

X'1E' レコード分離文字X'1E'が使用されます。

レコード分離文字

固有で、長さが1バイトのレコード分離文字を指定してください。レコード分離文字は、

BLOCK(*SEP X'FD')のように2桁の16進文字として指定するか、あるいは BLOCK(*SEP @)のように単一文字として指定することができます。レコード分離文字が指定されていない場合には、レコード分離文字としてX'1E'が使用されます。

[トップ](#)

レコード長 (RCDLEN)

送受信されるデータの最大レコード長を（バイト数で）指定します。このパラメーターはSNUFおよびBSCSEL通信タイプにだけ適用されます。ADDICFDEVEコマンドが、指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、RCDLEN(*DEVD)が使用されます。

*DEVD

装置記述に指定されたレコード長が使用されます。指定されたレコード長よりレコードが長い場合には、レコードの送受信時に実行時エラーが起こります。

レコード長

この装置ファイルに使用する最大レコード長を指定してください。この値は、少なくとも送信される最大レコード・サイズでなければなりません。レコードが指定したレコード長より長い場合には、レコードが送受信される時に実行時エラーが起こります。SNUF通信の場合には、有効な値の範囲は1 - 32767バイトです。BSCSEL通信の場合には、最大レコード長は8192バイトです。

[トップ](#)

ブロックの長さ (BLKLEN)

送信されるデータの最大ブロック長（バイト数）を指定します。このパラメーターはBSCSELおよびSNUF通信タイプにのみ適用されます。ICFプログラム装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドが、指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいは一時変更されない場合には、このパラメーターには省略時の値として*DEVDが使用されます。

*DEVD

装置記述に指定されたブロック長が使用されます。

ブロック長

この装置ファイルが使用される時に送信されるレコードの最大ブロック長を指定します。この値は、少なくとも送信される最大レコード・サイズでなければなりません。SNUF通信の場合には、有効な値の範囲は1-32767です。BSCSEL通信の場合には、最大レコード長は8192です。

[トップ](#)

透過モード伝送 (TRNSPY)

テキストを透過テキスト・モードで送るかどうかを指定します。透過テキスト・モードでは、256個の拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードをすべて送信することができます。パックまたは2進データ・フィールドを送る時には、この機能を使用してください。このパラメーターはBSCSEL通信タイプにだけ適用されます。指定されたプログラム装置に対してADDICFDEVEコマンドが実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されていない場合には、TRNSPY(*DEVD)が使用されます。

***DEV D**

装置記述に指定されたテキスト透過伝送オプションが使用されます。

***NO** テキスト透過伝送を使用しません。

YES** テキスト透過伝送が使用され、これにより、256通りのEBCDIC文字コードをすべて送信することができます。YES**は、**ブロック化のタイププロンプト** (BLOCKパラメーター) に***NONE**、***NOSEP**、または***USER**が指定されている場合にのみ有効です。

トップ

データ圧縮 (DTACPR)

BSCCELデータのブランクが出力では圧縮され、入力では圧縮解除されるかどうかを指定します。**透過モード伝送プロンプト** (TRNSPYパラメーター) に***YES**が指定されている場合には、***YES**を指定することはできません。このパラメーターはBSCCEL通信タイプにだけ適用されます。指定されたプログラム装置に対するADDICFDEVEコマンドが実行されず、このパラメーターが一時変更されない場合には、DTACPR(***DEV D**)が使用されます。

***DEV D**

装置記述に指定されているデータ圧縮オプションが使用されます。

***NO** データの圧縮または圧縮解除は行なわれません。

***YES** データは出力の場合には圧縮され、入力の場合には圧縮解除されます。

トップ

後書きブランクの切り捨て (TRUNC)

後書きブランクを出力レコードから除去するかどうかを指定します。**ブロック化のタイププロンプト** (BLOCKパラメーター) に***NOSEP**が指定されている場合には、***YES**を指定することはできません。***YES**が指定され、**データ圧縮プロンプト** (DTACPRパラメーター) にも***YES**が指定されている場合には、切り捨ては無視されます。このパラメーターはBSCCEL通信タイプにだけ適用されます。指定されたプログラム装置に対するADDICFDEVEコマンドが実行されず、このパラメーターが一時変更されない場合には、DTACPR(***DEV D**)が使用されます。

***DEV D**

装置記述に指定されている後書きブランクが使用されます。

***NO** 後書きブランクは出力レコードから除去されません。

***YES** 後書きブランクは出力レコードから除去されます。

トップ

オーバーフロー・データ (OVRFLWDTA)

オーバーフロー・データを破棄するかまたは保管するかを指定します。

***DISCARD**

オーバーフロー・データは保管されません。

***RETAIN**

オーバーフロー・データは保管されます。

[トップ](#)

グループ区切りのタイプ (GRPSEP)

データ・セットおよび文書などのデータのグループに対する区切り文字を指定します。このパラメーターはBSCSEL通信タイプにだけ適用されます。ADDICFDEVEコマンドが、指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、GRPSEP(*DEVD)が使用されます。

***DEVD**

装置記述に指定されているグループ区切り文字オプションが使用されます。

***EOT** データ・グループの区切り文字として、BSCSEL制御文字EOT（伝送終結）が使用されます。

***DEV3740**

ヌル・レコード(STXETX)がデータ・グループ区切り記号として使用されます。

***OFCSYS**

データ・グループの区切り記号として、BSCSEL制御文字ETX（伝送終結）で送信されるブロックが使用されます。

[トップ](#)

リモートBSCSEL (RMTBSCSEL)

BSCSELセッションのタイプがBSCSELシステムのものであるかどうかを指定します。このパラメーターはBSCSEL通信タイプにだけ適用されます。ADDICFDEVEコマンドが、指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいはこのパラメーターが一時変更されない場合には、RMTBSCSEL(*DEVD)が使用されます。

***DEVD**

装置記述に指定されたBSCSELのオプションが使用されます。

***NO** *NOの属性は、リモート・システムがBSCSELコマンドまたはメッセージを認識できないことを示します。ほとんどの場合には、3741データ入力端末、オフィス・システム6、5230データ収集システム、またはシステム/38などのリモート・システムと通信する場合に*NOが使用されます。

***YES** リモート・システムは、BSCSELトランザクション開始コマンド、トランザクション終了コマンド、およびオンライン・メッセージを認識することができます。多くの場合には、*YESは、リモート・システムが別のISERIESコンピューター、AS/400システム、SYSTEM/38、SYSTEM/36、またはBSCSELサポートのあるSYSTEM/34であることを示します。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

獲得されるセッションに対する回線の接続方法を指定します。このパラメーターはBSCCEL通信タイプにのみ有効です。ICF装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドが、指定されたプログラム装置に対して実行されないか、あるいは一時変更されない場合には、このパラメーターには省略時の値として*CTLDが使用されます。

*CTLD

制御装置記述に指定された初期接続オプションが使用されます。

*DIAL ローカル・システムが呼び出しを開始します。

*ANS リモート・システムが呼び出しを開始し、ローカル・システムが呼び出しに返答します。

[トップ](#)

他の一時変更からの保護 (SECURE)

このプログラム装置が、前のプログラムで出された一時変更コマンドの影響から保護されるかどうかを指定します。

*NO このプログラム装置一時変更は他のプログラム装置一時変更から保護されません。その値は前のプログラムで出されたプログラム装置一時変更コマンドの影響によって一時変更することができます。

*YES このプログラム装置一時変更は前のプログラムで出されたプログラム装置一時変更コマンドの影響から保護されます。

[トップ](#)

有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)

一時変更の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

*ACTGRPDFN

一時変更の有効範囲は、コマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

*CALLLVL

一時変更の有効範囲は、現行の呼び出しレベルによって決まります。現行の呼び出しレベルと同じか、またはそれ以上の呼び出しレベルで実行されたすべてのオープン操作は、この一時変更によって影響を受けます。

*JOB 一時変更の有効範囲は、一時変更が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

OVRICFDEVEの例

例1:レコード・フォーマット選択属性での装置項目の一時変更

```
OVRICFDEVE  PGMDEV(BSCCEL2)  RMTLOCNAME(BSCNYC)
              FMTSLT(*RECID)
```

このコマンドは、BSCCEL2という名前のプログラム装置を、ジョブと関連したICFファイルの、対応するBSCNYCという名前のリモート・ロケーションで一時変更します。プログラム装置は、属性FMTSLT(*RECID)で一時変更されます。

例2:レコード・フォーマット選択と変換タイプ属性での装置項目の一時変更

```
OVRICFDEVE  PGMDEV(APPC1)  RMTLOCNAME(*REQUESTER)
              FMTSLT(*RMTFMT)  CNVTYPE(*SYS)
```

このコマンドは、APPC1という名前のプログラム装置項目を、*REQUESTERというリモート・ロケーション名で一時変更します。プログラム装置項目は、FMTSLT(*RMTFMT)およびCNVTYPE(*SYS)属性で一時変更されます。

例3:関連したICFファイルの項目の一時変更

```
OVRICFDEVE  PGMDEV(JOE)  RMTLOCNAME(LU0MPLS)
```

このコマンドは、JOEという名前のプログラム装置項目を、ジョブと関連したICFファイルの、LU0MPLSという名前のリモート・ロケーションで一時変更します。

例4:通信装置の指定

```
OVRICFDEVE  PGMDEV(APPC)  RMTLOCNAME(APPCMPLS)  DEV(MPLSLINE2)
```

このコマンドは、装置MPLSLINE2を使用して、APPCという名前のプログラム装置をAPPCMPLSという名前のリモート・ロケーションで一時変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OVRICFDEVE

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

ICFファイル一時変更 (OVRICFF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム間通信機能ファイル一時変更(OVRICFF)コマンドは、プログラム中で指定されたファイルを一時変更し、処理中のファイルの特定のパラメーターを一時変更します。このコマンドによって一時変更されたパラメーターは、ファイル記述、プログラム、または後から実行するその他のファイル一時変更コマンドに指定することができます。

プログラム中で指定されたファイルを一時変更する場合には、そのファイルの名前はFILEパラメーターで指定し、一時変更するファイルの名前（処理中のファイル）はTOFILEパラメーターで指定します。

このコマンドはまた、パラメーターを指定して、一時変更するファイルのファイル記述に含まれている値を一時変更することができます。プログラム中で指定されたファイルを置き換えながファイルの特定のパラメーターを一時変更する場合には、そのファイルの名前をFILEパラメーターに指定し、TOFILEパラメーターに*FILEを指定します。その後で一時変更するパラメーターはOVRICFFコマンドのその他のパラメーターによって指定します。指定されていないパラメーターは、ファイル記述、プログラム、または後から実行するその他の一時変更コマンドに指定されたパラメーターに影響を与えません。

一時変更処理の実行方法の詳細はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピック、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715),および印刷装置 プログラミング (SD88-5073)にあります。

注: このコマンドを使用しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更中のファイル	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	ICFファイルの一時変更	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ICFファイルの一時変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACQPGMDEV	プログラム装置獲得	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 獲得するプログラム装置	文字値, *NONE	
MAXRCDLEN	最大レコード長	整数, *CALC	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	1-32767, *NOMAX, *IMMED	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*NO	オプション
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO, *YES	オプション
OVRSCOPE	有効範囲の一時変更	*ACTGRPDFN, *CALLLVL, *JOB	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDFN, *JOB	オプション

トップ

一時変更中のファイル (FILE)

この一時変更コマンドが適用されるファイル名（最大10文字）を指定します。**ICFファイルの一時変更**プロンプト（TOFILEパラメーター）に*FILEが指定されている時には、指定するファイルはシステム間通信機能(ICF)ファイルでなければなりません。そうでない場合には、任意の装置ファイルまたはデータベース・ファイル名を指定することができます。

トップ

ICFファイルの一時変更 (TOFILE)

一時変更中のファイルプロンプト（FILEパラメーター）に指定されたファイルの代わりに使用されるICFファイルの修飾名（最大10文字）を指定するか、あるいは*FILEが指定された場合には、このコマンドのパラメーターによって特定の属性が一時変更されることを指定します。このコマンドのパラメーターは、ICFファイルまたはプログラム内の他の値を一時変更します。

***FILE** 一時変更中のファイルプロンプト（FILEパラメーター）に指定されたICFファイルの一部のパラメーターは、このコマンドで指定した値によって一時変更されます。

ICF通信ファイル

一時変更されるファイルの代わりに使用されるICFファイル名とライブラリーを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ICFファイル記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ICFファイル記述が入っているライブラリーを指定します。

トップ

プログラム装置獲得 (ACQPGMDEV)

ファイルのオープン時に、ファイルによって獲得するプログラム装置を指定します。このパラメーターは、ICFファイル、プログラム、または後で実行される他のOVRICFFコマンドの値を一時変更します。

*NONE

装置の獲得なしにファイルがオープンされます。このファイルで使用されるすべての装置は、それらに対して入出力操作が行なわれる前に明示的に獲得されていなければなりません。

プログラム装置名

ファイルがオープンされる時点で獲得されるプログラム装置名を指定してください。この名前は、ファイルがオープンされる前にプログラム装置名としてICFプログラム装置項目追加 (ADDICFDEVE)コマンドまたはICFプログラム装置項目一時変更(OVRICFDEVE)コマンドに指定されていなければなりません。

[トップ](#)

最大レコード長 (MAXRCLEN)

ファイルのオープン時に使用する最大レコード長を指定します。このパラメーターは、ICFファイル、プログラム、または後で実行される他のOVRICFFコマンドの値を一時変更します。

*CALC

ファイルがオープンされる時点で、ファイルについて計算された値が使用されます。

レコード長

ファイルのオープン時に使用されるレコード長を（文字数で）指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。レコード長がファイルで計算された値より小さい場合には、計算値が使用されません。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** クラス記述で指定された省略時の待機時間が、ファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

秒数 プログラムが、ファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

高水準言語プログラムの複数装置ファイルに対する送信勧誘された装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定します。どんなときにファイルが複数装置ファイルとして取り扱われるかを判別するには、高水準言語解説書を参照してください。読み取り操作を実行しているプログラムは、現在ファイルにアクセス中のすべての送信勧誘済み装置からの入力を待ちます。送信勧誘されたプログラム装置のいずれからも指定された時間内にレコードが戻されなかった場合には、通知メッセージがプログラムに送られます。このパラメーターは、単一装置に対して指示された入力操作では何の効果もありません。

*NOMAX

システムが操作の完了を待機する時間に制限はありません。

*IMMED

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

秒数 プログラムが、送信勧誘プログラム装置からの読み取り操作の完了を待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによってファイルがオープンされた時に、この装置ファイルのレコード様式のレベル識別名を検査するかどうかを指定します。ファイルのオープン中に、システムはレベル識別コードを検査して、プログラムが使用する各レコード様式のレコード様式識別コードと装置ファイル内の対応する識別コードと比較します。同じレコード様式名が複数のファイルに存在することができるため、各レコード様式にはその様式の作成時に固有の内部システム識別コードが与えられます。

注: このコマンドでは、レベル検査を*NOから*YESに一時変更することはできません。

***NO** ファイルのオープン時にレベル識別コードの検査は行なわれません。

[トップ](#)

他の一時変更からの保護 (SECURE)

このファイルが、前のファイル一時変更コマンドの影響から保護されるかどうかを指定します。

***NO** このファイルは他のファイル一時変更から保護されません。その値は前に開始されたファイル一時変更コマンドの影響によって一時変更することができます。

***YES** このファイルは、以前に開始された他のファイル一時変更コマンドの影響から保護されます。

[トップ](#)

有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)

一時変更の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

*ACTGRPDFN

一時変更の有効範囲は、コマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラム

の呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

***CALLLVL**

一時変更の有効範囲は、現行の呼び出しレベルによって決まります。現行の呼び出しレベルと同じか、またはそれ以上の呼び出しレベルで実行されたすべてのオープン操作は、この一時変更によって影響を受けます。

***JOB** 一時変更の有効範囲は、一時変更が行なわれるジョブとなります。

トップ

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。指定するデータ待ち行列は最小長80桁でなければなりません。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないため、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。

注: このパラメーターにキー順データ待ち行列は使用できません。キー順データ待ち行列が指定された場合には、実行時エラーが起こります。しかし、コマンドが出される時にデータ待ち行列が存在している必要はないため、このエラーにフラグは付けられません。

データ待ち行列機能の詳細はISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックにあります。

***NONE**

データ待ち行列は指定されません。

データ待ち行列名

項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データ待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

トップ

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

トップ

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

***ACTGRPDFN**

オープン操作の有効範囲は、OVRICFFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。

***JOB** オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。

トップ

OVRICFFの例

```
OVRICFF FILE(ICFHIST) TOFILE(PRSNNL/ICFCURT)
```

このコマンドは、ICFHISTという名前のファイルをライブラリーPRSNL中のICFCURTという名前のICFファイルに一時変更します。

トップ

エラー・メッセージ： OVRICFF

***ESCAPE**メッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

トップ

メッセージ・ファイル一時変更 (OVRMSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイル一時変更(OVRMSGF)コマンドは、プログラムで使用されるメッセージ・ファイルを一時変更します。メッセージが送信または検索される場合、および一時変更されたメッセージ・ファイルが指定された場合にはいつでも、一時変更先の (TOMSGFパラメーターに指定された) メッセージ・ファイルが使用されます。

一時変更先のメッセージ・ファイルには一時変更されるファイルに含まれるすべてのメッセージが含まれている必要はありません。メッセージが受信または検索され、一時変更先のメッセージ・ファイルにメッセージ識別コードが見つからない場合には、一時変更されるメッセージ・ファイルからその識別コードが検索されます。一時変更先のメッセージ・ファイルを一時変更することができ、その結果一時変更の連鎖が起こります。この一時変更の連鎖により、メッセージが受信または検索される時に検索されるメッセージ・ファイルのリストが提供されます。プログラムでは最大30のメッセージ・ファイル一時変更を指定することができます。

制約事項:

1. マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは、最初のスレッドからしか出すことができません。
2. マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは、最初のスレッドで実行されるメッセージ・ファイル参照にのみ影響します。2次スレッドで実行されるメッセージ・ファイル参照には影響がありません。

ファイルの一時変更の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピック、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715),および印刷装置 プログラミング (SD88-5073)にあります。

注: このコマンドを使用しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGF	一時変更されるメッセージ・ファイル	名前	必須, 定位置 1
TOMSGF	メッセージ・ファイルへの一時変更	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイルへの一時変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO, *YES	オプション

一時変更されるメッセージ・ファイル (MSGF)

この一時変更コマンドが適用されるプログラムで使用されているメッセージ・ファイルの名前を指定します。

トップ

メッセージ・ファイルへの一時変更 (TOMSGF)

一時変更されるメッセージ・ファイルプロンプト (MSGFパラメーター) に指定されたメッセージ・ファイルの代わりに使用するメッセージ・ファイルの名前およびライブラリーを指定するか、あるいは名前が同じである場合には、他の一時変更からの保護プロンプト (SECUREパラメーター) に指定する値をそのメッセージ・ファイルに使用することを指定します。

メッセージ・ファイル名

一時変更されたメッセージ・ファイルの代わりに使用するメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

他の一時変更からの保護 (SECURE)

前の呼び出しで使用されたメッセージ・ファイル一時変更コマンドの影響から、このファイルを保護するかどうかを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、*NOを指定した場合と同じように処理が行なわれます。

***NO** このメッセージ・ファイルは他のファイル一時変更から保護されません。その値は前の呼び出しで使用されたメッセージ・ファイル一時変更の影響によって一時変更することができます。

***YES** このメッセージ・ファイルは、以前の呼び出しで出されたメッセージ・ファイル一時変更の影響から保護されます。

トップ

OVRMSGFの例

OVRMSGF MSGF (WSUSRMSG) TOMSGF (ORDENTMSGD)

この一時変更コマンドによって、ORDENTMSGDに保管されるメッセージの省略時値がWSUSRMSGに保管される省略時値の代わりに使用されます。(これには、ワークステーション・ユーザーに設計されるメッセージが含まれます)。このコマンドの結果、配列項目ユーザーによって受け取られるメッセージは、自身の環境で調整されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OVRMSGF

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

印刷装置ファイル一時変更 (OVRPRTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置ファイル一時変更(OVRPRTF)コマンドを使用して、(1)プログラムに指定されているファイルを一時変更する（置き換える）か、(2)プログラムで使用されるファイルの一部のパラメーターを一時変更するか、あるいは(3)プログラムで使用されるファイルの一時変更（置き換え）および処理されたファイルの一部のパラメーターを一時変更します。このコマンドによって一時変更されるパラメーターは、ファイル記述、プログラム、または後続のコマンドで実行される他のファイル一時変更コマンドで指定されたものです。

プログラムで指定したファイルが一時変更される場合には、そのファイルの名前をFILE パラメーターに指定し、一時変更先のファイル（処理済みのファイル）の名前をTOFILE パラメーターに指定します。OVRPRTFコマンドには、一時変更先のファイルのファイル記述に含まれる値を一時変更するパラメーターも指定します。プログラムに指定されたファイルが置き換えられないが、そのファイルの一部のパラメーターを一時変更する場合には、FILEパラメーターにそのファイルの名前を指定し、TOFILEパラメーターに*FILEを指定します。一時変更されるパラメーターは、OVRPRTFコマンドの他のパラメーターで指定します。指定しないパラメーターはファイル記述、プログラム、または後で実行される他のファイル一時変更コマンドに指定されたパラメーターに影響しません。

制約事項:

- マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは、最初のスレッドからしか出すことができません。
- マルチスレッド・ジョブでは、活動化グループまたは活動化ジョブの有効範囲を設定した一時変更だけが2次スレッドで実行されるオープンに影響します。

ファイルの一時変更の詳細は、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)にあります。

注: このコマンドを使用しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更中のファイル	名前, *PRTF	必須, 定位置 1
TOFILE	印刷装置ファイルへの一時変更	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 印刷装置ファイルへの一時変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 印刷装置	名前, *SYSVAL, *JOB	

キーワード	記述	選択項目	注
DEVTYPE	印刷装置タイプ	*SCS, *IPDS, *USERASCII, *AFPDS, *LINE, *AFPDSLIN	オプション
PAGESIZE	ページ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: ページの長さ	0.001-255.0	
	要素 2: ページ幅	0.001-378.0	
	要素 3: 測定方法	* ROWCOL , *UOM	
LPI	行/インチ	3.0, 4.0, 6.0, 7.5, 7.5, 8.0, 9.0, 12.0	オプション
CPI	1インチ当たりの文字数	5.0, 10.0, 12.0, 13.3, 13.3, 15.0, 16.7, 16.7, 18.0, 20.0	オプション
FRONTMGN	フロント・マージン	単一値: *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 下方向オフセット	0.0-57.79	
	要素 2: 横方向オフセット	0.0-57.79	
BACKMGN	バック・マージン	単一値: *FRONTMGN, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 下方向オフセット	0.0-57.79	
	要素 2: 横方向オフセット	0.0-57.79	
OVRFLW	オーバーフロー行番号	1-255	オプション
FOLD	レコードの折り返し	*NO, *YES	オプション
RPLUNPRT	印刷不能文字の処置	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 文字の置き換え	*YES	
	要素 2: 置き換え文字	X'40'-X'FE', X'40'	
ALIGN	ページの位置合わせ	*NO, *YES	オプション
DRAWER	ソース用紙入れ	1-255, *E1, *FORMDF	オプション
OUTBIN	出力ビン	1-65535, *DEV	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FONT	フォント	単一値: *CPI, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: 識別コード	文字値, 2, 002, 3, 003, 5, 005, 8, 008, 10, 010, 11, 011, 12, 012, 13, 013, 18, 018, 19, 019, 20, 020, 21, 021, 25, 025, 26, 026, 30, 030, 31, 031, 36, 036, 38, 038, 39, 039, 40, 040, 41, 041, 42, 042, 43, 043, 44, 044, 46, 046, 49, 049, 50, 050, 51, 051, 52, 052, 55, 055, 61, 061, 62, 062, 63, 063, 64, 064, 66, 066, 68, 068, 69, 069, 70, 070, 71, 071, 72, 072, 74, 074, 75, 075, 76, 076, 78, 078, 80, 080, 84, 084, 85, 085, 86, 086, 87, 087, 91, 091, 92, 092, 95, 095, 96, 096, 98, 098, 99, 099, 101, 102, 103, 109, 110, 111, 112, 154, 155, 157, 158, 159, 160, 162, 163, 164, 167, 168, 173, 174, 175, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 194, 195, 204, 205, 211, 212, 221, 222, 223, 225, 226, 229, 230, 232, 233, 234, 244, 245, 247, 248, 249, 252, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 279, 281, 282, 285, 290, 300, 304, 305, 306, 307, 318, 319, 400, 404, 416, 420, 424, 428, 432, 434, 435, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 1051, 1053, 1056, 1351, 1653, 1803, 2103, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 4407, 4427, 4535, 4919, 4939, 5047, 5067, 5687, 5707, 5815, 5835, 5943, 6199, 6219, 6327, 6347, 8503, 8523, 8631, 8651, 8759, 8779, 8887, 8907, 12855, 12875, 16951, 16971, 17079, 17099, 33335, 33355, 33463, 33483, 33591, 33601, 33719, 33729, 34103, 34123, 34231, 34251, 37431, 41783, 41803	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
FORMFEED	用紙送り	*DEVD, *CONT, *CUT, *CONT2, *AUTOCUT	オプションナル
PRTQLTY	印刷品質	*STD, *DEVD, *DRAFT, *NLQ, *FASTDRAFT	オプションナル
CTLCHAR	制御文字	*NONE, *FCFC, *MACHINE	オプションナル
CHLVAL	チャンネル値	単一値: *NORMAL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 要素リスト	オプションナル
	要素 1: チャンネル	1-12	
	要素 2: チャンネルの行番号	要素リスト	
	要素 1: 行	1-255	
FIDELITY	精度	*CONTENT, *ABSOLUTE	オプションナル
CHRID	文字識別コード	単一値: *DEVD, *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DECfmt	10進数形式	*FILE, *JOB	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	注
FNTCHRSET	フォント文字セット	単一値: *FONT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 文字セット	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 文字セット	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: コード・ページ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: コード・ページ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
要素 3: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE		
CDEFNT	コード化フォント	単一値: *FNTCHRSET その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: コード化フォント	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: コード化フォント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
PAGDFN	ページ定義	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ページ定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FORMDF	用紙定義	単一値: *NONE, *DEVD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 用紙定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
AFPCHARS	AFP文字	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
TBLREFCHR	テーブル参照文字	*NO, *YES	オプション
PAGRTT	ページ回転度数	*AUTO, *DEVD, *COR, 0, 90, 180, 270	オプション
MULTIUP	面当たりページ数	1-4, 1	オプション
REDUCE	出力の減少	*TEXT, *NONE	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *JOB, *BLANK, X''	オプション
JUSTIFY	ハードウェア位置調整	0, 50, 100	オプション
DUPLEX	両面印刷	*NO, *YES, *TUMBLE, *FORMDF	オプション
UOM	単位	*INCH, *CM	オプション
FRONTOVL	前面オーバーレイ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オーバーレイ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 下方向オフセット	0.0-57.79, 0	
	要素 3: 横方向オフセット	0.0-57.79, 0	

キーワード	記述	選択項目	注
BACKOVL	背面オーバーレイ	単一値: *FRONTOVL, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オーバーレイ	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オーバーレイ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 下方向オフセット	0.0-57.79, <u>0</u>	
	要素 3: 横方向オフセット	0.0-57.79, <u>0</u>	
	要素 4: コンスタント・バック	*NOCONSTANT, *CONSTANT	
CVTLINDTA	行データ変換	*NO, *YES	オプション
IPDSPASTHR	IPDSパススルー	*YES, *NO, *DEV	オプション
USRRSCLIBL	USER資源ライブラリー・リスト	単一値: *DEV, *NONE, *JOBLIBL, *CURLIB その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
CORNERSTPL	コーナー・ステーブルとじ	*NONE, *BOTRIGHT, *TOPRIGHT, *TOPLEFT, *BOTLEFT, *DEV	オプション
EDGESTITCH	平とじ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 基準線	*BOT, *RIGHT, *TOP, *LEFT, *DEV	
	要素 2: 基準線オフセット	0.0-57.79, *DEV	
	要素 3: ステーブルの数	1-122, *DEV	
	要素 4: ステーブル・オフセット	値 (最大 122 回の繰り返し): 0.0-57.79, *DEV	
SADLSTITCH	中とじ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 基準線	*TOP, *LEFT, *DEV	
	要素 2: ステーブルの数	1-122, *DEV	
	要素 3: ステーブル・オフセット	値 (最大 122 回の繰り返し): 0.0-57.79, *DEV	
FNTRSL	形式設定用フォント解像度	*DEV, *SEARCH, 240, 300	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	*YES, *NO	オプション
SPOOL	データのスパール	*YES, *NO	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *DEV, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FORMTYPE	用紙タイプ	文字値, *STD	オプション
COPIES	コピー枚数	1-255	オプション
PAGERANGE	印刷ページ範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	整数, 1, *ENDPAGE	
	要素 2: 終了ページ	整数, *END	
MAXRCDS	スパール出力レコードの最大数	1-999999, *NOMAX	オプション
FILESEP	ファイル区切り	0-9	オプション
SCHEDULE	スパール出力のスケジュール	*JOBEND, *FILEEND, *IMMED	オプション
HOLD	スパール・ファイルの保留	*NO, *YES	オプション
SAVE	スパール・ファイルの保管	*NO, *YES	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	*JOB, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
USRDTA	ユーザー・データ	文字値, *SOURCE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SPLFOWN	スプール・ファイル所有者	*CURUSRPRF, *JOB, *CURGRPPRF, *JOBGRPPRF	オプション
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNDTA	ユーザー定義データ	文字値, *NONE	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *FILE, *PSFCFG, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC	
SPLFNAME	スプール・ファイル名	名前, *FILE	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
IGCEXNCHR	外字	*YES, *NO	オプション
IGCCHRRTT	DBCSの回転	*NO, *YES	オプション
IGCCPI	インチ当たりのDBCS数	*CPI, *CONDENSED, 5, 6, 10	オプション
IGCSOSI	DBCSのSO/SIのスペース	*YES, *NO, *RIGHT	オプション
IGCCDEFNT	DBCSコード化フォント	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: DBCSコード化フォント	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: DBCSコード化フォント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*NO	オプション
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO, *YES	オプション
OVRSCOPE	有効範囲の一時変更	*ACTGRPDFN, *CALLLVL, *JOB	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDFN, *JOB	オプション

トップ

一時変更中のファイル (FILE)

この一時変更コマンドの適用先のプログラムによって使用中のファイルの名前を指定します。印刷装置ファイルへの一時変更プロンプト (TOFILEパラメーター) に*FILEが指定されている場合には、指定するファイルは印刷装置ファイルでなければなりません。そうでない場合には、装置ファイル名またはデータベース・ファイル名を指定します。

***PRTF** *PRTFファイル一時変更が適用されます。この一時変更は、すでに特定の一時変更が含まれている印刷装置ファイルを除き、オープンされているすべての印刷装置ファイルに適用されます。たとえば、*PRTF一時変更が呼び出しレベル3で出され、QSYSPRTについて一時変更が呼び出しレベル3で出された場合には、QSYSPRTには特定の一時変更があるので、それを除いて、オープンされているすべての印刷装置ファイルに*PRTF一時変更が適用されます。

ファイル一時変更名

呼び出しレベルの一時変更が適用される1つまたは複数の一時変更ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

印刷装置ファイルへの一時変更 (TOFILE)

一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) で指定されたファイルの代わりに使用される印刷装置ファイルの名前を指定します。また、*FILEが指定された場合には、特定の属性がこのコマンドで指定されたパラメーターによって一時変更されることを指定します。このOVRPRTFコマンドで指定されたパラメーターは、印刷装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出された(OVRPRTF)コマンドで指定された同じパラメーターを一時変更します。

***FILE** 一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) に名前を指定した印刷装置ファイルは、このコマンドに指定された値により対応するパラメーターが一時変更されます。

印刷装置ファイル名

置き換えられるファイルの代わりに使用する印刷装置ファイルの名前とライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが使用されない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

装置 (DEV)

印刷装置記述の名前を指定します。非スプール出力の場合には、これは印刷出力を作成するために使用される印刷装置を識別します。スプール出力の場合には、ファイルはOUTQパラメーターによって決まる出力待ち行列に入れられます。OUTQ(*DEV)が使用された場合には、ファイルは装置と同じ名前をもつ出力待ち行列に入れられます。

*SYSVAL

ジョブが開始された時点でのシステム値QPRTDEVの値が、印刷装置として使用されます。

***JOB** 印刷装置はジョブと対応した印刷装置です。

装置名 印刷出力ファイルで使用される装置の名前を指定してください。この装置名は、装置記述により、システム上ですでに認識されているものでなければなりません。

2バイト文字セットに関する考慮事項: 2バイト文字セット(DBCS)データを含むファイルを印刷する時には、DBCS印刷装置(5553, 5583)を指定してください。

[トップ](#)

印刷装置タイプ (DEVTYPE)

印刷装置ファイルに対して作成されるデータ・ストリームのタイプを指定します。このパラメーターは、結果のデータ・ストリームが高機能印刷装置データ・ストリーム(IPDS)であるか、あるいはSNA文字ストリーム(SCS)であるかを示します。

***SCS** SNA文字ストリーム(SCS)のデータ・ストリームが作成されます。

注: 2バイト文字セット(DBCS)印刷装置 (5553および5583印刷装置) を使用している場合には、DEVTYPE(*SCS) を指定しなければなりません。

***IPDS** 高機能印刷装置データ・ストリーム(IPDS)が作成されます。このパラメーターは、IPDS印刷装置を使用する時に指定することができます。*IPDSが指定され、スプール印刷出力ファイルがIPDS印刷装置以外に出力指示されている場合には、IPDS印刷出力ファイルはSCS印刷出力ファイルに変換されます。詳細は、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)にあります。

***USERASCII**

ASCIIデータ・ストリームはスプール出力待ち行列に入れられます。AS/400システムは渡された値を変更したりその妥当性を検査したりしないので、16進数データ・ストリーム全体をバッファーに入れることは、ユーザーの責任で行なわなければなりません。この値は、SPOOL(*NO)で指定することはできません。

***AFPDS**

高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)が作成されます。システムの中にはこのデータ・ストリームをMODCA-Pとして参照するものもあります。

***AFPDSLNE**

混合データ (行データとAFPDSデータ) が作成されます。この値を指定することができるのは、PSF/400によってサポートされる印刷装置のどれかを使用する場合です。印刷装置はAFP(*YES)を指定して構成されていなければなりません。

***LINE** 行データが作成されます。この値を指定することができるのは、PSF/400によってサポートされる印刷装置のどれかを使用する場合です。印刷装置はAFP(*YES)を指定して構成されていなければなりません。

トップ

ページ・サイズ (PAGESIZE)

この装置ファイルによって使用される印刷装置用紙の長さおよび幅を指定します。長さは、1ページ当たりの行数またはUOMパラメーターに指定した単位によって指定されます。幅は、1行当たりの印刷桁 (文字) 数またはUOMパラメーターに指定した単位によって指定されます。

ページ・サイズは、データがページ上に印刷される方法を参考にして指定しなければなりません。たとえば、8.5インチ幅で11.0インチの長さの用紙を使用し、10ピッチ・フォントで1インチ当たり6行で印刷する場合には、PAGESIZE(66 85) PAGRTT(0)を指定してください。しかし、ページを回転するためには、11.0幅で8.5インチの長さのページのページ・サイズを指定し、PAGESIZE(51 110) PAGRTT(90)を入力してください。

注: データが用紙に入りきらない場合に自動縮小または自動回転を実行できるようにするためには、このコマンドにPAGRTT(*AUTO)またはPAGRTT(*DEVD)とPRTQLTY(*DRAFT)を指定してください。

データが用紙に入りきるがどうかに関係なく自動縮小を実行できるようにするためには、このコマンドに `PAGRTT(*COR)` を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ページの長さ

この印刷装置ファイルによって使用されるページの長さを指定してください。ページの長さとして 1-255 の範囲の値を指定することができますが、値は使用される用紙の実際の長さを超えるものであってはなりません。

ページ幅

この装置ファイルで使用されるページの幅を指定してください。指定する値は、使用されるページの実際の幅を超えてはなりません。3203, 4245, 5211, 5256, 5262, および 5287 印刷装置で有効な値の範囲は 1-132 です。

指定できる測定方法の値は次の通りです。

***ROWCOL**

ページの長さおよびページ幅は、行数および桁数として測定されます。

***UOM** ページの長さおよびページ幅は、UOMパラメーターに指定した単位で測定されます。

トップ

行／インチ (LPI)

この装置ファイルで使用される印刷装置での行送りの設定値を 1 インチ当たりの行数で指定します。

5256 印刷装置の行の間隔は手操作で設定しなければなりません。このパラメーターの 1 インチ当たりの行数 (LPI) の値が (前の印刷装置ファイルの値から) 変わると、LPI 値の変更を要求する照会メッセージが印刷装置に関連したメッセージ待ち行列に送られます。

4214, 4224, 4230, 4234, 4245, および 5262 印刷装置の行間隔は、印刷コマンドで設定します。これらの印刷装置の場合には、印刷装置のコントロール・パネルで 1 インチ当たりの行数による行間隔を設定することもできます。1 インチ当たりの行数の値は、印刷装置で設定しないでください。LPI 値がコントロール・パネルで一時変更された場合には、システムは、次に受け取る印刷装置ファイルの LPI 値で設定された値を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

- 3** 印刷装置の行送りは 1 インチ当たり 3 行です。この値を使用できるのは、2 バイト文字セット (DBCS) 印刷装置の場合だけです。
- 4** 印刷装置の行送りは 1 インチ当たり 4 行です。
- 6** 印刷装置の行送りは、1 インチ当たり 6 行です。この値は `CRTPRTF` コマンドにある、このパラメーターの省略時の値です。
- 7.5** 印刷装置の行送りは 1 インチ当たり 7.5 行です。この値を使用できるのは、2 バイト文字セット (DBCS) 印刷装置の場合だけです。
- 8** 印刷装置の行送りは 1 インチ当たり 8 行です。

注: LPI(8) で指定されたファイルで 2 バイト文字セット (DBCS) データを印刷する時には、2 行間隔を使用してください。そうでない場合には、漢字データが正しく印刷されません。しかし、英数字データは LPI(8) が指定されていても、1 行間隔で正しく印刷されます。

9 印刷装置の行送りは1インチ当たり9行です。

12 印刷装置の行送りは1インチ当たり12行です。

2バイト文字セットに関する考慮事項: 2バイト文字セット(DBCS)データを含むファイルを印刷する時には、DBCS印刷装置(5553, 5583)を指定してください。

[トップ](#)

1インチ当たりの文字数 (CPI)

この装置ファイルで使用される印刷装置の文字密度 (インチ当たり文字数) を指定します。

複数フォントをサポートする印刷装置の場合には、フォント特有値に指定する値がCPIを暗黙に示します。FONT(*CPI)を指定した場合には、使用されるフォントはCPI値に基づいて決定されます。次の図は各CPI値の省略時のフォントIDを記述したものです。

CPI フォントIDの省略時値

5 245

10 011

12 087

13.3 204

15 222

16.7 400

18 252

20 281

考えられる値は次の通りです。

5 文字密度は1インチ当たり5文字です。

10 文字密度は1インチ当たり10文字です。(この値はCRTPRTFコマンドにある、このパラメーターの省略時の値です。)

12 文字密度は1インチ当たり12文字です。

13.3 文字密度は1インチ当たり13.3文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。

15 文字密度は1インチ当たり15文字です。

16.7 文字密度は1インチ当たり16.7文字です。

18 文字密度は1インチ当たり18文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。

20 文字密度は1インチ当たり20文字です。この値を使用できるのは、2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合だけです。

2バイト文字セットに関する考慮事項: 2バイト文字セット(DBCS)データを含むファイルを印刷する時には、DBCS印刷装置(5553, 5583)を指定してください。

[トップ](#)

フロント・マージン (FRONTMGN)

用紙の表側の端からの起点の下方向および横方向のオフセットを指定します。このオフセットは、UOMパラメーターに指定された測定の単位です。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS) が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

*DEVVD

印刷装置からの非印刷ボーダーは、AFP(*YES)で構成された印刷装置への印刷時にページ上にテキストを入れるために使用されます。印刷しない余白部分がないIPDS印刷装置、あるいはAFP(*NO)で構成されたIPDS印刷装置には0のマージンが使用されます。

指定できる下方向オフセット値は次の通りです。

0 起点のオフセットは行なわれません。

下方向オフセット

ページの最上部からの起点のオフセットを指定してください。

指定できる横方向オフセットの値は次の通りです。

0 起点のオフセットは行なわれません。

横方向オフセット

ページの左側からの起点のオフセットを指定してください。

[トップ](#)

バック・マージン (BACKMGN)

用紙の裏側の端からの起点の下方向および横方向のオフセットを指定します。このオフセットは、UOMパラメーターに指定された測定の単位です。UOM(*CM)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-57.79で、UOM(*INCH)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-22.57です。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS) が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

*FRONTMGN

FRONTMGNパラメーターに指定されたオフセットが使用されます。

*DEVVD

印刷装置からの非印刷ボーダーは、AFP(*YES)で構成された印刷装置への印刷時にページ上にテキストを入れるために使用されます。印刷しない余白部分がないIPDS印刷装置、あるいはAFP(*NO)で構成されたIPDS印刷装置には0のマージンが使用されます。

指定できる下方向オフセット値は次の通りです。

0 起点のオフセットは行なわれません。

下方向オフセット

ページの最上部からの起点のオフセットを指定してください。

指定できる横方向オフセットの値は次の通りです。

0 起点のオフセットは行なわれません。

横方向オフセット

ページの左側からの起点のオフセットを指定してください。

トップ

オーバーフロー行番号 (OVRFLW)

新しいページへのオーバーフローが起こるページの行番号を指定します。一般には、指定された行が印刷されると、印刷装置は、次のページにオーバーフローしてから印刷を続行します。指定した行番号が現在行になった時に、その行で印刷が行なわれるかどうかに関係なく、オーバーフローが通知されます。ファイルの **ページ・サイズ** プロンプト (PAGESIZEパラメーター) に指定された用紙の長さを超える値を指定してはなりません。オーバーフローを判別する時には、印刷装置ファイルに指定されたマージンは無視されます。詳細は、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)にあります。このパラメーターは、印刷装置ファイル、プログラム、または呼び出された他のOVRPRTFコマンドで指定されたオーバーフロー値を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

オーバーフロー行番号

現在のページ上で指定した行になると、その行に印刷するしないにかかわらず新しいページが開始されます。指定する値はページ長(PAGESIZE)より大きくてはいけません。オーバーフローを判別する時には、印刷装置ファイルに指定されたマージンは無視されます。

トップ

レコードの折り返し (FOLD)

レコード長が用紙の幅を超えている場合に、レコード内のすべての桁が印刷されるかどうかを指定します。すべての桁が印刷される場合には、最初の行に印刷できないレコードの部分は、そのレコード全体が印刷されるまで次の行（複数行の場合もある）に続けられ（折り返され）ます。

次の条件の下ではFOLDパラメーターは無視されます。

- DEVTYPE(*SCS)が指定されていない場合。
- OFFICEVISION FOR AS/400プログラムを介して印刷が行なわれる場合。
- S/36処理環境の場合。

***YES** 長さが用紙の幅を超えているレコードは、次の行に折り返されます。

***NO** レコードは折り返されません。レコードが用紙幅を超えている場合には、1行に収まるレコードの最初の部分だけが印刷されます。

2バイト文字セットに関する考慮事項: 2バイト文字セット(DBCS)ファイルを印刷する時には、システムはこのパラメーターを無視します。システムは、DBCSレコードが1行の印刷行に収まるものと想定します。レコードが用紙の幅を超える場合には、システムは、次の行でレコードの印刷を続行します。

このパラメーターは、印刷装置ファイル、プログラム、または呼び出されたその他のOVRPRTFコマンドで指定された値を一時変更します。

トップ

印刷不能文字の処置 (RPLUNPRT)

印刷不能文字を置き換えるかどうか、および置換文字（ある場合）を使用するかどうかを指定します。印刷不能文字は、印刷装置が印刷することができない文字です。

注: 印刷装置タイププロンプト (DEVTYPEパラメーター) に*IPDSが指定されている場合には、印刷不能文字の代わりにハイフン (-) が印刷されます。3287印刷装置の場合には、代替文字は無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 印刷不能文字は置き換えられます。印刷不能文字が検出されても、プログラムには通知されません。

***NO** 印刷不能文字は置き換えられません。印刷不能文字が検出されると、プログラムにメッセージが送られます。

' ' 印刷不能文字が検出され、*YESが指定されている場合には、置き換え文字としてブランクが使用されます。

'置き換え文字'

このパラメーターにも*YESを指定した場合には、印刷不能文字が検出されるごとに使用される置換文字を指定してください。印刷可能な任意のEBCDIC文字を指定することができます。

2バイト文字セットに関する考慮事項:*YESを指定した時には、システムは選択された置き換え文字を無視します。代わりにシステムは、次のように印刷不能文字を置き換えます。

1. **外字プロンプト (IGCEXNCHRパラメーター)** にも*YESが指定されている場合には、システムは印刷不能文字を2バイト文字セット(DBCS)の下線で置き換えます。
2. **外字プロンプト (IGCEXNCHRパラメーター)** に*NOが指定されている場合には、システムはすべての外字を未定義文字で置き換えます。

トップ

ページの位置合わせ (ALIGN)

印刷を開始する前に、印刷装置で用紙の位置合わせが必要かどうかを指定します。*YESを指定し、データのスパールプロンプト (SPOOLパラメーター) に*NOを指定し、用紙の位置合わせが必要である場合には、システムは印刷装置用に指定されたメッセージ待ち行列にメッセージを送り、そのメッセージに対する応答を待ちます。データのスパールプロンプト (SPOOLパラメーター) に*YESを指定し、印刷装置書き出しプログラム開始(STRPRTWTR)コマンドのページの位置合わせプロンプト (ALIGNパラメーター) に*FILEを指定した場合には、システムから位置合わせメッセージが送られてくるかどうかを判別するために、このパラメーターが使用されます。

このパラメーターは単票用紙を使用する時には無視されます (スパールおよび直接出力)。ページ位置合わせはテキスト専用ファイルの場合にのみ行なうことができます。図形またはバー・コードを含む印刷ジョブの場合には、ページ位置合わせを行なうことはできません。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 用紙の位置合わせは行なわれません。

***YES** 出力が印刷される前に、用紙の位置合わせが行なわれます。

トップ

ソース用紙入れ (DRAWER)

印刷装置に単票用紙を送る時に使用するソース用紙入れを指定します。用紙送りプロンプト (FORMFEED パラメーター) に*AUTOCUTを指定しなければなりません。

***E1** 封筒は、カット用紙送り機構の封筒用紙入れから送られます。

*FORMDF

用紙は、用紙定義に指定された用紙入れから用紙送りされます。用紙定義が指定されていない場合には、用紙入れ1が使用されます。

ソース用紙入れ

用紙を供給する用紙入れを指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

[トップ](#)

出力ビン (OUTBIN)

複数の出力ビンが可能な印刷装置上の出力の宛先を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*DEV D

出力の宛先は、その装置の省略時の出力ビンです。

出力ビン

出力の宛先の出力ビンを指定してください。有効な値の範囲は1-65535です。

[トップ](#)

フォント仕様 (FONT)

この印刷装置ファイルで使用するフォント識別コードおよびポイント・サイズを指定します。フォント識別コードおよびポイント・サイズが指定されていない場合には、システムが自動的に設定します。

使用できるフォント識別コードの値は次の通りです。

***CPI** 指定されたピッチ (1インチ当たりの文字数(CPI))のフォントの識別コードが使用されます。

*DEV D

装置記述に指定されたフォント識別コードおよびポイント・サイズが使用されます。

識別コード

この印刷装置ファイルで使用するフォント識別コード (数字) を指定してください。

使用できるポイント・サイズの値は、次の通りです。

*NONE

ポイント・サイズは指定されません。使用される印刷装置のタイプに基づいてシステムが設定します。

ポイント・サイズ

ポイント・サイズを指定してください。有効な値の範囲は0.1-999.9ポイントです。

[トップ](#)

用紙送り (FORMFEED)

この印刷装置ファイルによって使用される用紙送り機構を指定します。

*DEVD

用紙は装置記述に指定されている方法で印刷装置に送られます。

*CONT

印刷装置で連続用紙が使用されます。この値を指定する場合には、この印刷装置にトラクター紙送り接続機構が必要です。

*CONT2

印刷装置で連続用紙が使用されます。用紙は2次連続用紙送り機構から送られます。印刷装置に2次連続用紙送り機構がなければなりません。

***CUT** 印刷装置で単票用紙が使用されます。用紙ごとに手動で取り付けなければなりません。単票用紙の場合には、用紙位置合わせメッセージは出されません。

*AUTOCUT

単票用紙が半自動的に印刷装置に送られます。この値を指定する場合には、この印刷装置に用紙送り接続機構が必要です。単票用紙の場合には、用紙位置合わせメッセージは出されません。

トップ

印刷品質 (PRTQLTY)

3812 SCS, 3816 SCS, 4214, 4224, 4230, 4234, および5219印刷装置の場合に、作成される印刷品質を指定します。

5219印刷装置の場合には、印刷リボンが進む速度を変えることによって各種の印刷品質が作成されます。高品質モード(*STDまたは*NLQ)では通常の印刷リボン速度になります。ドラフト・モード(*DRAFT)では、高品質モードで進む1/3の長さでリボンが進みます。言い換えると、5219印刷装置では、ドラフト・モードの場合に、文字の印刷と同じ速さでリボンを進めないことによって印刷装置のリボンが保護されます。5219印刷装置には、このパラメーターで指定された*DRAFTの値を一時変更するリボン保護スイッチがあります。

3812 SCSおよび3816 SCS印刷装置の場合には、PRTQLTYに*DRAFTが指定されていて、PAGRITに*DEVDである時にのみ、印刷装置のソフト・スイッチで選択した自動ハードウェア選択（コンピューター出力の減少印刷）が行なわれます。PAGRIT(*COR)が指定されている場合には、PRTQLTYパラメーターは印刷出力に影響を与えません。

4224, 4230, および4234印刷装置の場合には、印刷可能文字を作成するために使用されるドット・マトリックス・パターンの密度を変えることによって標準印刷品質が作成されます。標準モード(*STD)は通常モードです。高品質モード(*NLQ)では、1行のデータを作成するために印刷装置によって複数回通過することが要求されます。ドラフト・モード(*DRAFT)は、高速印刷になります。

4214印刷装置の場合には、ドラフト(*DRAFT)、高品質(*NLQ)、および装置の省略時の値(*DEVD)の各モードだけがサポートされます。その他の値は高品質(*NLQ)モードに設定されます。

注:

- 4214印刷装置の場合には、品質モード(*STDまたは*NLQ)は、1インチ当たりの10文字および12文字の場合にのみサポートされています。PRTQLTY(*STDまたは*NLQ)と1インチ当たり5, 15, または16.7文字が指定されている場合には、データはドラフト・モードで印刷されます。

- 4234印刷装置の場合には、PRTQLTY(*DRAFT)が指定されている時には、制限された文字セット（62文字）だけサポートされています。ドラフト印刷品質でサポートされている文字セットの説明は、4234印刷装置操作員の手引きにあります。
- 4224印刷装置および4230印刷装置の場合には、サポートされるフォントが3つすべての印刷品質で使用可能であるとはかぎりません。OCR-AおよびOCR-Bフォントは、PRTQLTY(*NLQ)でのみサポートされません。COURIERフォントおよびESSAYフォントは、PRTQLTY(*NLQ)およびPRTQLTY(*STD)でのみ使用可能です。GOTHICフォントは、PRTQLTY(*DRAFT)またはPRTQLTY(*FASTDRAFT)でのみ使用可能です。印刷品質と選択したフォントとの間に不一致がある場合には、フォントは印刷品質に合うように変更されます。
- データが用紙に収まらない場合に自動回転を実行できるようにするためには、このコマンドにPAGRIT(*DEVD)およびPRTQLTY(*DRAFT)を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

***STD** 出力は標準品質で印刷されます。

***DRAFT**
出力はドラフト品質で印刷されます。

***DEVD**
印刷品質はユーザーによって印刷装置で設定されます。データ・ストリーム中では設定されません。

***NLQ** 出力はレター品質に近い品質で印刷されます。

***FASTDRAFT**
この出力は、*DRAFTを指定した場合より高速で、かつ低品質で印刷されます。この値がサポートされるのは4230印刷装置の場合だけです。

トップ

制御文字 (CTLCHAR)

印刷装置ファイルが印刷制御文字を含む入力をサポートするかどうかを指定します。見つかった無効な制御文字は無視され、1スペースと見なされます。

***NONE**
印刷制御文字は印刷されるデータに渡されません。

***FCFC**
それぞれのレコードの最初の文字に、ANSI用紙制御文字が含まれていることを指定します。*FCFCが指定されている場合には、レコード長には1桁目の文字による用紙制御コード用の桁が1桁含まれていなければなりません。この値は、外部記述の印刷装置ファイルには正しくありません。

***MACHINE**
どのレコードでも先頭の文字にはマシン・コード制御文字が入っています。*MACHINEを指定する場合には、先頭文字用紙制御コード用の余分な1桁をレコード長に含める必要があります。この値は、外部記述の印刷装置ファイルには無効です。

合わせてTBLREFCHR(*YES)も指定した場合には、レコード長は制御文字とテーブル参照文字のための余分の2桁を加えたものでなければなりません。

トップ

チャンネル値 (CHLVAL)

行番号が割り当てられたチャンネル番号のリストを指定します。このパラメーターは、**制御文字プロンプト** (CTLCHARパラメーター) に*FCFCが指定されている場合にのみ指定してください。

注: 1つまたは複数のチャンネル番号/行番号の組み合わせが変更された場合には、他のすべての組み合わせを入力し直さなければなりません。

*NORMAL

チャンネル識別コードへのスキップの省略時の値が使用されます。

チャンネル番号

対応する「スキップ先」行番号と関連付けられる米国標準規格チャンネル番号を指定してください。このパラメーターに有効な値の範囲は1-12で、それぞれチャンネル1-12に対応しています。CHLVALパラメーターは、チャンネル番号をページ行番号と関連付けます。たとえば、CHLVAL(2 20)を指定した場合には、チャンネル識別コード2は行番号20と関連付けられます。したがって、レコードの最初の桁に用紙制御2を入れた場合には、印刷装置は行印刷の前に20行目にスキップします。

注: 印刷装置が停止し、次に処理されるレコードに、印刷装置が現在ある行番号と同じ値のチャンネル値用紙制御番号がある場合には、印刷装置は次のページのその値(行番号)に進みます。しかし、印刷装置がページの最上部(行番号1)に位置設定され、チャンネル値用紙制御値が行番号1と対応している場合には、印刷装置は新しいページに進みません。

チャンネル識別コードに行番号が指定されておらず、そのチャンネル識別コードがデータに見つかった場合には、印刷前に省略時の「1行間隔」が使用されます。各チャンネル番号は、1回だけ指定することができます。

行番号 同じリストのチャンネル番号に割り当てられた行番号を指定してください。有効な行番号の範囲は1-255です。チャンネル番号に割り当てられた行番号がなく、データにそのチャンネル番号が見つかった場合には、印刷前に省略時の「1行間隔」が使用されます。各行番号は1回しか指定できません。

トップ

精度 (FIDELITY)

AFP(*YES)で構成された印刷装置で印刷エラーが見つかった時に、印刷を続行するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CONTENT

エラーが見つかった時に、印刷は続行されます。

*ABSOLUTE

エラーが見つかった時に、印刷は停止します。

トップ

文字識別コード (CHRID)

このファイル用の文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。このパラメーターにより、異なる文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）コーディングのテキストを印刷することができます。このパラメーターで指定した値は、テキストの作成時点で意図していたのと同じ文字を印刷することによって16進バイト・ストリングを解釈するように印刷装置に指示するために使用されません。

考えられる値は次の通りです。

*DEV D

装置が取り扱うように意図されている省略時のCHRID値が使用されます。ファイルが装置の省略時の値と同じ文字識別コードをもつので、文字の選択は正常です。

*SYSVAL

適用業務プログラムが実行されるシステムで指定されたCHRID値が使用されます。

*JOBCCSID

印刷装置ファイルの文字識別コードはジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)から取られます。

注: ファイルがV2R3M0より前のリリース・レベルのシステムで作成されたものである場合には、この値を使用することはできません。

図形文字セットコード・ページ

印刷装置と一致する図形文字セットおよびコード・ページ値を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

10進数形式 (DECfmt)

EDTCDE DDSキーワードで数字フィールドを編集する時に使用する10進数形式を指定します。10進数形式の値は、小数点としてのコンマおよびピリオドの使用、および編集済みフィールドにおける3桁の定位置区切り記号を決定します。

考えられる値は次の通りです。

***FILE** ファイルの作成時にそのファイルと一緒に記憶された10進数形式の値を使用します。

***JOB** ファイルのオープン時にDECfmtジョブ属性からの10進数形式の値を使用します。

[トップ](#)

フォント文字セット (FNTCHRSET)

文字セットとコード・ページからなるダウンロード・フォントを指定します。アウトライン・フォントの場合には、ポイント・サイズが必要です。ラスター・フォントの場合には、ポイント・サイズは無視されます。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS) が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***FONT**

FONTパラメーターに指定された値が使用されます。

フォント文字セット値は次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フォント文字セットを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フォント文字セットが入っているライブラリーの名前を指定してください。

コード・ページ名の値は次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コード・ページ名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

コード・ページ名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できるポイント・サイズの値は、次の通りです。

***NONE**

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

ポイント・サイズ

0.1-999.9の範囲のポイント・サイズを指定してください。

トップ

コード化フォント (CDEFNT)

1バイト文字セット(SBCS)の印刷にシステムが使用するコード化フォントを指定します。このパラメーターを使用できるのは、DEVTYPE(*AFPDS) が指定された印刷装置ファイルの場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***FNTCHRSET**

FNTCHRSETパラメーターに指定されたフォントが使用されます。

コード化フォント名

使用するコード化フォント名を指定してください。

コード化フォント名の値は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コード化フォント名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

コード化フォント名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できる**ポイント・サイズ**の値は、次の通りです。

***NONE**

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

ポイント・サイズ

0.1-999.9の範囲のポイント・サイズを指定してください。

[トップ](#)

ページ定義 (PAGDFN)

行データを形式設定するために使用されるページ定義を指定します。

*LINE, *AFPDSLIN,または*USERASCIIデータを使用してページ定義を指定できます。PSF/400は、行データおよびページ定義をIPDSに変換します。

印刷装置ファイルにページ定義を指定し、PSF/400によってスプール・ファイルが印刷される場合には、一部の印刷装置ファイル・パラメーターは無視されます。次の印刷ファイル・パラメーターが無視されます。

- CDEFNT
- CHRID
- CPI
- FNTCHRSET
- FOLD
- FONT
- LPI
- MULTIUP
- PAGESIZE
- PAGRTT
- REDUCE

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ページ定義は指定されません。

PSF/400では、*LINEまたは*AFPDSLINを指定すると、ページ定義が必要になるので、*NONEを指定した時には、印刷ファイル・パラメーターからインライン・ページ定義が作成され、PSF/400に渡されます。

ページ定義名

指定されたライブラリーに存在していなければならないページ定義の名前を指定してください。有効な値の範囲は1-8文字です。ページ定義を使用するときには、装置タイプ*AFPDSLNE, *LINE, または*USERASCIIを指定しなければなりません。

ページ定義の名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

用紙定義 (FORMDF)

ファイルを印刷する時に使用する用紙定義を指定します。用紙定義は、オーバーレイ、用紙上のページ・データの位置、およびページのコピー数と修正を含む用紙の特性を定義する資源オブジェクトです。用紙定義は印刷しているファイルとともにインラインにあるか、あるいはライブラリー中にあります。

印刷装置ファイルに用紙定義(*DEVDFまたは用紙定義名)を指定し、PSF/400によってスプール・ファイルが印刷される場合には、一部の印刷装置ファイル・パラメーターは無視されます。次の印刷ファイル・パラメーターが無視されます。

- DUPLEX (*FORMDFを指定した場合)
- DRAWER (*FORMDFを指定した場合)
- PAGRTT
- PRTQLTY
- FORMFEED
- FRONTMGN
- BACKMGN
- MULTIUP
- REDUCE
- CORNERSTPL
- EDGESTITCH
- SADLSTITCH

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

用紙定義は使用されません。

PSF/400には用紙定義が必要になるので、*NONEを指定した時には、印刷ファイル・パラメーターからインライン用紙定義が作成され、PSF/400に渡されます。

***DEVDF**

用紙定義の名前は印刷装置定義に指定されています。

用紙定義名

指定されたライブラリーに存在しなければならない用紙定義の名前を指定してください。有効な値の範囲は1-8文字です。

用紙定義の名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

AFP文字 (AFPCHARS)

行データおよびページ定義で使用される1つまたは複数のAFP文字（コード化フォント）を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

AFP文字（コード化フォント）は指定されません。

コード化フォント名

行データおよびページ定義で指定するコード化フォントの4バイトの名前を4つまで指定してください。データ内でTBLREFCHRが使用されている時に使用する最大4つまでのコード化フォントを識別するために、4バイトの名前がX0に連結されます。

[トップ](#)

テーブル参照文字 (TBLREFCHR)

行データにテーブル参照文字が存在するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 行データにテーブル参照文字はありません。

***YES** 行データにテーブル参照文字があります。

データとともに用紙制御文字が使用される場合には、テーブル参照文字は用紙制御文字の後に続きますが、データ・バイトの前にあります。用紙制御文字が使用されない場合には、テーブル参照文字はデータ・レコードの最初のバイトとなります。用紙制御文字と同様に、テーブル参照文字が使用される場合には、すべてのデータ・レコードにTRCバイトが含まれていなければなりません。

[トップ](#)

ページ回転度数 (PAGRIT)

用紙が印刷装置に送り込まれる方向を基準にしてページ上でのテキストの回転の角度を指定します。

*AUTO

用紙に印刷データを収まるようにするために出力の自動回転が実行されることを指示します。回転しても収まらない場合には、使用される印刷品質に関係なく、自動的にコンピューター出力の縮小が行なわれます。このパラメーターは、回転をサポートする印刷装置の場合にだけ有効です。

*DEVD

オペレーティング・システムは、装置の省略時の回転値を印刷装置に送ります。ページ回転は、印刷装置の仕様次第です。ページ回転の影響については、印刷装置または印刷装置エミュレーションの解説書を参照してください。

***COR** コンピューター出力の縮小が行なわれます。出力の縮小により、幅13.2インチ長さ11.0インチの用紙用の印刷出力を幅8.5インチ長さ11.0インチの用紙に印刷することができます。

0 回転は行なわれません。印刷は、印刷装置に最初にロードされた端で開始され、その端と並行になります。

90 テキストの回転は、回転が行なわれていない位置から90度右回り回転して行なわれます。

180 テキストの回転は、回転が行なわれていない位置から180度右回り回転して行なわれます。

270 テキストの回転は、回転が行なわれていない位置から270度右回り回転して行なわれます。

トップ

面当たりページ数 (MULTIUP)

スプール出力の場合にのみ、1物理ページに出力の複数ページを印刷するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- 1** 1ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 2** 2ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 3** 3ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。
- 4** 4ページの出力が用紙の1物理ページに印刷されます。

トップ

出力の減少 (REDUCE)

マルチプル・アップ印刷を行なう時に、出力を減らすかどうかを指定します。

詳細および例については、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

考えられる値は次の通りです。

***TEXT** マルチプル・アップ印刷を行なう時に、テキスト出力が減らされます。

*NONE

マルチプル・アップ印刷を行なう時に、出力は減らされません。

トップ

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページの下部および分離ページに印刷されるテキストを指定します。

***JOB** 現行ジョブからの値が使用されます。

***BLANK**

テキストを印刷しません。

'印刷テキスト'

アポストロフィで囲まれた最大30文字のテキストを指定してください。

[トップ](#)

ハードウェア位置調整 (JUSTIFY)

右マージンが揃うようにページ上の文字の印刷位置を指定します。

0 行末調整は行なわれません。(この値はCRTPRTFコマンドにある、このパラメーターの省略時の値です。)

50 右マージンがさらに綿密に位置合わせされる (しかしフラッシュしない) ように、スペースがテキストのブランクに追加されます。

100 右マージンの位置が揃うまで、テキストのスペースを拡張します (ブランクがすでに存在している位置に追加されます)。

[トップ](#)

両面印刷 (DUPLEX)

出力が用紙の片面または両面に印刷するかどうかを指定します。

***NO** 出力は用紙の片面に印刷されます。

***YES** 出力は、各印刷ページの上部が用紙の同じ側にくるように、用紙の両面に印刷されます。

***TUMBLE**

出力が用紙の両面に印刷され、印刷されたページの片面の上部が、その裏の印刷されたページの上部とは反対側になります。通常、これは上部をとじる出力用に使用します。

***FORMDF**

用紙定義に両面値が指定されている場合には、出力は用紙の両面に印刷されます。用紙定義が指定されていない場合には、出力は用紙の片面に印刷されます。

[トップ](#)

単位 (UOM)

使用する単位を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INCH** 単位としてインチが使用されます。

***CM** 単位としてセンチメートルが使用されます。

516 iSeries: OS/400 コマンド ENDMSF (メール・サーバー・フレームワークの終了) ~

前面オーバーレイ (FRONTOVL)

ページの表面に印刷するオーバーレイとオーバーレイが印刷される時に使用される起点からの下方向および横方向のオフセットの両方が入っているオブジェクトの修飾名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

オーバーレイは使用されません。

指定できるオーバーレイの値は次の通りです。

オーバーレイ名

オーバーレイの名前を指定してください。

オーバーレイ名は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オーバーレイを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。

指定できる下方向オフセットの値は次の通りです。

0 起点からの下方向オフセットは使用されません。

下方向オフセット

オーバーレイの印刷を始める起点からの下方向オフセットを指定してください。UOM(*CM)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-57.79で、UOM(*INCH)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-22.57です。

指定できる横方向オフセットの値は次の通りです。

0 起点からの横方向オフセットは使用されません。

横方向オフセット

オーバーレイの印刷が開始される起点からの横方向のオフセットを指定してください。UOM(*CM)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-57.79で、UOM(*INCH)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-22.57です。

背面オーバーレイ (BACKOVL)

ページの裏面に印刷するオーバーレイとオーバーレイが印刷される時に使用される起点からの下方向および横方向のオフセットの両方が入っているオブジェクトの名前およびライブラリー名を指定します。

コンスタント・バック機能によって、印刷適用業務にブランク・ページを追加することなくブランク・ページでオーバーレイを印刷することができます。コンスタント・バック機能を指定すると、適用業務プログラムによって生成された各ページに対してブランク・ページが生成され、指定されたバック・オーバーレイを印刷できるようになります。生成されたブランク・ページは、ユーザー・プログラムからの変数データがページに印刷されないために定数形式と呼ばれます。コンスタント・バック機能は両面印刷だけにサポートされています。これは印刷装置ファイルにDUPLEX(*NO)が指定されていると無視されます。

コンスタント・バックに*CONSTANTが指定されていると、下方向オフセットおよび横方向オフセットの値は無視されることに注意してください。これらの値はオフセット0.0と見なされます。

考えられる値は次の通りです。

***FRONTOVL**

FRONTOVLパラメーターに指定されている値が使用されます。

***NONE**

オーバーレイは使用されません。

指定できるオーバーレイの値は次の通りです。

オーバーレイ名

オーバーレイの名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オーバーレイを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

オーバーレイが入っているライブラリーの名前を指定してください。

指定できる下方向オフセットの値は次の通りです。

0 起点からの下方向オフセットは使用されません。

下方向オフセット

オーバーレイの印刷を始める起点からの下方向オフセットを指定してください。UOM(*CM)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-57.79で、UOM(*INCH)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-22.57です。

指定できる横方向オフセットの値は次の通りです。

0 起点からの横方向オフセットは使用されません。

横方向オフセット

オーバーレイの印刷が開始される起点からの横方向のオフセットを指定してください。UOM(*CM)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-57.79で、UOM(*INCH)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-22.57です。

指定できるコンスタント・バック値は次の通りです。

***NOCONSTANT**

コンスタント・バックは指定されません。

***CONSTANT**

CONSTANT・バックが指定されます。

[トップ](#)

行データ変換 (CVTLINDTA)

データがスプールされる前に回線データおよびページ定義をAFPDSに変換するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** AFPDS変換は行われません。

***YES** データがスプールされる前に回線データおよびページ定義でAFPDS変換が行われることを指定します。

[トップ](#)

IPDSパススルー (IPDSPASTHR)

スプール・ファイルに対してIPDS（高機能プリンター・データ・ストリーム）パススルーを実行するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***DEV**

印刷装置記述に指定されたPSF構成オブジェクトでIPDSPASTHRに指定される値が使用されます。装置用のPSF構成オブジェクトが指定されていない場合には、値*NOが使用されます。

***NO** IPDSパススルーは実行されません。

***YES** スプール・ファイルがIPDSパススルーに適格である場合に、IPDSパススルーを実行することを指定します。

注: すべてのSCSまたはIPDSスプール・ファイルがIPDSパススルーに適格なわけではありません。正しく印刷するためにAFPDSに変換する必要がある特殊機能が含まれていることがあります。印刷装置ファイルに対してIPDSパススルーを指定すると、IPDSパススルーに適格なスプール・ファイルだけが余分な変換を迂回することができます。IPDSパススルーに適格でないスプール・ファイルは、その場合であってもAFPDSに変換されてから、IPDSに変換し戻されます。

IPDSパススルーはすべてのPSF/400サポートのある印刷装置に有効というわけではありません。常駐フォントをサポートしていない印刷装置（または接続機構）では、IPDSパススルーをサポートすることはできません。これは、データ・ストリーム内で参照される常駐フォントはその印刷装置にダウンロードされるホスト・フォントにマップされなければならないからです。3820, 3825, 3827, 3828, 3829,3831, 3835, 3900-001と印刷サービス機能を使用してOS/2の分散印刷機能に付加された印刷装置を除くすべてのIBM IPDS印刷装置は、IPDSパススルーでサポートできます。

V3R7, V4R1およびV4R2では、IPDSPASTHRは印刷装置ファイルのUSRDFNDTAパラメーターで指定できます。印刷装置ファイルでIPDSPASTHR(*DEV)を指定することにより、既存の印刷装置ファイルおよびPSF構成オブジェクトでのこのサポートの使用を続行できます。IPDSPASTHRパラメーターに*DEV以外の値を指定すると、USRDFNDTAパラメーターのIPDSパススルー値は無視されます。

[トップ](#)

USER資源ライブラリー・リスト (USRRSCLIBL)

スプール・ファイル用のAFP資源を検索するために使用するユーザー資源ライブラリーのリストを指定します。AFP資源がユーザー資源ライブラリー内で見つからない場合には、PSF構成オブジェクトのDEVRSCLIBL パラメーターに指定されたライブラリー・リストが検索されます。装置のPSF構成オブジェクトが指定されていない場合には、ライブラリーQFNTCPL, QFNT01-QFNT19, およびQFNT61-69が検索されます。

考えられる値は次の通りです。

***DEV**

印刷装置記述に指定されたPSF構成オブジェクトで、USRRSCLIBLに指定された値が使用されます。装置に対してPSF構成オブジェクトが指定されない場合には、値 *JOBLIBLが使用されます。

***NONE**

ユーザー・ライブラリーは指定されません。

***JOBLIBL**

スプール・ファイルを作成したジョブのライブラリー・リストがAFP資源の検索で使用されることを指定します。このライブラリー・リストは、スプール・ファイルの作成時にそのスプール・ファイルと一緒に保管されます。

***CURLIB**

スプール・ファイルを作成したジョブの現行ライブラリーがAFP資源の検索に使用されることを指定します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

ユーザー資源ライブラリー名

AFP資源を検索するために使用するライブラリーの名前を指定してください。最高4個までのライブラリー名を指定することができます。

V3R7, V4R1, およびV4R2の場合には、USRRSCLIBLは印刷装置ファイルのUSRDFNDTAパラメーターで指定できます。PSF/400は、印刷装置記述に指定されるPSF構成オブジェクトにUSRRSCLIBL(*PRTF)が指定された場合にその値を使用します。印刷装置ファイルにUSRRSCLIBL(*DEV)を指定することによって、既存の印刷装置ファイルおよびPSF構成オブジェクトでこのサポートの使用を続行することができます。

USRRSCLIBLパラメーターに*DEV以外の値を指定する場合には、USRDFNDTAパラメーターのユーザー資源ライブラリー値はすべて無視されます。

[トップ](#)

コーナー・ステープルとじ (CORNERSTPL)

コーナー・ステープルに使用する参照コーナーを指定します。ステープルは参照コーナー位置で媒体に打ち込まれます。どの参照コーナーがサポートされているかについては、印刷装置に関する文書を参照してください。ページ回転はコーナー・ステープルの配置には影響しません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

コーナー・ステープルは指定されません。

***DEVD**

参照コーナーは、装置によって使用される省略時の参照コーナーです。

***BOTRIGHT**

参照コーナーは、媒体の右下隅です。

***TOPRIGHT**

参照コーナーは、媒体の右上隅です。

***TOPLEFT**

参照コーナーは、媒体の左上隅です。

***BOTLEFT**

参照コーナーは、媒体の左下隅です。

トップ

平とじ (EDGESTITCH)

仕上げ操作軸に沿って1つまたは複数のステープルを媒体に入れる位置を指定します。このパラメーターのどの要素がサポートされているか、および各要素のどの値がサポートされているかについては、印刷装置の解説書を参照してください。要素に対する値の仕様が印刷装置によってサポートされない場合には、その要素に*DEVDの値を指定してください。ページ回転は平とじの配置には影響しません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

平とじは指定されません。

基準線は、平とじに使用される基準線を指定します。仕上げ操作軸に沿って媒体に1つまたは複数のステープルを入れることで平とじになります。考えられる値は次の通りです。

***DEVD**

基準線は、装置によって使用される省略時の基準線です。

***BOTTOM**

基準線は、媒体の下端です。

***RIGHT**

基準線は、媒体の右端です。

***TOP** 基準線は、媒体の上端です。

***LEFT** 基準線は、媒体の左端です。

基準線オフセットは、基準線から媒体中央に向かう平とじのオフセットを指定します。

***DEVD**

基準線オフセットは、装置によって使用される省略時の基準線オフセットです。

基準線オフセット

基準線から平とじのオフセットを指定します。UOM(*CM)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-57.79で、UOM(*INCH)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-22.57です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行される時に切り捨てられます。

ステープル数は、仕上げ操作軸に沿って適用されるステープルの数を指定します。

*DEVD

ステープルの数は、このパラメーターのステープル・オフセット要素の値によって異なります。ステープル・オフセット要素の値でも*DEVDが指定されているか省略時値になっている場合には、ステープルの数は装置で使用されている省略時のステープルの数になります。「ステープル・オフセット」に1つまたは複数のオフセットを指定した場合には、ステープルの数は指定されたステープル・オフセットの数と同じになります。

ステープル数

平とじに使用するステープルの数を指定してください。有効な値の範囲は1-122ステープルです。ステープルの数を指定する場合には、ステープル・オフセットに*DEVDを指定しなければなりません。各ステープルのスペーシングには装置の省略時値が使用されます。

ステープル・オフセットは、仕上げ操作軸に沿ったステープルのオフセットを指定します。オフセットは、仕上げ操作軸が媒体の下端か左端のいずれかと交差する点から媒体の中央に向かって測定されます。各連続値は、仕上げ操作軸上の指定された点を中心とした単一の仕上げ操作を位置決めするために使用されます。

*DEVD

ステープル・オフセットは、装置によって使用される省略時のステープル位置です。「ステープル数」要素に値が指定されていた場合には、各ステープルのステープル位置が印刷装置によって自動的に計算されます。

ステープル・オフセット

平とじでのステープルごとのステープル・オフセットを指定してください。最大122までのステープル・オフセットを指定することができます。1つまたは複数のステープル・オフセット値を指定する場合には、ステープル数に*DEVDを指定しなければなりません。UOM(*CM)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-57.79で、UOM(*INCH)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-22.57です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行されるときに切り捨てられます。

トップ

中とじ (SADLSTITCH)

基準線と並行して媒体の中央に位置する仕上げ操作軸に沿って、1つまたは複数のステープルを媒体に入れる位置を指定します。ページ回転は中とじの配置に影響しません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

中とじは指定されません。

基準線は、中とじに使用される基準線を指定します。基準線と並行して媒体の中央に位置する仕上げ操作軸にそって、1つまたは複数のステープルを媒体に入れることで中とじになります。考えられる値は次の通りです。

*DEVD

基準線は、装置によって使用される省略時の基準線です。

*TOP 基準線は、媒体の上端です。

*LEFT 基準線は、媒体の左端です。

ステープル数は、仕上げ操作軸に沿って適用されるステープルの数を指定します。

*DEVD

ステープルの数は、このパラメーターのステープル・オフセット要素の値によって異なります。ステープル・オフセット要素の値でも*DEVDが指定されているか省略時値になっている場合には、ステープルの数は装置で使用されている省略時のステープルの数になります。「ステープル・オフセット」に1つまたは複数のオフセットを指定した場合には、ステープルの数は指定されたステープル・オフセットの数と同じになります。

ステープル数

中とじに使用されるステープルの数を指定してください。有効な値の範囲は1-122ステープルです。ステープルの数を指定する場合には、ステープル・オフセットに*DEVDを指定しなければなりません。各ステープルのスペーシングには装置の省略時値が使用されます。

ステープル・オフセットは、仕上げ操作軸に沿ったステープルのオフセットを指定します。オフセットは、仕上げ操作軸が媒体の下端か左端のいずれかと交差する点から媒体の中央に向かって測定されます。各連続値は、仕上げ操作軸上の指定された点を中心とした単一の仕上げ操作を位置決めするために使用されます。

*DEVD

ステープル・オフセットは、装置によって使用される省略時のステープル位置です。「ステープル数」要素に値が指定されていた場合には、各ステープルのステープル位置が印刷装置によって自動的に計算されます。

ステープル・オフセット

中とじの各ステープルにステープル・オフセットを指定してください。最大122までのステープル・オフセットを指定することができます。1つまたは複数のステープル・オフセット値を指定する場合には、ステープル数に*DEVDを指定しなければなりません。UOM(*CM)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-57.79で、UOM(*INCH)を指定した場合には、有効な値の範囲は0-22.57です。この値は印刷装置の場合はミリメートルに変換されます。小数点以下のミリメートルはサポートされていないので、ミリメートルへの変換が実行されるときに切り捨てられます。

トップ

形式設定用フォント解像度 (RNTRSL)

複数の解像度を報告するために構成された複数解像度印刷装置に印刷しているが、スプール・ファイルでフォント・メトリックが指定されないか、あるいはスプール・ファイルに含まれている解像度ではフォントを使用することができない場合にPSF/400が使用する解像度を指定します。

フォント資源用のライブラリー・リストの検索に使用されるアルゴリズムに関する詳細については、印刷装置プログラミングの「PSF構成オブジェクトの処理」という章の「ユーザーおよび装置資源ライブラリー・リスト」の項を参照してください。

考えられる値は次の通りです。

*DEVD

装置のPSF構成オブジェクトのFNTRSLパラメーターに指定された値が使用されます。PSF構成オブジェクトが装置に指定されていない場合には、*SEARCHの値が使用されます。

*SEARCH

ライブラリー・リストから、名前が一致するホスト・フォントの最初のおカレンスを検索することを指定します。そのフォントの解像度がスプール・ファイルの印刷のために使用されます。選択されたフォントの解像度を指定するためにメッセージPQT3546が送られます。

240 フォント解像度はインチ当たり240ペルです。

書き出し据え置き (DFRWRT)

出力を印刷装置に送る前にシステム・バッファに保持するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- *YES** システムは、印刷装置に送る前にバッファに保持する出力の大きさを制御します。
- *NO** このパラメーターで*NOを指定し、**データのスパールプロンプト** (SPOOLパラメーター) で*NOを指定した場合には、出力はバッファに保持されません。その代わりに、プログラムが書き出し操作を実行すると、ただちに出力が印刷装置に送られます。

このパラメーターで*NOを指定し、**データのスパールプロンプト** (SPOOLパラメーター) で*YESを指定し、また、**スパール出力のスケジュールプロンプト** (SCHEDULEパラメーター) で*IMMEDを指定した場合には、出力のページが使用可能になるかあるいはシステム・バッファがいっぱいになるまで、出力はバッファに保持されます。

データのスパール (SPOOL)

印刷装置ファイルの出力データをスパールするかどうかを指定します。

- *YES** データはディスク書き出しプログラムまたは印刷装置書き出しプログラムによる処理のためにスパールされます。
- *NO** データはスパールされません。出力が使用可能状態になった時点で、装置に直接送られ、印刷されます。

出力待ち行列 (OUTQ)

OUTQ(*JOB)を指定するスパール・ファイル用に使用する出力待ち行列を指定します。このパラメーターが適用されるのは、OUTQパラメーターに*JOBが指定されている印刷装置ファイルの場合だけです。

- *DEV** DEVパラメーターで指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。
- *JOB** このジョブと対応した出力待ち行列がスパール出力に使用されます。

出力待ち行列名

出力データがスパールされる出力待ち行列の名前とライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

- *LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

用紙タイプ (FORMTYPE)

この装置ファイルを使用して作成される印刷出力用の、印刷装置に使用される用紙のタイプを指定します。
*STD以外の用紙タイプが指定されている場合には、システムは出力の作成時にシステム操作員に用紙タイプを識別するメッセージを送り、指定された用紙タイプを印刷装置に入れるように要求します。このパラメーターは、印刷装置ファイル、または呼び出された他のOVRPRTFコマンドで指定された用紙タイプの値を一時変更します。

***STD** コンピューター・システムの標準印刷装置用紙が使用されます。

用紙タイプ

使用される印刷装置の用紙を識別する、10文字以下の用紙タイプ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

コピー枚数 (COPIES)

スプール出力専用の場合には、印刷中の出力のコピー数を指定します。

[トップ](#)

印刷ページ範囲 (PAGERANGE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、印刷する開始ページおよび終了ページを指定します。

使用できる**開始ページ**値は次の通りです。

***ENDPAGE**

終了ページの値を開始ページとして使用してください。

開始ページ番号

印刷開始ページを指定してください。

使用できる**終了ページ**値は次の通りです。

***END** 印刷は、ファイルの終わりまで続行されます。

終了ページ番号

印刷終了ページを指定してください。

[トップ](#)

スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)

スプール出力の場合にだけ、この印刷装置ファイルを使用するジョブのスプール・ファイルに入れられるレコードの最大数を指定します。このパラメーターは、印刷装置ファイルまたは呼び出された他のOVRPRTF コマンドで指定された値を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

*NOMAX

スプール・ファイルに入れることができるレコードの最大数に制限はありません。

最大レコード数

スプール出力ファイルに入れることができるレコードの最大数を示すために1 - 999999(999,999)の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ファイル区切り (FILESEP)

スプール出力の場合にのみ、同じ出力の複数のコピー間のページを含め、各印刷ファイルの始めに入れる分離ページの数指定します。分離ページには、次の項目、つまり、ファイル名、ファイル番号、ジョブ名、ユーザー名、およびジョブ番号が印刷されます。このパラメーターは、印刷装置ファイルまたは呼び出された他のOVRPRTF コマンドで指定された分離ページの値を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

ファイル区切りの数

この装置ファイルによって作成される各印刷出力ファイルの始めに使用される分離ページの数指定します。有効な値の範囲は0-9です。0を指定した場合には、このファイルに分離ページは印刷されません。この場合には、各ファイルの印刷出力（またはファイルのコピー）は、新しいページの最上部から始まります。

[トップ](#)

スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)

スプール出力ファイルの場合にのみ、スプール出力ファイルのスプール書き出しプログラムに対して使用可能にする時点指定します。このパラメーターは、印刷装置ファイルまたは呼び出された他のOVRPRTF コマンドで指定されたスケジューリング値を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

*JOBEND

スプール出力ファイルは、ジョブ全体が完了した後でのみ、スプール書き出しプログラムに対して使用可能な状態になります。

*FILEEND

スプール出力ファイルは、ファイルがプログラムでクローズされるとただちにスプール書き出しプログラムに対して使用可能状態になります。

*IMMED

ファイルがプログラムでオープンされると同時に、スプール出力ファイルが書き出し機能に対して使用可能となります。

スプール・ファイルの保留 (HOLD)

スプール出力ファイルの場合だけ、スプール・ファイルを保留するかどうかを指定します。スプール・ファイルの解放は、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって行なうことができます。

注: このパラメーターは、印刷装置ファイルまたは呼び出されたその他のOVRPRTFコマンドで指定された保留値を一時変更します。

- *NO** スプール出力ファイルは、出力待ち行列に保持されません。スプール出力は、**スプール出力のスケジューリングプロンプト (SCHEDULEパラメーター)** の値に基づいてスプール書き出しプログラムに対して使用可能状態になります。
- *YES** スプール出力ファイルは、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって解放されるまで保持されます。

トップ

スプール・ファイルの保管 (SAVE)

スプール出力の場合にのみ、出力が作成された後でそのスプール・ファイルを保管しておくかどうかを指定します。このパラメーターは、印刷装置ファイルまたは呼び出された他のOVRPRTFコマンドで指定された保管値を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

- *NO** スプール・ファイルのデータは、生成された後で待ち行列に保持（保管）されません。
- *YES** スプール・ファイルのデータは、ファイルが削除されるまで出力待ち行列に保持されます。ファイルが作成されると、コピー枚数は1にセットされ、ファイルの状況はWTRからSAVに変更されます。

トップ

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

- *JOB** スプール・ファイルを作成したジョブと対応した出力優先順位が使用されます。

出力優先順位

出力優先順位を示す1（最高位）から9（最低位）までの範囲の数を指定してください。

トップ

ユーザー・データ (USRDTA)

スプール出力の場合には、ファイルを識別するユーザー指定データを指定します。

*SOURCE

ファイルがシステム/36プロシージャーによって作成された場合には、そのプロシージャーの名前が割り当てられます。ファイルが適用業務プログラムによって作成された場合には、そのプログラムの名前が割り当てられます。

ユーザー・データ

10文字までのユーザー指定テキストを指定してください。

トップ

スプール・ファイル所有者 (SPLFOWN)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルの所有者を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CURUSRPRF

スプール・ファイルは、現行ジョブまたはスレッドの現在有効なユーザーによって所有されます。次のAPIのどれかを使用すると、SPLFOWNパラメーターがどのように影響されるかの詳細については、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

- QWTSETP -プロファイルの設定
- QSYSETUID() -ユーザーIDの設定
- QSYSETEUID() -有効ユーザーIDの設定
- QSYSETREUID() -実ユーザーIDおよび有効ユーザーIDの設定

***JOB** スプール・ファイルは、ジョブの元のユーザー・プロファイルによって所有されます。ジョブで新しいユーザー・プロファイルに切り替わっても、元のユーザー・プロファイルが依然としてスプール・ファイルの所有者です。

*CURGRPPRF

スプール・ファイルは、現行ジョブまたはスレッドの現在有効なグループ・プロファイルによって所有されます。現在有効なグループ・プロファイルが存在しない場合には、スプール・ファイルの所有権は、*CURUSRPRFと同様に決定されます。次のAPIのどれかを使用すると、SPLFOWNパラメーターがどのように影響されるかの詳細については、印刷装置 プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

- QWTSETP -プロファイルの設定
- QSYSETGID() -グループIDの設定
- QSYSETEGID() -有効グループIDの設定
- QSYSETREGID() -実グループIDおよび有効グループIDの設定

*JOBGRPPRF

スプール・ファイルは、ジョブの元のユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルによって所有されます。ジョブで新しいユーザー・プロファイルに切り替わっても、元のユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルが依然としてスプール・ファイルの所有者です。グループ・プロファイルが存在しない場合には、スプール・ファイルの所有権は*JOBと同様に決定されます。

トップ

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイル进行处理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

このパラメーターは、印刷装置ファイルまたはその他の呼び出されたOVRPRTFコマンドに指定されたユーザー定義オプションを一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義オプションは指定されません。

ユーザー定義オプション

スプール・ファイル进行处理する、ユーザー適用業務またはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

[トップ](#)

ユーザー定義データ (USRDFNDTA)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイル进行处理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義データを指定します。

このパラメーターは、印刷装置ファイルまたはその他の呼び出されたOVRPRTFコマンドに指定されたユーザー定義データを一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義データは指定されません。

ユーザー定義データ

スプール・ファイル进行处理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義データを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

[トップ](#)

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイル进行处理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

このパラメーターは、印刷装置ファイルまたはその他の呼び出されたOVRPRTFコマンドに指定されたユーザー定義オブジェクト名を一時変更します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義オブジェクトは指定されません。

ユーザー定義オブジェクト名として指定できる値は次の通りです。

オブジェクト名

ユーザー適用業務で使用するユーザー定義オブジェクトまたはスプール・ファイル进行处理するユーザー指定のプログラムを指定してください。

ユーザー定義のオブジェクトは、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー定義オブジェクト・タイプの値は次の通りです。

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

*DTAARA

データ域

*DTAQ

データ待ち行列

*FILE

ファイル

*PSFCFG

PSF構成オブジェクト

*USRIDX

ユーザー索引

*USRQ

ユーザー待ち行列

*USRSPC

ユーザー空間

[トップ](#)

スプール・ファイル名 (SPLFNAME)

スプール出力の場合にのみ、そのスプール出力ファイル名を指定します。

***FILE** 印刷出力ファイルの名前がスプール出力ファイルの名前として使用されます。

スプール・ファイル名

スプール出力ファイルの名前を指定してください。最高10文字まで使用することができます。

[トップ](#)

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データ进行处理かどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS 属性を指定します。

プログラム記述ファイルの場合に、指定できる値は次の通りです。

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データ进行处理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データ进行处理します。

外部記述ファイルでは、使用できる値は次の通りです。

***NO** ファイルの2バイト文字セット(DBCS)属性は、DDSで定義されている属性だけです。

***YES** DDSで定義されるものに加えてDBCS属性には、代替データ・タイプ(IGCALTTYP)のDDSキーワードを有効とするかどうかということ、およびDDSで識別されないフィールドまたはメッセージのDBCS属性の識別が含まれます。

[トップ](#)

外字 (IGCEXNCHR)

システムが2バイト文字セット(DBCS)の外字进行处理かどうかを指定します。

***YES** システムは外字进行处理します。

***NO** システムは外字进行处理せず、未定義文字として印刷します。

[トップ](#)

DBCSの回転 (IGCCHRTT)

印刷時に2バイト文字セット(DBCS)データを逆時計回りに90度回転するかどうかを指定します。システムは、回転されたDBCS文字を正しい読み取り順序になるように縦書きで印刷します。英数字は回転しません。

***NO** システムは、印刷時にDBCSデータを回転しません。

***YES** システムは、DBCSデータを印刷時に90度逆時計回りに回転します。

[トップ](#)

インチ当たりのDBCS数 (IGCCPI)

2バイト文字セット(DBCS)データの印刷装置の文字密度を1インチ当たり(CPI)の文字数で指定します。

***CPI** DBCSの密度は、1インチ当たりの文字数プロンプト (CPIパラメーター) に指定された値に基づきます。システムは、英数字2桁分に2バイト文字を1字印刷します。(*CPIはCRTPRTFコマンドのこのパラメーターの省略時の値です。)

- CPI(10)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり5文字で印刷されます。
- CPI(12)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり6文字で印刷されます。
- CPI(13.3)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり6.7文字で印刷されます (IGCCPI(*CONDENSED)と同じ)。

- CPI(15)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり7.5文字で印刷されます。
- CPI(18)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり9文字で印刷されます。
- CPI(20)の場合には、DBCS文字は1インチ当たり10文字で印刷されます。

*CONDENSED

システムによって3インチ当たり2バイト文字を20字印刷する圧縮印刷が使用されます。

- 5 DBCS密度は1インチ当たり5文字です。
- 6 DBCS密度は1インチ当たり6文字です。
- 10 DBCS密度は1インチ当たり10文字です。

[トップ](#)

DBCSのSO/SIのスペース (IGCSOSI)

システムがシフト制御文字を印刷する方法を指定します。

*YES システムはシフト制御文字をブランクとして印刷します。

*NO システムはシフト制御文字を印刷しません。シフト制御文字は印刷出力上で桁を占有しません。

*RIGHT

システムはシフトイン制御文字を2つのブランクとして印刷しますが、シフト・アウト文字は印刷しません。

[トップ](#)

DBCSコード化フォント (IGCCDEFNT)

2バイト文字セット(DBCS)の印刷にシステムが使用するコード化フォントを指定します。このパラメーターが使用されるのは、AFP(*YES)で構成された印刷装置を使用している場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

*SYSVAL

システム値に指定されたDBCSのコード化フォントが使用されます。

指定できるコード化フォント名の値は次の通りです。

コード化フォント名

使用するDBCSコード化フォント名を指定してください。

コード化フォントの名前は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コード化フォント名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

コード化フォント名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

使用できるポイント・サイズの値は、次の通りです。

***NONE**

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント文字セットによって決定されます。

ポイント・サイズ

0.1-999.9の範囲のポイント・サイズを指定してください。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ファイル資源の割り振りを待つ時間として、クラス記述に指定されている省略時の待機時間が使用されます。

秒数 プログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

ファイルがプログラムによってオープンされる時に、装置ファイルのレベル検査を行なうかどうかを検査します。ファイルのオープン時に行なわれるこの検査は、システムがプログラムで使用される各レコード様式の識別コードを装置ファイルの対応する識別コードと比較することによって行なわれます。同じレコード様式名が複数のファイルに存在することができるため、各レコード様式にはその様式の作成時に固有の内部システム識別コードが与えられます。プログラムにレコード様式識別名が含まれていない限り、レベル検査を行なうことができません。このコマンドでは、レベル検査を*NOから*YESに一時変更することはできません。

***NO** ファイルのオープン時にレベル識別コードは検査されません。

[トップ](#)

他の一時変更からの保護 (SECURE)

前に呼び出されたファイル一時変更コマンドの影響から、このファイルを保護するかどうかを指定します。

***NO** このファイルは他のファイル一時変更から保護されません。その値は、以前に出されたファイル一時変更コマンドの影響によって一時変更されます。

***YES** このファイルは以前に出されたファイル一時変更コマンドの影響から保護されます。

[トップ](#)

有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)

一時変更の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

*ACTGRPDFN

一時変更の有効範囲は、コマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

*CALLLVL

一時変更の有効範囲は、現行の呼び出しレベルによって決まります。現行の呼び出しレベルと同じか、またはそれ以上の呼び出しレベルで実行されたすべてのオープン操作は、この一時変更によって影響を受けます。

***JOB** 一時変更の有効範囲は、一時変更が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ACTGRPDFN

オープン操作の有効範囲は、OVRPRTFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。

***JOB** オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

OVRPRTFの例

例1:出力の印刷

```
OVRPRTF FILE(PRINTOUT) TOFILE(PRINT3) SPOOL(*YES)
        COPIES(5) OUTQ(OUTPUT1)
```

このコマンドは、PRINTOUTという名前のファイルを一時変更し、PRINT3という名前の印刷装置ファイルを使用して、印刷装置にスプールされた出力を作成します。プログラムからの出力は、OUTPUT1出力待ち行列に送られます。印刷装置書き出しプログラム開始(STRPRTWTR)コマンドで指定した印刷装置上で、スプール・ファイルの5部のコピーが印刷されます。

例2: 2バイト文字の回転

```
OVRPRTF FILE(IGCLIB/IGCPRT) IGCDA(*YES) IGCCHRTT(*YES)
```

このコマンドは、IGCLIBライブラリーに保管されるIGCPRT印刷装置ファイルを一時変更します。一時変更によって、文字出力フィールドをDBCSフィールドに変更するようIGCALTTYP DDSキーワードが有効となり、また印刷時に2バイト文字を回転させます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OVRPRTF

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF7343

CHLVALで同じチャネル番号が2回以上指定されている。

[トップ](#)

保管ファイル一時変更 (OVRSAVF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管ファイル一時変更(OVRSAVF)コマンドは、(1)プログラムで指定したファイルの一時変更または置き換え、(2)プログラムで使用するファイルの特定の属性の一時変更、あるいは(3)プログラムで指定したファイルおよび一時変更先のファイルの特定の属性の一時変更のために使用されます。

このコマンドは保管および復元コマンドに適用されません。

ファイルの一時変更の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックにあります。

注: このコマンドを使用しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更中のファイル	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	保管ファイル	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
EXTEND	ファイル拡張	*NO, *YES	オプション
POSITION	ファイルの開始桁	単一値: *START その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 検索順序	*RRN	
	要素 2: *RRN—レコード番号	符号なし整数	
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO , *YES	オプション
OVRSCOPE	有効範囲の一時変更	*ACTGRPDFN , *CALLLVL, *JOB	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDFN, *JOB	オプション

トップ

一時変更中のファイル (FILE)

この一時変更コマンドが適用される使用中のプログラムのファイル名を指定します。保管ファイルプロンプト (TOFILEパラメーター) に *FILEが指定されている場合には、指定するファイルは保管ファイルでなければなりません。

注: 保管ファイル中の情報は、オペレーティング・システム/400の保管および復元に対してのみ意味をもちます。別のタイプのファイルの保管ファイルへの再指定およびその逆の再指定は望ましくありません。

[トップ](#)

保管ファイル (TOFILE)

一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) で指定したファイルの代わりに使用する保管ファイルの名前を指定するか、あるいはここに*FILEを指定した場合には、このコマンドに指定されるパラメーターにより特定の属性が一時変更されることを指定します。このコマンドに指定されるパラメーターは、保管ファイルまたはプログラムで指定されている他の値を一時変更します。

***FILE** 一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) に名前を指定した保管ファイルは、このコマンドに指定される値によって特定の属性が一時変更されます。

保管ファイル名

一時変更されるファイルの代わりに使用する保管ファイルの名前とライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ファイル拡張 (EXTEND)

出力操作の場合にだけ、保管ファイルに現在入っているデータの終わりに新しいレコードを追加するかどうかを指定します。このオプションを使用して、適用業務プログラムまたはシステム障害の後の処理を開始します。この操作が完了した時に、ファイルには保管コマンドによって行なわれる単一保管操作のイメージが含まれていなければならない、そうでない場合には、保管ファイルからオブジェクトを復元することはできません。このパラメーターは、プログラムに指定された拡張の値を一時変更します。ファイルのレコードの順序づけ情報は、システム障害の後で、レコードをスキップまたは2回送ることができないことを保証します。

***NO** レコードは、指定の保管ファイルの終わりに追加されませんが、ファイルの既存のレコードと置き換えられます。保管ファイルにレコードがすでに入っている場合には、ファイルを消去するか、あ

るいは操作を取り消すかを問い合わせる照会メッセージが出されます。プログラム、あるいは一時変さらによってこのパラメーターに値が指定されない場合には、この値が、ファイルが出力としてオープンされる時点の省略時の値になります。

***YES** 保管ファイルに入っているレコードの終わりに、新しいレコードが追加されます。

[トップ](#)

ファイルの開始桁 (POSITION)

保管ファイルからレコードを検索する場合の開始位置を指定します。ファイルの始め (*START)、あるいはファイル内の特定の相対レコード番号(*RRN)のレコードが最初のレコードとして検索されます。このパラメーターにより、プログラムに指定された値が一時変更されます。

*START

ファイルの最初のレコードを読み取ります。プログラム、あるいは一時変更でこのパラメーターに値が指定されない場合には、ファイルが入力としてオープンされる時点で、この値が省略時の値になります。

*RRN相対レコード番号

最初に読み取るレコードのレコード番号（ファイルの始めからの位置）を指定してください。値 *RRNを相対レコード番号の前に指定しなければなりません。たとえば、 *RRN 480はファイル中の480番目のレコードを最初に読み取ることを指定します。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** クラス記述で指定された省略時の待機時間が、ファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

秒数 プログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

他の一時変更からの保護 (SECURE)

前に呼び出されたファイル一時変更コマンドの影響から、このファイルを保護するかどうかを指定します。

***NO** このファイルは他のファイル一時変更から保護されません。その値は、以前に出されたファイル一時変更コマンドの影響によって一時変更されます。

***YES** このファイルは以前に出されたファイル一時変更コマンドの影響から保護されます。

[トップ](#)

有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)

一時変更の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

***ACTGRPDFN**

一時変更の有効範囲は、コマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

***CALLLVL**

一時変更の有効範囲は、現行の呼び出しレベルによって決まります。現行の呼び出しレベルと同じか、またはそれ以上の呼び出しレベルで実行されたすべてのオープン操作は、この一時変更によって影響を受けます。

***JOB** 一時変更の有効範囲は、一時変更が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

YES** ファイルをオープンする時にYES**も指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

***ACTGRPDFN**

オープン操作の有効範囲は、OVRSAVFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。

***JOB** オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

OVRSAVFの例

OVRSAVF FILE(ONLINE) POSITION(*RRN 100) SECURE(*YES)

このコマンドは、ファイルが入力用にオープンされた後に取得された最初のレコードが関連レコード番号100となるよう、ONLINEという名前のファイルを一時変更します。このファイルは、一時変更（前のプログラム呼び出し）からも安全です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OVRSAVF

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用权を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan